

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第 18 集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 17

KAMIFUKUOKA Shellmound
上福岡貝塚第 2 地点

2016 年 3 月

ふじみ野市教育委員会



上福岡貝塚第2地点空撮（北西から南東方向）



上福岡貝塚第2地点空撮



7号住居跡貝ブロック出土状況



7号住居跡全景



8号住居跡貝ブロック・遺物出土状況



8号住居跡全景



9号住居跡貝ブロック出土状況



9号住居跡遺物出土状況



9号住居跡出土遺物



9号住居跡出土遺物（第46図7）



9号住居跡出土遺物（第47図12）



9号住居跡出土遺物（第47図14）



9号住居跡出土遺物（第47図15）



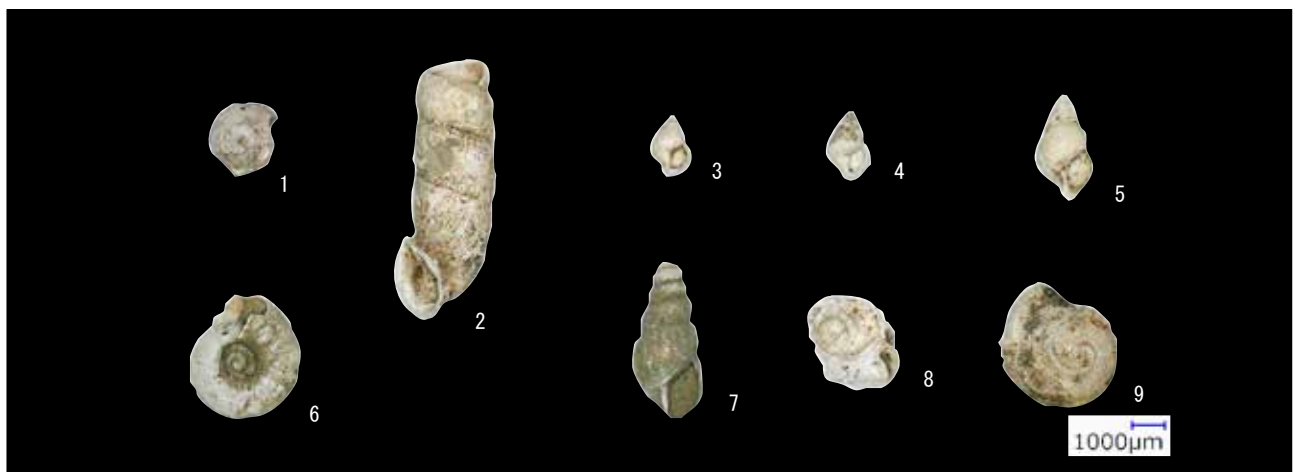
7号住居跡出土貝類



8号住居跡出土貝類



9号住居跡出土貝類



出土微小貝

- 1: イボキサゴ幼貝、2: キセルガイ、3～5: クチキレモドキ、6: マイマイ科、
7: オカチョジガイ、8: アラムシロ幼貝、9: イボキサゴ幼貝

第2章 発掘調査の概要

I 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、ふじみ野市域（旧上福岡市）の北部、武蔵野台地北東部端の標高16.0～18.0mに位置する。

遺跡眼下の武蔵野台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。現在、上福岡貝塚をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。

本遺跡を地形の区分でみると武蔵野2面に相当する。隣接する権現山古墳群において、新河岸川に面した崖の地質観察では、約50cmの表土層下に385cmの関東ローム層が認められ、ローム層中には厚さ約45cmの黒色帯や、ローム下層でオレンジ色の軽石粒（T.Pに対比と考えられる）が確認され、市内の武蔵野2面の層序とほぼ同様の様相を呈することから、上福岡貝塚でも相位ないものとみられる。台地南側の滝遺跡や長宮遺跡の位置する一段低い段丘面では、武蔵野3面から立川面が広がる。

かつて、上福岡貝塚や権現山遺跡群の南側には新河岸川に流れ込む小河川（清水）が東流していた。現在でも地区の地名に残る「滝」は、この小河川が台地上から流れ落ちていたためとされる。縄文時代の上福岡貝塚周辺には、この滝地区を流れていた清水と新河岸の流れがあったものと考えられる。これまでの調査ではローム層中から旧石器時代の遺構や遺物は見つかっ

ていないが、近隣市町などでは湧水や埋没谷周辺部から同時期の遺跡が相次いで発見されており、本遺跡でも今後発見される可能性がある。

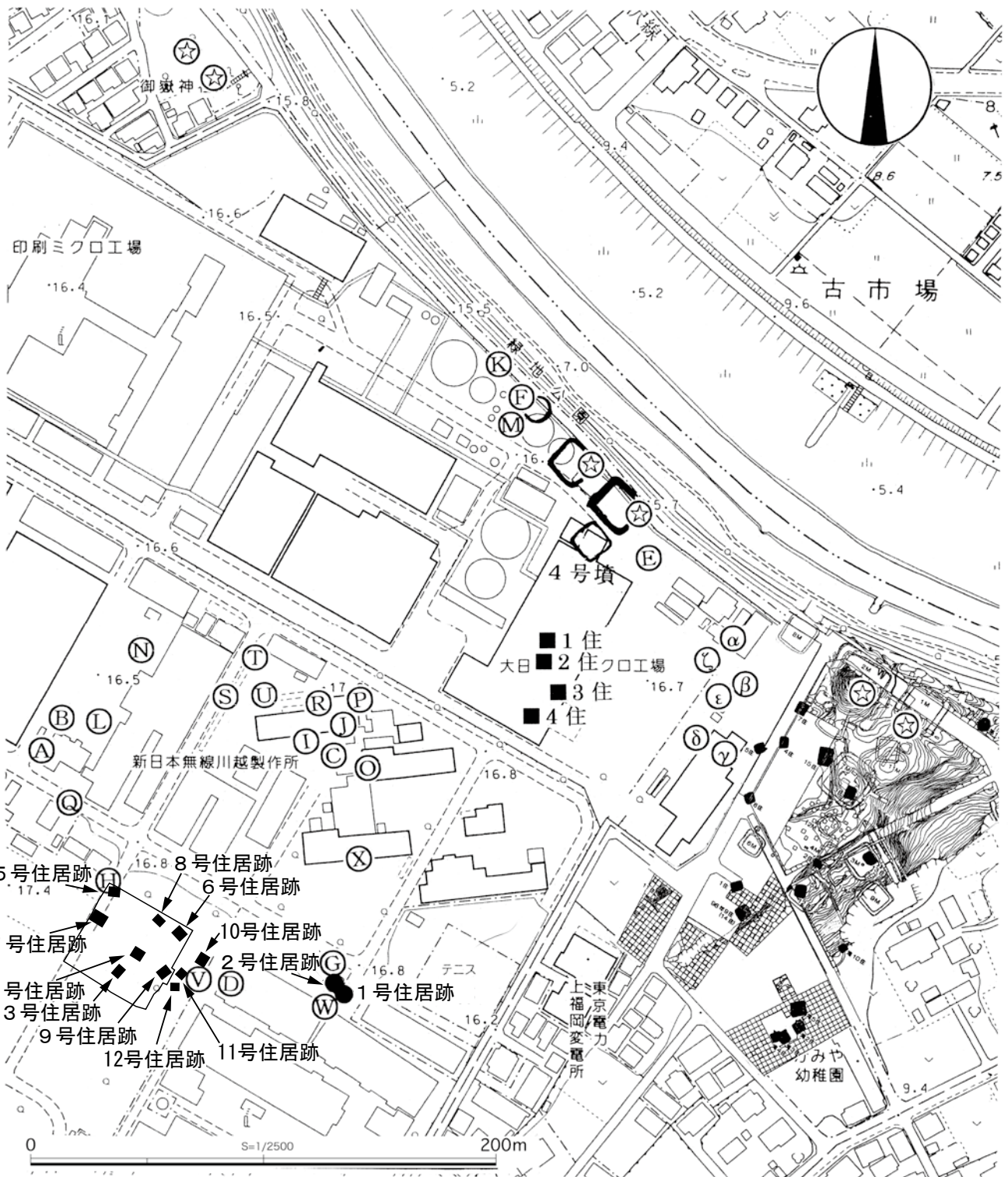
また、遺跡の北側には南北約220m、東西約150m、深さ約1mの楕円形の巨大な窪地が昭和12年の調査時から確認されているが、自然地形なのか人為的なものか不明である。現在は造成され工場等が建ち古い地形をみることは出来ない。

周辺の遺跡は、北側約400mに縄文時代前期集落の川崎遺跡と同50mに中期から後期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。ハケ遺跡では前期諸磯c期の住居跡1軒が確認されるのみで、権現山遺跡からは前期の住居跡は確認されていない。

川崎遺跡では縄文時代前期の住居跡が21軒（2001年現在）確認され、関山期から黒浜期の住居跡は11～12軒を数え、内3軒の住居跡（1975、1979、1990年調査）では貝層を伴っている。同時期の遺跡として、土器や動物遺体を含めた出土遺物の比較と、時期ごとに集落の立地と配置が異なる上福岡貝塚との集落構造や変遷等の関連が注目される。（鍋島）

第2表 上福岡貝塚調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A～X、 $\alpha \sim \varepsilon$	福岡 3-1187、1500、他	1937. 5. 23～7. 19	－	火工廠建設	関山式住居 3、黒浜式住居 5	福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告書
① 1983-6 試掘	福岡 3	1983. 6	－	工場増築	なし	なし
② 1983-12 立会	福岡 2	1983. 12	－	工場増築	なし	なし
③ 1985- 試掘	福岡 2	1985. 2	426	市道築造	5c 古墳 3 基、遺物なし、調査区は一部権現山遺跡群含む	埋蔵文化財の調査 (Ⅷ)
④ 88- 試掘	福岡 3-1187-4	1988. 6. 7～14	3, 200	工場増築	古墳跡 1、奈良平安住居 4	埋蔵文化財の調査 (11)
⑤ 91- 試掘	福岡 2-1-4	1991. 5. 7～8	568	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査 (14)
⑥ 92- 試掘	福岡 2-1500-8	1992. 5. 2	737	工場棟増設	なし	埋蔵文化財の調査 (15)
⑦ 93- 試掘	福岡 2-1500-8 の一部	1993. 7. 20～27	799. 3	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査 (16)
第 1 地点	福岡 2-1500-23・63	2007. 5. 21～6. 12 (2007. 4. 26～5. 17)	124	変電所増築	縄文前期黒浜式住居 2、集石土坑 1、堀跡 1、水溜、消火栓	市内遺跡群 4
第 2 地点	福岡 2-1500-73・74・8 の一部	2013. 11. 5～ 2014. 3. 10 (2013. 6. 20～9. 30)	1, 830 (3, 485)	建物解体・ 抜根・造成	縄文前期黒浜式住居 10、土坑 3、溝跡 1、火工廠跡	市内遺跡群 17・18



第3図 遺構配置図 (1/2,500)

* 所収報告書等

- ・ 山内清男 1937「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野克「住居址略報告」ガリ版刷り（昭和40年埼玉県福岡町郷土史料に収録）
1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会（但し、関野克「住居址略報告」の分は除く）
- ・ 山内清男 1942「片口付縄紋土器に就て」『古美術』第12巻第6号（137号）
1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会
- ・ 関野 克 1938「埼玉県福岡村縄紋前期住居址と堅穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号
- ・ 黒坂禎二、細田 勝、土肥 孝、宮崎朝雄 他 1992『上福岡貝塚資料—山内清男考古資料3—』奈良国立文化財研究所史料第33冊 奈良国立文化財研究所（註1）
- ・ 川名広文、笹森健一 他 1995『考古文献資料（1）上福岡貝塚』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会
- ・ 鍋島直久、笹森健一、阿部常樹、一木絵理 他 2009『市内遺跡群4』ふじみ野市教育委員会

II 調査の概要

(1) 発掘調査に至る経過

上福岡貝塚第2地点の試掘調査及び本調査は、日本無線株式会社埼玉工場の建物解体及び樹木等の抜根に伴うもので、工場の一角が上福岡貝塚に含まれる事から、日本無線株式会社より事前の問い合わせがあり、平成24(2012)年12月7日、ふじみ野市教育委員会と緊急の打ち合わせが行われた。工場敷地の一部は前述のとおり埋蔵文化財包蔵地(上福岡貝塚)に含まれており、また敷地内の各所には旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(以下火工廠)の建物跡や防爆壁などの遺構が複数存在する。そのため、埋蔵文化財に関する試掘調査および本調査と、火工廠の建物および遺構に関する二点について協議を開始した。内容は試掘調査の範囲と時期、「埋蔵文化財事前協議書」(以下事前協議書)の提出について。火工廠関連では、平成25年1月以降、工事に支障のない範囲での調査となった。以下はその後の主な打ち合わせについてである。

第2回打ち合わせは12月13日、埋蔵文化財調査の日程と、土壌汚染対策法に関する事務手続きの確認。火工廠関連の調査について協議を行った。

第3回打ち合わせは平成25年3月25日、埋蔵文化財調査に関し、埼玉県西部環境管理事務所と土壌汚染

対策法に関する協議を行った。

第4回打ち合わせは平成25年4月17日、庁内関係各課と日本無線株式会社、大成建設株式会社と解体工事等について協議を行った。

第5回打ち合わせは平成25年5月22日、試掘調査の日程等の協議と現地確認を行った。

第6回打ち合わせは平成25年6月12日、試掘調査と火工廠関連の調査について、「埋蔵文化財試掘調査について確認事項(案)」を協議した。

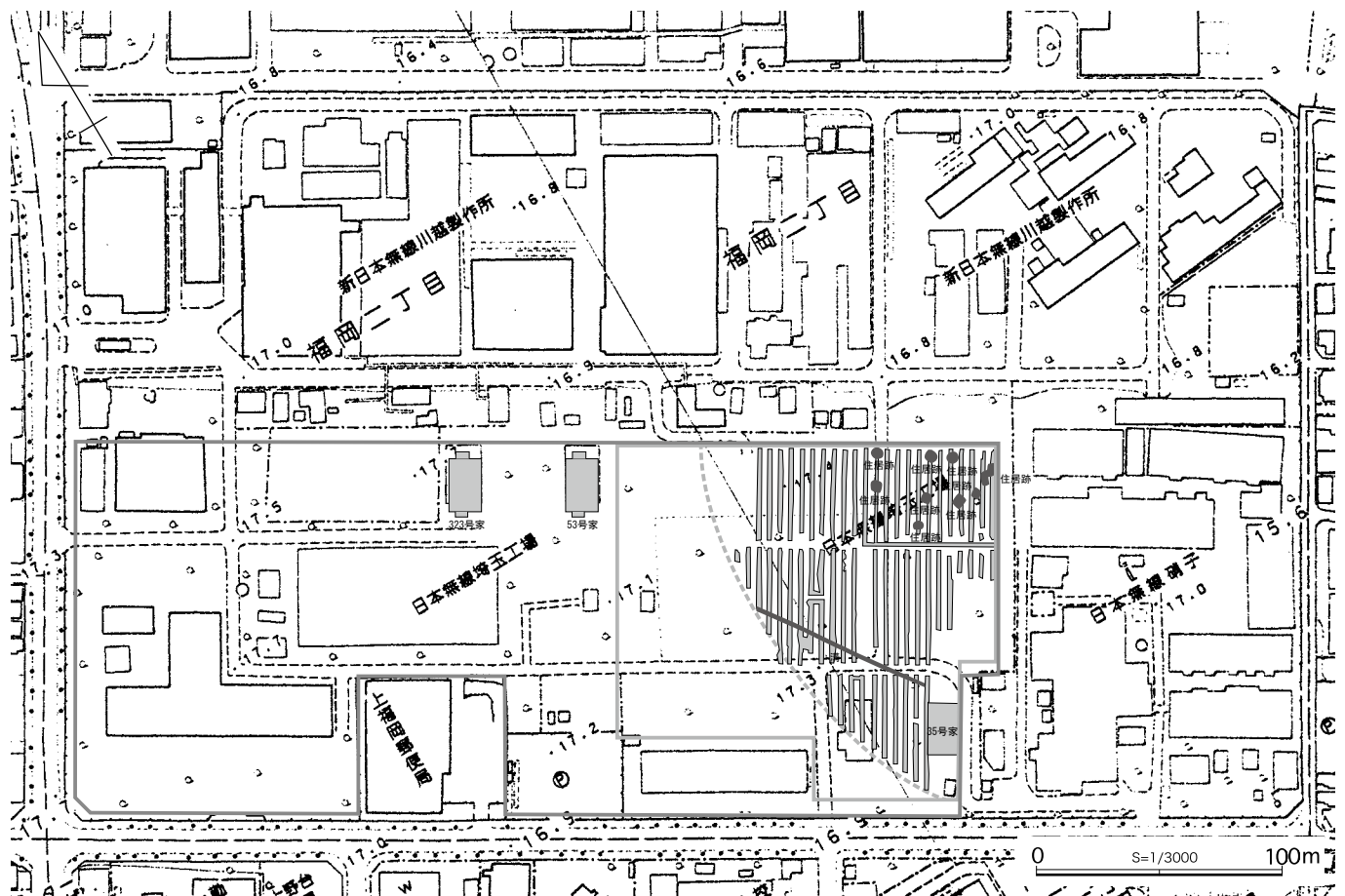
第7回打ち合わせは平成25年7月26日、試掘調査の状況報告と本調査範囲について協議した。

第8回打ち合わせは平成25年9月17日、第9回打ち合わせは平成25年10月9日に、本調査範囲と日程等について協議を行った。

第10回打ち合わせは平成25年10月16日、本調査委託契約に関する内容等の確認、契約締結の最終調整を行った。

第11回打ち合わせは平成25年12月4日、本調査時の保安安全確認と遺跡見学会等について協議した。

上福岡貝塚第2地点の文化財保護法第93条1項「埋蔵文化財発掘の届出」と「埋蔵文化財事前協議書」は、平成24(2012)年12月26日付(ふ教生第197号、ふ教生第119号)付けでふじみ野市教育委員会に提出



第4図 試掘調査範囲模式図(1/3,000)

された。また、文化財保護法第99条「発掘調査の通知」は平成25(2013)年12月9日付(ふ上歴第633号)で埼玉県教育委員会に提出した。

発掘調査区が土壤汚染のおそれがあることから、土壤汚染対策法第4条第1項「一定の規模以上の土地の形質の変更届出書」、埼玉県生活環境安全条例第80条第1項「特定有害物質取扱事業所設置状況等調査報告書」を、平成25(2013)年5月21日付け(ふ上歴第158号)で埼玉県西部環境管理事務所に提出した。

試掘調査は平成25(2013)年6月20日～10月8日まで、幅約1.5mのトレンチ61本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。

試掘調査の結果、縄文時代の住居跡10軒(貝層を伴うもの5軒)、古代以降とみられる溝1本、火工廠の遺構多数等を確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約50～100cmで、火工廠の遺構や樹木の抜根により遺跡への影響が避けられない部分について発掘調査を行った。南側の道路築造部分は盛土等で遺跡への影響が及ばないことから保存措置とした。

原因者と協議を重ねた結果、平成25年11月1日、ふじみ野市教育委員会と日本無線株式会社の間で委託契約を締結した。履行期間は平成25年11月1日から平成28年3月31日である。本調査に係る費用は日本無線株式会社が全額負担した。

(2) 発掘調査の経過と方法

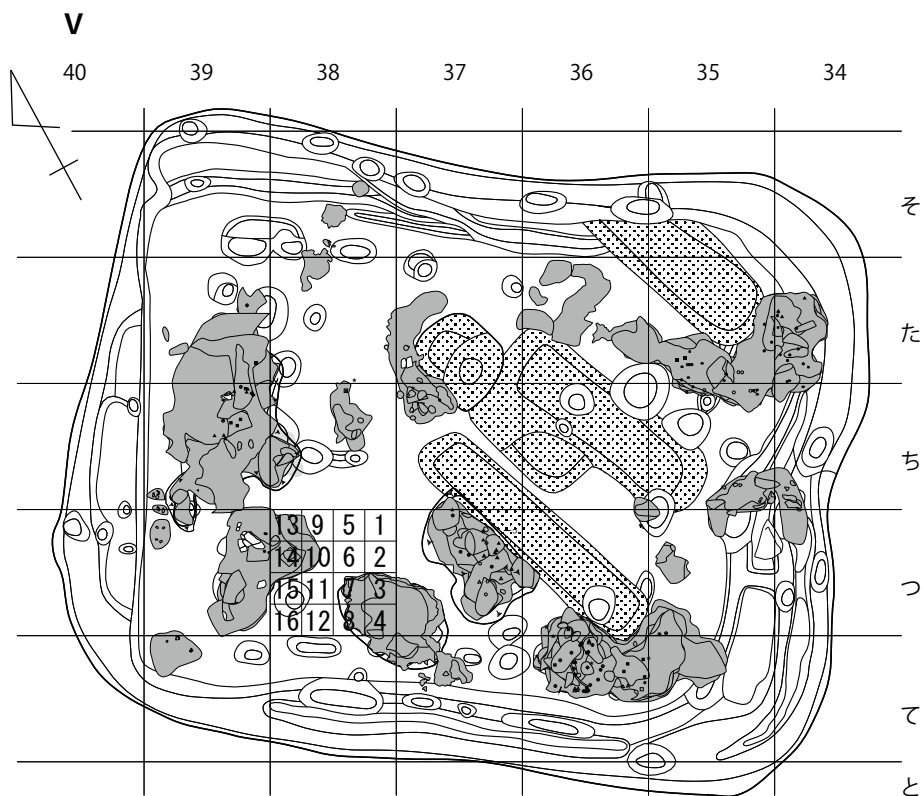
①発掘調査の経過

上福岡貝塚第2地点の発掘調査は、ふじみ野市教育委員会が主体で行ったが、試掘調査、発掘調査の急増により、調査担当者が発掘調査現場に常駐出来ない事態が予想された。緊急かつ短期間での調査員確保が難しいため、調査員の業務委託と、写真撮影、遺構実測等の業務委託を行った。

本調査は、遺構の確認された2ヶ所の区画で、平成25(2013)年11月5日から平成26(2014)年3月11日まで行った。また同年3月28日まで貝類の整理作業及び図面、写真等の整理作業を実施した。

2ヶ所の調査区のうち、古代以降とみられる溝の調査区をB区とし、11月5日から22日まで調査を行った。また縄文時代の住居跡を中心とする調査区をA区とし、11月6日から翌年3月10日まで調査を行った。

A区には調査区北東部の土地境界杭と平行となる任意のグリッドを設定した。大グリッドは10×10m方眼の大区画を設定し東から西へⅠ、Ⅱ、Ⅲ～、北から南へA、B、C～の番号を付しAⅠ区、BⅠ区～とした。さらに、その中は1×1m方眼の小区画を設定し、東から西へ0、1、2～、北から南へあ、い、う～の番号を付しAⅠ区(あ0区、い0区～)とした。また、貝塚の調査にあたっては、大グリットAⅠ区(あ0区～)の各区画内に、25×25cmの1～16区の小グリッ



第5図 グリッド設定図

ドに細分した。

遺構平面図の作成は、基本的に写真測量としたが、必要に応じグリッドによる遣り方測量や平板測量を行った。

整理作業は平成 26 (2014) 年 5 月 26 日から平成 27 (2015) 年 3 月 25 日まで、株式会社東京航業研究所に業務委託して実施した。

②貝塚の調査

7～9 号住居跡の貝塚の調査は、大グリッドを設定し、貝塚の 1/10 (全体図は 1/20) 平面図を作成した。

動物遺存体の取り上げは、各貝ブロックを半截またはトレンチを設定し、堆積状況を把握した上で、1～16 の小グリッド毎、各面 (層) 毎に取り上げを行った。狭小な貝塚等は、面 (層) 毎に一括で取り上げた。

7 号住居跡の貝塚については、火工廠等の道路下に位置していたため、遺構及び遺物、動物遺存体が強度の圧力を受けており貝類の損傷が激しく取り上げも難航した。

8 号住居跡の貝塚は小規模なものが多いが、比較的攪乱の影響は少ない。

9 号住居跡は、遺構の約 25% が攪乱を受けていた。

③火工廠建物跡等の調査

埋蔵文化財の調査以外に、火工廠建物跡等の調査をふじみ野市教育委員会が主体で行った。火工廠に関する建物跡等について、日本無線株式会社と前述の打ち合わせの中で協議を行い、調査についてご配慮とご協力を賜った。

火工廠に係る埋蔵 (地下) 遺構と遺物のうち、試掘調査において確認、検出、出土したものの一部を除き、整理作業期間と本紙面の都合等により改めて報告を行う。試掘調査と平行して行った火工廠建物跡等の調査成果について、一部を本書に掲載した。

火工廠建物跡等に関する調査は、ふじみ野市教育委員会生涯学習課、上福岡歴史民俗資料館、文化財保護審議会委員 (角田史雄、松尾鉄城、鈴木清、高木文夫、笹森健一) により、「日本無線構内文化財調査実施要項」に基づいて実施した。

調査の内容は、①埋蔵文化財調査、②旧火工廠調査 (建物調査、文献資料調査、資料収集) で、②について実施した調査のうち、建物調査の成果について本書で報告する。

平成 24 (2012) 年 12 月 7 日に、生涯学習課、上福岡歴史民俗資料館、文化財保護審議会委員による事前調査を実施した。

事前調査で確認された火工廠に関する遺構 (建物等) は、電気室 (37 号家)、火薬倉庫 (73・75 号家)、爆薬填実室 (323 号家)、分配室 (261・262 号家)、雷管撰分室 (117 号家)、の 7 棟と、23 号家防爆壁 1 ヶ所であった。このうち、建物調査を実施した 37 号家、75 号家、117 号家、261 号家、323 号家について本書に掲載する。

文献資料調査 (聞き取り調査、写真撮影等を含む)、資料収集調査は文化財保護係と歴史民俗資料館で協力して行った。

建物調査は鈴木清文化財保護審議会委員を中心に福永昭子氏が行い、民俗建築研究所の協力を得た。日本無線構内 (現地) での調査期間は、平成 25 (2013) 年 2 月 5 日から 4 月 11 日まで、室内 (民俗建築研究所) での図面整理、写真データ整理、実測記録整理 (清書) 等の作業を平成 26 (2014) 年 2 月 6 日から 6 月 6 日まで実施した。

③整理作業の経過と方法

整理作業及び報告書の刊行は、株式会社東京航業研究所に委託して行った。整理作業の方法、報告書内容等について、ふじみ野市教育委員会と協議し、図面及び写真整理一部原稿執筆等については発掘調査担当者が行った。

住居跡内出土の動物遺体群、主に貝類については、自然乾燥後、水洗選別法 (5mm、2.5mm、1.2mm 目の篩) と浮遊選別法を実施して資料の抽出後、分類・同定作業を行った。その詳細な方法は、ふじみ野市『市内遺跡群 4』で詳述された整理方法に準拠している。

また、土器の分類についても『市内遺跡群 4』に記載されている分類基準に基づいて実施した。その基準をここに再掲する。

・第 1 類 口縁部文様帯を有するもの、あるいは胴部に一定の施文帯を有するもの。

第 1 種 口縁部文様帯に 4 単位の鋸歯状文 (菱形文) を有するもの。有尾式土器。

第 2 種 口縁部に多単位の鋸歯状文 (菱形文) や渦巻文を有するもの。

第 3 種 口縁部に平行沈線文を重層するもの。

第 4 種 口唇部に幅狭い文様帯を有するもの。

第 5 種 格子目文を有するもの。a 格子目文だけのもの、b 格子目文と縄文を施文するものに大別する。

第 6 種 コンパス文と平行沈線を有するもの。

第 7 種 縦方向の沈線を有するもの。

第 8 種 胴部に施文帯を有するもの。施文される

文様には幾つかの種類がある。

第9種 沈線による所謂「肋骨文」を有するもの。

・第2類 縄文が施文された土器群を一括する。

第1種 無節斜縄文の土器。

第2種 単節縄文の土器。

第3種 異条斜縄文の土器。

第4種 附加条縄文の土器。a 順方向、b 逆方向、c 順・逆両方向附加に大別する。

第5種 反撚りの縄文が施文された土器。

・第3類 絡条体が施文された土器群を一括する。

・第4類 貝殻背圧痕文と貝殻腹縁文の土器を一括する。

第1種 a 貝殻背圧痕だけの土器。b 貝殻背圧痕と縄文を施文する土器。c 貝殻背圧痕と沈線を施文する土器。

第2種 貝殻腹縁文の土器。

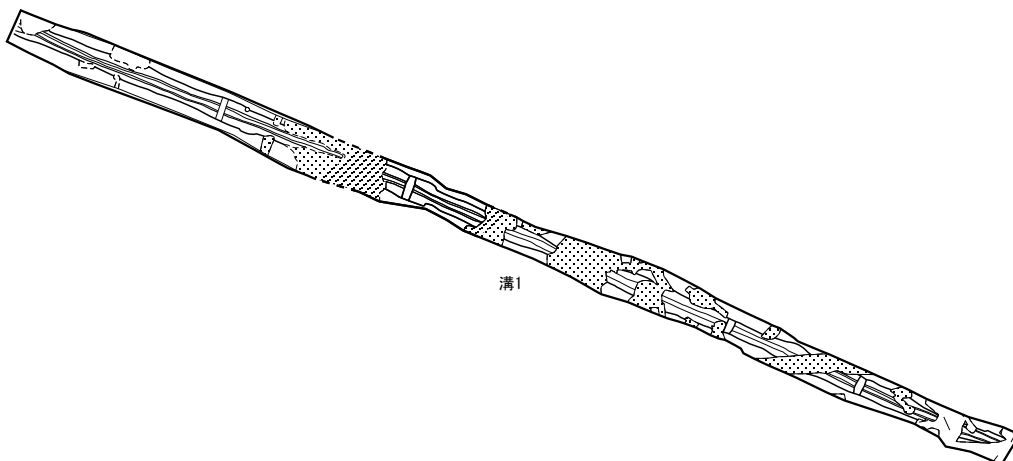
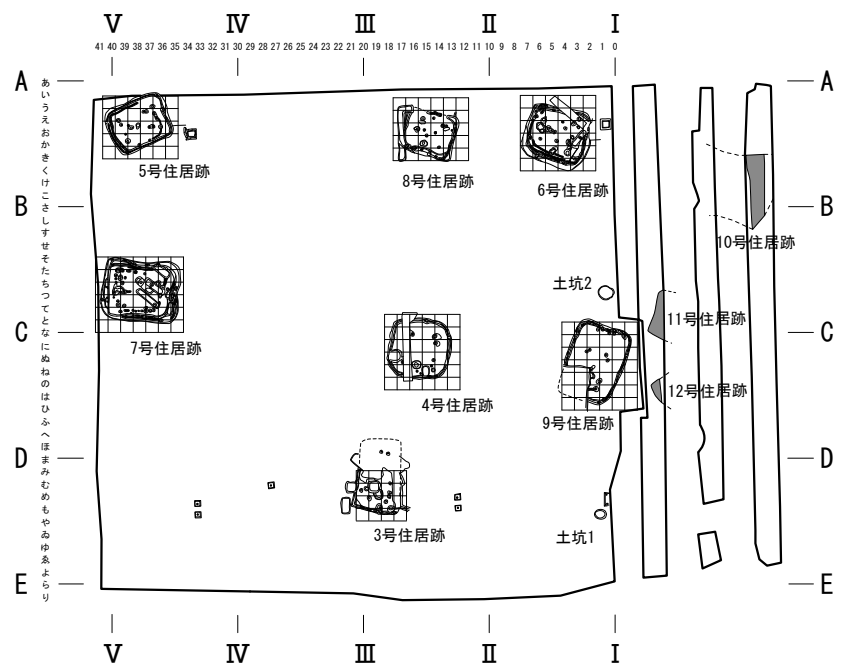
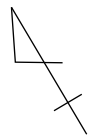
・第5類 無文の土器群を一括する。

・第6類 底部を一括する。

・第7類 北白川下層式土器を一括する。本調査区からは出土していない。

・第8類 甲信系（釈迦堂Z3式）土器を一括する。

・その他の時期のもの 早期条痕文、関山、諸磯c。
(鍋島・宅間)



第6図 第2地点遺構配置図 (1/600)

第3章 発掘調査の成果

I 縄文時代の遺構と遺物

本発掘調査では縄文時代前期中葉黒浜期の7軒の住居跡の調査を中心に行った。

(1) 3号住居跡

① 3号住居跡

【位置】調査区の南側に位置する。主軸は推定でS－40°－Wである。

【形状・規模】住居跡の北側と東側に攪乱を受けているため全体の形状・規模は不明である。平面形態は推定で隅丸台形か長方形とみられる。検出部分は全体の半分程度と考えられる。

残存部の規模は、長軸（南北）(5.1)m×短軸（東西）(3.76)mを測る。深さは遺構確認面から床面まで10cm～15cmを測る。本住居跡から、貝層は検出されなかった。

【炉】中央部やや西寄りに位置する。炉の北側は攪乱を受けている。平面形態は楕円形を呈し、底部は赤褐色に焼けている。規模は、南北の残存部は(54)cm、東西は69cm、深さは、床面から10cmを測る。

【周溝】住居跡北側と東側は攪乱されており、周溝は未確認だが、南側と西側の壁際に1本の周溝が巡る。小さなピット状の単位（P6ほか）を持って掘り込まれている。上幅20～28cm、下幅10～15cm、深さ15～30cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うとみられるものはP1～P11である。主柱穴はP5、P7、P8、P9とみられる。

【遺物出土状況】遺構確認面から床面までが浅く、また、その大半で攪乱を受けていることもあり、遺物残存状況は悪く、出土数も少ない。

② 3号住居跡出土土器

【出土土器】大半を攪乱されているため遺物は少ない。図示した遺物はいずれも覆土中より出土している。口縁部破片は3点図示したが、1・2が地文縄文、3が貝殻背圧痕を地文とし、モチーフは描かれない。4は屈曲部に一条の爪形文を施す。黒浜式を主体としている。

第1類第3種土器 4は頸部爪形文を横走させる。

第2類第1種土器 1は条の太いR1を横位に施文している。5はRLを横位、縦位に施文し羽状を構成している。

第2類第2種土器 2は口縁部に沿ってRLを横位に施文する。6、7はRLで施文。8はLR・RLで羽状に施文している。

第2類第4種土器 9～11はいずれも軸縄は不明であるが、附加条を施文する。9、10はc。

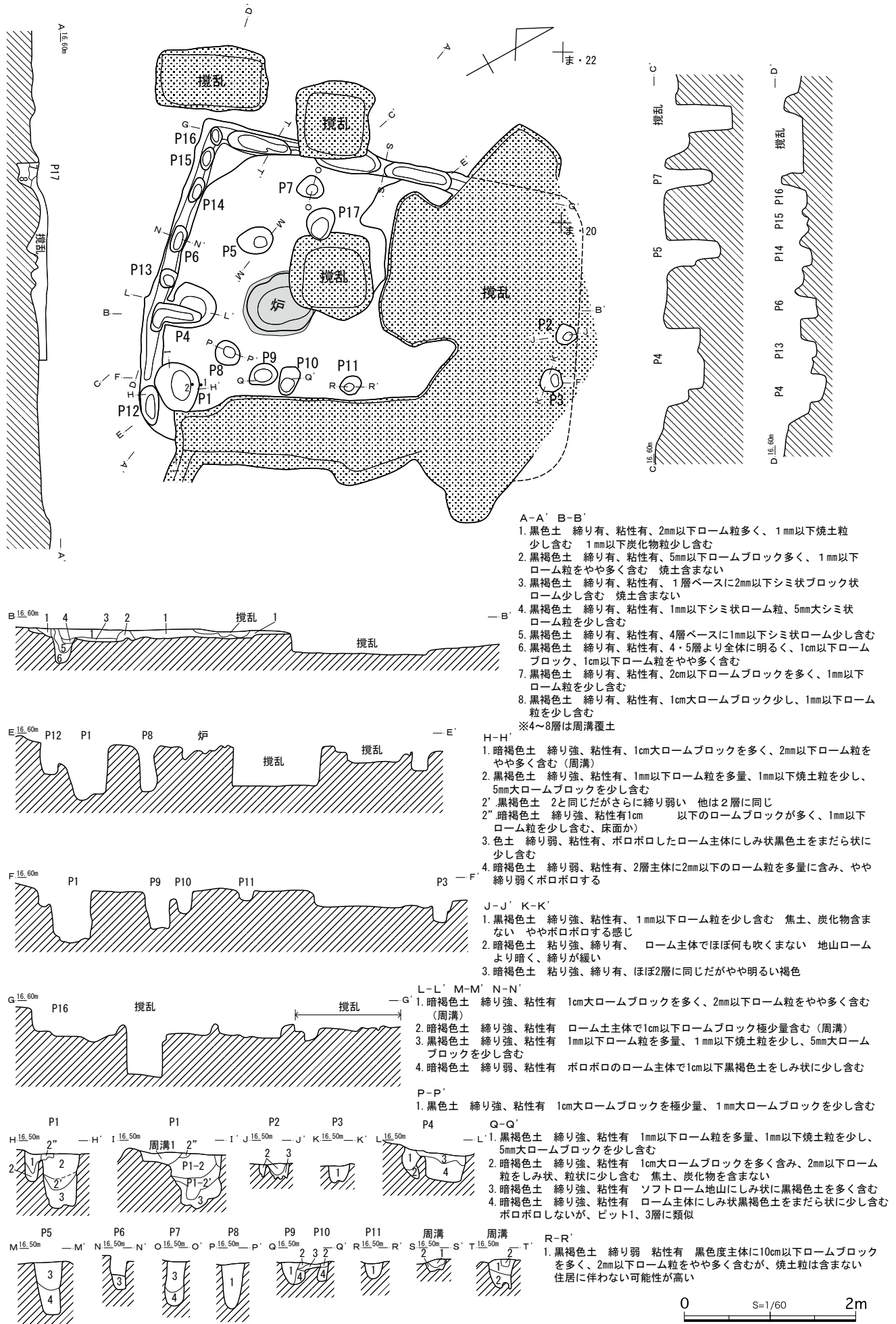
第4類第1種土器 3は4類1種aである。貝殻背圧痕を口縁部間際まで斜位に施している。

第3表 3号住居跡ピット一覧表

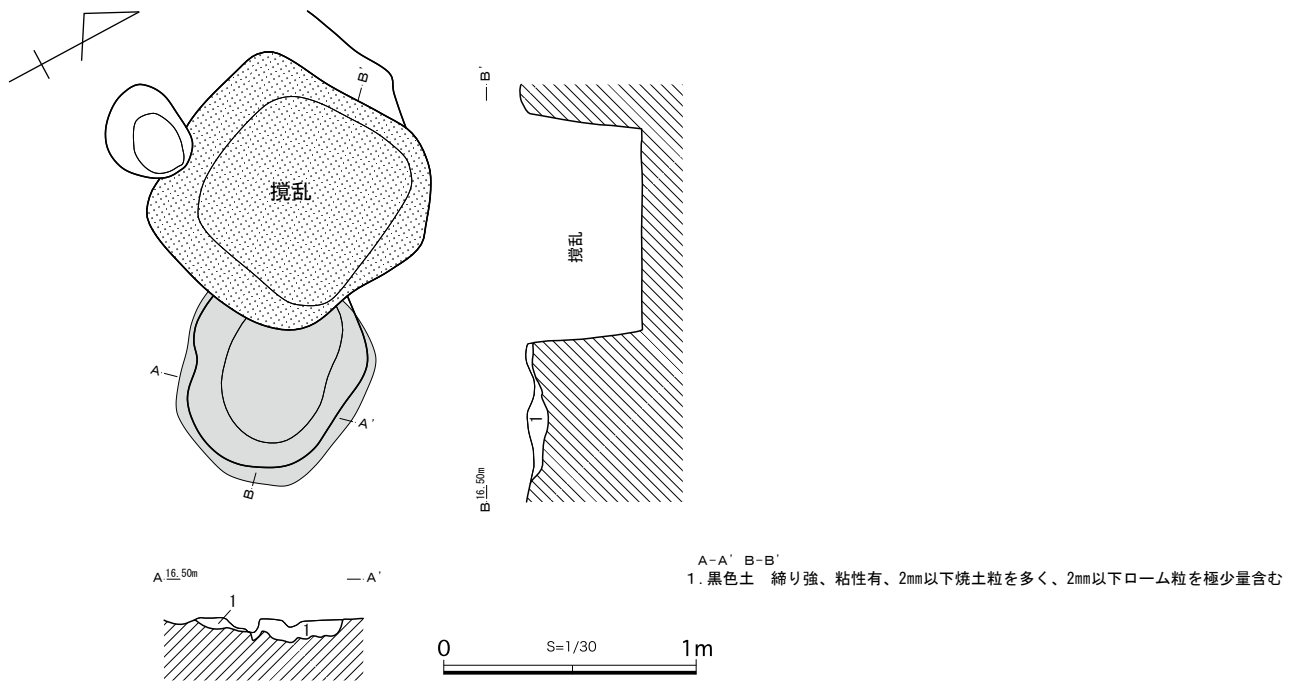
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不整形円形	0.60×0.50	0.34×0.22	0.59	
2	不整形円形	0.24×0.21	0.12×0.07	0.16	
3	不整形円形	0.26×0.21	0.10×0.08	0.21	
4	L字形	0.55×0.32	0.47×0.22	0.43	
5	楕円形	0.42×0.26	0.14×0.07	0.62	主柱穴
6	長円形	0.26×0.19	0.19×0.08	0.19	
7	不整形円形	0.30×0.25	0.11×0.09	0.58	主柱穴
8	円形	0.31×0.25	0.15×0.05	0.05	主柱穴
9	不整形円形	0.29×0.22	0.20×0.11	0.43	主柱穴
10	不整形長円形	0.34×0.21	0.14×0.11	0.22	
11	不整形円形	0.23×0.20	0.11×0.05	0.11	
12	長円形	0.46×0.22	0.26×0.11	0.13	
13	円形	0.23×0.16	0.09×0.07	0.11	
14	楕円形	0.28×0.11	0.16×0.08	0.08	
15	楕円形	0.23×0.12	0.11×0.06	0.08	
16	楕円形	0.21×0.10	0.12×0.05	0.04	
17	不整形円形	0.37×0.28	0.24×0.14	0.18	

第4表 3号住居跡出土遺物観察表

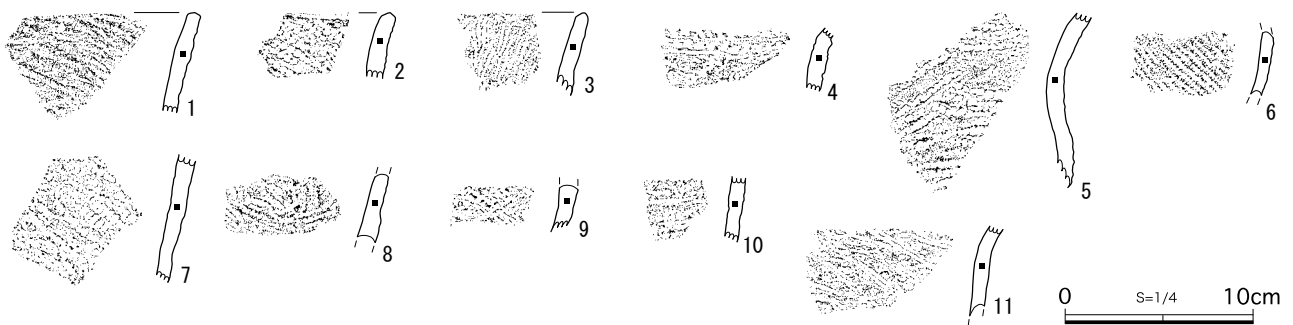
図版番号	掲載番号	分類	出土状況	口径・胴径、長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
9図	1	2類1種	覆土			口縁部	深鉢	R1	条の太いR1を横位施文。	微量	黒浜式	3住攪乱H2
	2	2類2種	覆土			口縁部	深鉢	RL	口縁部に沿ってRLを横位施文。	普通	黒浜式	3住攪乱H2
	3	4類1種a	覆土			口縁部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を口縁部間際まで斜位に施す。	微量	黒浜式	3住攪乱H2
	4	1類3種	覆土			頸部	深鉢	附加条	頸部に爪形文を横走させる。胴部は軸縄不明にRを附加する。	多量	黒浜式	3住攪乱H1
	5	2類1種	覆土			頸部	深鉢	RL	RLを横位、縦位に施し羽状構成にする。	普通	黒浜式	3住攪乱H1
	6	2類2種	覆土			胴部	深鉢	RL		微量	黒浜式	3住攪乱H2
	7	2類2種	覆土			胴部	深鉢	RL	横位施文。	普通	黒浜式	3住攪乱H1
	8	2類2種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文。	普通	黒浜式	3住攪乱H2
	9	2類4種c	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明、R1 2条、Lr 2条附加か。	普通	黒浜式	3住攪乱H2
	10	2類4種c	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明、LR 2条、R1を附加か。	普通	黒浜式	3住攪乱H1
	11	2類4種	覆土			頸部	深鉢	附加条	軸縄不明、R1を二本同時附加する。	多量	黒浜式	3住攪乱H1



第7図 3号住居跡 (1/60)



第8図 3号住居跡炉 (1/30)



第9図 3号住居跡出土遺物 (1/4)

(2) 4号住居跡

① 4号住居跡

【位置】調査区の中央東寄りに位置する。主軸はS－35°－Wである。

【形状・規模】住居跡の西寄りを南北に縦断する攪乱があるものの、全体形状は明瞭である。平面形態は隅丸方形である。規模は、長軸（東西）5.00 m×短軸（南北）4.85 mを測る。深さは遺構確認面から床面まで20cmを測る。本住居跡から、貝層は検出されなかった。

【炉】中央部やや南寄りに位置する。平面形態は不整な円形を呈し、床面は赤褐色に焼けている。規模は、南北69cm、東西69cm、深さは、床面から10cmを測る。

【周溝】壁際を1本の周溝が巡る。数基の小ピットを周溝内に備える。上幅16～40cm、下幅8～14cm、深さ22～40cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うものとみられるものはP1～P7である。主柱穴はP1～P7と考えられる。周溝はほぼ1周するが、ピットが整然と配列されている状態から柱位置の付け替えが考えられる。

② 4号住居跡出土土器

【出土土器】住居跡中央付近の床面近くで纏まって出土している。破片であるため不確かであるが、幅広の口縁部文様帯をもつものが認められる。黒浜式を主体に出土している。

第1類第1種土器 17は竹管状工具で菱形に施文する黒浜式である。

第1類第2種土器 2、18は地文に沈線文を、3はLR、19はR1を施している黒浜式。3は鋸歯文を2段に、18、19は菱形文を構成している。

第1類第3種 4、5、20、21はいずれも口縁部若しくは口縁部付近に平行沈線を横位に施文している。4、20は竹管状工具、21は櫛歯状工具によるもの。

第1類第5種土器 22は1類5種a。5本1単位の櫛歯状工具で格子目状に施文している。

第1類第8種土器 23～27は胴部片で施文帯を有する。23、24は竹管状工具で波状文を施文し、25～27は平行沈線を横位に施文している。

第2類第1種土器 6、7は口縁部、28～32は胴部。6はLr、7、28～30はR1、31、32はLr・R1の羽状。

第2類第2種土器 1、13、14は口縁部、16はS字状結節を伴うRLを、37～42は胴部でRLを、8～

12は口縁部、33～36は胴部でLRをそれぞれ施文している。いずれも黒浜式。

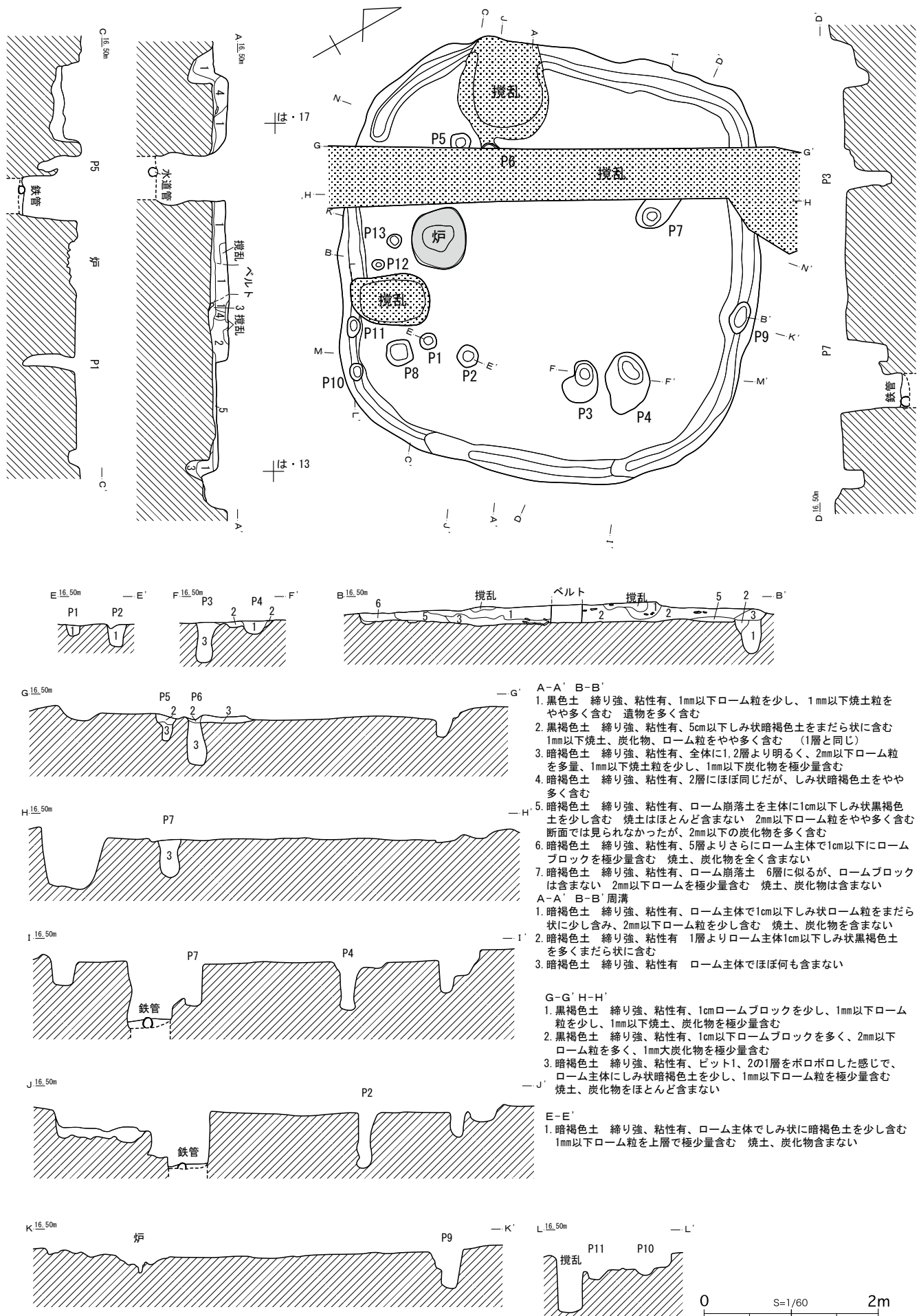
第5類土器 15は無文。口縁部はヨコナデされる。

第6類土器 6類は底部片を一括している。43はRLを、44はR1をそれぞれ横位に施文している。

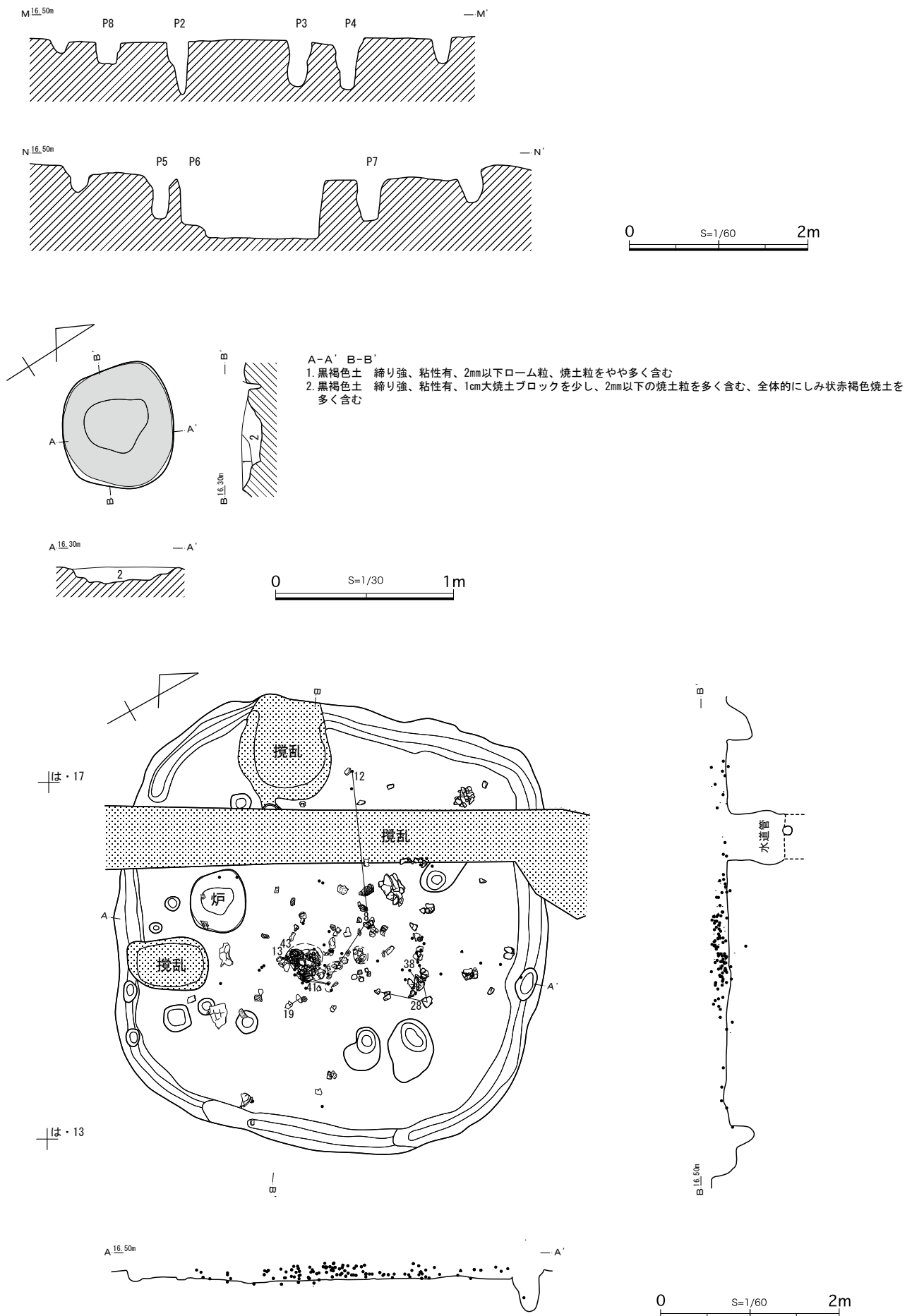
第8類土器 8類は甲信系土器を一括している。45は胴部を転用して土器円盤としている。地文はLr。金雲母を多量に含む。釈迦堂Z3式。

第5表 4号住居跡ピット一覧表

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	0.16 × 0.15	0.06 × 0.05	0.10	主柱穴
2	円形	0.24 × 0.21	0.13 × 0.11	0.58	主柱穴
3	不整形	0.49 × 0.40	0.11 × 0.08	0.52	主柱穴
4	不整形	0.71 × 0.51	0.24 × 0.08	0.14	主柱穴
5	円形?	0.23 × (0.16)	0.10 × (0.09)	0.50	主柱穴
6	円形?	0.16 × (0.4)	0.13 × (0.2)	0.55	主柱穴
7	長円形?	(0.48) × 0.35	0.22 × 0.10	0.46	主柱穴
8	不整円形	0.30 × 0.27	0.21 × 0.18	0.27	
9	楕円形	0.38 × 0.22	0.23 × 0.11	0.59	
10	不整円形	0.18 × 0.11	0.10 × 0.07	0.04	
11	楕円形	0.22 × 0.13	0.18 × 0.09	0.03	
12	円形	0.11 × 0.08	0.05 × 0.04	0.03	
13	円形	0.16 × 0.14	0.07 × 0.05	0.02	



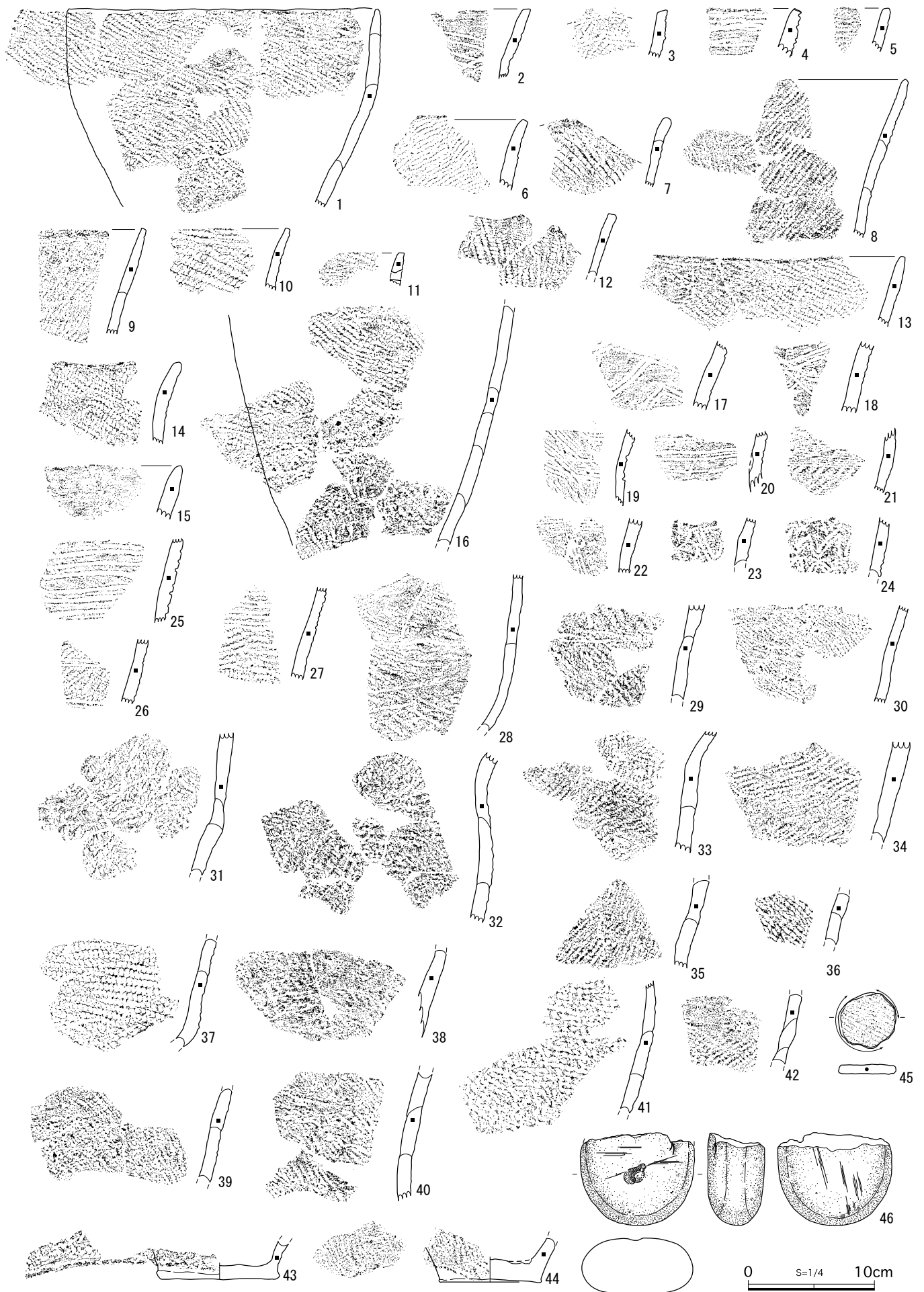
第 10 図 4 号住居跡 (1/60)



第11図 4号住居跡炉・遺物出土状況図 (1/30・1/60)

第6表 4号住居跡出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
12 図	1	2 類 2 種	覆土	(24.6)・(37.2)	-・(15.7)	口縁部	深鉢	RL	RL 横位施文。	多量	黒浜式	4 住No.112
	2	1 類 2 種	覆土	-・(34.0)	-・(28.9)	口縁部	深鉢	沈線	竹管状工具で菱形文を施文する。	普通	黒浜式	4 住 D 区 H1
	3	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	LR を地文に竹管状工具で鋸歯文を 2 段以上。	少量	黒浜式	4 住No.96
	4	1 類 3 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	口縁部に沿って竹管状工具で平行線を施文。口唇部キザミ。	普通	黒浜式	4 住No.82
	5	1 類 3 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	細かな平行沈線を横走させる。	普通	黒浜式	4 住 C 区 H1
	6	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	少量	黒浜式	4 住攪乱 H1
	7	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	小波状口縁。	多量	黒浜式	4 住No.91
	8	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR		普通	黒浜式	4 住No.68・ 79・ベルト
	9	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	LR 横位施文。	普通	黒浜式	4 住No.69
	10	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	LR 縦位施文。	普通	黒浜式	4 住No.1
	11	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	穿孔あり。LR 縦位施文。	普通	黒浜式	4 住No.21
	12	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	波頂部 2 突起状になる。LR 縦位施文。一部 RL 横位施文か。	普通	黒浜式	4 住No.66・ 93
	13	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	RL	RL 横位施文。	少量	黒浜式	4 住No.17・ 58
	14	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	RL	小波状口縁。	少量	黒浜式	4 住No.6
	15	5 類	覆土			口縁部	深鉢	-	無文。口縁部ヨコナデされる。	多量	黒浜式	4 住No.37
	16	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	S 字状結節を伴う。	普通	黒浜式	4 住No.58
	17	1 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具で菱形文を施文する。	普通	黒浜式	4 住No.110
	18	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具で菱形文を施文する。	多量	黒浜式	4 住 A 区 H1
	19	1 類 2 種	覆土			頭部	深鉢	R1	口縁部に竹管状工具で菱形文を構成すると思われる。胴部は R1。	普通	黒浜式	4 住No.7・8
	20	1 類 3 種	覆土			口縁部 付近	深鉢	沈線	無文。地に竹管状工具で平行沈線を横走施文。	多量	黒浜式	4 住No.49
	21	1 類 3 種	覆土			口縁部 付近	深鉢	LR	LR を地に櫛歯状工具で沈線を横走施文。	普通	黒浜式	4 住攪乱 H1
	22	1 類 5 種 a	覆土			胴部	深鉢	沈線	5 本一単位の櫛歯状工具で格子目文を施文。	微量	黒浜式	4 住No.76
	23	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具で波状文を描く。	普通	黒浜式	4 住 B ベルト
	24	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具で波状文を描く。	普通	黒浜式	4 住 B ベルト
	25	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	平行沈線を横走施文。	少量	黒浜式	4 住 H
	26	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR を地文に竹管状工具で間隔をあけて平行沈線を横走施文。	普通	黒浜式	4 住 A ベルト
	27	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL を地文に竹管状工具で間隔をあけず平行沈線を横走施文。	普通	黒浜式	4 住No.72
	28	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	4 住No.44・ 43・50
	29	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	4 住No.36
	30	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1		普通	黒浜式	4 住No.107
	31	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	羽状構成。50 と同一個体。	普通	黒浜式	4 住No.36
	32	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	羽状構成。49 と同一個体。	普通	黒浜式	4 住No.36
	33	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	普通	黒浜式	4 住No.73
	34	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR		少量	黒浜式	4 住No.74
	35	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR		多量	黒浜式	4 住No.65
	36	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	O 段多条。	普通	黒浜式	4 住 D 区 H1
	37	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL		多量	黒浜式	4 住No.87
	38	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL か	擬口縁。	多量	黒浜式	4 住No.47・ 45
	39	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	4 住No.58
	40	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	追加成形技法。	多量	黒浜式	4 住No.61
	41	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	多量	黒浜式	4 住No.11・ 94・97
	42	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	追加成形技法。	普通	黒浜式	4 住No.109
	43	6 類	覆土		9.0・(3.2)	底部	深鉢	RL	RL 横位施文。	多量	黒浜式	4 住No.15・ 16・18
	44	6 類	覆土		7.8・(3.5)	底部	深鉢	RL	R1 横位施文。	普通	黒浜式	4 住No.58
	45	8 類	覆土			胴部 (転用)	土器 円盤	Lr	金雲母多量。	無	釈迦堂 Z3	4 住No.88
	46	石器	覆土	(7.3) × 8.7 × 4.5			磨石	—	花崗岩。凹石としても使用。縁辺敲打痕がある。重量 438.90g。	-	-	4 住No.111



第12図 4号住居跡出土遺物 (1/4)

(3) 5号住居跡

① 5号住居跡

【位置】調査区の北隅に位置する。主軸はN-60°-Wである。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形である。規模は、長軸(東西)5.0m×短軸(南北)3.9mを測る。深さは、遺構確認面から床面まで40cmを測る。この住居跡は検出された遺構内の施設より拡張していることが考えられる。拡張前の規模は、長軸(東西)3.85m×短軸(南北)3.2mを測る。拡張後の規模は、長軸(東西)5.06m×短軸(南北)3.98mを測る。本住居跡から、貝層は検出されなかった。

【炉】中央部西寄りに位置する。平面形態は不整な円形を呈し、床面は赤褐色に焼けている。規模は、南北66cm、東西77cm、深さは床面から6cmを測る。

【周溝】壁際に1本の周溝が巡り、北東隅(P6)と東辺中央(P18、19、20、21)にピットを有する。上幅18~35cm、下幅5~10cm、深さ20~22cmを測る。また、壁際周溝の内側に西辺から北辺中央、西辺中央~南辺にかけて1本、ほぼ一周する周溝がある。内側の周溝もピットを有する(P7、9)。上幅8~20cm、下幅4~10cm、深さ5~17cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うと見られるものはP1~P21である。支柱穴はP1~P4が考えられる。一方で、周溝が2条に巡らされている状態やP13(支柱穴)~P15(支柱穴)の配列状態から、複数回、住居を拡張していると考えられる。また、P8(拡張前)、P18~P21(拡張後)は住居の入口施設を構築していたと考えられる。

【遺物出土状況】床上から覆土層にかけて出土している。

② 5号住居跡出土土器

【出土土器】いずれも覆土の中位から上位で遺物が出土した。平面的に見ると壁際からの出土が少ないが、集中して分布する様子を見出すことはできない。このことから、住居廃絶後、若干時間をおいて廃棄された遺物が主体をなすものと思われる。そのため、図示した遺物も破片が主体である。そのうち1・2は口縁部から胴部下位までが残るもので、地文縄文の土器である。その他の口縁部を見ると平縁が主体であり、緩やかな波状口縁をなすもの、波頂部が丸みをもつ大波状のもの、三角形の突起を有するものが若干認められる。口縁部は地文のみのものが多く、格子目文などのモチーフを持つものもあるが、幅狭な文様帯である。黒浜式を主体に出土している。

第1類第2種土器 3~5、21は口縁部。3は爪形文で鋸歯文を描く。4は波状口縁だが、口縁に沿った平行沈線を施している。5は竹管状工具で曲線的なモチーフを描いている。21は爪形文で鋸歯文を描いている。23は胴部に、櫛歯状工具で波状文と沈線を横位に施文している。黒浜式である。

第1類第3種土器 6~8は口縁部でいずれも竹管状工具にて施文している。6は沈線を横走に施文、8はRR施文後、口縁部に沿って竹管状工具で平行沈線を2段横走に施文している。小突起を持つ7はLr施文後、竹管状工具で横走に施している。

第1類第5種土器 9、24はaで竹管状工具で格子目文を施文している。10、25は地文にLrを施文し、竹管状工具で格子目文を描いている。

第1類第8種土器 26、27は胴部。Lr施文後、竹管状工具で平行線を横走に施文している。黒浜式。

第2類第1種土器 1は口縁部にキザミを有する。11~13は口縁部に沿ってLrを横位に施文している。14はR1を横位に施文後、口縁部直下を横ナデしており、28はLr・R1無節羽状縄文を施している。

第2類第2種土器 15はLRを施文後、口縁部直下を非常に幅狭くナデる。16~18は口縁部に沿ってLRを横位に施文している。16には、口縁直下に両側からの穿孔が窺える。18は口縁部直下を横ナデしている。19、29~31、42はRLを横位に施文している。19は口縁部直下を横ナデしている。32はLR・RLの単節羽状縄文を施文している。15~19は口縁部、29~32は胴部、42は底部で、黒浜式。

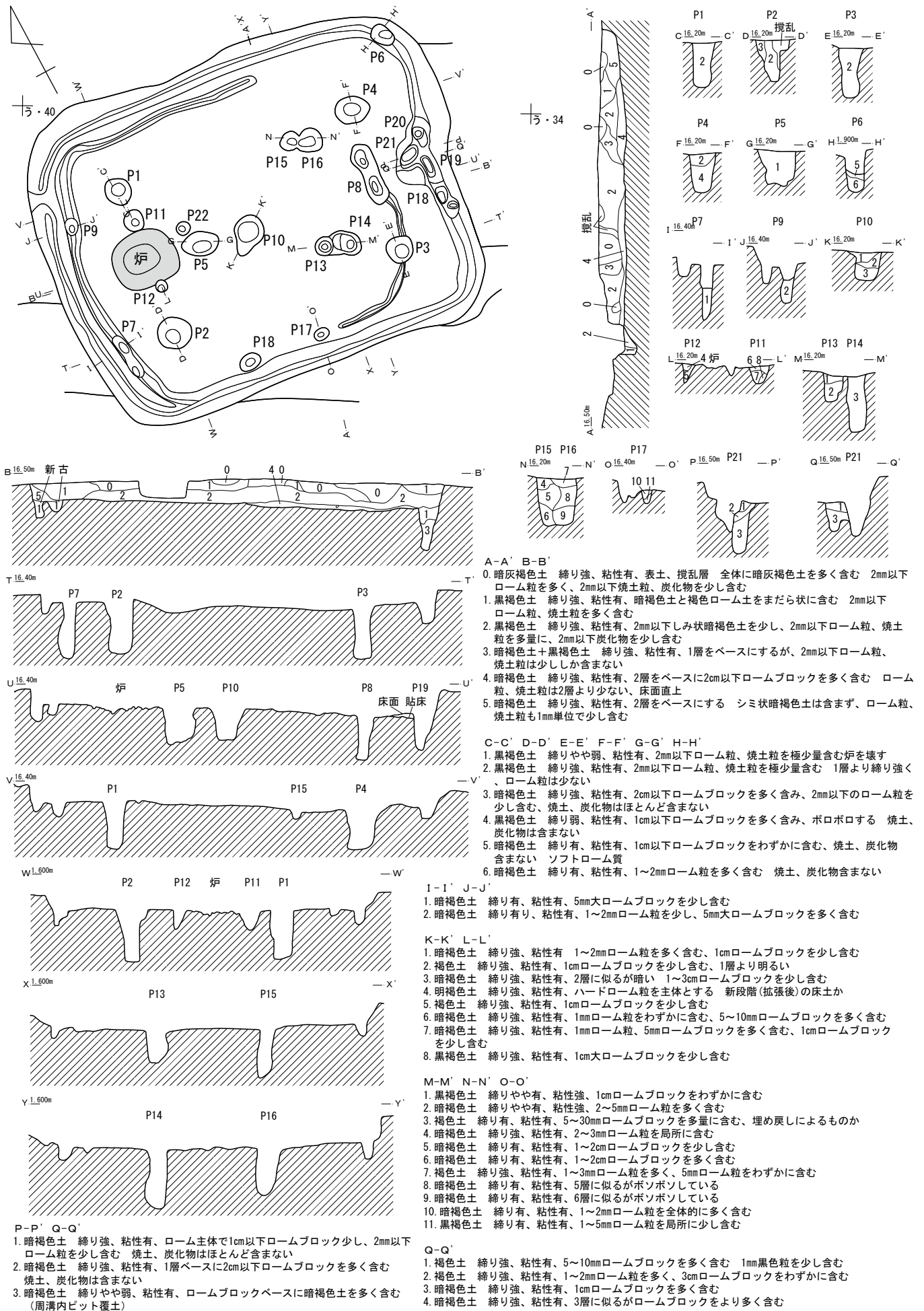
第2類第4種土器 22、33、34、35、40は附加条縄文の土器。22、33は軸縄は不明だが、Lを附加している。34はLr+2Lの2種を施文しており、35はLr+2Lの2種を縦位に施文している。40はR1+2Lの2種を施文している。いずれも黒浜式である。

第2類第5種土器 2は緩い波状口縁を呈しており、RRを横位に施文している。20は口縁部に沿って横位にRRを施文している。36は胴部片でRRを斜位に施文している。いずれも黒浜式である。

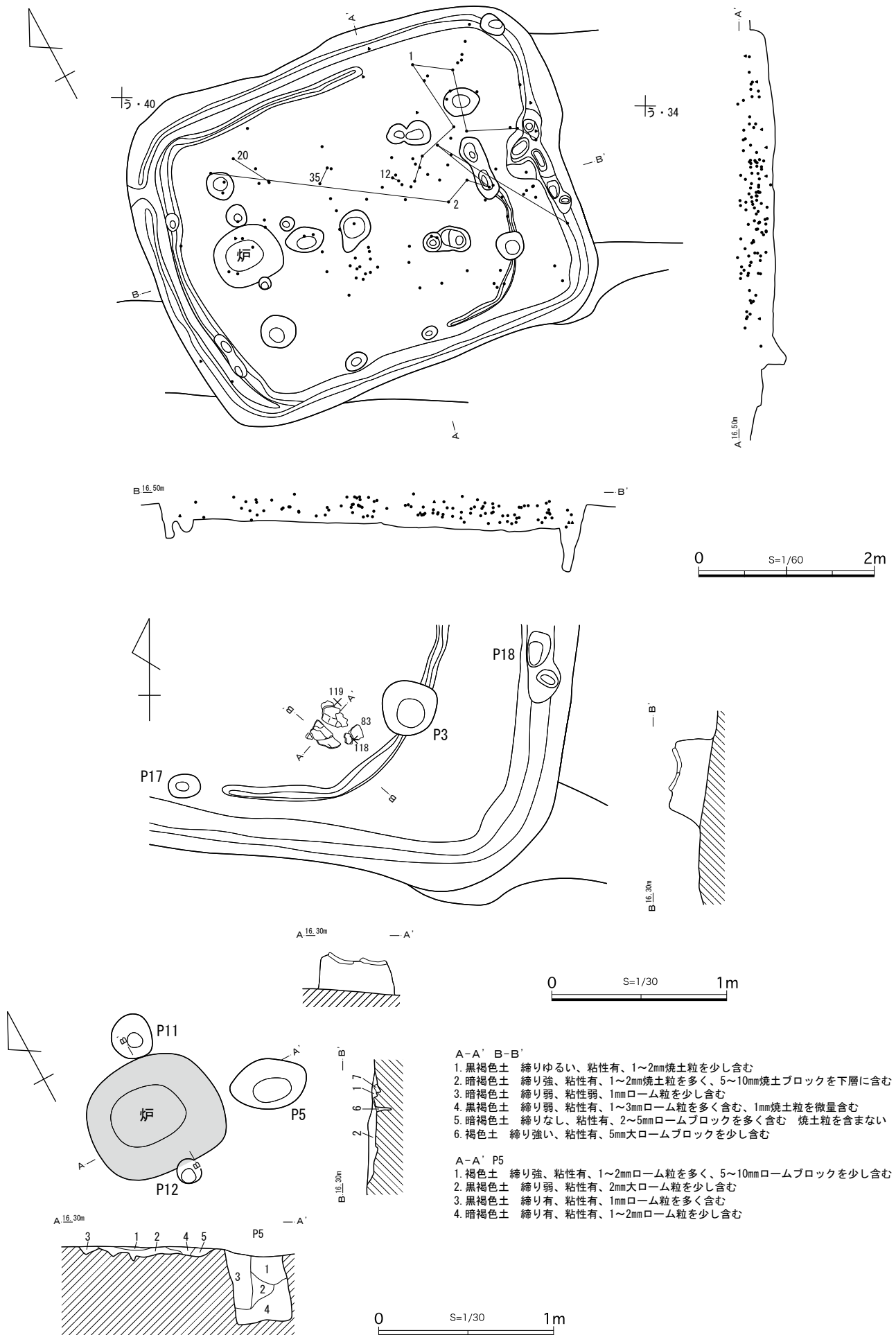
第3類土器 37は撚糸Rで施文している。黒浜式。

第4類第1種土器 38、39、43は4類1種aである。38は胴部で貝殻背圧痕を斜位に施している。39は胴部で貝殻背圧痕を横位に施文している。43は底部であるが、貝殻背圧痕が横位に施文している。黒浜式。

第8類土器 41は胴部片でRLを横位に施文している。金雲母を含む。釈迦堂Z3式である。



第13図 5号住居跡 (1/60)



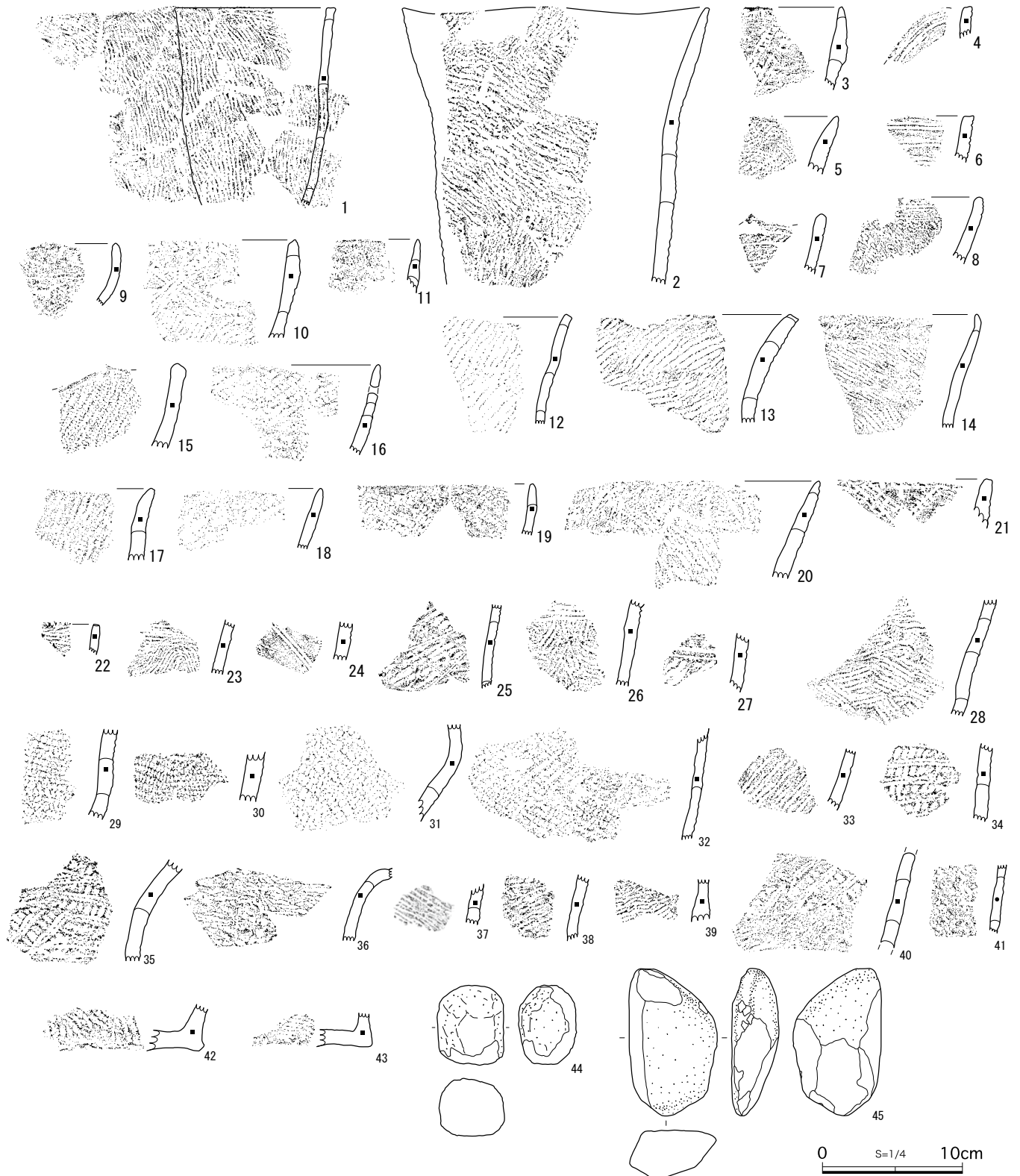
第14図 5号住居跡遺物出土状況図・炉 (1/60・1/30)

第7表 5号住居跡出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
15 図	1	2 類 1 種	覆土	(11.3)・(10.4)	－・<14.1>	口縁部～ 胴部	深鉢	Lr	口唇部キザミ。Lr を施文。	少量	黒浜式	5 住No.6・ 37・B ベル ト、5 住No. 38・115・A 区4、5 住 No.2・36・ 47・H2、5 住No.22・A 区2
	2	2 類 5 種	覆土	(22.0)・(17.2)	－・<19.7>	口縁部～ 胴部	深鉢	RR	緩い波状口縁。RR を横位施文。	少量	黒浜式	5 住No.14・ 34・103・ 104、5 住 No.51・103 ・104・106
	3	1 種 2 類	覆土			口縁部	深鉢	沈線	爪形文で鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	5 住No.48
	4	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。波状口縁に沿って平行沈線。	普通	黒浜式	5 住 B ベルト 1
	5	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	竹管状工具で曲線的なモチーフ描く。	少量	黒浜式	5 住No.13
	6	1 類 3 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	竹管状工具で沈線を横走施文。	普通	黒浜式	5 住 A 区 2
	7	1 類 3 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	小突起を持つ。Lr 施文後、竹管状工具で平行沈線を横位施文。	少量	黒浜式	5 住 A ベルト 1
	8	1 類 3 種	覆土			口縁部	深鉢	RR	RR 施文後、口縁部に沿って竹管状工具で平行線を 2 段横走施文。	多量	黒浜式	5 住 P5
	9	1 類 5 種 a	覆土			口縁部	鉢	沈線	竹管状工具で浅く乱雑な格子目文を描くものと思われる。	少量	黒浜式	5 住 B ベルト 1
	10	1 類 5 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	追加成形技法。竹管状工具で格子目文を描く。	普通	黒浜式	5 住No.48
	11	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	口縁部に沿って Lr を横位施文。	少量	黒浜式	5 住 B 区 4
	12	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	口縁部に沿って Lr を横位施文。	普通	黒浜式	5 住No.24・ 26
	13	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	口縁部に沿って Lr を横位施文。	普通	黒浜式	5 住No.7
	14	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	R1 横位施文後、口縁部直下を横ナデ。	少量	黒浜式	5 住No.21・ 30
	15	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	波状口縁。LR を施文後、口縁部直下を非常に幅狭くナデる。	少量	黒浜式	5 住No.83
	16	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	口縁部沿って LR を横位施文。口縁直下に両側からあけた穿孔が認められる。	普通	黒浜式	5 住No.83
	17	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	口縁部沿って LR を横位施文。	少量	黒浜式	5 住No.34
	18	2 類 2 類	覆土			口縁部	深鉢	LR	口縁部沿って LR 横位施文後、口縁部直下を横ナデ。	普通	黒浜式	5 住 B 区 2
	19	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	RL	RL 横位施文後、口縁部直下を横ナデ。	普通	黒浜式	5 住No.83
	20	2 類 5 種	覆土			口縁部	深鉢	RR	口縁部に沿って RR を横位施文。	普通	黒浜式	5 住No.52・ 55
	21	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	爪形文により鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	5 住攪乱 H1
	22	2 類 4 種	覆土			口縁部	深鉢	附加条	口唇部キザミ。軸縄不明に L を附加する。	微量	黒浜式	5 住 A 区 4
	23	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	櫛歯状工具で波状文と沈線を横走に施文。	微量	黒浜式	5 住 A 区 4
	24	1 類 5 種 a	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具で格子目文を描くと思われる。	少量	黒浜式	5 住 B ベルト
	25	1 種 5 種 b	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文後、竹管状工具で格子目文を描く。	少量	黒浜式	5 住No.107
	26	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 施文後、竹管状工具で平行線を 2 段以上横走施文。	少量	黒浜式	5 住No.46
	27	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文後、竹管状工具で平行線を横走施文。	普通	黒浜式	5 住 A 区 1
	28	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状。	普通	黒浜式	5 住No.98
	29	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL を横位施文	少量	黒浜式	5 住No.19
	30	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	5 住No.32
	31	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	多量	黒浜式	5 住No.93
	32	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文。	多量	黒浜式	5 住No.83
	33	2 類 4 種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に L を附加する。	少量	黒浜式	5 住No.29
	34	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 2 種。Lr+2L。	多量	黒浜式	5 住No.97
	35	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 2 種。Lr+2L を縦位施文。	普通	黒浜式	5 住No.93
	36	2 類 5 種	覆土			胴部	深鉢	RR	RR 斜位施文。	普通	黒浜式	5 住No.57・ 60
	37	3 類	覆土			胴部	深鉢	撚糸	撚糸 R。	微量	黒浜式	5 住 A ベルト 1
	38	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を斜位に施す。	少量	黒浜式	5 住No.75
	39	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕横位施文。	少量	黒浜式	5 住No.93
	40	2 類 4 種 a	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 1 種。R1+2L。	普通	黒浜式	5 住No.79
	41	8 類	覆土			胴部	深鉢	RL	RL を横位施文。金雲母含む。	無	釈迦堂 Z3	5 住 A 区 1
	42	2 類 2 種	覆土			底部	深鉢	RL	RL を横位施文。	普通	黒浜式	5 住 D 区 2
	43	4 類 1 種 a	覆土			底部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕横位施文。	普通	黒浜式	5 住 B ベルト 1
	44	石器	覆土	5.7×4.7×4.1			磨石		花崗岩。被熱により剥落が激しい。重量 150.20g。	－	－	5 住 A ベルト 1
	45	石器	覆土	10.4×6.3×3.3			磨石？		砂岩。敲打痕が見られる。重量 259.90g。	－	－	5 住 A ベルト

第8表 5号住居跡ピットー覧表

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	0.32 × 0.26	0.14 × 0.13	0.53	主柱穴	12	円形	0.12 × 0.11	0.03 × 0.03	0.23	
2	円形	0.39 × 0.35	0.17 × 0.15	0.47	主柱穴	13	円形	0.19 × 0.18	0.07 × 0.06	0.36	主柱穴
3	円形	0.31 × 0.29	0.14 × 0.14	0.73	主柱穴	14	不整円形	0.40 × 0.29	0.10 × 0.08	0.68	主柱穴
4	円形	0.41 × 0.29	0.20 × 0.12	0.56	主柱穴	15	不整円形	0.19 × (0.16)	0.07 × 0.05	0.58	主柱穴
5	楕円形	0.44 × 0.28	0.23 × 0.12	0.45		16	不整円形	(0.28) × 0.25	0.19 × 0.12	0.56	
6	不整円形	0.28 × 0.19	0.13 × 0.09	0.50		17	楕円形	0.15 × 0.12	0.04 × 0.03	0.18	
7	長円形	0.57 × 0.13	0.13 × 0.08	0.67		18	不整円形	0.28 × 0.15	0.12 × 0.07	0.10	入口施設
8	長円形	0.77 × 0.24	0.13 × 0.07	0.46	入口施設	19	長円形	0.26 × 0.10	0.13 × 0.04	0.41	入口施設
9	円形	0.17 × 0.13	0.09 × 0.06	0.04		20	楕円形	0.25 × 0.13	0.06 × 0.05	0.03	入口施設
10	不整円形	0.50 × 0.36	0.24 × 0.22	0.33		21	楕円形	0.25 × 0.13	0.16 × 0.07	0.04	入口施設
11	円形	0.25 × 0.20	0.08 × 0.07	0.25		22	円形	0.13 × 0.12	0.07 × 0.07	0.04	



第15図 5号住居跡出土遺物 (1/4)

(4) 6号住居跡

① 6号住居跡

【位置】調査区の南隅に位置する。主軸はN-45°～49°-Wである。

【形状・規模】住居跡の東壁一部と南壁一部に攪乱を受けてはいるが、全体の形状・規模は明瞭である。平面形態は隅丸長方形である。規模は、長軸（南北）5.3m×短軸（東西）4.9mを測る。深さは、遺構確認面から床面まで20cmを測る。本住居跡から、貝層は検出されなかった。

【炉】炉は2基確認された。1基（炉1）は中央やや北寄りに位置する。東にP1、南西にP5、P6が近接し、南端をP4に壊されている。平面形態は不整な楕円形を呈する。規模は、南北75cm、東西55cm、深さは床面から10cmを測る。もう1基（炉2）は中央の西寄りに位置する。西辺で3周する周溝のうち、最も内周の周溝と接している。新旧関係については不明である。

【周溝】東壁際に1条周溝があり、北隅で二又に分かれる。二又のうち、壁際の周溝は北壁際には巡らず、内側の周溝に呼応する形で北辺に周溝が1条巡る。周溝は西辺で3重に巡り、南辺にて1条に収束する。周溝および支柱穴の様子から複数回（1～3回）の拡張が行われたと考えられる。東壁際の周溝で上幅は30～35cm、下幅は10～20cm、深さは25～35cmを測る。北辺、南辺の周溝で、上幅15～25cm、下幅5～12cm、深さ10～12cmを測る。西辺は最外周溝で上幅18～20cm、下幅5～10cm、深さ20～25cmを測る。西辺最内周では上幅10～15cm、下幅5～10cm、深さ7～10cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うと見られるものはP1～P23である。支柱穴は、P1、P2、P19、P20で一組、P1・2・15・19、P1・2・3・19、P1・2・9・16等の組み合わせが考えられる。

【遺物出土状況】床上から覆土層にかけて出土している。

② 6号住居跡出土土器

【出土土器】遺物は覆土中および床面上から出土している。平面的に見ると西側隅付近と南側にややまとまりが認められる。黒浜式が主体である。

第1類第1種土器 1は口縁部。波状口縁で地文に3本の施文具により大振りに施文している。

第1類第2種土器 2～5は口縁部、14は口縁部

付近の部位である。2、3、5、14は竹管状工具で鋸歯文を描いている。4は波状口縁に沿って3条の押引文を施しており、以下同一工具で鋸歯文あるいは格子目文を描いている。

第1類第3種土器 6は小突起を有し、竹管状工具による横位平行沈線文を密に重層させている。

第1類第4種土器 7は小突起を有する口縁部。地文はR1。口縁部に沿って、竹管状工具でC字形の爪形文を2段施している。8は軸縄は不明だが、2Rと2Lを附加したもので羽状に施文している。その後、口縁部に沿ってコンパス文を施している。

第1類第7種土器 15、16は胴部片で縦位の短沈線を施文している。

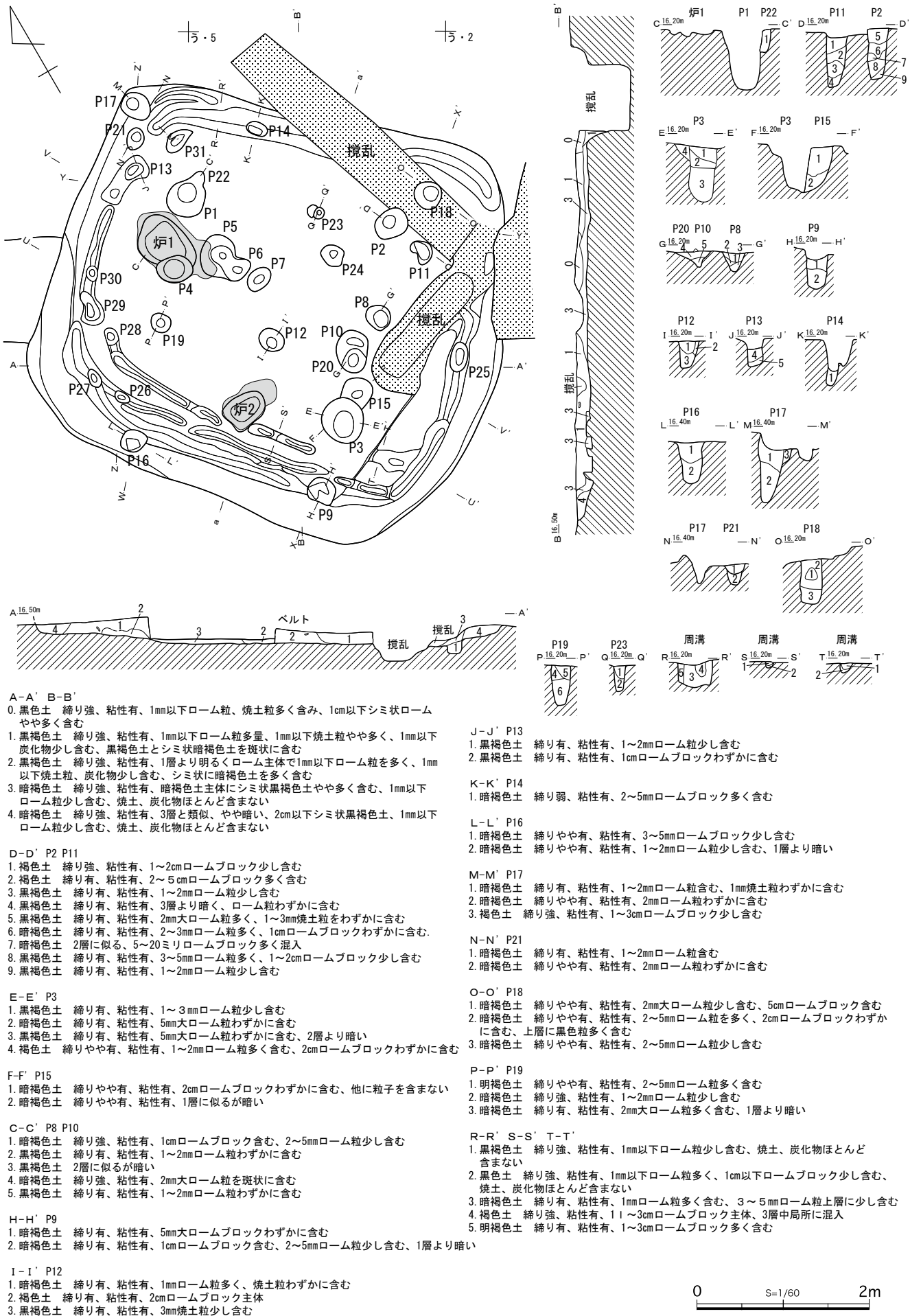
第1類第8種土器 17は竹管状工具により波状文を施文している。18は竹管状工具で鋸歯文、波状文等を描いている。19は地文にLを附加している附加条で頸部にはコンパス文を施文している。

第1類第9種土器 20は沈線により肋骨文を施文。

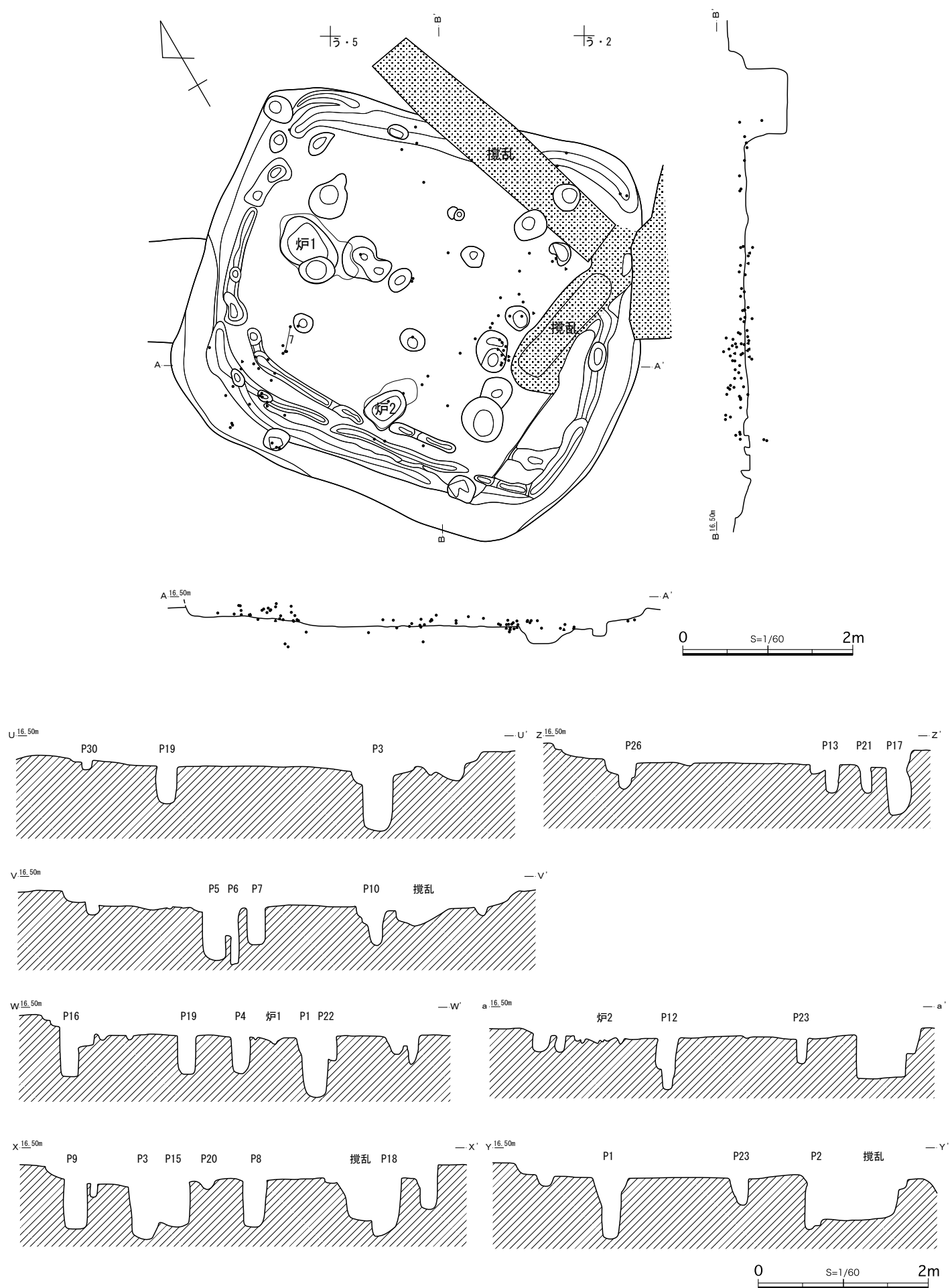
第2類第1種土器 9、10は口縁部。9はLr横位施文後、口縁直下に竹管状工具で平行沈線を施文している。10は二個1単位の小突起を有しており、R1横位施文後、一部に爪形文を付している。13は無節R1を横位施文する。21～23は胴部。Lrで横位に施文し

第9表 6号住居跡ピット一覧表

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	(0.55) × 0.41	0.20 × 0.20	0.70	支柱穴
2	楕円形	0.39 × 0.29	0.17 × 0.14	0.58	支柱穴
3	円形	0.55 × 0.48	0.29 × 0.23	0.67	支柱穴
4	楕円形	0.40 × 0.31	0.23 × 0.23	0.42	
5	楕円形	0.49 × (0.32)	0.08 × 0.08	0.65	
6	楕円形	0.30 × (0.15)	0.08 × 0.06	0.68	
7	楕円形	0.32 × 0.19	0.14 × 0.06	0.45	
8	円形	0.29 × 0.23	0.19 × 0.16	0.56	
9	円形	0.30 × 0.31	0.21 × 0.20	0.47	
10	楕円形?	(0.42) × 0.35	0.19 × 0.07	0.20	
11	不整円形	0.28 × 0.25	0.22 × 0.10	0.65	
12	円形	0.28 × 0.24	0.10 × 0.09	0.33	
13	長円形	0.67 × 0.31	0.13 × 0.07	0.33	
14	楕円形	0.22 × 0.15	0.14 × 0.05	0.53	
15	円形?	(0.32) × 0.31	0.14 × 0.08	0.53	支柱穴
16	不整円形	0.29 × 0.22	0.13 × 0.07	0.50	支柱穴
17	楕円形	0.36 × 0.26	0.14 × 0.12	0.81	
18	円形	0.32 × 0.28	0.16 × 0.15	0.52	
19	円形	0.19 × 0.20	0.09 × 0.09	0.46	支柱穴
20	円形	0.26 × 0.24	0.15 × 0.13	0.08	支柱穴
21	楕円形	0.24 × 0.14	0.11 × 0.08	0.24	
22	円形?	0.11 × 0.08	0.03 × 0.02	0.28	
23	楕円形	0.20 × 0.10	0.04 × 0.03	0.31	
24	不整円形	0.28 × 0.22	0.08 × 0.08	0.04	
25	楕円形	0.34 × 0.20	0.21 × 0.09	0.06	
26	楕円形	0.19 × 0.11	0.05 × 0.03	0.04	
27	楕円形	0.20 × 0.14	0.08 × 0.03	0.05	
28	楕円形	0.22 × 0.10	0.06 × 0.03	0.04	
29	不整楕円形	0.38 × 0.25	0.15 × 0.05	0.08	
30	円形	0.14 × 0.13	0.09 × 0.04	0.11	
31	不整円形	0.35 × 0.18	0.17 × 0.06	0.06	



第16図 6号住居跡 (1/60)



第17図 6号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

ている。24も胴部で、LrとR1で無節の羽状を施文している。いずれも黒浜式。

第2類第2種土器 25～27、31～34はいずれも単節縄文。25、26はLRを横位に施文している。27は0段3条と思われるRLで、S字状結節を伴う。31、32はRLを横位に施文している。33は胴部をR1で横位に施文。口縁部文様帯は無文地に竹管状工具で鋸歯文を描いている。34はLR・RLにて羽状縄文を横位に施文している。

第2類第4種土器 35～37は軸縄不明で2Rを附加している。38は軸縄不明で2Rと2Lによる羽状を構成していると思われる。39は軸縄不明だがRを附加している。44は軸縄不明に2Rを附加する。胴部片

から土器円盤に転用している。

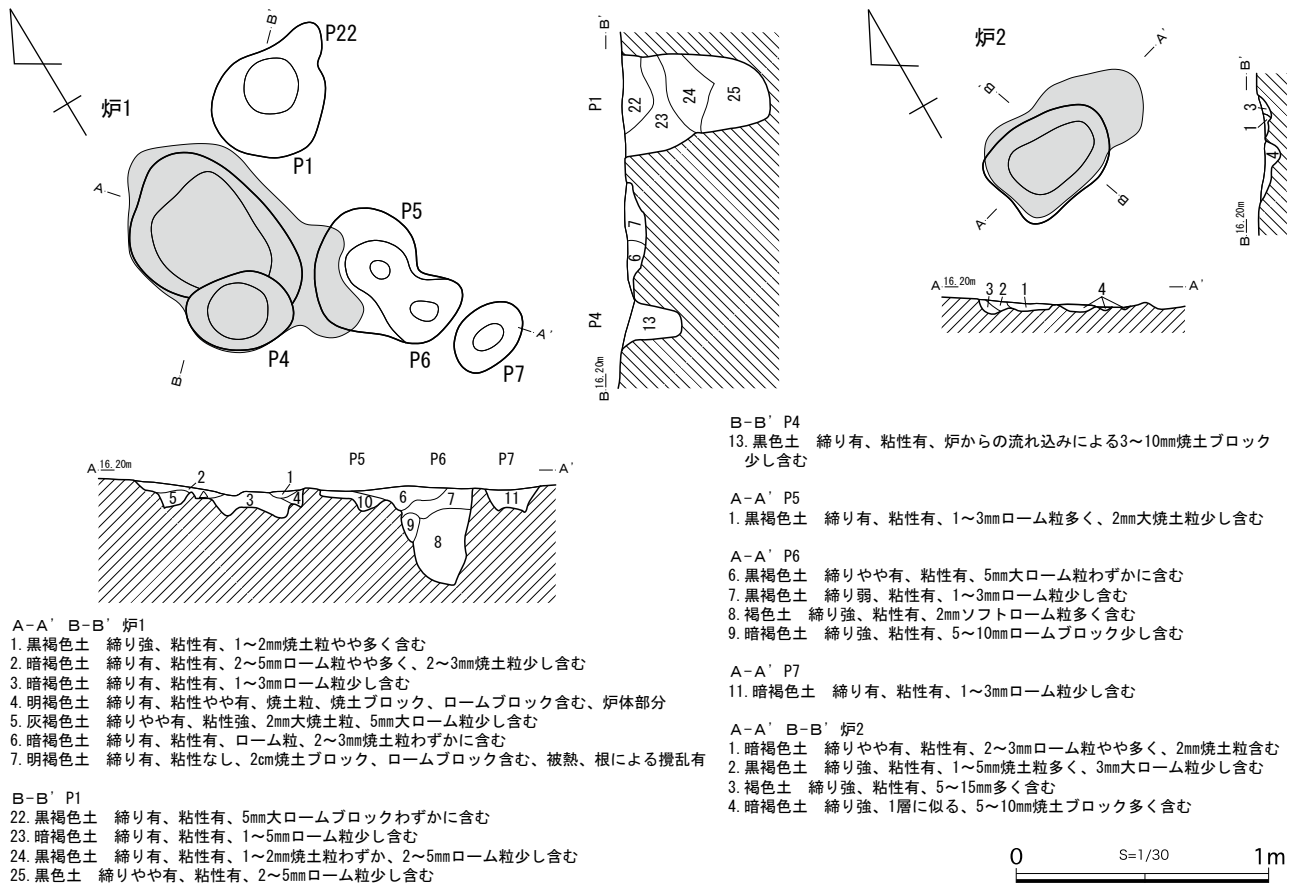
第2類第5種土器 11はLLを横位に施文後、口縁部に沿って幅の狭いコンパス文を施文している。

第4類第1種土器 40は4類1種a。貝殻背圧痕を斜位に施している。

第4類第2種土器 12はハマグリ?の腹縁により短沈線を施文している。

第6類土器 42、43は底部。43は地文にLr。

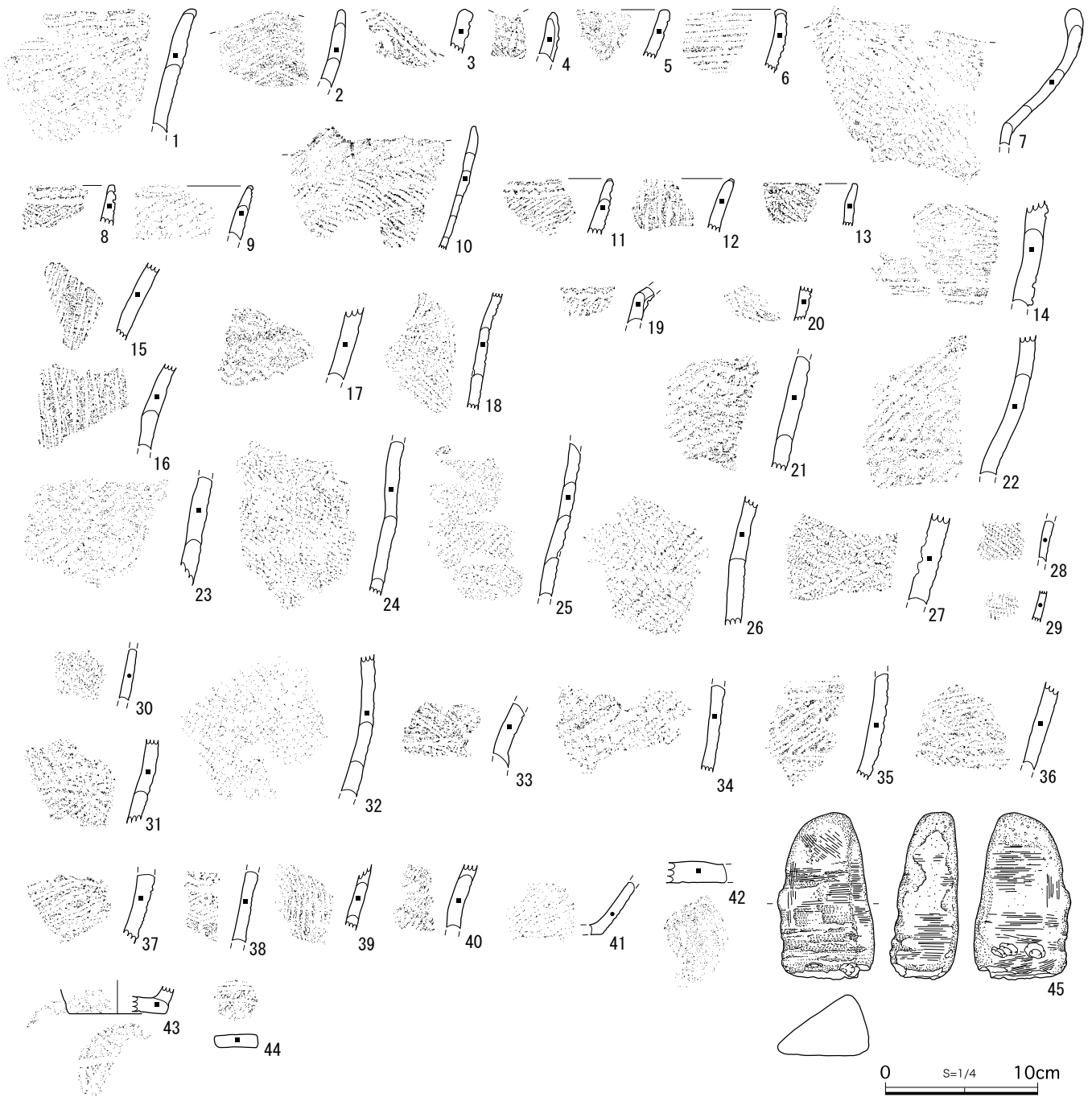
第8類土器 28～30は胴部片でRLを横位に施文している。金雲母を含む。41は底部でLrを横位に施文している。いずれも釈迦堂Z3式である。



第18図 6号住居跡炉 (1/30)

第10表 6号住居跡出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
19 図	1	1類1種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。3本同時施文具により大振りに施文。	多量	黒浜式	6住No.21
	2	1類2種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	小波頂部起点に竹管状工具で鋸歯文を描く。	多量	黒浜式	6住C区1
	3	1類2種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。鋸歯文を描くものと思われる。	多量	黒浜式	6住攪乱H2
	4	1類2種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁に沿って3条の押引文を施す。以下同一工具で鋸歯文あるいは格子目文を描くものと思われる。	少量	黒浜式	6住Cベルト1
	5	1類2種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	竹管状工具で鋸歯文を描いたと思われる。	少量	黒浜式	6住No.33
	6	1類3種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	小突起を有する。竹管状工具による横位平行沈線を密に重層させる。	少量	黒浜式	6住No.36
	7	1類4種	覆土			口縁部	深鉢	R1	小突起を有する。口縁部に沿って、竹管状工具によるC字形の爪形文を2段施す。	普通	黒浜式	6住No.20・62
	8	1類4類	覆土			口縁部	深鉢	附加条	軸縄不明に2Rと2L附加したもので羽状に施文後、口縁部に沿ってコンパス文を施文。	普通	黒浜式	6住B区2
	9	2類1種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	Lr横位施文後、口縁直下に竹管状工具で平行沈線を施文。	多量	黒浜式	6住No.52
	10	2類1種	覆土			口縁部	深鉢	R1	二個一単位の小突起を持つ。R1横位施文後、一部に爪形文を付す。	普通	黒浜式	6住No.44
	11	2類5種	覆土			口縁部	深鉢	LL	LLを横位施文後、口縁部沿って幅の狭いコンパス文施文。	少量	黒浜式	6住No.72
	12	4類2種	覆土			口縁部	深鉢	貝殻腹縁	ハマグリの腹縁により短沈線を施す。	少量	黒浜式	6住No.3
	13	2類1種	覆土			口縁部	深鉢	R1	無節、R1横位施文。	少量	黒浜式	6住A区1
	14	1類2種	覆土			口縁部 付近	深鉢	沈線	竹管状工具により鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	6住B区1・ B区2・攪 乱H2
	15	1類7種	覆土			胴部	深鉢	沈線	縦位の短沈線を施文。	多量	黒浜式	6住 Bベルト1
	16	1類7種	覆土			胴部	深鉢	沈線	縦位の短沈線を施文。	多量	黒浜式	6住No.16
	17	1類8種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具による波状文。	普通	黒浜式?	6住No.23
	18	1類8種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具で鋸歯文・波状文等を描く。	多量	黒浜式	6住 Cベルト1
	19	1類8種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明にLを附加する。頸部にコンパス文を施文。	普通	黒浜式	6住B区2
	20	1類9種	覆土			胴部	深鉢	沈線	肋骨文を描く。	少量	黒浜式	6住A区1
	21	2類1種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr横位施文。	多量	黒浜式	6住No.59
	22	2類1種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr横位施文。条が太い。	多量	黒浜式	6住No.1
	23	2類1種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr横位施文。条が太い。	多量	黒浜式	6住No.8
	24	2類1種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状。	普通	黒浜式	6住No.49
	25	2類2種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR(0段3条か)横位施文。	普通	黒浜式	6住No.57
	26	2類2種	覆土			胴部	深鉢	LR	LRを横位施文。	普通	黒浜式	6住No.48
	27	2類2種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL(0段3条と思われる)を横位施文。S字状結節を伴う。	多量	黒浜式	6住No.2
	28	8類	覆土			胴部	深鉢	RL	RL横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂Z3	6住No.26
	29	8類	覆土			胴部	深鉢	RL	RL横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂Z3	6住B区2
	30	8類	覆土			胴部	深鉢	RL	RL横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂Z3	6住B区2
	31	2類2種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL横位施文。	多量	黒浜式	6住No.14
	32	2類2種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL横位施文。	多量	黒浜式	6住No.20
	33	2類2種	覆土			胴部	深鉢	RL	口縁部文様帯は無文地に竹管状工具で鋸歯文を描く。胴部はRLを横位施文。	多量	黒浜式	6住No.68
	34	2類2種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文横位施文。	普通	黒浜式	6住攪乱H2
	35	2類4種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明の2Rを附加する。	普通	黒浜式	6住B区1
	36	2類4種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に2Rを附加する。	普通	黒浜式	6住No.42
	37	2類4種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に2Rを附加する。	少量	黒浜式	6住No.73
	38	2類4種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に2Rと2Lのよる羽状構成か?	少量	黒浜式	6住攪乱H2
	39	2類4種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明にRを附加する。	多量	黒浜式	6住 Cベルト1
	40	4類1種a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を斜位に施す。	少量	黒浜式	6住攪乱H1
	41	8類	覆土			底部	深鉢	Lr	Lrを横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂Z3	6住No.35
	42	6類	覆土			底部	深鉢	—		普通	黒浜式	6住No.84
	43	6類	覆土		6.2・(1.8)	底部	深鉢	Lr		普通	黒浜式	6住B区2
	44	2類4種	覆土			胴部 (転用)	土器 円盤	附加条	軸縄不明に2Rを附加する。	少量	黒浜式	6住 Cベルト1
	45	石器	覆土	10.8×6.3×4.5			磨石	—	スタンプ型石器状を呈し、破断面を使用している。重量369.40g。	—	—	6住攪乱H2



第 19 図 6号住居跡出土遺物 (1/4)

(4) 7号住居跡

① 7号住居跡

【位置】調査区の北側に位置する。主軸はN-54°-Wである。

【形状・規模】住居跡の中央から東寄りにかけて攪乱を受けてはいるが、全体の形状・規模は明瞭である。平面形態は隅丸長方形である。規模は長軸（東西）6.3m×短軸（南北）4.95mを測る。深さは、遺構確認面から床面まで20cmを測る。

【炉】炉は中央西寄りに位置する。平面形態は不整な楕円形を呈する。床面は赤褐色に焼けている。規模は、南北90cm、東西55cm、深さは床面から5cmを測る。

【周溝】周溝は残存部分で全周する。北壁と南壁で2条、東壁では3条、西壁は1条である。北壁、西壁での最外周溝で上幅35～65cm、下幅10～35cm、深さ20～40cmを測る。南壁、東壁での最内周溝で上幅20～30cm、下幅8～18cm、深さ5～12cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うとみられるものはP1～P38である。P13～P14、P16～P27、P29～P36、P38～P41の小ピットが南壁周溝に沿って検出されている。これらのうち、支柱穴の役割を果たしたのは、P1、P6、P7、P12と思われる。また、P2・P5・P11・P12も支柱穴の可能性がある。周溝やピットの検出状況から3回程度の建替え、拡張が考えられる。

【遺物出土状況】床上から覆土層にかけて出土している。

② 7号住居跡出土土器

【出土土器】遺物は床面上および貝層中から出土している。黒浜式が主体である。

第1類第1種土器 3は波状口縁を有する。波頂部から縦長の貼付文を付す。竹管状工具で菱形文を描いている。黒浜式である。

第1類第2種土器 4は口縁部にキザミを有する。竹管状工具で曲線文を描く。5は押引文で菱形文を施文。6は竹管状工具で押引き菱形文を施文している。15はLRを横位施文後、竹管状工具で鋸歯文を施文。16は櫛歯状工具で平行線文と波状文を描く。

第1類第4種土器 7、8はR1施文後、口縁部に沿って2条の押引文を施文。9はLrとR1で羽状を構成。

第1類第5種土器 17、18は1類5種b。17はLr施文後、棒状工具で格子目文を施文。18はRL横位施文後、格子目文を施す。

第1類第8種土器 19はR1横位施文後、竹管状工

具で平行沈線を横走施文。

第2類第1種土器 1は口縁部～底部まで残存している。R1で横位に施文している。10、11は波状口縁を有し、Lrで横位に施文している。11はS字状結節を伴う。12はLrとR1で羽状を構成している。20はLrを横位に施文。21はR1を横位に施文。22、23はLrとR1で無節の羽状を構成している。39は胴部～底部にかけて残存している。R1を横位に施文している。

第2類第2種土器 2はRLを横位に施文。24～26はLR、27～32はRLを横位に施文している。25については縦横に施文している。

第2類第4種土器 33～36は2類4種c。33はLR+1・r縦位に施文。34はLR+R・Rを横位に施文。35はRLとRL+1・rを横位に施文。36はLR+1・rを縦位に施文している。

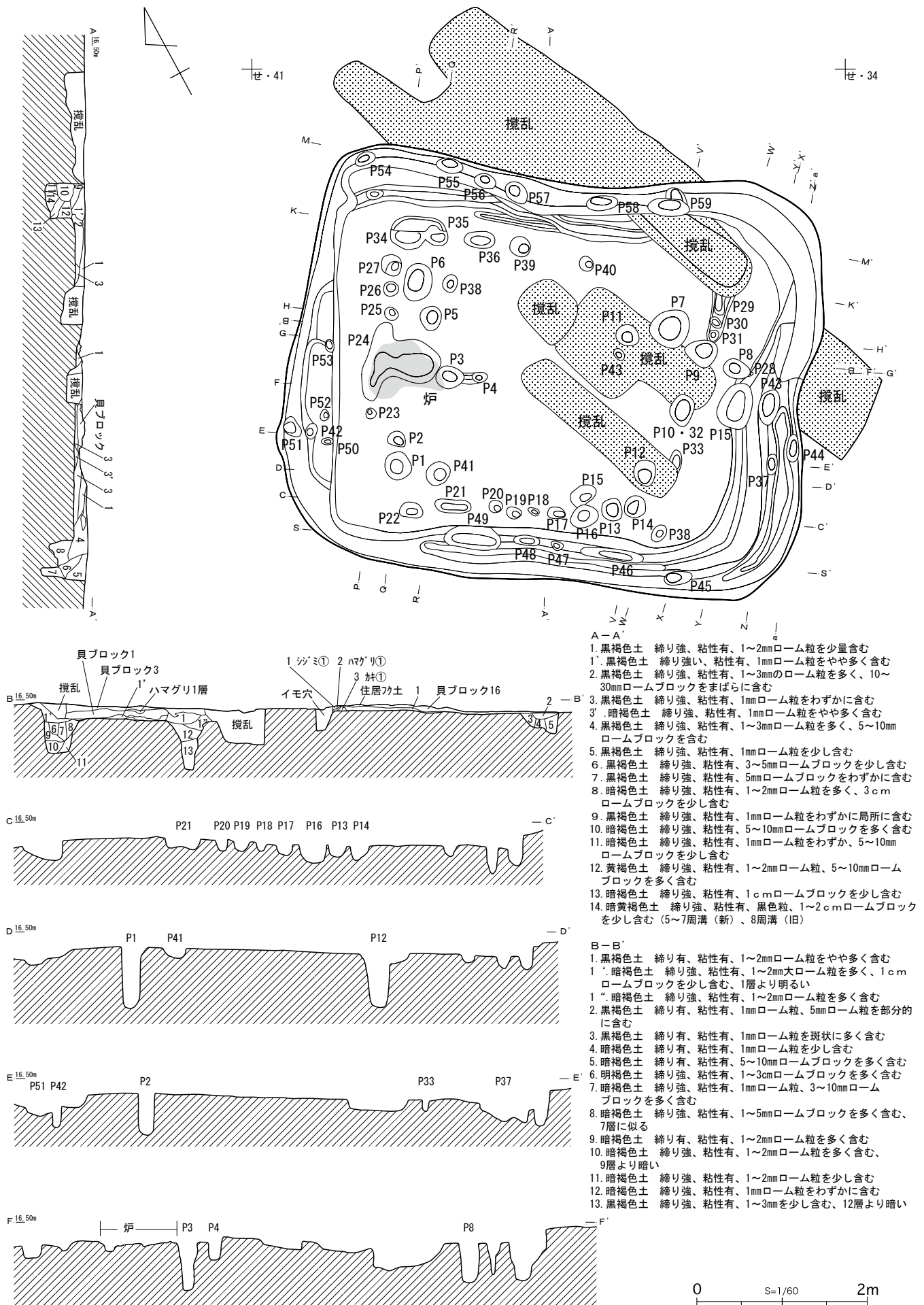
第4類第1種土器 14は4類1種a。貝殻条痕。

第4類第2種土器 37はR1横位施文後、貝殻腹縁文を施している。

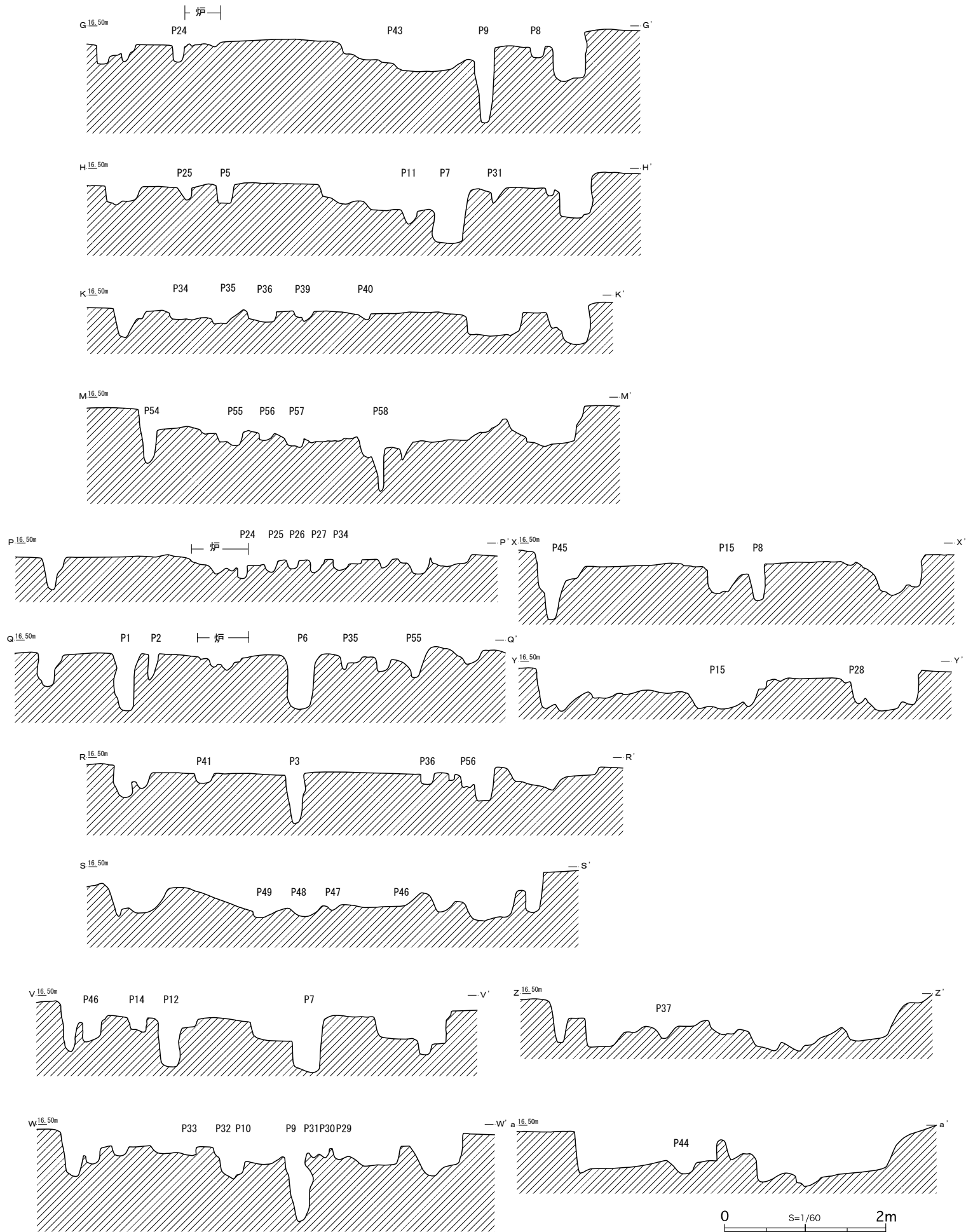
第5類土器 38は胴部。焼成後に穿孔。

第6類土器 40、41は底部。ともにR1施文。

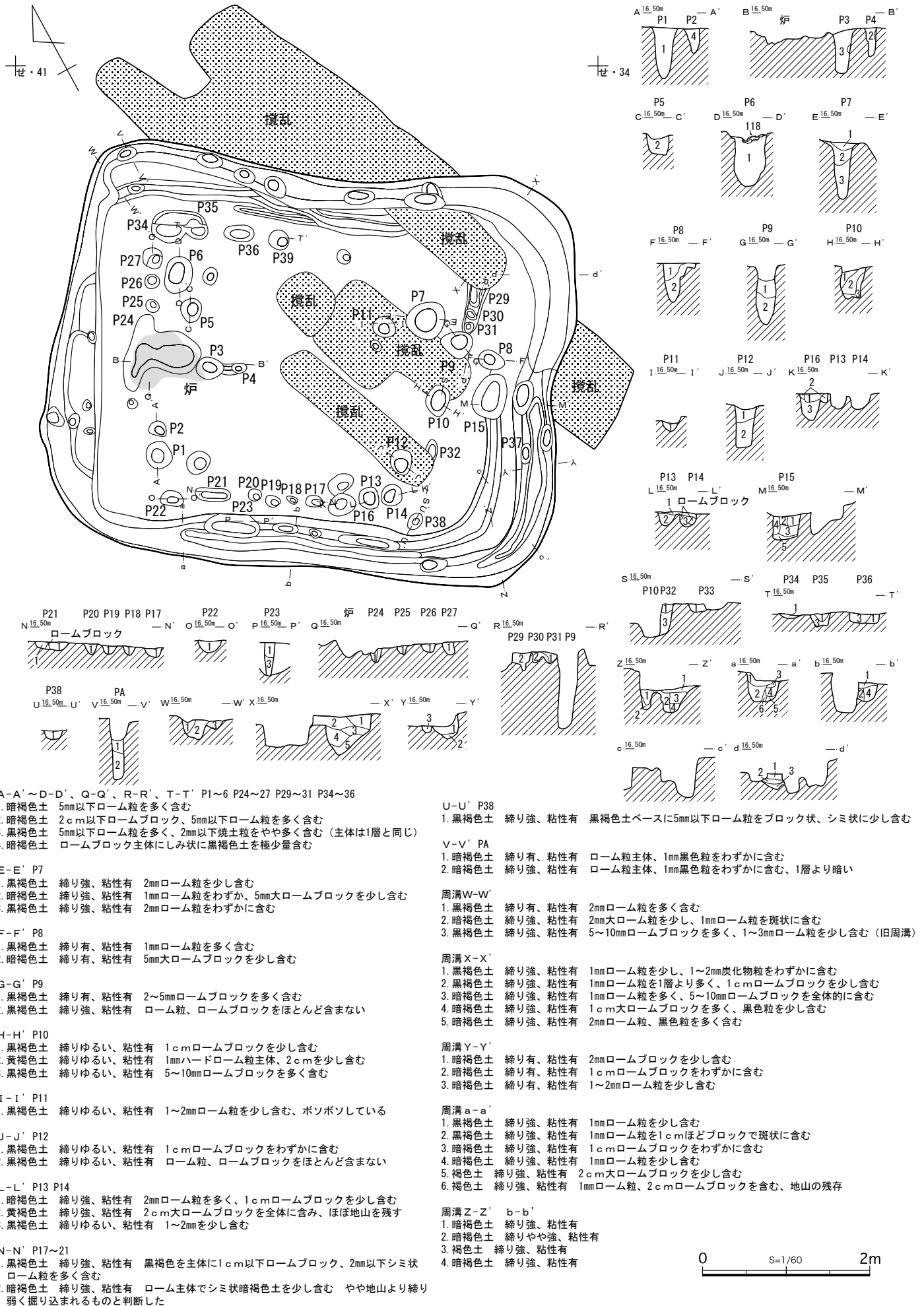
第8類土器 42は胴部片を土器円盤に転用。地文はR1で周辺部を打ち欠いている。釈迦堂Z3式。



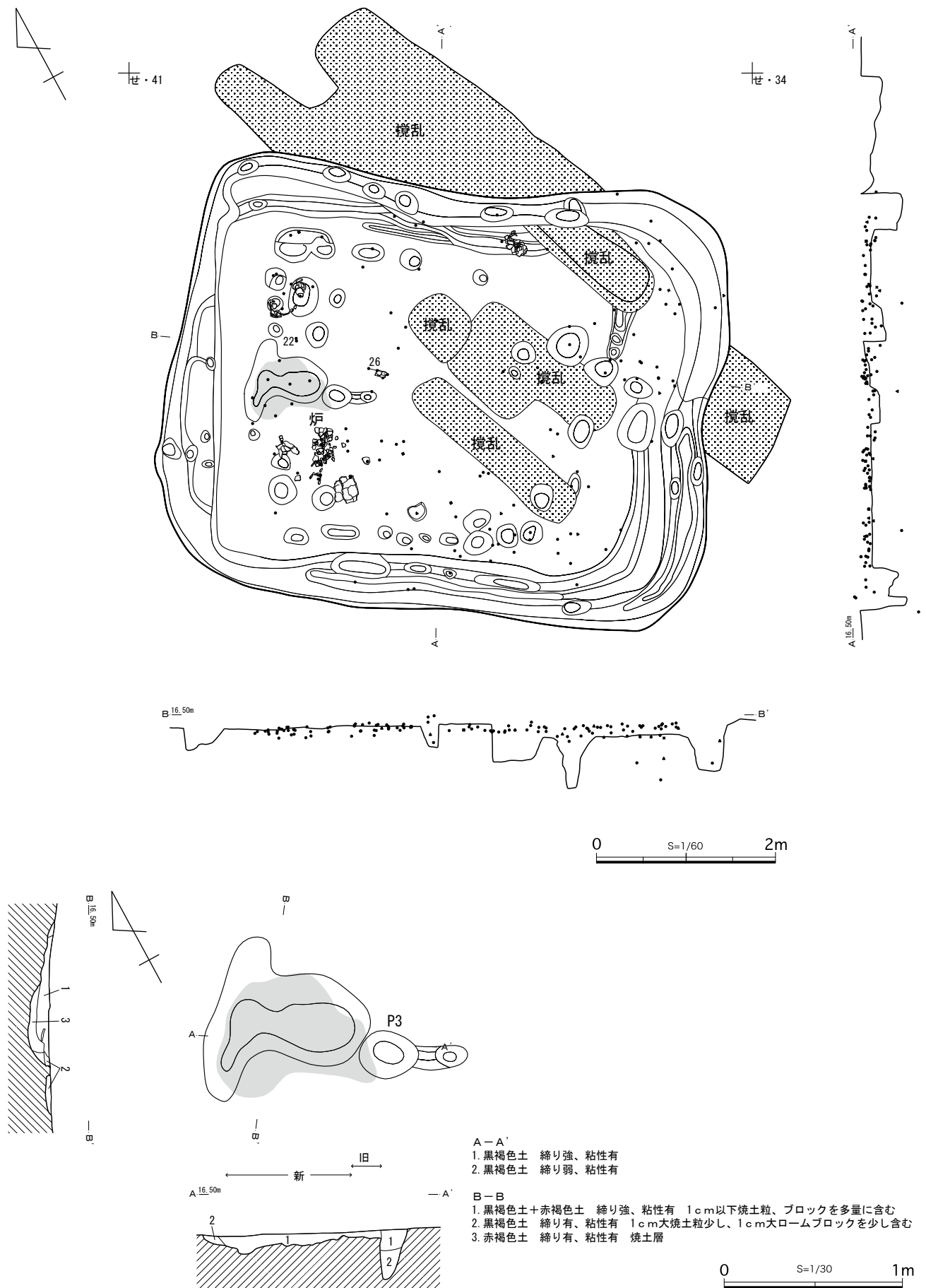
第20図 7号住居跡(1)(1/60)



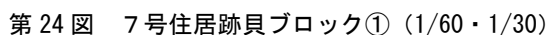
第21図 7号住居跡(2)(1/60)

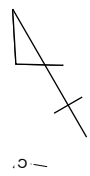


第22図 7号住居跡（3）（1/60）

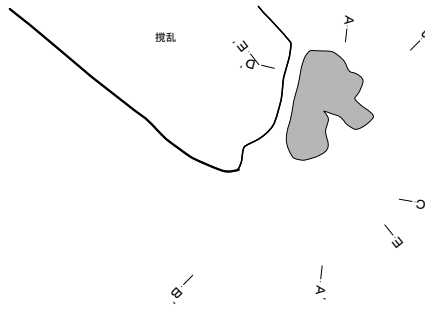


第23図 7号住居跡遺物出土状況図・炉 (1/60・1/30)

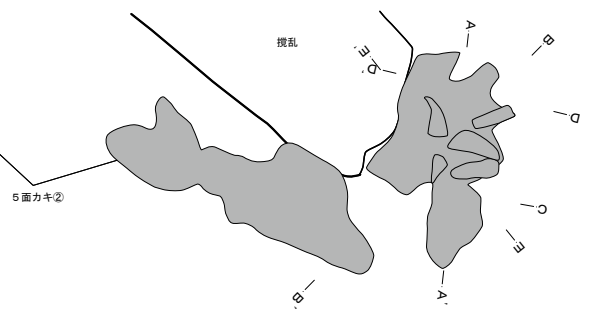




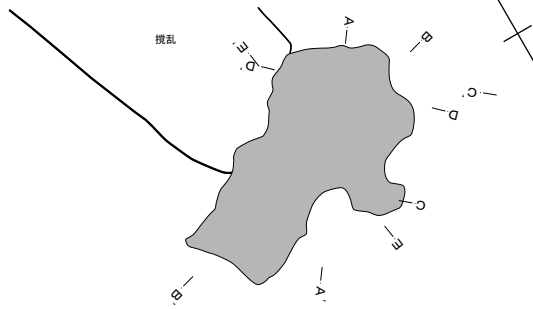
貝ブロック1 (1面) マガキ①



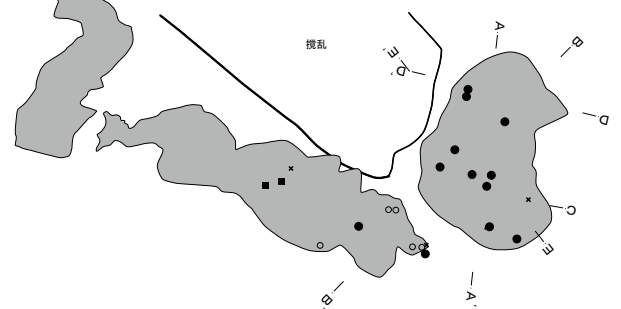
貝ブロック1 (5面) マガキ②



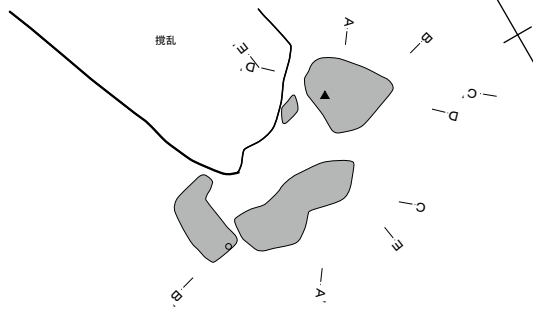
貝ブロック1 (2面) ヤマトシジミ①



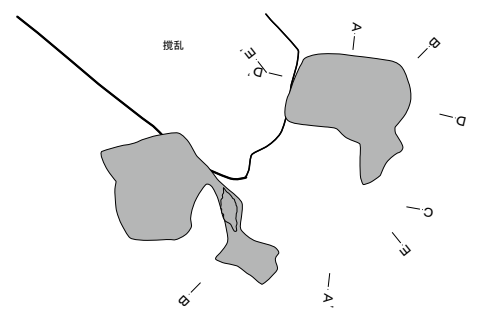
貝ブロック1 (6面) ヤマトシジミ③



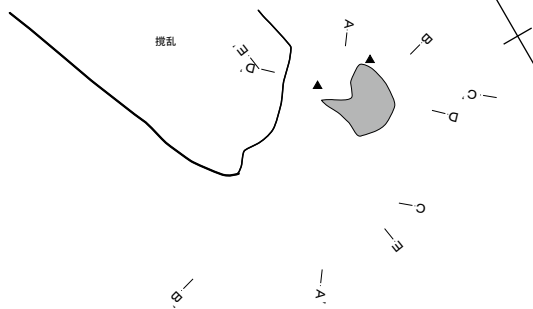
貝ブロック1 (3面) ハマグリ①



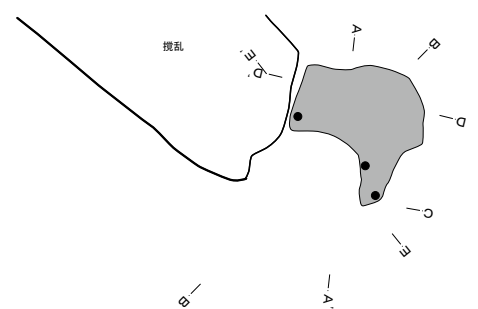
貝ブロック1 (7面) マガキ③

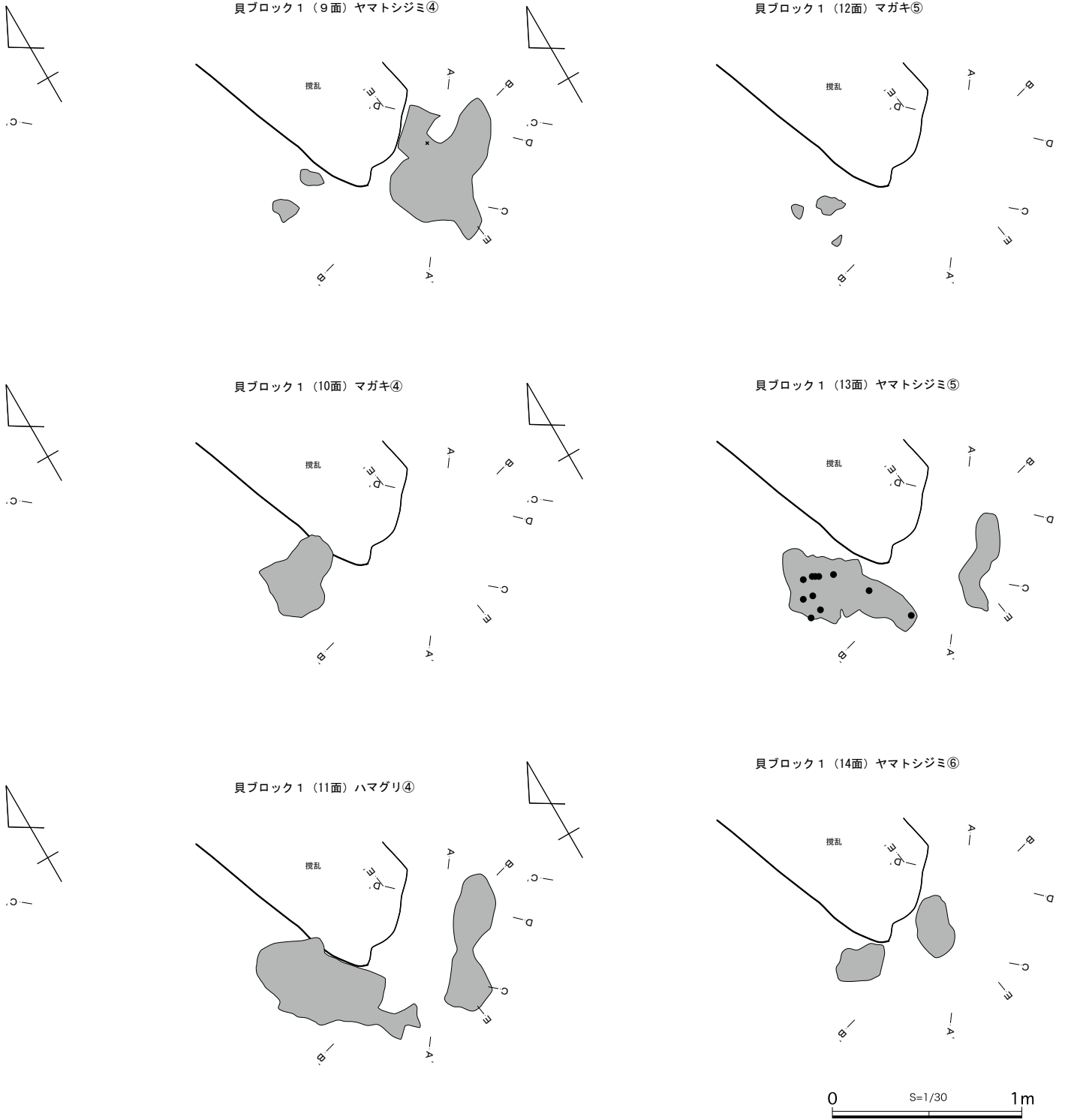


貝ブロック1 (4面) ヤマトシジミ②



貝ブロック1 (8面) ハマグリ③

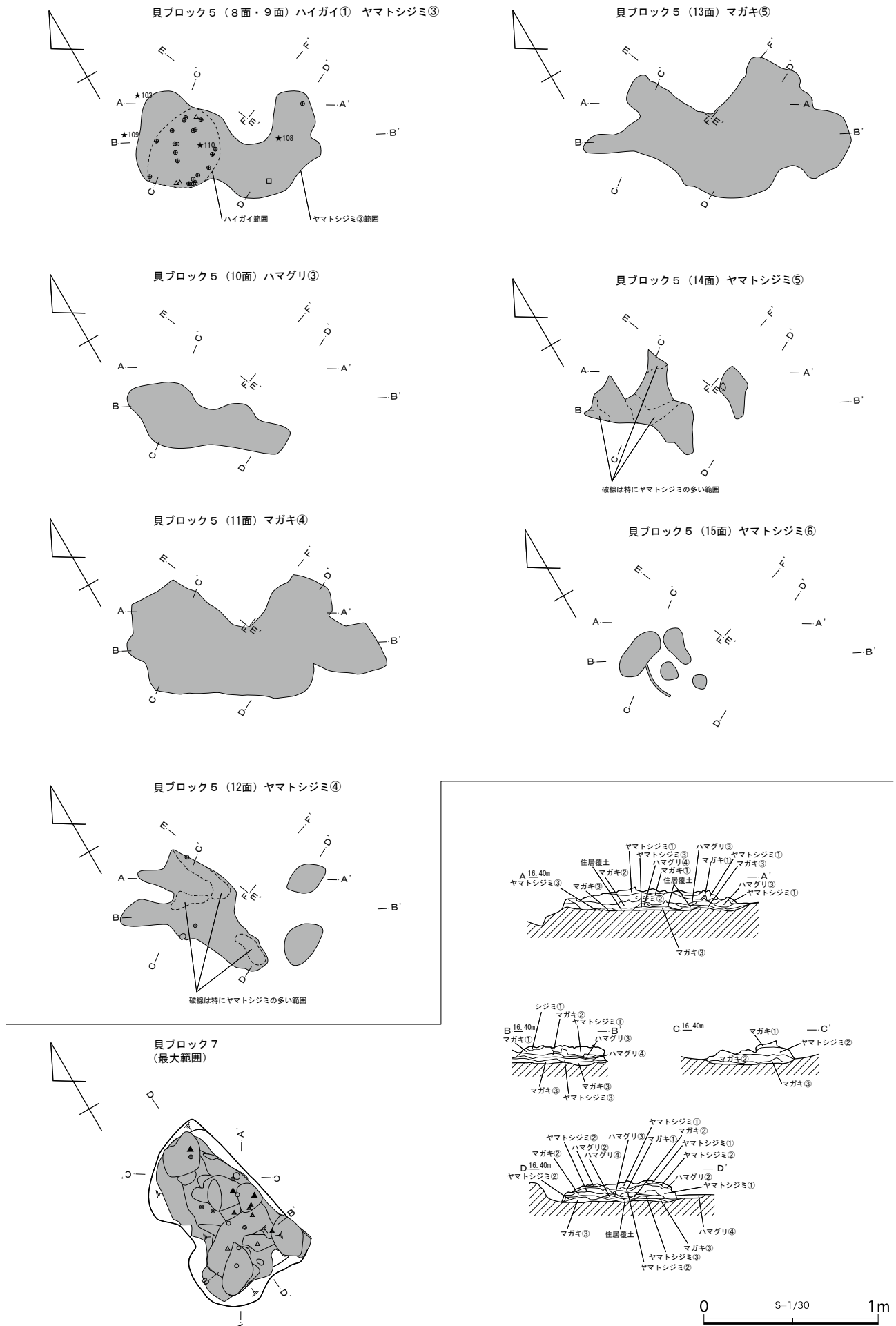




第 26 図 7号住居跡貝ブロック③ (1/30)



第27図 7号住居跡貝ブロック④ (1/30)



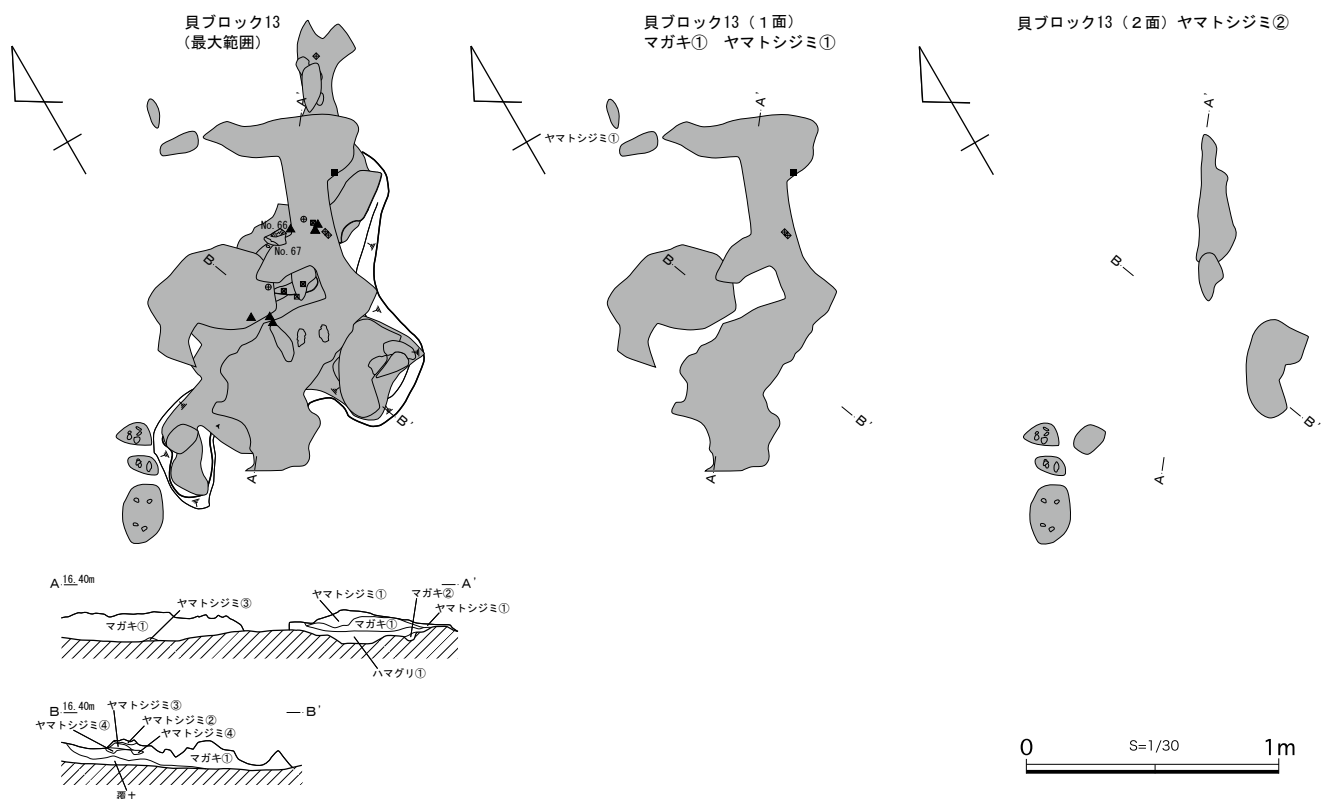
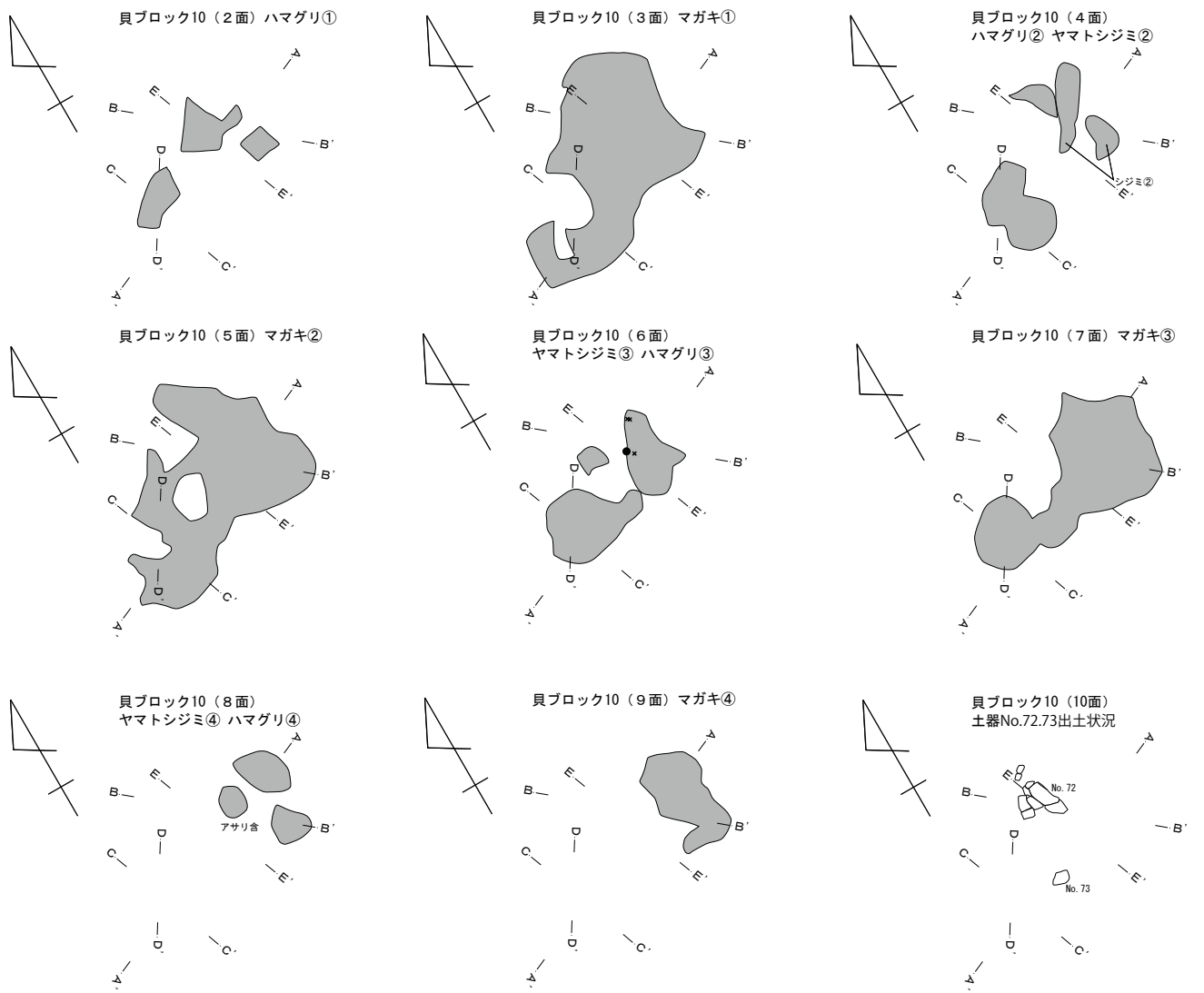
第 28 図 7号住居跡貝ブロック⑤ (1/30)



第29図 7号住居跡貝ブロック⑥ (1/30)



第 30 図 7号住居跡貝ブロック⑦ (1/30)



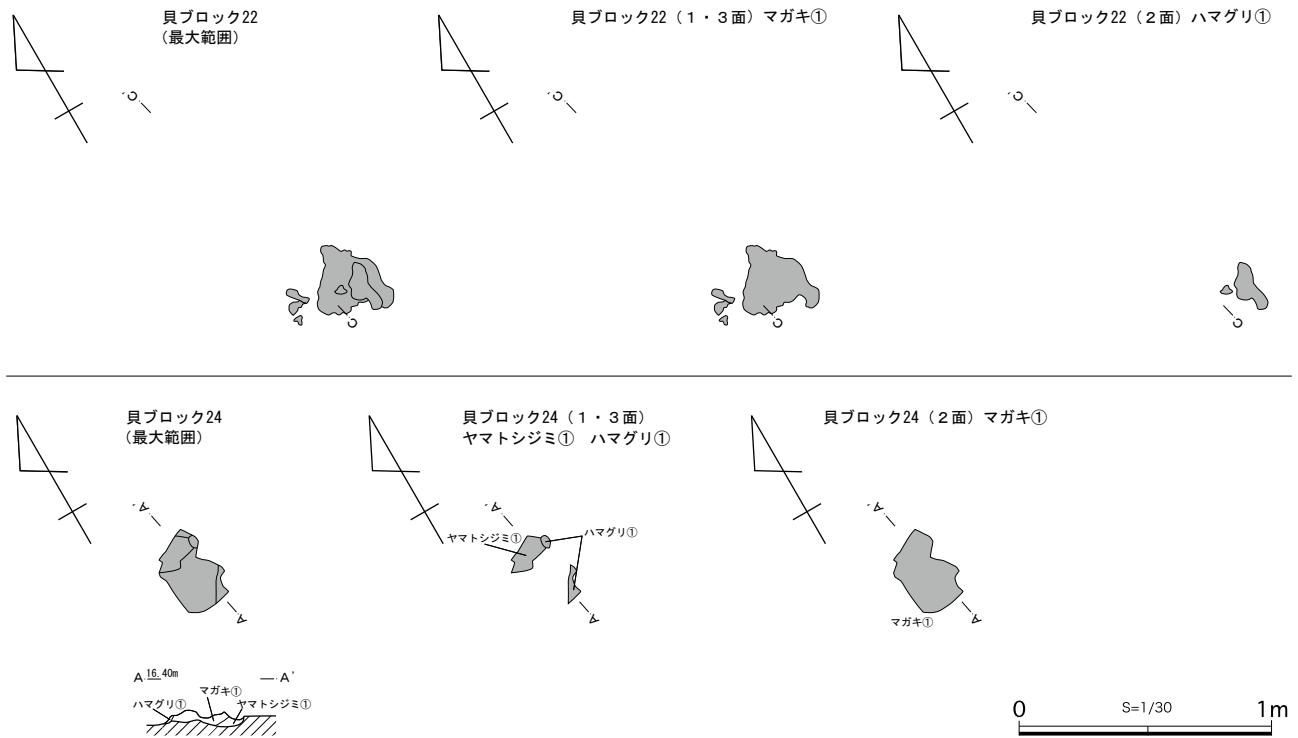
第31図 7号住居跡貝ブロック⑧ (1/30)



第32図 7号住居跡貝ブロック⑨ (1/30)



第33図 7号住居跡貝ブロック⑩ (1/30)



第34図 7号住居跡貝ブロック⑪ (1/30)

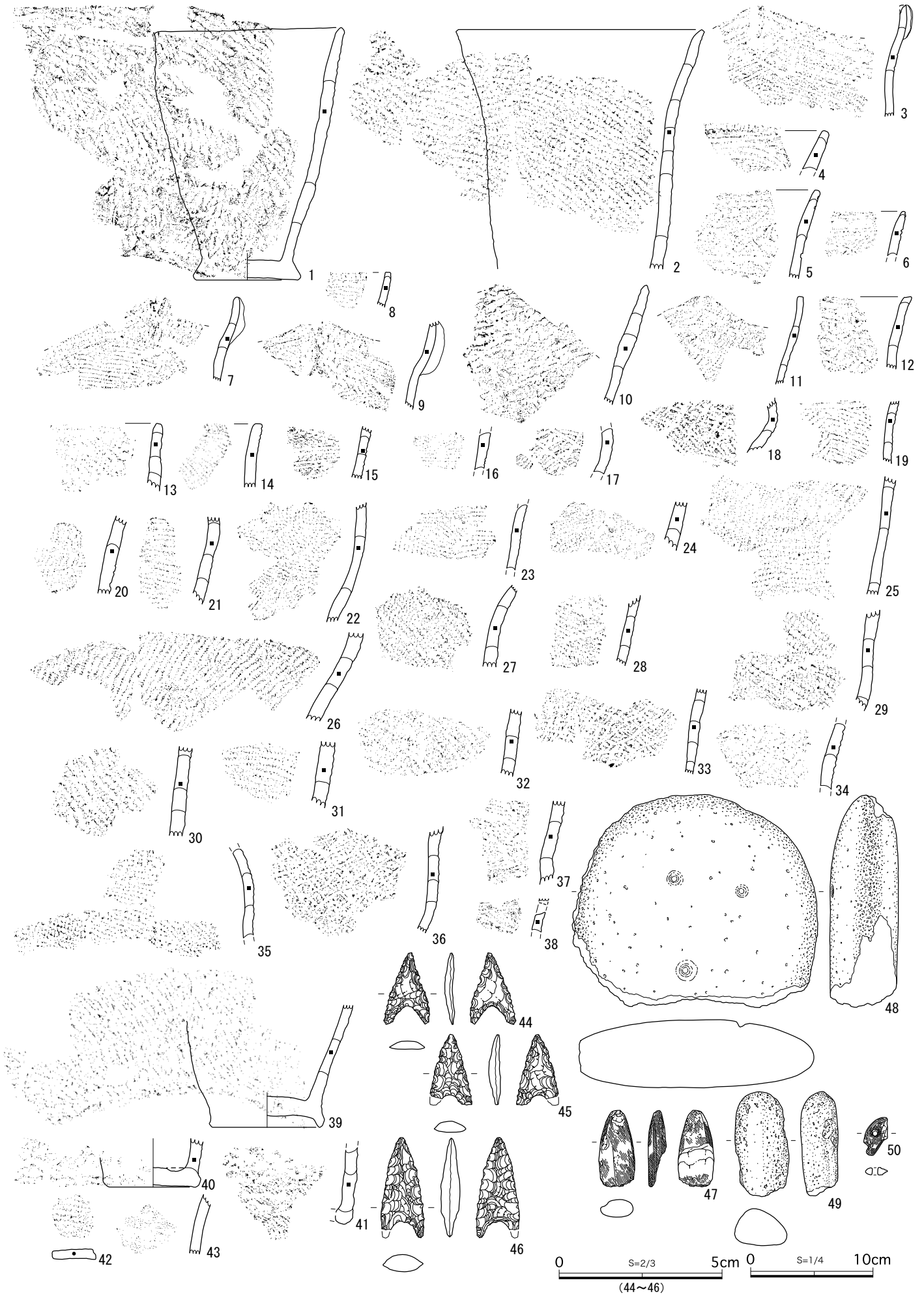
第11表 7号住居跡ピット一覧表

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	0.30 × 0.28	0.14 × 0.13	0.60	主柱穴
2	不整円形	0.20 × 0.11	0.12 × 0.08	0.30	主柱穴?
3	不整円形	0.34 × 0.23	0.17 × 0.15	0.55	
4	楕円形	0.16 × 0.07	0.04 × 0.04	0.34	
5	円形	0.26 × 0.23	0.16 × 0.13	0.25	主柱穴?
6	楕円形	0.44 × 0.31	0.23 × 0.17	0.67	主柱穴
7	円形	0.44 × 0.43	0.29 × 0.27	0.70	主柱穴
8	楕円形	0.32 × 0.26	0.14 × 0.10	0.48	
9	不整円形	0.38 × 0.34	0.20 × 0.18	0.73	
10	楕円形	0.35 × 0.25	0.30 × 0.28	0.38	32 と同一
11	円形	0.25 × 0.22	0.13 × 0.12	0.13	主柱穴?
12	円形	0.25 × 0.23	0.16 × 0.15	0.53	主柱穴
13	円形	0.26 × 0.19	0.14 × 0.10	0.19	
14	円形	0.26 × 0.23	0.16 × 0.10	0.19	
15	不整円形	0.31 × 0.19	0.14 × 0.07	0.20	
16	不整円形	0.32 × 0.26	0.13 × 0.05	0.31	
17	楕円形	0.19 × 0.07	0.07 × 0.05	0.13	
18	楕円形	0.10 × 0.06	0.05 × 0.03	0.12	
19	楕円形	0.14 × 0.13	0.06 × 0.04	0.12	
20	円形	0.12 × 0.10	0.06 × 0.04	0.14	
21	長円形	0.40 × 0.14	0.26 × 0.05	0.11	
22	楕円形	0.28 × 0.14	0.11 × 0.07	0.14	
23	円形	0.08 × 0.07	0.05 × 0.04	0.39	
24	不整楕円形	0.92 × (0.29)	0.40 × (0.12)	0.18	
25	円形	0.14 × 0.12	0.04 × 0.04	0.11	
26	円形	0.17 × 0.16	0.07 × 0.06	0.12	
27	円形	0.25 × 0.19	0.10 × 0.07	0.14	
28	円形?	(0.03) × 0.02	(0.02) × 0.02	0.03	
29	楕円形	(0.20) × 0.08	0.11 × 0.06	0.20	
30	円形	0.08 × 0.07	0.05 × 0.05	0.13	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
31	円形	0.14 × 0.12	0.07 × 0.06	0.13	
32	楕円形	0.35 × 0.25	0.30 × 0.28	0.38	10 と同一
33	楕円形?	(0.19) × 0.13	(0.13) × 0.07	0.10	
34	円形	(0.36) × 0.35	0.26 × 0.12	0.05	
35	円形	0.24 × 0.20	0.13 × 0.08	0.16	
36	楕円形	0.35 × 0.20	0.23 × 0.10	0.13	
37	楕円形	0.25 × 0.14	0.13 × 0.07	0.08	
38	円形	0.19 × 0.17	0.08 × 0.04	0.10	
39	円形	0.23 × 0.23	0.08 × 0.07	0.09	
40	円形	0.13 × 0.12	0.05 × 0.05	0.04	
41	円形	0.27 × 0.24	0.13 × 0.11	0.08	
42	円形	0.28 × 0.23	0.13 × 0.12	0.06	
43	楕円形	0.41 × 0.23	0.27 × 0.13	0.10	
44	楕円形	0.32 × 0.13	0.17 × 0.07	0.06	
45	楕円形	0.32 × 0.14	0.16 × 0.07	0.04	
46	長円形	0.76 × 0.16	0.40 × 0.05	0.06	
47	楕円形	0.16 × 0.08	0.04 × 0.06	0.04	
48	楕円形	0.30 × 0.08	0.14 × 0.05	0.07	
49	長円形	0.67 × 0.28	0.52 × 0.11	0.12	
50	楕円形	0.10 × 0.04	0.06 × 0.02	0.04	
51	不整円形	0.23 × 0.16	0.13 × 0.10	0.05	
52	楕円形	0.13 × 0.10	0.08 × 0.06	0.04	
53	楕円形	0.13 × 0.11	0.05 × 0.04	0.04	
54	楕円形	0.24 × 0.14	0.09 × 0.07	0.07	
55	楕円形	0.31 × 0.16	0.14 × 0.07	0.07	
56	楕円形	0.23 × 0.15	0.11 × 0.08	0.06	
57	楕円形	0.26 × 0.17	0.11 × 0.11	0.05	
58	長円形	0.35 × 0.16	0.20 × 0.10	0.06	
59	長円形	0.47 × 0.21	0.27 × 0.16	0.06	

第12表 7号住居跡出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
35 図	1	2 類 1 種	覆土	(15.2)・(14.8)	8.3・20.7	口縁部～ 底部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	7 住No.38・ 33・72
	2	2 類 2 種	覆土	(20.0)・(15.4)	～・〈19.5〉	口縁部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.102
	3	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	RL	波状口縁。波頂部から縦長の貼付文を付す。竹管状工具により大振りの菱形文を描くと思われる。	普通	黒浜式	7 住No.106
	4	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	口唇部キザミ。竹管状工具で曲線文を描く。	普通	黒浜式	7 住 貝 BL6-2
	5	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	押引文により菱形文を施文。	少量	黒浜式	7 住No.39
	6	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	竹管状工具を押し引き菱形文を施文。	少量	黒浜式	7 住No.19
	7	1 類 4 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	波状口縁に沿って 2 条の押引文を施文。波頂部から縦長の貼付文を付す。	普通	黒浜式	7 住No.51・ 53
	8	1 類 4 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	R1 施文後、口縁部に沿って、2 条の押引文を施文。	普通	黒浜式	7 住No.54
	9	1 類 4 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr・R1	波状口縁に沿って 2 条の押引文を施文。波頂部から縦長の貼付文を付す。	普通	黒浜式	7 住No.66
	10	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	大振りの波状口縁。Lr 横位施文。	多量	黒浜式	7 住No.76
	11	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	波状口縁。S 字状結節紋を伴う Lr を横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.97
	12	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr・R1	無節羽状構成。	普通	黒浜式	7 住 C 区 3
	13	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	RL	口縁部に沿って RL を横位施文。	多量	黒浜式	7 住No.13
	14	4 類 1 種 a	覆土			口縁部	深鉢	貝殻	貝殻条痕。	微量	黒浜式	7 住No.125
	15	1 類 2 種	覆土			口縁部付 近	深鉢	LR	LR を横位施文後、竹管状工具で鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	7 住 BL1-1
	16	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	櫛歯状工具で平行線文と波状文を施文。	少量	黒浜式	7 住 B 区 2
	17	1 類 5 種 b	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 施文後、棒状工具で格子目文を描く。	多量	黒浜式	7 住No.105
	18	1 類 5 種 b	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文後、格子目文を施文。	普通	黒浜式	7 住No.34・ B 区 5
	19	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文後、竹管状工具で平行沈線を横走施文。	普通	黒浜式	7 住No.68
	20	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	7 住No.101
	21	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	7 住No.36
	22	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状構成。	少量	黒浜式	7 住No.66・ 67
	23	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状構成。	多量	黒浜式	7 住No.60
	24	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.25
	25	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR を縦横位施文。	少量	黒浜式	7 住No.24
	26	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.27・ 40
	27	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.17
	28	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	多量	黒浜式	7 住 B 区 8・ B 区 9
	29	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	多量	黒浜式	7 住No.15
	30	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.102
	31	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	7 住 貝 BL6-2
	32	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。内面黒色。	普通	黒浜式	7 住No.97
	33	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 3 種。LR+1・r 縦位施文。	普通	黒浜式	7 住 No.82 攪乱 H1
	34	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 3 種。LR + R・R を横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.109
	35	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	RL と RL+1・r を横位施文。	普通	黒浜式	7 住No.32
	36	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 3 種。LR+1・r 縦位施文。	普通	黒浜式	7 住No.32
	37	4 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文後、貝殻腹縁文を施す。	多量	黒浜式	7 住貝 BL1 A ベルト
	38	5 類	覆土			胴部	深鉢	—	焼成後、穿孔。	少量	黒浜式	7 住 C 区 7
	39	2 類 1 種	覆土		8.8・〈10.0〉	胴部～ 底部	深鉢	R1	R1 を横位施文。上げ底。	多量	黒浜式	7 住No.118
	40	6 類	覆土		7.2・〈3.9〉	底部	深鉢	R1		多量	黒浜式	7 住No.4
	41	6 類	覆土			底部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	7 住 B 区攪 乱 H3
	42	8 類	覆土			胴部 (転用)	土器 円盤	RL	周辺部打ち欠きのみ。金雲母含む。	無	釈迦堂 Z3	7 住 B 区 4
	43	須恵器	覆土			頸部	甕	沈線	櫛歯状工具（6 本一単位）で細かい波状文を 3 段以上施文。	無	須恵器	7 住No.82
	44	石器	覆土	2.2×1.4×0.3			石鏃		凹基式石鏃。チャート製。重量 0.64g。	—	—	7 住No.47
	45	石器	覆土	2.2×1.3×0.3			石鏃		凹基式石鏃。基部欠損。チャート製。重量 0.81g。	—	—	7 住No.61
	46	石器	覆土	3.0×1.3×0.6			石鏃		凹基式石鏃。チャート製。重量 1.96g。	—	—	7 住No.49
	47	石器	覆土	(6.2) × 2.9 × 1.4			磨製 石斧		先端部欠損。重量 32.04g。	—	—	7 住 C 区 3
	48	石器	覆土	(17.5) × (20.1) × 5.5			凹石		片面に複数の凹部が見られる。被熱により剥落。花崗岩。重量 3001.48g。	—	—	7 住No.86
	49	石器	覆土	(8.2) × 4.3 × 2.8			石製品		軽石製の磨石か。重量 21.97 g。	—	—	7 住No.122
	50	石器	覆土	(3.1) × (1.7) × 0.6			块状 耳飾		半分以上欠損する。2 箇所穿孔される。滑石製。重量 4.66g。	—	—	7 住No.103



第35図 7号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)

(5) 8号住居跡

【位置】調査区の東側に位置する。主軸はN－39°－Wである。

【形状・規模】住居跡北壁、東壁及び南壁隅で攪乱を受けているが、全体の形状・規模は確認できる。平面形態は隅丸長方形である。規模は、長軸（南北）4.2 m×短軸（東西）3.55 mを測る。深さは遺構確認面から床面まで25cmを測る。

【炉】炉は2基確認された。1基は中央西寄りに位置する（炉2）。平面形態は不整な楕円形を呈する。床面は赤褐色に焼けている。規模は、南北60cm×東西40cm、深さは8cmを測る。もう1基は中央北寄りに位置する（炉1）。平面形態は不整な円形を呈する。床面は赤褐色に焼けている。規模は南北45cm、東西38cm、深さは6cmを測る。

【周溝】東壁は攪乱を受けていて判別しないが、一重に巡っている。周溝内は多くの小ピットを有する（P6～P17）。上幅23～40cm、下幅8～25cm、深さ30～32cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うものはP1～P18である。このうち、P1、P2、P4、P5が支柱穴と思われる。北西隅の支柱穴は確認出来なかった。周溝や支柱穴からは住居跡の建替え、拡張などは窺えないが、炉が2基向きを変えて検出されている。

【遺物出土状況】床上から覆土層にかけて出土している。

②8号住居跡出土土器

【出土土器】遺物は、炉跡周辺の床面上および覆土中から出土している。黒浜式が主体である。

第1類第1種土器 2は波状口縁。竹管状工具で菱形文を描く。11は胴部。竹管状工具で鋸歯文を描いている。

第1類第2種土器 12はLr施文後、竹管状工具で鋸歯文を描いている。

第1類第3種土器 1は口縁部から胴部で残存。口縁部に沿って竹管状工具で沈線を重層に施文後、斜位に沈線を施す。胴部はLrで横位に施文している。

第1類第6種土器 13は竹管状工具でコンパス文と平行沈線を描いている。

第1類第8種土器 14はLr施文後、竹管状工具で鋸歯文を描く。

第2類第1種土器 3、4は口縁部。3はR1を口縁に沿って施文。4はLr・R1で羽状縄文を施文。15～19はLrを横位に施文、20～25はR1を横位に施文、26、27はLr・R1で施文している。

第2類第2種土器 5、6は口縁部。LRを横位に施文している。28、29はLRを横位に施文している。30、32はRLを横位に施文、31はRLを縦位に施文している。33はLR・R1による単節と無節による羽状を施している。

第2類第4種土器 34、35、39は2類4種c。34はRL+1・rの附加条縄文。35は軸縄不明に2Rを附加している。

第2類第5種土器 36はLLを横位に施文。37は直前段3条のRRを縦横に施文し羽状を構成している。

第3類土器 7、8、38は撚糸R。

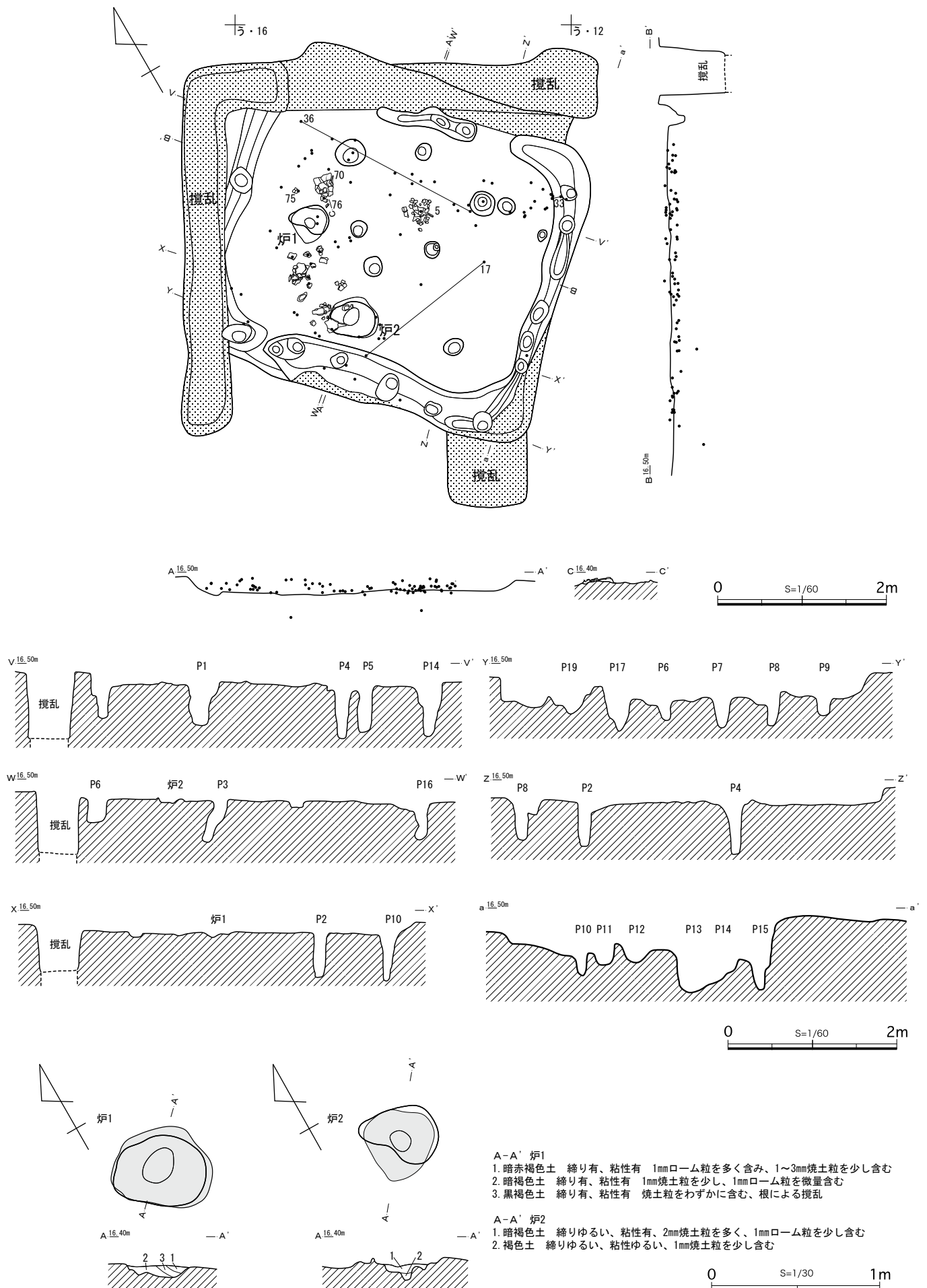
第5類土器 9、10は口縁部。無文土器。

第6類土器 40～44は底部。

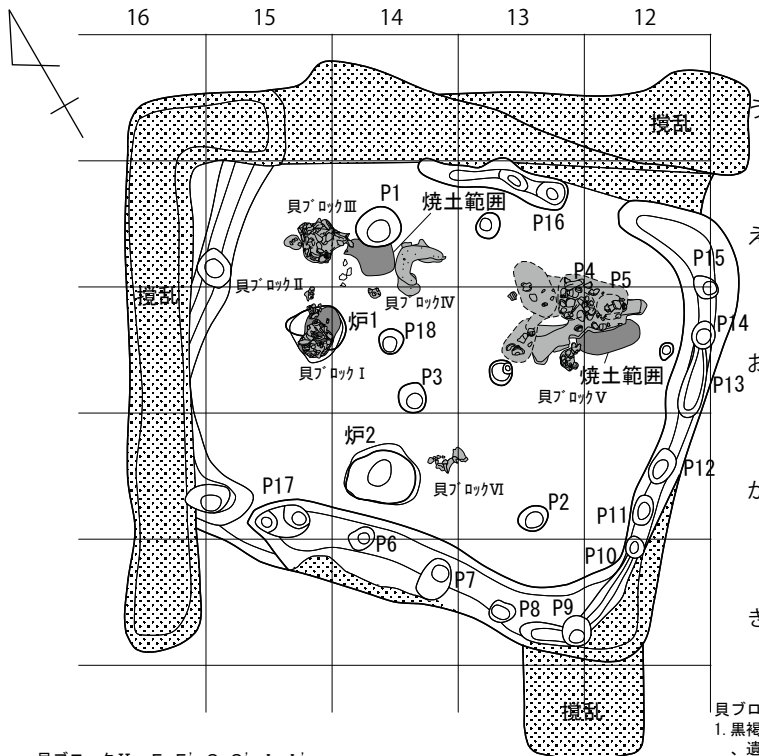
第13表 8号住居跡ピット一覧表

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	0.36×0.35	0.19×0.18	0.55	支柱穴
2	楕円形	0.20×0.16	0.15×0.10	0.35	支柱穴
3	不整円形	0.20×0.18	0.13×0.12	0.33	
4	円形	0.25×0.25	0.09×0.08	0.44	支柱穴
5	円形	0.16×0.15	0.10×0.09	0.41	支柱穴
6	不整円形	0.18×0.16	0.07×0.07	0.42	
7	楕円形	0.35×0.23	0.14×0.13	0.51	
8	不整円形	0.17×0.14	0.10×0.07	0.47	
9	円形	0.20×0.20	0.11×0.08	0.32	
10	円形	0.11×0.10	0.06×0.06	0.37	
11	楕円形	0.26×0.17	0.15×0.07	0.36	
12	楕円形	0.29×0.17	0.14×0.08	0.54	
13	長円形	(0.59)×0.19	(0.45)×0.07	0.58	
14	円形	0.17×0.16	0.10×0.09	0.48	
15	不整円形	0.23×0.16	0.09×0.09	0.71	
16	不整長円形	(0.62)×0.14	(0.34)×0.06	0.53	
17	不整円形	0.46×0.26	0.10×0.08	0.55	
18	円形	0.16×0.15	0.10×0.10	0.24	
19	楕円形	0.35×0.23	0.11×0.08	0.12	
20	円形	0.27×0.26	0.16×0.14	0.16	
21	円形	0.16×0.14	0.05×0.03	0.10	
22	円形	0.18×0.16	0.08×0.06	0.06	
23	楕円形	0.26×0.11	0.09×0.04	0.04	
24	円形	0.17×0.16	0.10×0.09	0.08	





第37図 8号住居跡遺物出土状況図・炉 (1/60・1/30)



貝ブロックⅤ F-F' G-G' I-I'

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~2mmローム粒を少し含む、混貝（ヤマトシジミ少）
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒をほとんど含まない、貝を含まない
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層に似る、遺物包含層、貝を含まない
- 3' 黒褐色土 締り弱、粘性弱、2、3層と同じ、根により締りなし、貝を含まない
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、2~5mmロームブロックを少し含む
5. 暗褐色土 貝層（ヤマトシジミ1層）、締りあり
- 5' 貝層（ヤマトシジミ2層）、間にハマグリ、マガキ1層を含む
- 5'' 貝層（ヤマトシジミ3層）、マガキ含む、土、貝、5' と5'' の間に薄いハマグリ2層あり
- 5''' 貝層（ハマグリ2層）
6. 暗褐色土 締り弱、粘性有、1mmローム粒、1mm焼土粒を少し含む、遺物包含層、貝を含まない
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mmロームブロック、2mm大焼土粒を少し含む、6層より明るい、貝を含まない
8. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒を部分的、2mmロームブロックをわずかに含む

貝ブロックⅠ A-A'

1. 灰褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒、1~3mm焼土粒を少し含む、貝微量含む、上層にヤマトシジミ細片を多く含む

貝ブロックⅡ B-B'

1. 黒褐色土 締りゆるい、粘性有、1mmローム粒をわずかに含む、混貝（シジミ）層
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒をほとんど含まない、貝層（マガキ）
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2~3mmローム粒を少し含む、貝粒、焼土粒を含まない
- 3' 黒褐色土 締りなし、粘性なし3層に締りなし、根の攪乱
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~2mmローム粒をわずかに含む、貝層（マガキ）
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒をほとんど含まない、混貝（マガキ）破片含む
6. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒をほとんど含まない、混貝（マガキ）を多く含む

貝ブロックⅢ C-C'

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~2mmローム粒を少し含む、遺物包含層、貝細片わずかに含む
2. 暗褐色土 締りゆるい、粘性有、3mm大ロームブロックをわずかに含む、貝少し含む
3. 黒褐色土 締りゆるい、粘性有、1~2mmローム粒をわずかに含む、貝細片含まない
4. 黒褐色土 貝層（マガキ）遺物を貝層中に含む
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、1~2mmローム粒を少し含む、貝層下

貝ブロックⅣ D-D' E-E'

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒を少し含む、貝細片をわずかに含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒をわずかに含む、貝細片含まない
3. 褐色土 締り有、粘性有、3mm大ロームブロックを多く含む、貝細片含まない
4. 黒褐色土 貝層（カキ純層）、根の影響あり、締りなし
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒、貝をほとんど含まない
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mmローム粒を少し含む

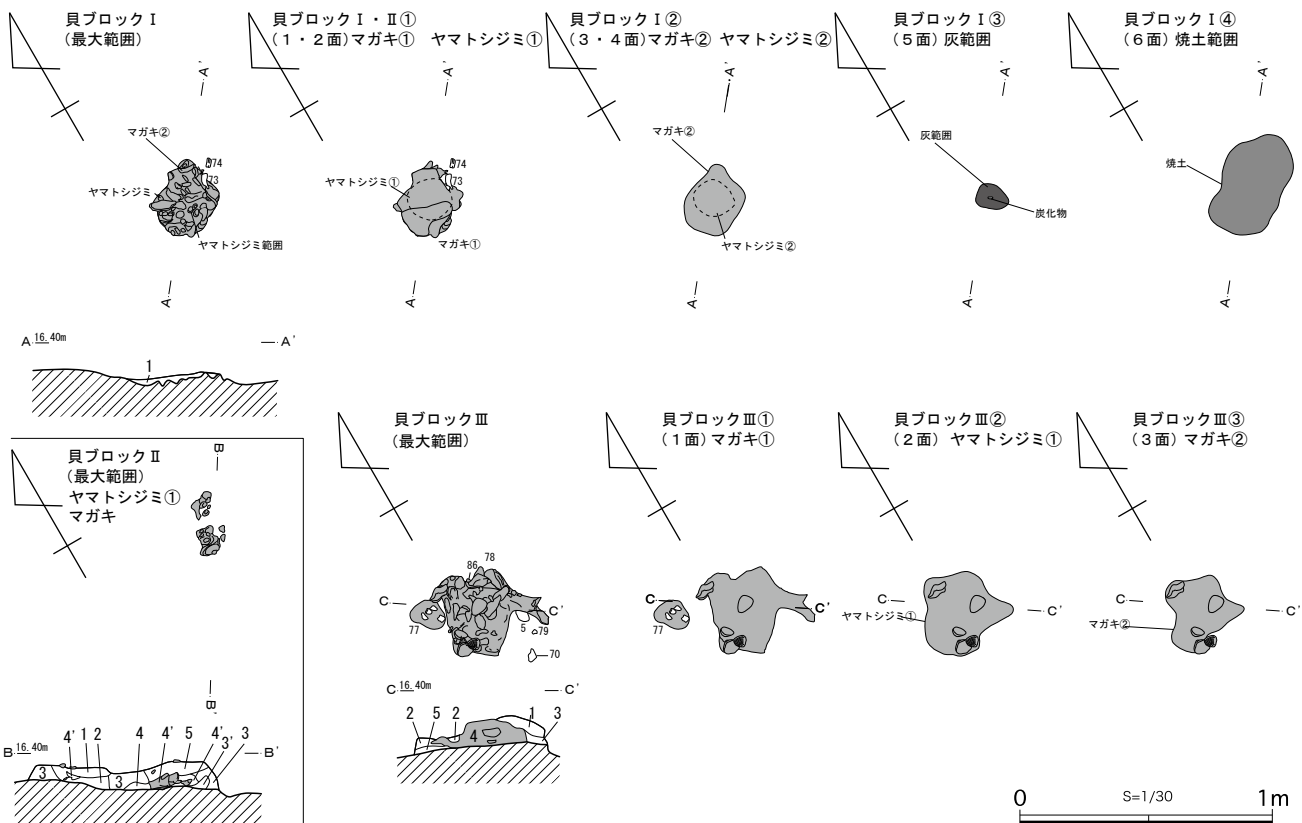
貝ブロックⅤ H-H'

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm大ロームブロックを少し含む、貝層（ヤマトシジミ3層）、遺物包含層
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、10mmロームブロックをわずかに含む、貝を含まない
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2~5mmロームブロックを多く含む、貝層（ヤマトシジミ3層）を少し含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~2mmローム粒を少し含む、貝を含まない

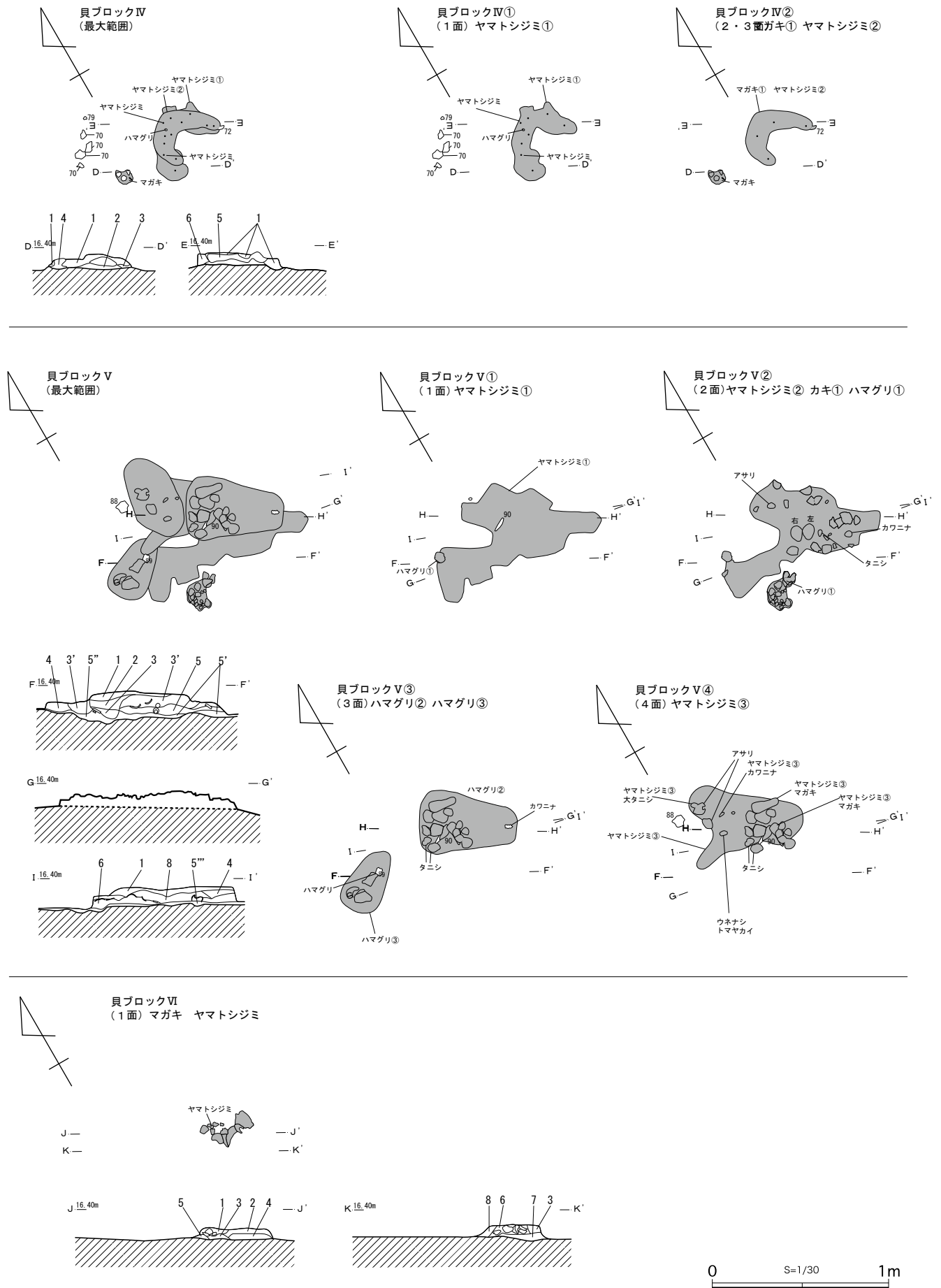
貝ブロックⅥ J-J' K-K'

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2mmロームブロックを少し含む、貝（マガキ）層
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒を少し含む、貝細片を微量に含む
3. 褐色土 締り有、粘性有、1~2mmローム粒を多く含む
4. 暗褐色土 締り弱、粘性有、1mmローム粒、2mm大ロームブロックを多く含む
5. 暗褐色土 締り弱、粘性有、1mm大ローム粒、5mm焼土ブロックを少し含む
6. 黒褐色土 締り有、粘性弱、混貝層（マガキ多）、下部に二枚貝を含む、1mmローム粒をわずかに含む
7. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mmローム粒を少し含む、混貝（カキ）、6層に似る
8. 黒褐色土 締り弱、粘性有、混貝（マガキ・ヤマトシジミ）層、ローム粒を少し含む

0 S=1/60 2m



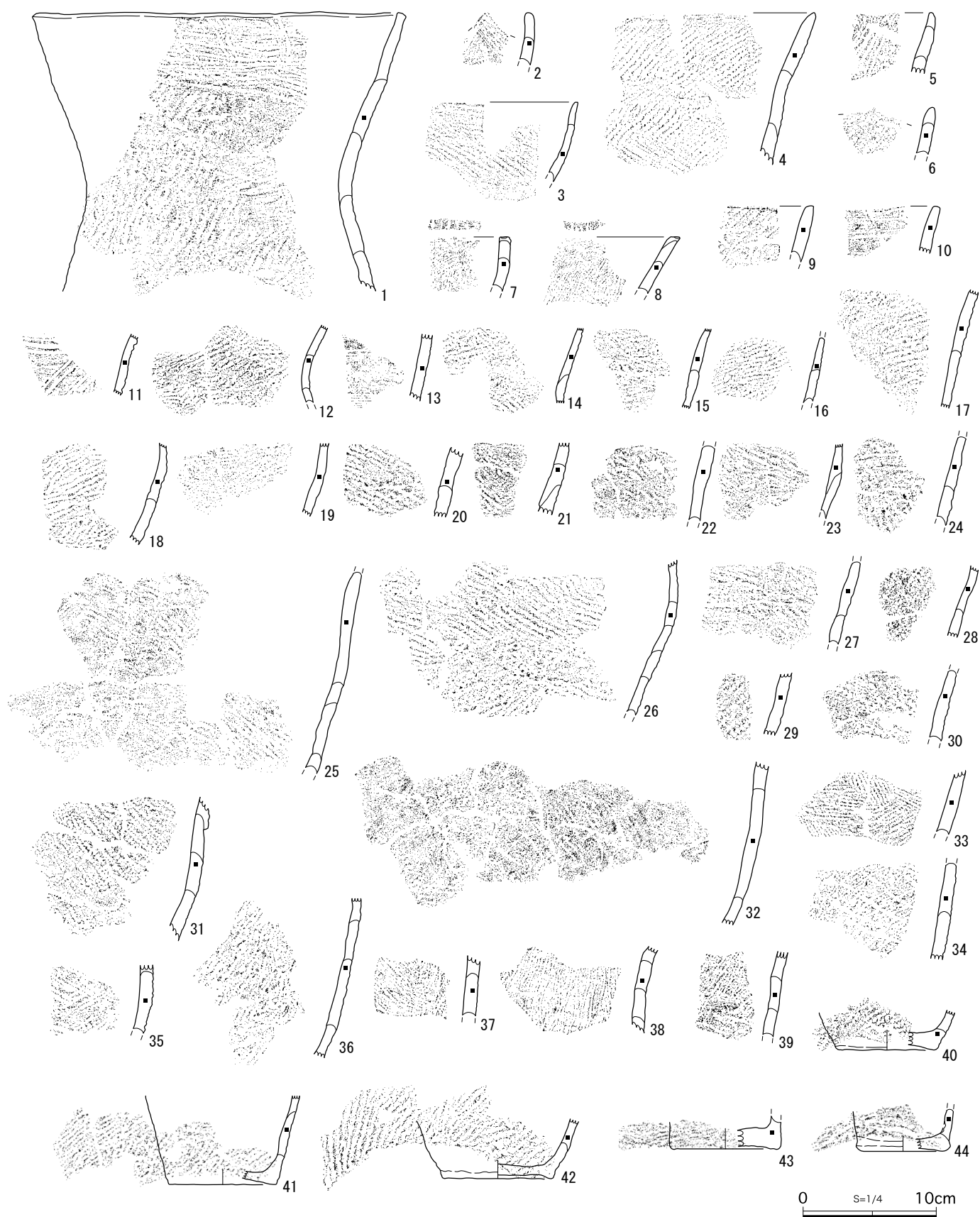
第38図 8号住居跡貝ブロック① (1/60・1/30)



第39図 8号住居跡貝ブロック② (1/30)

第 14 表 8号住居跡出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
40 図	1	1 類 3 種	覆土	(28.0)・(20.0)	—・(21.0)	口縁部	深鉢	Lr	口縁部に沿って竹管状工具で沈線を重層後、斜位の沈線を施す。胴部は Lr 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 36
	2	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。竹管状工具で大振りの菱形文を描くものと思われる。	普通	黒浜式	8 住 貝 BL № 70
	3	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	口縁部に沿って R1 を横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 59
	4	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr・R1	無節羽状縄文。	多量	黒浜式	8 住 № 33・ 37
	5	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	口縁部に沿って LR を横位施文。	無	黒浜式	8 住 A 区 1
	6	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	波状口縁。LR を横位施文。	普通	黒浜式	8 住 C 区 1
	7	3 類	覆土			口縁部	深鉢	燃糸	口唇部キザミ。燃糸 R。	普通	黒浜式	8 住 A 区 1
	8	3 類	覆土			口縁部	深鉢	燃糸	燃糸 R。	普通	黒浜式	8 住 A 区 1
	9	5 類	覆土			口縁部	深鉢	—		普通	黒浜式	8 住 № 22
	10	5 類	覆土			口縁部	深鉢	—		普通	黒浜式	8 住 B 区 1
	11	1 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具により鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	8 住 № 89
	12	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 施文後、竹管状工具で鋸歯文を描く。	多量	黒浜式	8 住 № 5
	13	1 類 6 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具でコンパス文と横走平行沈線を描く。	普通	黒浜式	8 住 № 76
	14	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 施文後、竹管状工具で鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	8 住 № 5
	15	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr ?	Lr ? を横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 54
	16	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 43
	17	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 23・ 28
	18	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 5
	19	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 5
	20	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 29
	21	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 70
	22	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 貝 BL № 70
	23	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 54
	24	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 46
	25	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 70
	26	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	追加成形技法。無節羽状縄文。	多量	黒浜式	8 住 № 54
	27	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	追加成形技法。無節羽状縄文。	多量	黒浜式	8 住 № 55
	28	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 D 区 2
	29	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	少量	黒浜式	8 住 D 区 2
	30	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 35
	31	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	追加成形技法。RL 縦位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 42
	32	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL ?	RL ? を横位施文。摩滅が激しい。	多量	黒浜式	8 住 № 70
	33	2 類	覆土			胴部	深鉢	LR・R1	単節と無節による羽状構成。	少量	黒浜式	8 住 № 15・ 16
	34	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 3 種。RL + 1・r	多量	黒浜式	8 住 貝 BL № 90
	35	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に 2R を附加する。	普通		8 住 № 62
	36	2 類 5 種	覆土			胴部	深鉢	LL	追加成形技法。LL 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 67・ 83
	37	2 類 5 種	覆土			胴部	深鉢	RR	直前段 3 条の RR を縦横に施文し羽状構成をなす。	普通		8 住 № 11
	38	3 類	覆土			胴部	深鉢	燃糸	燃糸 R。	多量	黒浜式	8 住 № 4
	39	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 3 種。Lr + 1・r	少量	黒浜式	8 住 № 25
	40	6 類	覆土		(7.2)・(2.8)	底部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	8 住 № 78
	41	6 類	覆土		(8.0)・(6.6)	底部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	8 住 № 5
	42	6 類	覆土		8.0・(4.4)	底部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。上げ底。	多量	黒浜式	8 住 № 65
	43	6 類	覆土		(8.0)・(2.6)	底部	深鉢			普通	黒浜式	8 住 № 27
	44	6 類	覆土		6.0・(3.5)	底部	深鉢			多量	黒浜式	8 住 № 40



第40図 8号住居跡出土遺物 (1/4)

(5) 9号住居跡

① 9号住居跡

【位置】調査区の南側に位置する。主軸はN-51°-W、N-57°-Wである。

【形状・規模】住居跡の西南隅を大きく掘削されており、全容は明瞭ではない。平面形態は隅丸長方形である。規模は、長軸（東西）6.2 m×短軸（南北）4.6 mを測る。深さは、遺構確認面から床面まで45cmを測る。

【炉】住居跡中央やや西寄りに位置する。炉の大半は壊されており、全容は不明である。規模は南北60cm以上、東西20cm以上、深さは4cmを測る。炉の中央部は赤褐色に焼けている。

【周溝】残存部分で1周巡る。周溝内に小ピットをもつ。上幅15～36cm、下幅5～18cm、深さ18～20cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うものはP1～P20。大半は周溝内に位置する。支柱穴はP1～P5、P9。入口施設と思われるものにP11・P12・P15・P16がある。周溝をみると1条しか巡っておらず、拡張の痕跡は見当たらないが、ピットの配列からは柱の付け替えが想定できる（P2・P4・P5と・P1・P3・P9）。南西隅の支柱穴は、攪乱のため検出できなかった。

【遺物出土状況】住居廃絶後、若干の時間をおき、自然堆積により浅い播鉢状に窪んだ状態から土器の捨て場として利用されたと考えられる。ほぼ床面近い深さから確認面まで連綿と土器が出土している。

② 9号住居跡出土土器

【出土遺物】今回の調査地点の中でもっと遺物が出土した住居跡である。床面上から覆土中にかけて出土している。口縁部は平縁と4単位の波頂部が丸みを持つ大ぶりの波状口縁、波頂部が尖るものが認められる。また、波頂部から縦位に伸びる隆帯がつくものも認められる。14は頸部に断面M字型の隆帯が巡る。口縁部文様帯は幅広のものが認められる。無文地に大ぶりの波状文や菱形文を描くものと、縄文地にモチーフを描くものの両者が認められる。描かれるモチーフも半截竹管によるものと櫛歯状工具によるもの、爪形文でモチーフを描くものなど多彩である。黒浜式が主体である。

第1類第1種土器 16、17、20～22、24は波状口縁。16、21は波頂部から縦長の貼付文を付す。竹管状工具で菱形文を施す。17は4単位の菱形文。19、20は

鋸歯文。22～24は竹管状工具で菱形文を施す。72はR1施文後、沈線にて菱形文。77は爪形文で鋸歯文、78は竹管状工具で菱形文、79は0段多条のLRとRLで羽状縄文を描き、竹管状工具で菱形文を施す。

第1類第2種土器 2は波状口縁。平行沈線間に菱形文を施文。25～34は口縁部。25～27、30は爪形文。28、29は竹管状工具で菱形文を施す。31はLR地文で竹管状工具で鋸歯文。32、33はR1地文で太沈線で菱形文を描く。34はLr横位施文後、竹管状工具で横位、斜位に平行線を施す。80～87は胴部。80は爪形文。81は爪形文で渦巻文を描く。82は横位爪形文間に櫛歯状工具で鋸歯文を描く。83は竹管状工具で菱形文、84は爪形文で菱形文を描く。85はR1施文後、太沈線で菱形文。86はR1横位施文後、爪形文を横走させる。87は爪形文で鋸歯文を描く。

第1類第3種土器 3、37、88～90はLRとRLの単節羽状縄文を施文後、竹管状工具で平行線を重層させている。35は横位に沈線を密に施す。

第1類第5種土器 4、91は棒状工具、38は沈線で格子目文を描いている。1類5種a。

第1類第8種土器 92は爪形文で平行沈線間に鋸歯文を描く。93は横位に、94は縄文施文後斜位に平行線を施文している。95～97はLR横位施文後平行線を横位に施文。98はLr後竹管状工具で横位に沈線を施文。99はLR・RLの単節羽状縄文施文後、櫛歯状工具（6本1単位）で横位に沈線を施文している。100はRL横位に施文後、竹管状工具で平行沈線を施文。101はRR施文後、竹管状工具で斜位に平行線を描く。102は附加条2種。LR+r施文後、爪形文を施す。202は土器円盤に転用した胴部片。竹管状工具で緩い波状文を描いている。

第2類第1種土器 5、39～42、103～111はLrを横位に施文している。41は緩い波状口縁を持つ。6～11、43～52、73、112～121、178はR1を横位に施文している。6、9、43、47は波状口縁を持つ。50は一对の穿孔がある。46はR1を横位、斜位に施文、穿孔もある。53、74、122～128はLrとR1の無節羽状縄文を施している。74はミニチュア土器の胴部片。

第2類第2種土器 1、76、146～148はLRとRLの単節羽状縄文を施している。14はLR・RLが地文、4単位の波状口縁頂部から縦長の貼付文を付す。12、13、54～57、129～139はLRを横位に施文している。13、54～56は波状口縁。58はRLとR1で横位に施文。

75 は R1 で横位に施文。140 ～ 145 は RL で横位に施文している。

第2類第4種土器 149 は a。150 ～ 156 は b。59 ～ 62、157 ～ 159 は c。59 は LR+L・R、60 ～ 62 は RL+l・r の附加条3種。151 ～ 154 は LR+r を横位に施文。156 は LR+2R。157 は R1+2R。158 は RL+l・r を横位に施文している。159 は軸縄不明。160、161 は軸縄は不明だが、2L と 2R を附加し、羽状を構成している。

第2類第5種土器 63 は口縁部に沿って LL を横位に施文。162 は RR を横位に施文している。

第3類土器 163 は3類。組紐により絡条体が施文されている。

第4類第1種土器 15、64 ～ 66 は口縁部で、164 ～ 171、174 は胴部で a。15、170 は疎らに、65、66、164 ～ 167、169、171、174 は密に貝殻背圧痕を斜位に施す。64 と 168 も斜位に施している。

第4類第2種土器 172 は R1 と貝殻腹縁文を施文している。173 はハイガイによる貝殻腹縁文を施文。

第5類土器 67、68 は無文土器。203 は土器円盤に転用した胴部片。

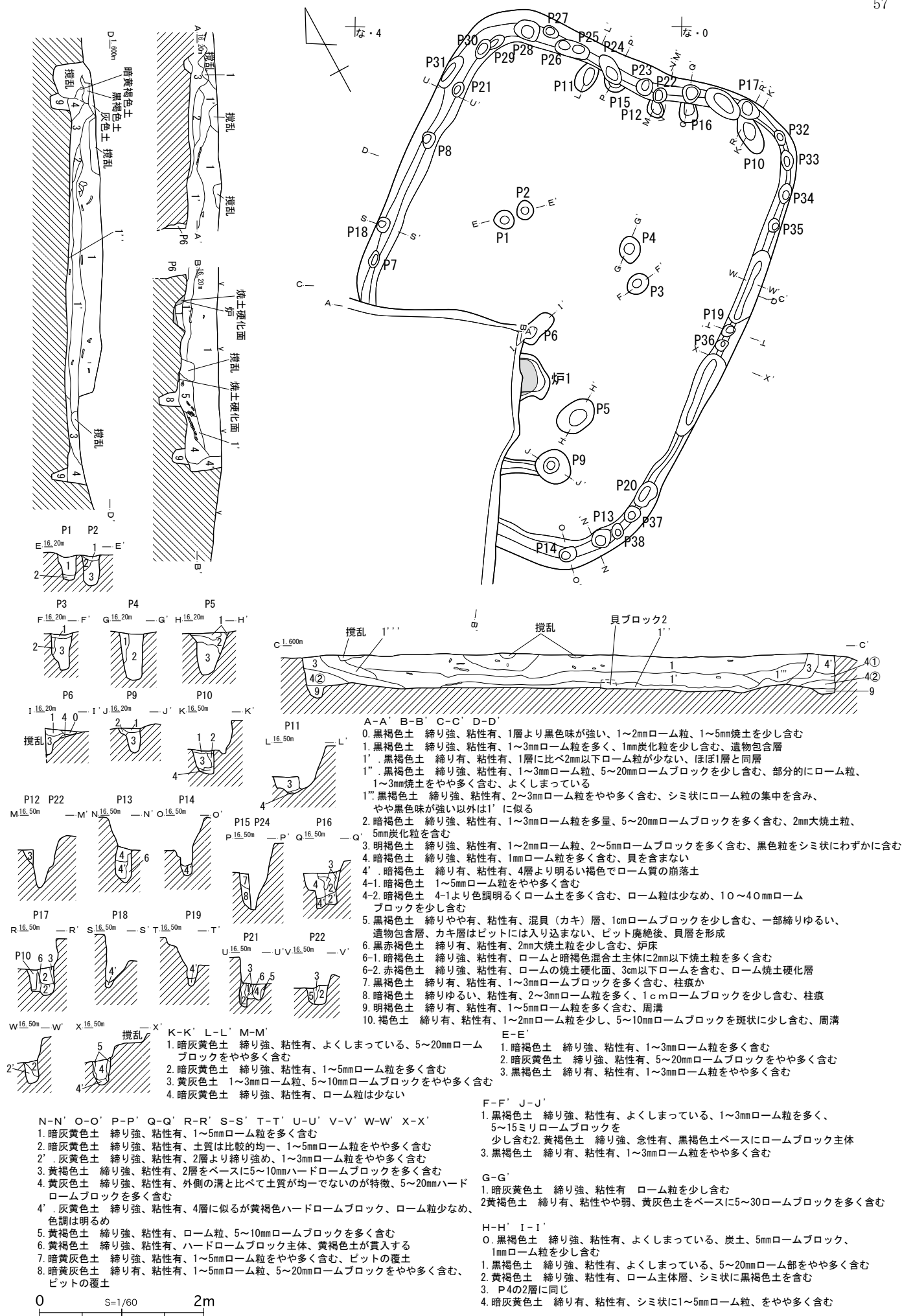
第6類土器 179 は縦位の沈線、185 は R1 を横位に施文。いずれもミニチュア土器。180 は Lr を横位に施文。181、182 は LR、183 は LL、184 は RR、186 は RL を横位に施文している。187 は LR・RL も単節羽状縄文。188、194 は附加条。188 は RL+2L を横位に施文。194 は軸縄不明に l と r を附加している附加条3種。189 は尖底と思われる。

第8類土器 69、176 は Lr を横位に施文。175 は LR、177 は RL をそれぞれ横位に施文。金雲母を含む。釈迦堂 Z3 式。

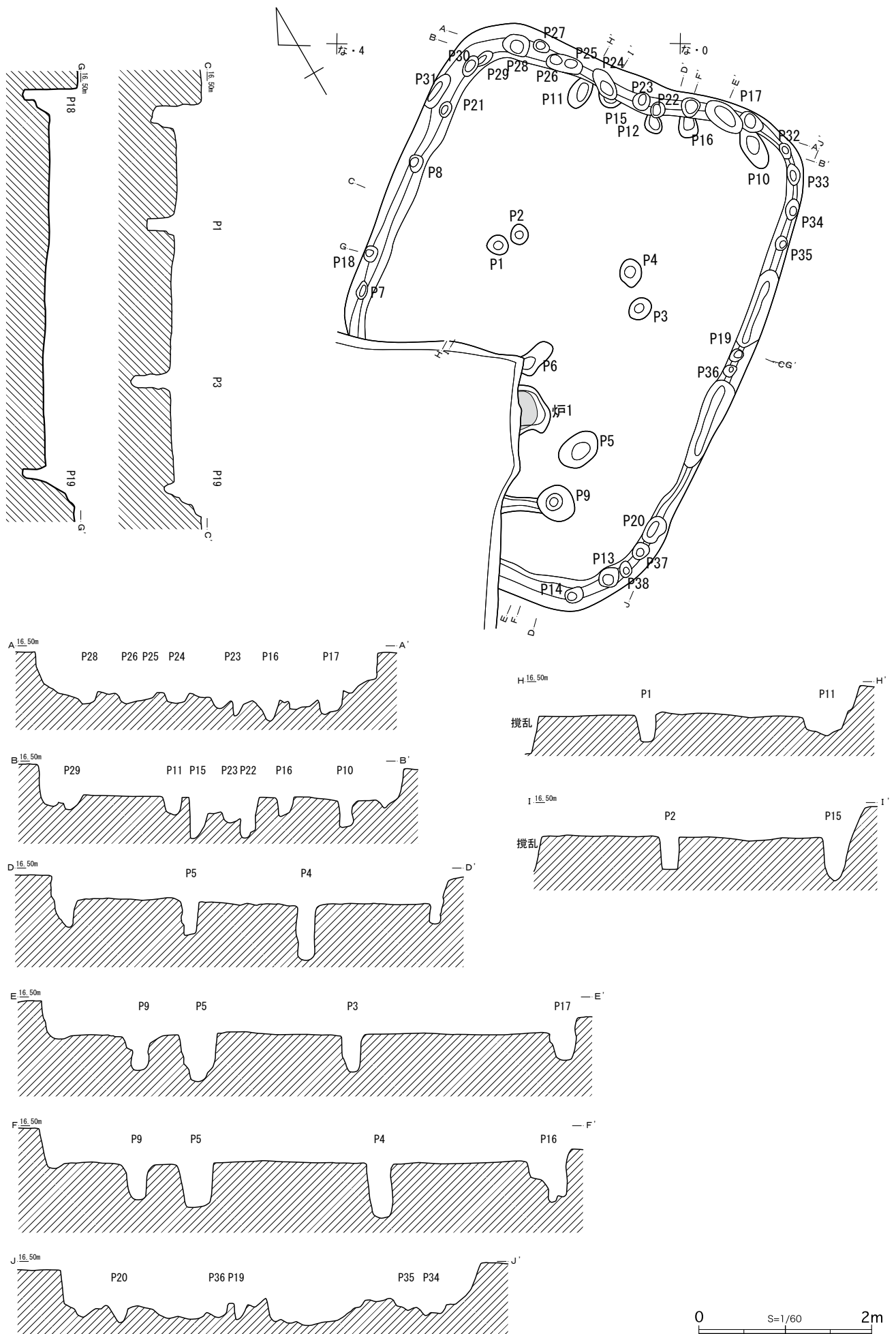
その他の土器 36、190 ～ 193 は諸磯 c 式。36 は口縁部にキザミ。竹管状工具で平行線を横走させた後、斜位の沈線を施す。190 ～ 193 はいずれも隆起文を有し、隆帯上に細かな押引きがなされている。なお、195 は早期の条痕文の胴部である。分類上はその他とした。

第15表 9号住居跡ピット一覧表

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	0.24 × 0.23	0.10 × 0.09	0.33	主柱穴
2	円形	0.17 × 0.16	0.08 × 0.08	0.38	主柱穴
3	円形	0.25 × 0.21	0.12 × 0.10	0.45	主柱穴
4	楕円形	0.30 × 0.22	0.12 × 0.08	0.58	主柱穴
5	楕円形	0.18 × 0.33	0.24 × 0.16	0.53	主柱穴
6	楕円形	0.41 × 0.22	(0.15) × 0.10	0.32	
7	楕円形	0.19 × 0.11	0.10 × 0.07	0.08	
8	不整形円形	0.15 × 0.13	0.09 × 0.07	0.06	
9	円形	0.42 × 0.41	0.08 × 0.07	0.30	主柱穴
10	楕円形	0.49 × 0.22	0.22 × 0.11	0.30	
11	楕円形	0.34 × 0.23	0.20 × 0.12	0.20	入口施設
12	楕円形	0.22 × 0.18	0.16 × 0.14	0.17	入口施設
13	円形	0.22 × 0.20	0.12 × 0.12	0.45	
14	楕円形	0.22 × 0.16	0.12 × 0.11	0.31	
15	円形?	0.26 × (0.09)	0.11 × (0.04)	0.46	入口施設
16	不整形長円形	0.44 × 0.19	0.11 × 0.10	0.45	入口施設
17	楕円形	0.50 × 0.25	0.30 × 0.10	0.34	
18	円形	0.17 × 0.13	0.07 × 0.06	0.34	
19	円形	0.14 × 0.12	0.05 × 0.05	0.26	
20	不整形楕円形	0.33 × 0.21	0.20 × 0.07	0.14	
21	楕円形	0.18 × 0.13	0.13 × 0.08	0.33	
22	円形	0.15 × 0.15	0.13 × 0.11	0.46	
23	円形	0.17 × 0.16	0.10 × 0.10	0.08	
24	楕円形	0.36 × 0.21	0.19 × 0.14	0.47	
25	円形?	(0.16) × 0.13	0.11 × 0.05	0.06	
26	円形?	(0.14) × 0.14	0.13 × 0.12	0.08	
27	楕円形	0.17 × 0.12	0.15 × 0.10	0.05	
28	円形	0.28 × 0.20	0.14 × 0.12	0.11	
29	楕円形	(0.18) × 0.12	0.10 × 0.05	0.19	
30	楕円形	0.20 × 0.14	0.14 × 0.06	0.06	
31	長円形	0.43 × 0.15	0.26 × 0.05	0.08	
32	楕円形	0.16 × 0.11	0.05 × 0.04	0.04	
33	楕円形	0.24 × 0.13	0.11 × 0.04	0.05	
34	楕円形	0.25 × 0.14	0.10 × 0.06	0.06	
35	円形	0.15 × 0.13	0.07 × 0.05	0.10	
36	不整形円形	0.10 × 0.08	0.04 × 0.02	0.03	
37	円形	0.16 × 0.14	0.07 × 0.06	0.04	
38	円形	0.16 × 0.10	0.04 × 0.04	0.05	



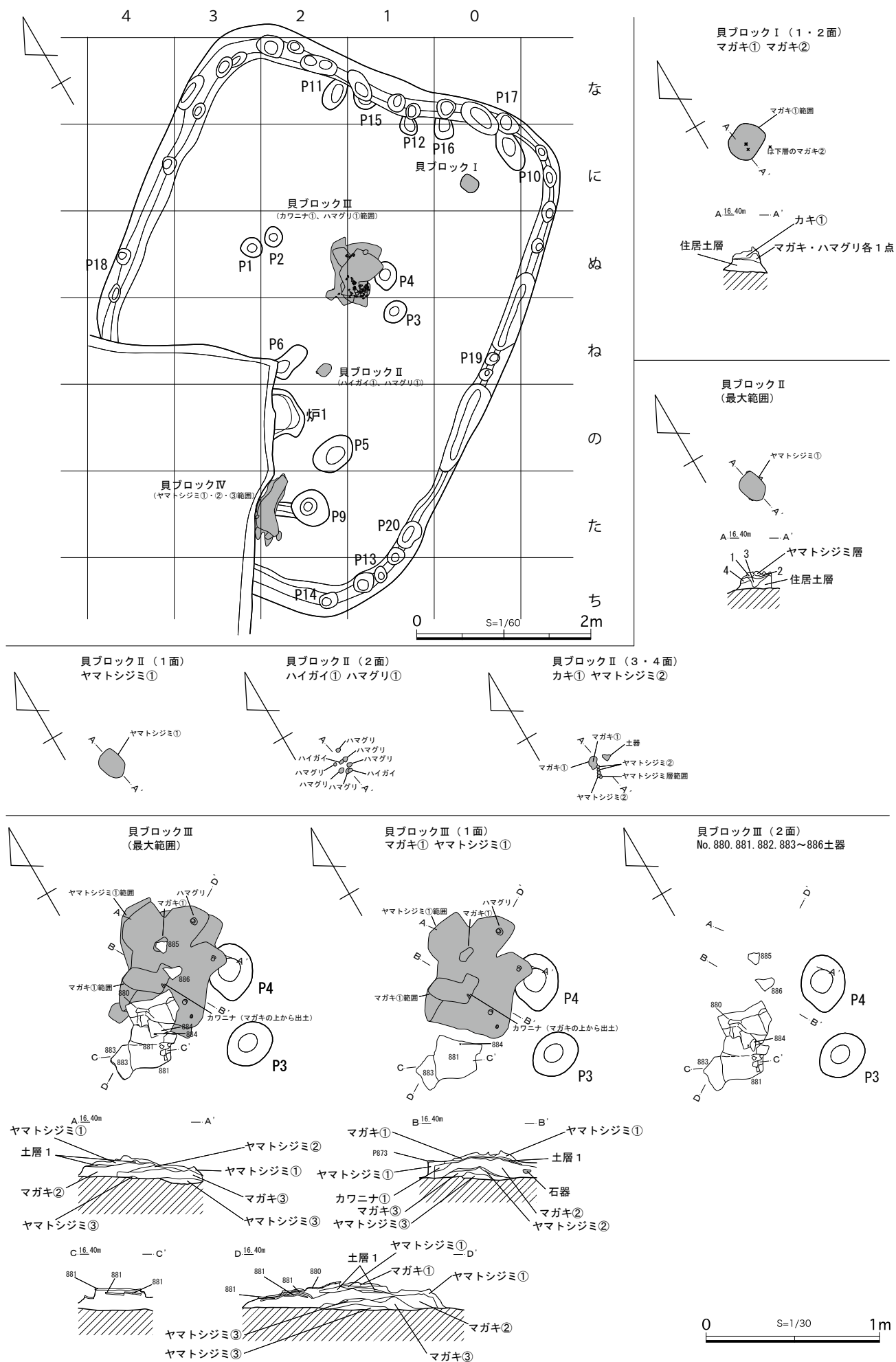
第41図 9号住居跡(1)(1/60)



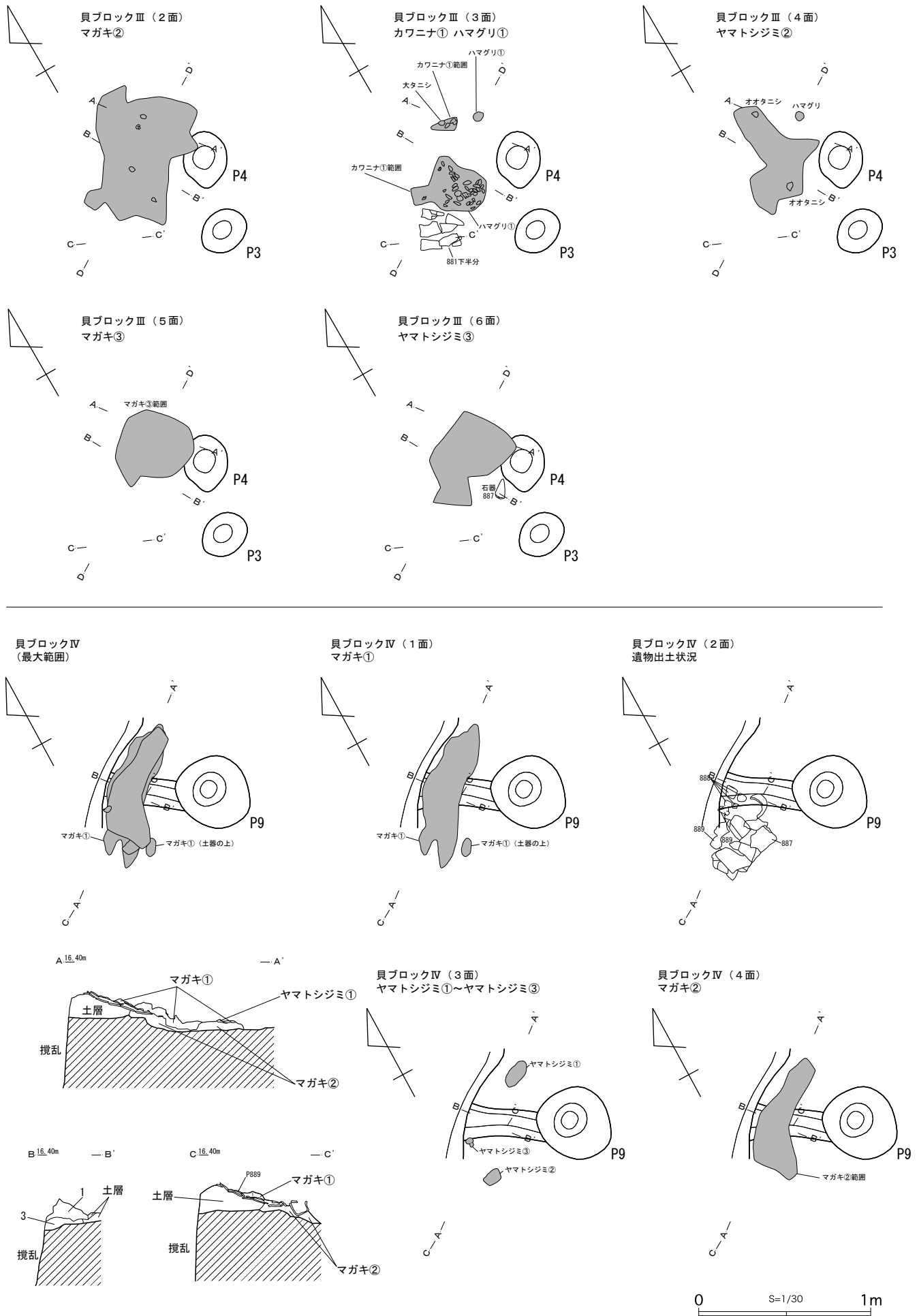
第42図 9号住居跡(2) (1/60)



第43図 9号住居跡遺物出土状況図・炉 (1/60・1/30)



第44図 9号住居跡貝ブロック① (1/60・1/30)



第 45 図 9号住居跡貝ブロック② (1/30)

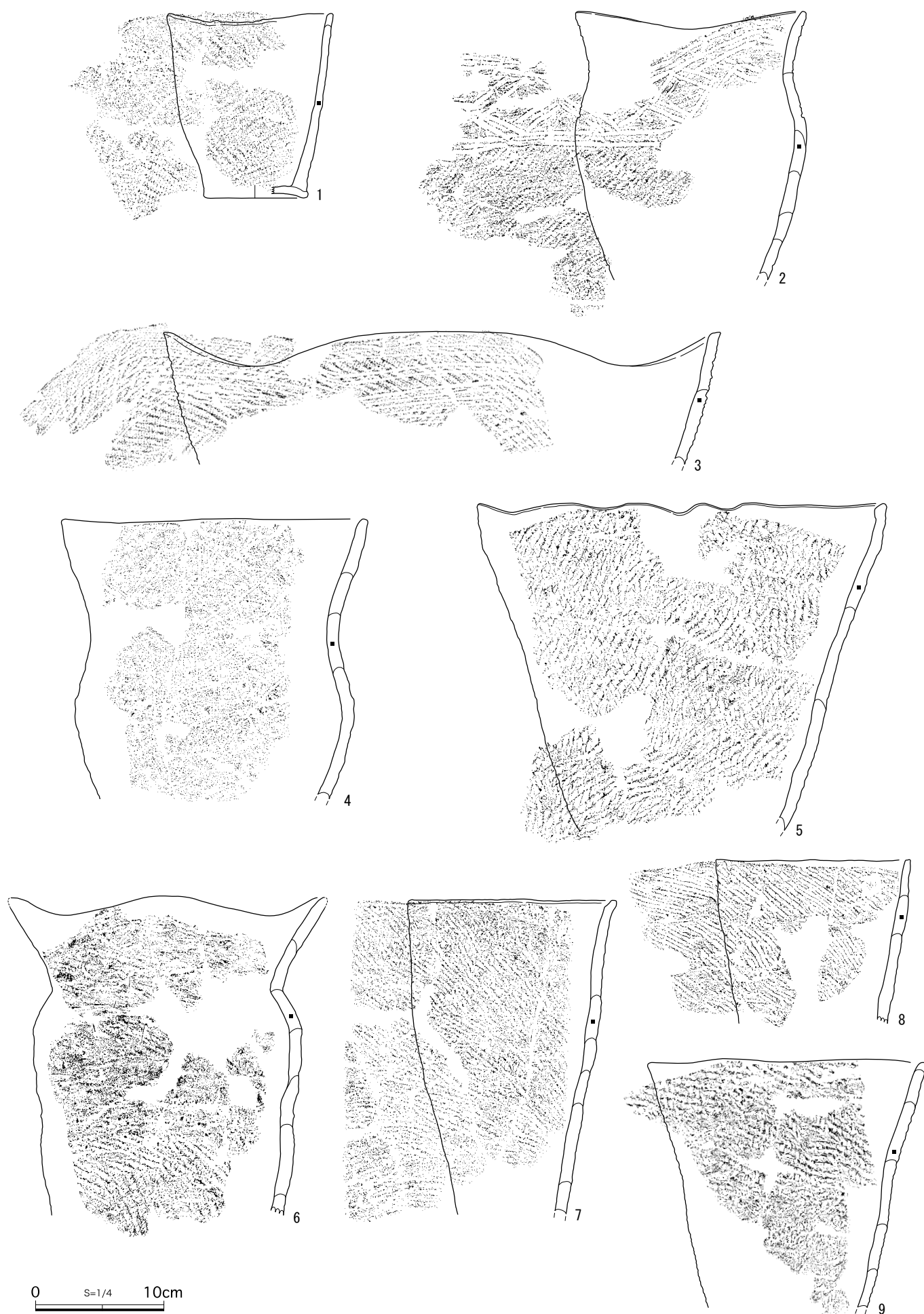
第16表 9号住居跡出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
46 図	1	2 類 2 種	覆土	(13.0)・(11.8)	(8.1)・14.4	口縁部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文。	普通	黒浜式	9 住No. 267
	2	1 類 2 種	覆土	(17.6)・(18.0)	－・〈20.6〉	口縁部	深鉢	LR	4 単位の波状口縁。平行沈線間に菱形文を施文。胴部以下は LR 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 54・ 505・523・ 863・C 区
	3	1 類 3 種	覆土	(42.6)・－	－・〈10.4〉	口縁部	深鉢	LR・RL	4 単位の波状口縁と考えられる。単節羽状縄文を地文に竹管状工具による平行線を重層させる。	多量	黒浜式	9 住No. 514・ 601
	4	1 類 5 種 a	覆土	(24.0)・(21.8)	－・〈21.8〉	口縁部	深鉢	沈線	棒状工具で格子目文を描く。	多量	黒浜式	9 住No. 615・ D ベルト
	5	2 類 1 種	覆土	(31.4)・(22.8)	－・〈25.5〉	口縁部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 252
	6	2 類 1 種	覆土	(24.4)・(20.9)	－・〈24.8〉	口縁部	深鉢	R1	波状口縁。R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 263
	7	2 類 1 種	覆土	16.3・14.6	－・〈24.5〉	口縁部	深鉢	R1	R1 を横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 811
	8	2 類 1 種	覆土	(14.8)・(14.0)	－・〈9.2〉	口縁部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 504
	9	2 類 1 種	覆土	(22.0)・(16.4)	－・〈19.1〉	口縁部	深鉢	R1	緩い波状口縁。R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 212・ 617
47 図	10	2 類 1 種	覆土	(28.2)・(41.2)	－・〈11.5〉	口縁部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 53
	11	2 類 1 種	覆土	24.2・(18.2)	－・〈15.1〉	口縁部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 844・ 508・514・ 516・518
	12	2 類 2 種	覆土	(38.6)・－	－・〈13.7〉	口縁部	深鉢	LR	4 単位の波状口縁。LR 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 880
	13	2 類 2 種	覆土	(41.2)・(34.8)	－・〈25.3〉	口縁部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 502・471
	14	2 類 2 種	覆土	(23.6)・(19.4)	－・〈22.2〉	口縁部	深鉢	LR・RL	4 単位の波状口縁波頂部に縦長の貼付文をもつ。括れ部に凸帯が廻る。	少量	黒浜式	9 住 No. 11・ 22・318・ 438
	15	4 類 1 種 a	覆土	(21.4)・(19.0)	－・〈27.2〉	口縁部	深鉢	貝殻背圧痕	緩い波状口縁。貝殻背圧痕を疎らに斜位に施す。	多量	黒浜式	9 住No. 262・ 265・攪乱 H1
	16	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。波頂部から縦長の貼付文を付す。竹管状工具により大振りの菱形文を描くと思われる。	多量	黒浜式	9 住No. 393
	17	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。4 単位の菱形文を描くものと思われる。	多量	黒浜式	9 住No. 254
	18	1 類	覆土			口縁部	深鉢	沈線	斜位の沈線を施す。口縁部を部分的に折り返す。	普通	黒浜式	9 住 B ベルト 2
	19	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	竹管状工具で大振りの鋸歯文を描くものと思われる。	多量	黒浜式	9 住No. 340
	20	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	4 単位の波状口縁。大振りの鋸歯文を描く。	多量	黒浜式	9 住No. 260
	21	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。波頂部から刺突のある縦長の貼付文付す。竹管状工具で菱形文を描く。	普通	黒浜式	9 住No. 33
	22	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	波状口縁。竹管状工具により菱形文を描くものと思われる。	普通	黒浜式	9 住No. 636
48 図	23	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文を地文に竹管状工具で菱形文を描くものと思われる。	多量	黒浜式	9 住No. 601
	24	1 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	緩い波状口縁。LR 地に竹管状工具で菱形文を描くと思われる。	多量	黒浜式	9 住No. 669
	25	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	爪形文を施文。	普通	黒浜式	9 住No. 298
	26	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	爪形文を重層させる。	普通	黒浜式	9 住 A 区 10
	27	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	爪形文で菱形文を描く。	多量	黒浜式	9 住No. 132
	28	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	緩い波状口縁。竹管状工具で菱形文を描く。	多量	黒浜式	9 住No. 421・ 426
	29	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	竹管状工具により菱形文を描く。	普通	黒浜式	9 住No. 530
	30	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	LR 施文後、爪形文を横走させる。	普通	黒浜式	9 住No. 598
	31	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	LR を地文に竹管状工具で鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	9 住No. 621
	32	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	R1 を地文に太沈線で菱形文を描く。	普通	黒浜式	9 住No. 616
	33	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	R1 を地文に太沈線で菱形文を描く。	普通	黒浜式	9 住No. 18
	34	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	Lr 横位施文後、竹管状工具で横位・斜位の平行線を施す。	普通	黒浜式	9 住 C ベルト 3
	35	1 類 3 種	覆土			口縁部	深鉢	沈線	横位沈線を密に施す。	普通	黒浜式	9 住No. 409
	36	その他	覆土			口縁部	深鉢	RL	口縁部キザミ。竹管状工具で平行線を横走させた後、斜位の沈線を施す。	無	諸磯 c	9 住No. 457
	37	1 類 3 種	覆土			口縁部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文を地文に竹管状工具による平行沈線を重層させる。	多量	黒浜式	9 住No. 505・ 513
	38	1 類 5 種 a	覆土			口縁部	深鉢	沈線	沈線により格子目文を描く。	普通	黒浜式	9 住No. 239
	39	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	口縁部沿って Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 506
	40	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	口縁部沿って Lr 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 305・ 805
	41	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	緩い波状口縁。Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 618
	42	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 747
	43	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	緩い波状口縁。口縁部に沿って R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 517
	44	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 251
	45	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	口縁部に沿って R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 453・ 608・669
	46	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	R1 横位・斜位施文。穿孔あり。	多量	黒浜式	9 住No. 620
	47	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	波状口縁。R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 504
	48	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 423
	49	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	口縁部に沿って R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 517
	50	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	口縁部に沿って R1 を横位施文。一対の穿孔がなされる。	普通	黒浜式	9 住No. 663
	51	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	口縁部沿って R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 889
	52	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	R1	口縁部に沿って RL を横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 889
	53	2 類 1 種	覆土			口縁部	深鉢	LR・R1	無節羽状縄文。	多量	黒浜式	9 住No. 759
	54	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	波状口縁。波頂部から縦長の貼付文を付す。LR 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 11・ 110・112

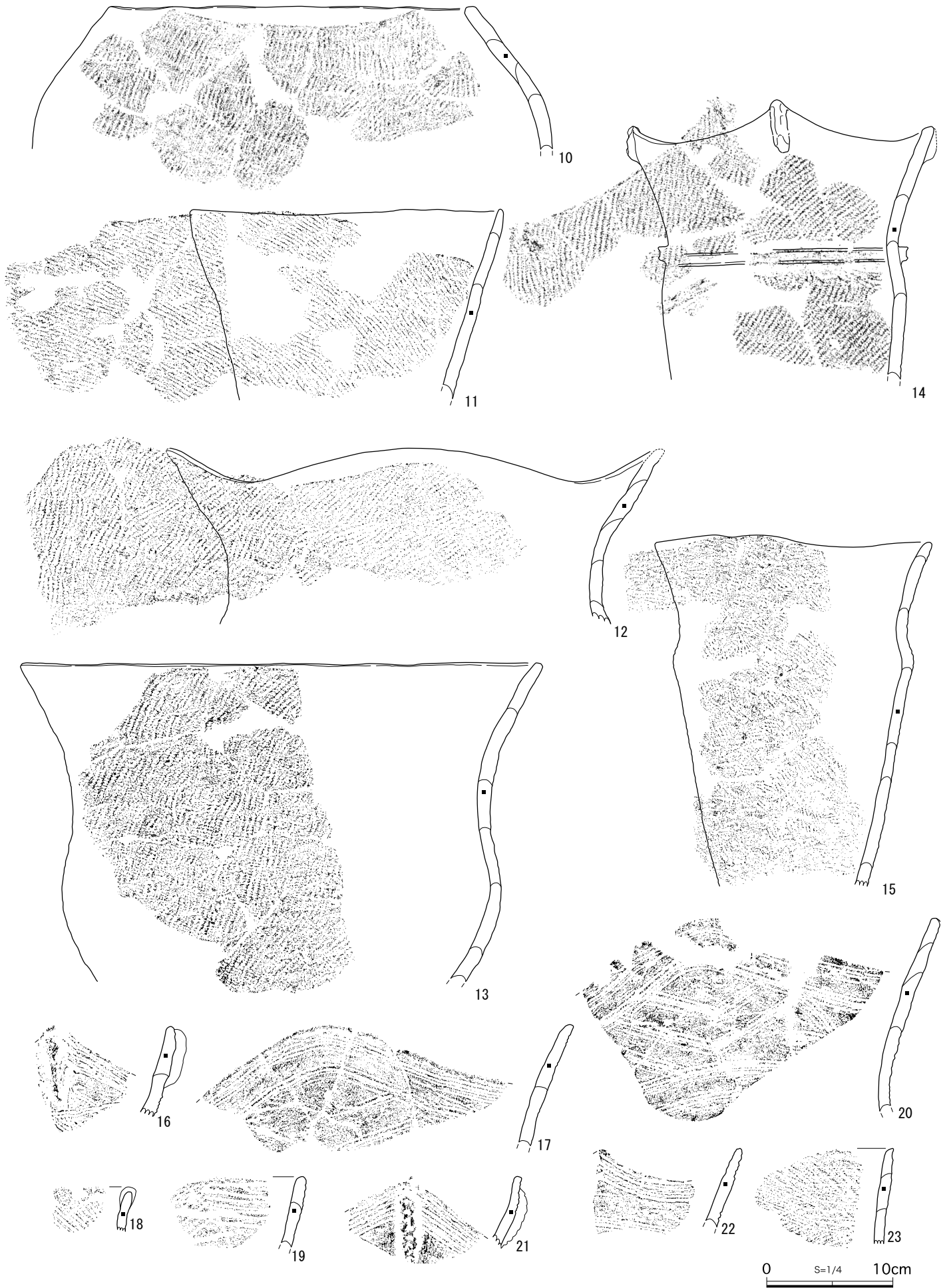
図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
48 図	55	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	波状口縁。LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 264 ・ 387
	56	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	波状口縁。LR を横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 285
	57	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	LR	口縁部に沿って LR を横位施文。	普通	黒浜式	9 住 BL4-1
	58	2 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢	RL・R1	RL・R1 横位施文。	少量	黒浜式	9 住 No. 717
	59	2 類 4 種 c	覆土			口縁部	深鉢	附加条	波状口縁。附加条 3 種。LR+L・R か	多量	黒浜式	9 住 No. 266
	60	2 類 4 種 c	覆土			口縁部	深鉢	附加条	波状口縁。附加条 3 種。RL+1・r を横位施文。	普通	黒浜式	9 住 A 区 7・ No. 350
	61	2 類 4 種 c	覆土			口縁部	深鉢	附加条	附加条 3 種。RL+1+r を附加。	普通	黒浜式	9 住 No. 266
	62	2 類 4 種 c	覆土			口縁部	深鉢	附加条	附加条 3 種。RL+1+r を附加。	普通	黒浜式	9 住 No. 836
	63	2 類 5 種	覆土			口縁部	深鉢	LL	口縁部に沿って LL 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 C 区 7
	64	4 類 1 種 a	覆土			口縁部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を斜位に施す。	普通	黒浜式	9 住 No. 660
49 図	65	4 類 1 種 a	覆土			口縁部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	多量	黒浜式	9 住 No. 9・ 120
	66	4 類 1 種 a	覆土			口縁部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	多量	黒浜式	9 住 No. 112
	67	5 類	覆土			口縁部	深鉢	無文		多量		9 住 No. 267
	68	5 類	覆土			口縁部	深鉢	無文		多量	黒浜式	9 住 No. 14
	69	8 類	覆土			口縁部	深鉢	Lr	口縁部沿って Lr 横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住 No. 4
	70	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢		波頂部から短隆帯も附す、口縁部には爪形文でモチーフを描く。	多量	黒浜式	9 住 No. 12
	71	1 類 2 種	覆土			口縁部	深鉢		口縁部に沿って爪形文を 2 条横走させ、以下に鋸歯文を描く。 口唇部はランダムに刻みを附す。	多量	黒浜式	9 住 No. 12
	72	1 類 1 種	覆土	-・(28.8)	-・〈19.3〉	胴部	深鉢	R1	R1 施文後、太い沈線により菱形文を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 8・ 18・251
	73	2 類 1 種	覆土	-・(17.2)	-・〈13.7〉	胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 508
	74	2 類 1 種	覆土			胴部	ミニ チュア	Lr・R1	無節羽状縄文。	普通	黒浜式	9 住 D 区 5
	75	2 類 2 種	覆土	-・(22.0)	-・〈17.1〉	胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 264
	76	2 類 2 種	覆土	-・(13.8)	-・〈17.6〉	胴部	深鉢	LR・R1	単節羽状縄文。	普通	黒浜式	9 住 No. 274 ・ 277・278 ・ 510・786
	77	1 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	爪形文で大振りの鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 699
	78	1 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具で大振りの菱形文を描くものと思われる。	多量	黒浜式	9 住 No. 734
	79	1 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	O 段多条羽状縄文地に竹管状工具で菱形文を描く。	多量	黒浜式	9 住 No. 601
	80	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	爪形文を施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 641
	81	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	爪形文で渦巻文を描く。	普通	黒浜式	9 住 D 区 11
	82	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	横位爪形文間に櫛歯状工具で鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 380
	83	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具により菱形文を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 311
	84	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	爪形文で菱形文を描く。胴部は LR 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 76
	85	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 施文後、太沈線で菱形文を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 18
	86	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文後、爪形文を横走させる。	普通	黒浜式	9 住 No. 564
	87	1 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	爪形文で鋸歯文を描く。胴部は Lr 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 35
	88	1 類 3 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文を地文に竹管状工具による平行線を重層させる。	多量	黒浜式	
	89	1 類 3 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文を地文に竹管状工具による平行線を重層させる。	多量	黒浜式	
	90	1 類 3 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文を地文に竹管状工具による平行線を重層させる。	多量	黒浜式	
	91	1 類 5 種 a	覆土			胴部	深鉢	沈線	棒状工具で格子目文を描く。	多量	黒浜式	9 住 No. 602 ・ A 区 11
	92	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	爪形文で平行沈線間に鋸歯文を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 617
	93	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	沈線	竹管状工具により、横位平行線を施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 137
	94	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	LR ?	LR ? 横位施文後、竹管状工具で斜位の平行線を密に施す。	多量	黒浜式	9 住 No. 703
	95	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 施文後、竹管状工具で平行線を横走施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 529 ・ C ベルト
	96	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文後、竹管状工具で横位平行線を施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 337
	97	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文後、爪形文で横位沈線を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 294
	98	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	竹管状工具により横位沈線施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 16
	99	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文施文後、櫛歯状工具（六本一単位）で横位沈線を描く。	普通	黒浜式	9 住 C 区 5
	100	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文後、竹管状工具で平行沈線を描く。	普通	釈迦堂 Z3 ?	9 住 No. 467
	101	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	RR	RR 施文後、竹管状工具で斜位の平行線を描く。	普通	黒浜式	9 住 No. 423 ・ 425・B 区 7
	102	1 類 8 種	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 2 種。LR+r 施文後、爪形文を施す。	普通	黒浜式	9 住 No. 886 ・ 887・617
	103	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 619
	104	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 14
50 図	105	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 402
	106	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	9 住攪乱 H1
	107	2 類 1 種	覆土	-・(30.0)	-・〈14.2〉	胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	少量	黒浜式	9 住 No. 847 ・ 878
	108	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 253
	109	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 617 ・ 619
	110	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 290
	111	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 1
	112	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 507
	113	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 を横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 283 ・ D 区 7
	114	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 251
	115	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 507 ・ 670
	116	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 縦位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 503

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
50 図	117	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	追加成形技法。R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 251
	118	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 262
	119	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	追加成形技法。R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 617
	120	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。器面摩滅が激しい。	普通	黒浜式	9 住No. 507
	121	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 504
	122	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	追加成形技法。無節羽状縄文。	多量	黒浜式	9 住No. 251 ・ 503
	123	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状縄文。	多量	黒浜式	9 住No. 256
	124	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状縄文。	多量	黒浜式	9 住No. 257
	125	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状縄文。金雲母含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住No. 695
	126	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状縄文。	少量	黒浜式	9 住 C 区 2・ C 区 5・No. 428・564
	127	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状縄文	多量	黒浜式	9 住No. 350
51 図	128	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	無節羽状縄文。	普通	黒浜式	9 住No. 342
	129	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	追加成形技法。LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 503 ・ 886
	130	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 864
	131	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 502
	132	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 649
	133	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 502
	134	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 502
	135	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 501
	136	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 618
	137	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 510
	138	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	追加成形技法。LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 502
	139	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 35
	140	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 618
	141	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 1
	142	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 119
	143	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 520
	144	2 類 2 種	覆土	-・(40.8)	-・<16.6>	胴部	深鉢	RL	節の細かい RL を横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 56・ D 区 3
	145	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 D 区 2・ No. 834
	146	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文。金雲母含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住No. 672
	147	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文。	多量	黒浜式	9 住No. 165
	148	2 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文。	普通	黒浜式	9 住No. 267
	149	2 類 4 種 a	覆土			胴部	深鉢	附加条	LR+2R を縦横に施文。	普通	黒浜式	9 住No. 821
52 図	150	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 268 ・ 471
	151	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 2 種。LR+r 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 617
	152	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	LR+r を横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 528
	153	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	LR+r を横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 617
	154	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	LR+r を横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 98・ 617
	155	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 1 種。LR+R と RL+R で羽状縄文を構成する。	普通	黒浜式	9 住No. 828
	156	2 類 4 種 b	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 2 種。LR+2R	普通	黒浜式	9 住No. 851
	157	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	附加条 2 種。R1+2L	普通	黒浜式	9 住No. 96
	158	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	RL+1・r を横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 738
	159	2 類 4 種 c	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に l と r を附加か。	普通	黒浜式	9 住No. 166
	160	2 類 4 種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に 2L 附加したものと、2R を附加したもので羽状縄文構成をとる。	普通	黒浜式	9 住No. 700 ・ 801・820
	161	2 類 4 種	覆土			胴部	深鉢	附加条	軸縄不明に 2L と 2R を附加した原体で羽状構成をなす。	普通	黒浜式	9 住No. 27・ 118
	162	2 類 5 種	覆土			胴部	深鉢	RR	RR 横位施文。	多量	黒浜式	9 住No. 161
	163	3 類	覆土			胴部	深鉢	組紐	組紐?	普通	黒浜式	9 住No. 661
	164	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	多量	黒浜式	9 住攪乱 H1
	165	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	少量	黒浜式	9 住No. 118
	166	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	多量	黒浜式	9 住No. 813
	167	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	普通	黒浜式	9 住No. 389
	168	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を斜位に施す。	普通	黒浜式	9 住No. 110
	169	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	普通	黒浜式	9 住No. 191
	170	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を疎らに斜位に施す。一部波頂部の圧痕が見られる。	多量	黒浜式	9 住 D 区 5
	171	4 類 1 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	多量	黒浜式	9 住No. 463
	172	4 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	R1	R1 と 貝殻腹縁文を施文。	多量	黒浜式	9 住No. 633 ・ 613・42・ B 区ベレット 2
	173	4 類 2 種	覆土			胴部	深鉢	貝殻腹縁	ハイガイによる貝殻腹縁文を施文。	普通	黒浜式	9 住No. 389 ・ A 区 9
	174	4 類 2 種 a	覆土			胴部	深鉢	貝殻背圧痕	貝殻背圧痕を密に斜位に施す。	多量	黒浜式	9 住No. 655
	175	8 類	覆土			胴部	深鉢	LR	LR 横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住No. 200
	176	8 類	覆土			胴部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住No. 877
	177	8 類	覆土			胴部	深鉢	RL	RL 横位施文。金雲母を含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住No. 713
	178	2 類 1 種	覆土	-・(26.4)	9.8・<38.8>	胴部～ 底部	深鉢	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住No. 889
	179	6 類	覆土			底部	ミニ チュア	沈線	縦位の沈線を施文。	普通	黒浜式	9 住 A 区 12

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
52 図	180	6 類	覆土		8.0・〈5.5〉	底部	深鉢	Lr	Lr 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 21
	181	6 類	覆土		(8.8)・〈5.5〉	底部	深鉢	LR	LR 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 524
	182	6 類	覆土		9.1・〈5.0〉	底部	深鉢	LR	LR 横位施文。上げ底。	多量	黒浜式	9 住 No. 509
	183	6 類	覆土			底部	深鉢	LL	LL 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 193 ・ 194・195 ・ 196
	184	6 類	覆土			底部	深鉢	RR	追加成形技法。RR 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 103 ・ 232・442 ・ C ベルト 2
	185	6 類	覆土		(5.2)・〈2.5〉	底部	ミニ チュア	R1	R1 横位施文。	普通	黒浜式	9 住 No. 27
	186	6 類	覆土		(9.0)・〈4.2〉	底部	深鉢	RL	RL 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 No. 322
	187	6 類	覆土		(9.2)・〈4.0〉	底部	深鉢	LR・RL	単節羽状縄文	多量	黒浜式	9 住 No. 603
	188	6 類	覆土		(14.6)・〈4.0〉	底部	深鉢	附加条	RL+2L 横位施文。	多量	黒浜式	9 住 試 1
	189	6 類	覆土			底部	深鉢		尖底か？	無		9 住 A 区 7
	190	その他	覆土			胴部	深鉢	隆起文	隆帯上に細かな押引がなされる。	無	諸磯 c	9 住 B ベルト
	191	その他	覆土			胴部	深鉢	隆起文	隆帯上に細かな押引がなされる。	無	諸磯 c	9 住 No. ?
	192	その他	覆土			胴部	深鉢	隆起文	隆帯上に細かな押引がなされる。	無	諸磯 c	9 住 No. 414
	193	その他	覆土			胴部	深鉢	隆起文	隆帯上に細かな押引がなされる。	無	諸磯 c	9 住 C 区 5
	194	6 類	覆土		9.6・〈5.5〉	底部	深鉢	附加条	附加条 3 種。軸縄不明に l と r を附加。	普通	黒浜式	9 住 No. 2
	195	その他	覆土			胴部	深鉢	条痕	条痕を施す。	少量	条痕文	9 住 C 区 4
	196	2 類 1 種	覆土			胴部	深鉢	Lr・R1	追加成形技法。無節羽状縄文。	多量	黒浜式	9 住 No. 704
	197	8 類	覆土			胴部	深鉢	R1	無節 R1 横位施文。焼成後穿孔あり。金雲母含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住 D 区 11
	198	8 類	覆土			胴部	深鉢	R1	無節 R1 横位施文。金雲母含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住 No. 325
	199	8 類	覆土			胴部	深鉢	Lr	無節 Lr 横位施文。金雲母含む。	無	釈迦堂 Z3	9 住 A 区 2
	200	その他	覆土			胴部	深鉢	LR	ループ文、LR 横位施文。	少量	関山式	9 住 A 区 2
	201	その他	覆土			口縁部	ミニ チュア	LR	手捏ね。	普通	黒浜式	
	202	1 類 8 種	覆土			胴部 (転用)	土器 円盤	沈線	竹管状工具により緩い波状文を描く。周辺部を磨っている。	普通	黒浜式	9 住 D 区 7
	203	5 類	覆土			胴部 (転用)	土器 円盤	無文	無文。	普通	黒浜式	9 住 C ベルト 3
	204		覆土	2.9×2.1×0.4			石器		凹基式石鏃。チャート製。重量 2.10g。	-	-	9 住 No. 357



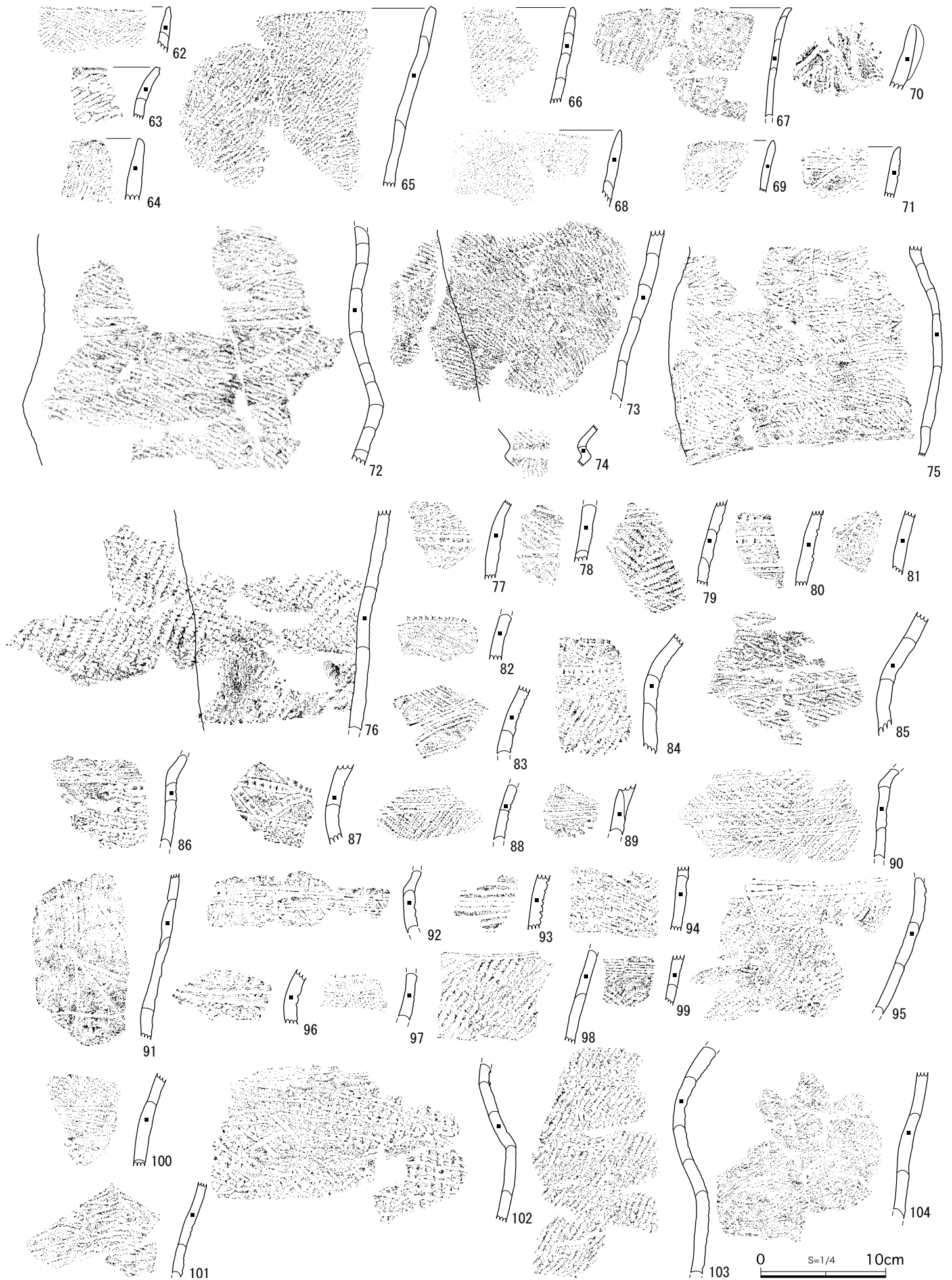
第 46 図 9号住居跡出土遺物 1 (1/4)



第 47 図 9号住居跡出土遺物 2 (1/4)



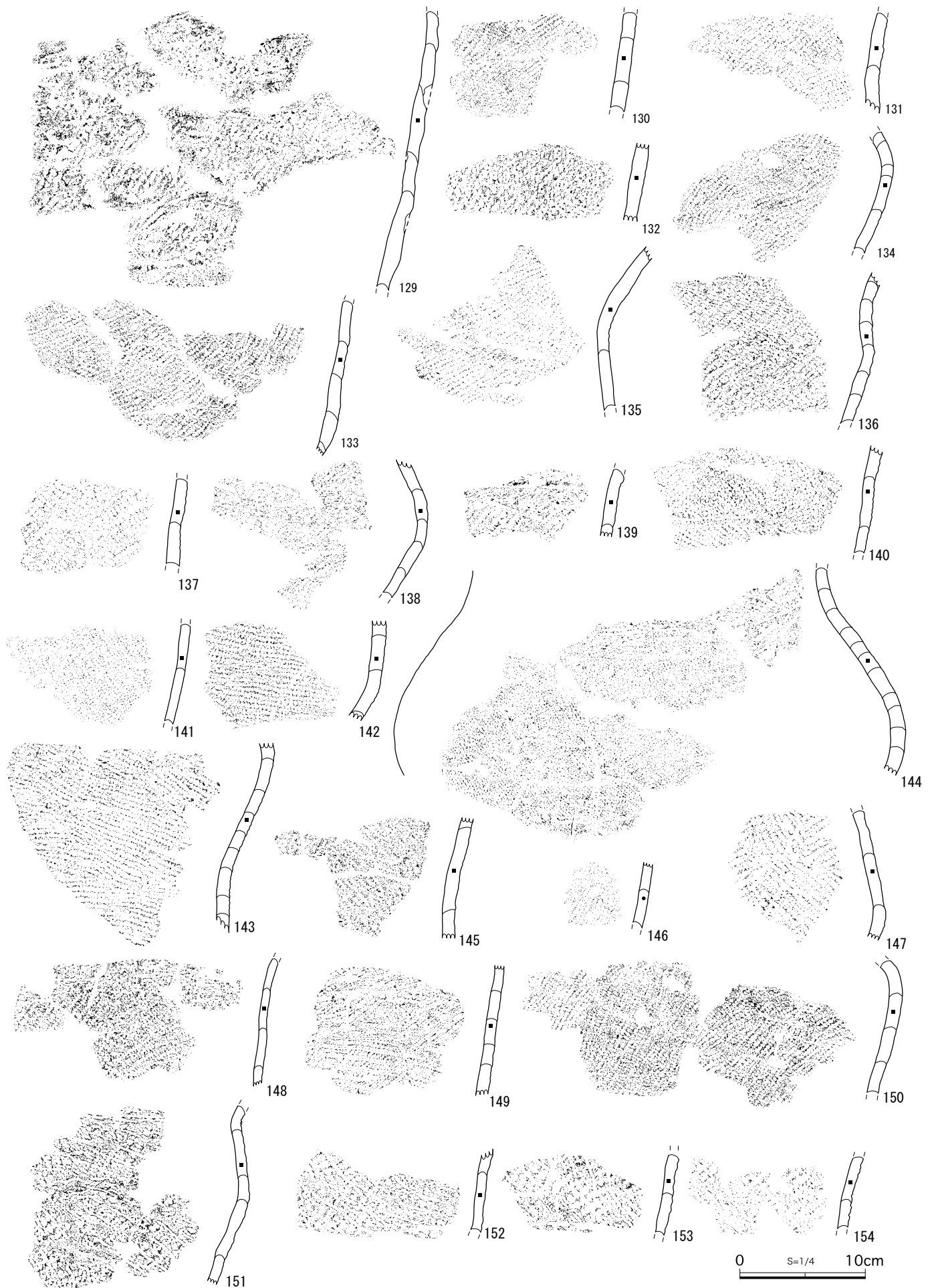
第48図 9号住居跡出土遺物3 (1/4)



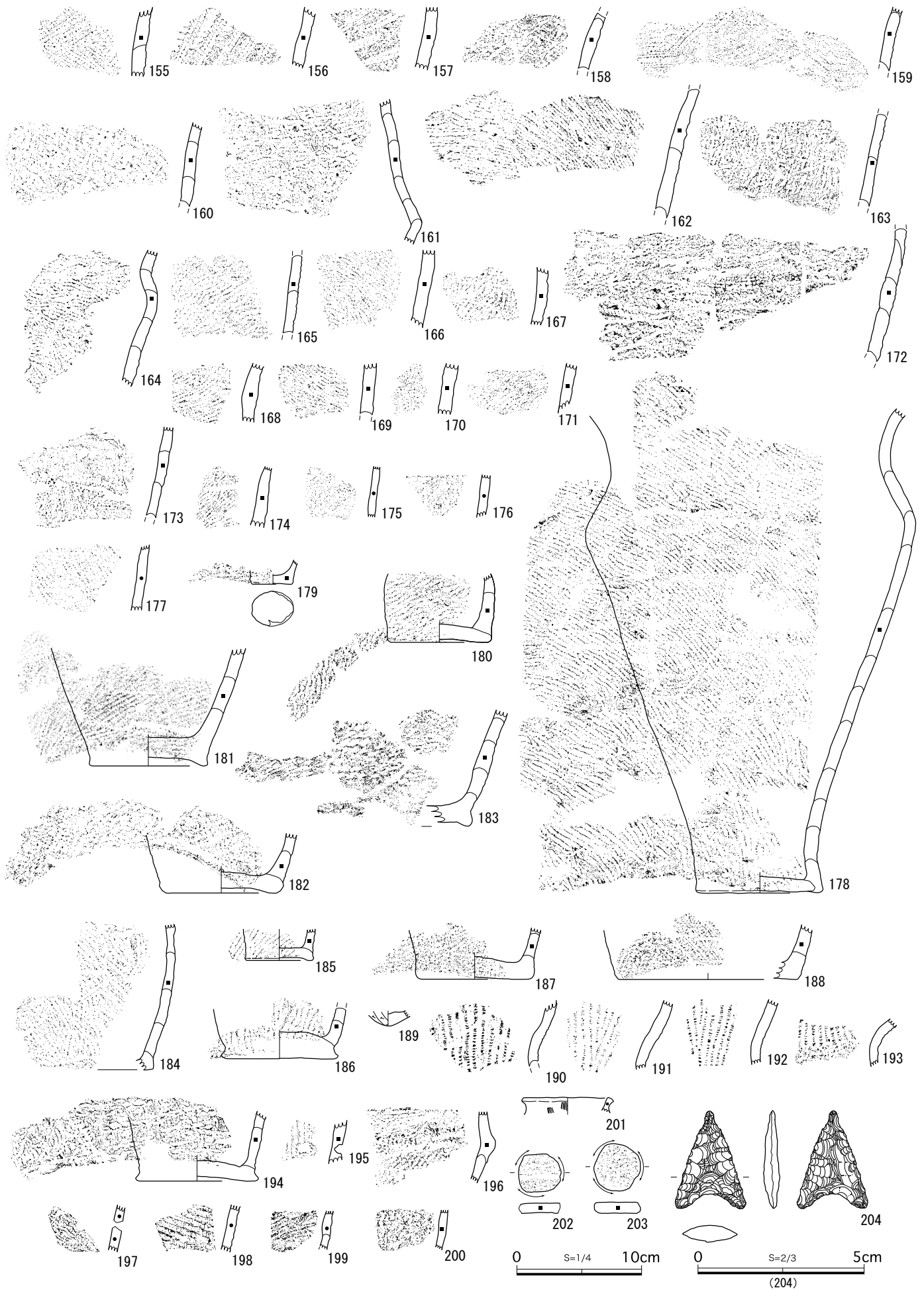
第 49 図 9号住居跡出土遺物 4 (1/4)



第 50 図 9号住居跡出土遺物 5 (1/4)



第 51 図 9号住居跡出土遺物 6 (1/4)



第 52 図 9 号住居跡出土遺物 7 (1/4・2/3)

II 貝層の調査

今回の試掘調査と発掘調査で、貝塚を伴う住居跡は5軒確認され、そのうち3軒（7～9号住居跡）の貝塚を伴う住居跡の調査を行った。2軒（10・11号住居跡）については保存措置とした。

（1） 7号住居跡貝層

今回の調査で最大規模の貝層が遺存していた住居跡である。ただし、他の住居跡と同様に激しく攪乱を受けている部分が多々認められ、出土した貝類もその多くが細片である。総量は88080.72 gで、貝種は25種確認された。最も多いのがマガキで55849.97 g、次いでヤマトシジミ22376.83 g、ハマグリ8330.89 gで全体の98%を占める。第4位はアサリ448.73 g、第5位ハイガイ433.63 gである。

それぞれの貝ブロックで第1位の出土量を誇る貝種は貝ブロック1・7・18・20ではヤマトシジミであるが、そのほかはマガキが第1位を占める。また、マガキは貝ブロック18を除きすべてのブロックで認められる。ヤマトシジミは貝ブロック19・23を除き認められる。ハマグリも出土量こそ前二者に及ばないが、貝ブロック6・19・21・23・25を除き認められる。また、貝ブロック10・22ではマガキに次いで第2位の出土量である。

第4・5位のアサリ・ハイガイは特定の貝ブロックの特定貝層中にややまとまって認められる傾向にある。特にハイガイは、調査時点でも貝ブロック1でヤマトシジミ②層・ハイガイ②層、ヤマトシジミ③層・ハイガイ②層、ハマグリ①層・ハイガイ①層、ハマグリ①層・ハイガイ②層、貝ブロック5でヤマトシジミ③層・ハイガイ①層、貝ブロック7でマガキ①（ハイガイ含）層、マガキ②（ハイガイ含）層として認識できた。アサリは調査時点では認識できなかったが貝ブロック1のヤマトシジミ①層、ヤマトシジミ③層、貝ブロック13のヤマトシジミ①層でややまとまって出土している。

その他の貝種では、オキシジミが出土総量の96%が貝ブロック1から出土している。極微量出土したマツカサガイ・カワアイ・ヘナタリ・ミルクイがほぼ一か所の貝ブロック中に認められる。

発掘調査時には28ヶ所（貝ブロック1～30）に分けていたが、整理作業時に、18ヶ所の貝層（以下、貝ブロック{BL}1～25）に統廃合を行った。各貝BLの概略は以下のとおりである。層位の概略は第17表貝ブロック層位模式表、組成については第21表

上福岡貝塚第2地点貝種別出土集計表のとおりである。

7号住居跡の貝塚は、火工廠の道路が遺構の上部に存在していたため、強度の圧力が貝塚（貝類等の動物遺存体）に影響していた。貝類は取り上げ時に粉々になるものが多く、道路築造による影響で貝塚上部は攪乱または元位置を留めていないものが多い。また、火工廠以前の耕作等の攪乱も受けていた。

① 貝BL1（貝BL1・2・3を統合）

住居跡の北東隅に位置し、小グリッド「34～36区」に広がり、火工廠以前の攪乱を受ける。貝BL17・25と隣接し、本来は同一の可能性が考えられる。

貝BLの規模は、長軸212 cm×短軸95 cm、厚さ14 cmである。小グリッド「た34区」が最も厚く堆積し、「た36区」が薄い。確認面から最下層まで14面（層）に分類した。

基本的に、上層から下層にマガキ層、ハマグリ層、（ハイガイ含む）、ヤマトシジミ層が互層に堆積する。5面マガキ②層と6面ヤマトシジミ③層が広範囲に広がる。13・14面のヤマトシジミから貝類の廃棄が行われる。

② 貝BL5（貝BL4・5・6を統合）

住居跡の南隅に位置し、小グリッド「つ35・36区」、「て35～37区」に広がり、火工廠以前の攪乱を受ける。

貝BLの規模は長軸150 cm×短軸90 cm、厚さ19 cmである。

確認面から最下層まで15面（層）に分類した。

基本的に、上層から下層にマガキ層、ハマグリ層、（ハイガイ含む）、ヤマトシジミ層が互層に堆積する。4・7・11・13面マガキ層と、5・8・9・12面（層）ヤマトシジミ層、10面（層）ハマグリ③層が広範囲に広がる。14・15面ヤマトシジミ層から貝類の廃棄が行われる。

③ 貝BL7（貝BL27を統合）

住居跡の中央部のやや南寄りに位置し、小グリッド「ち37区」、「つ36・37区」に広がり、火工廠以前の攪乱を受ける。

貝BLの規模は、長軸100 cm×短軸51 cm、厚さ14 cmである。

確認面から最下層まで10面（層）に分類した。

基本的に、上層から下層にヤマトシジミ層、ハマグリ層、マガキ層が互層に堆積する。2面～4面、5面～7面、8面～9面で、各々一つのサイクルを呈する

とみられる。1・5面ヤマトシジミ層、7面マガキ②層が広範囲に広がる。10面のマガキ③層から貝類の廃棄が行われる。

④ 貝B L 8 (貝B L 26を統合)

住居跡の中央部南寄りに位置し、小グリッド「つ37・38区」、「て37・38区」に広がる。貝B L 22と隣接し、本来は同一の可能性が考えられる。

貝類の動物依存体は、7号住居跡の覆土層にある楕円形状の土坑から出土した。土坑の規模は上端95 cm×62 cm、下端75 cm×37 cm、深さ8.4 cmである。

貝B Lの規模は、長軸116 cm×短軸65 cm、厚さ12 cmである。確認面から最下層まで10面(層)に分類した。

基本的に、上層から下層にヤマトシジミ層、ハマグリ層、マガキ層が互層に堆積する。「て39区1・5区」は1面～5面、「て37区9・10・13・14区」は1面～10面まで存在する。1面～7面までと、10面マガキ③層は広範囲に広がる。10面のマガキ③層から貝類の廃棄が行われる。

⑤ 貝B L 9

住居跡の西端に位置し、小グリッド「つ39区」、「て39区」に広がる。

貝B Lの規模は、長軸38 cm×短軸32 cm、厚さ1.8 cmである。ヤマトシジミとマガキを含む1層のみで、貝B L 10からの流れ込みによる攪乱層の可能性が高い。

⑥ 貝B L 10 (貝B L 10・11・12を統合)

住居跡の西端に位置し、小グリッド「つ38・39区」、「て39区」に広がる。貝B L 13と隣接し、本来は同一の可能性が考えられる。また貝B L 9は本来貝B L 10が攪乱され移動したのと考えられる。

貝B Lの規模は、長軸115 cm×短軸79 cm、厚さ13 cmである。確認面から最下層まで9面(層)に分類し、その下から出土した土器(注記No.72・73)を10面とした。

基本的に、上層から下層にヤマトシジミ層・ハマグリ層、マガキ層が互層に堆積する。1面～3面、4・5面、6・7面、8・9面で、各々一つのサイクルを呈するとみられる。3・5・7面マガキ層、4・6面ヤマトシジミ層・ハマグリ層が広範囲に広がる。最下層10面から土器(第31図注記No.72・73)が出土し、9面のマガキ④層から貝類の廃棄が行われる。

⑦ 貝B L 13 (貝B L 13・14・28～30を統合)

住居跡の北部に位置し、小グリッド「た38・39区」、

「ち38・39区」、「つ39区」に広がる。貝B L 10・15・23と隣接し、貝B L 10とは同一の可能性が考えられる。

また、全体的に1面のヤマトシジミ①層は攪乱の影響を受けている可能性がある。

貝B Lの規模は、長軸210 cm×短軸85 cm、厚さ13 cmである。確認面から最下層まで10面(層)に分類し、その下に溝状の窪みがあり11面(掘方)とした。

基本的に、上層から下層にヤマトシジミ層、マガキ層が互層に堆積し、一部にハマグリ層、カワニナ層がみられる。1面～3面、4～6面、7～9面、10面で、各々一つのサイクルを呈するとみられる。1面ヤマトシジミ①層、3面マガキ①層が広範囲に広がる。1面(層)にみられるマガキ①層は、攪乱により3面マガキ①層が混入したものと考えられる。10面のマガキ④層・ヤマトシジミ⑤層から貝類の廃棄が行われる。

⑧ 貝B L 15

住居跡の中央部やや北寄り、小グリッド「ち38区」に位置し、貝B L 13・16と隣接する。

貝B Lの規模は、長軸63 cm×短軸33 cm、厚さ9 cmである。確認面から最下層まで3面(層)に分類した。上層から下層にヤマトシジミ①層、マガキ①層、ハマグリ①層が堆積する。マガキ層は広範囲に広がり、最下層のハマグリは数点出土する。

⑨ 貝B L 16

住居跡の中央部に位置し、小グリッド「た37・38区」、小グリッド「ち37区」に広がり、火工廠以前の攪乱を受ける。貝B L 15と隣接する。

貝B Lの規模は、長軸106 cm×短軸40 cm、厚さ10 cmである。確認面から最下層まで6面(層)に分類した。上層から下層にヤマトシジミ層、マガキ層が互層で堆積する。ハマグリ①層が2面(層)で部分的に出土し、4層(面)マガキ①層は広範囲に広がる。最下層のマガキ②層から廃棄が行われるが、極少量であるため平面図に範囲を記録することが出来なかった、ヤマトシジミ③層の一部の可能性も考えられる。

⑩ 貝B L 17

住居跡の北東部、小グリッド「そ36区」・「た36区」に位置し、貝B L 1・25と隣接する。本来は貝B L 1・25と同一の可能性が考えられる。

貝B Lの規模は、長軸29 cm×短軸19 cm、厚さ9 cmである。1面(層)のマガキ層を主体にヤマトシジミを含む。

⑪ 貝B L 18

住居跡の北端、小グリッド「そ 38 区」に位置し、貝 B L 18 と隣接する。攪乱の可能性が考えられる。

貝 B L の規模は、長軸 13 cm×短軸 12 cm である。1 面（層）のみでマガキとヤマトシジミを含む。

⑫ 貝 B L 19

住居跡の北端、小グリッド「そ 38 区」に位置し、貝 B L 19 と隣接する。攪乱の可能性が考えられる。

貝 B L の規模は、長軸 20 cm×短軸 17 cm である。1 面（層）のみでマガキとヤマトシジミを含む。

⑬ 貝 B L 20

住居跡の中央部、小グリッド「ち 35・36 区、つ 35・36 区」に位置し攪乱の可能性が考えられる。

貝 B L の規模は、長軸 22 cm×短軸 17 cm、厚さ 15 cm である。1 面（層）ヤマトシジミ層、2 面（層）マガキ層の 2 層である。

⑭ 貝 B L 21

住居跡の中央部、小グリッド「ち 34・35 区、つ 34・35 区」に位置する。

貝 B L の規模は、長軸 41 cm×短軸 31 cm、厚さ 7 cm である。1 面（層）ヤマトシジミ層、2 面（層）マガキ層の 2 層である。

⑮ 貝 B L 22

住居跡中央部の南西寄り、小グリッド「て 37 区」

に位置し、貝 B L 8 と隣接する。本来は貝 B L 8 と同一の可能性も考えられる。

貝 B L の規模は、長軸 40 cm×短軸 26 cm、厚さ 6 cm である。確認面から最下層まで 3 面（層）に分類した。上層から下層にマガキ①層、ハマグリ①層、マガキ①層が堆積する。マガキ①層の中にハマグリが含まれるものと考えられる。

⑯ 貝 B L 23

住居跡の北端、小グリッド「た 38 区」に位置する。

貝 B L の規模は、長軸 38 cm×短軸 26 cm、厚さ 8 cm である。マガキ層 1 面の純貝層である。

⑰ 貝 B L 24

住居跡中央部の南寄り、小グリッド「つ 35 区」に位置し攪乱の可能性が考えられる。また貝 B L 5 の一部の可能性もある。

貝 B L の規模は、長軸 32 cm×短軸 21 cm、厚さ 7 cm である。1 面（層）ヤマトシジミ①層、2 面（層）マガキ①層、3 面（層）ハマグリ①層の 3 層である。マガキ①層の分布が広く、ヤマトシジミとハマグリは、その両端の南北に分かれる。

⑱ 貝 B L 25

住居跡の北東部、小グリッド「た 36 区」に位置し、

貝 B L 1・25 と隣接する。本来は貝 B L 1・17 と同

第 17 表 7 号住居跡貝ブロック層位模式表①

貝 BL 1 (た 34 区)		貝 BL 1 (た 35 区)		貝 BL 1 (た 36 区)	
1 面	マガキ①			1 面	マガキ①
2 面	ヤマトシジミ①			2 面	ヤマトシジミ①
3 面	ハマグリ①	3 面	ハマグリ①		
	ハイガイ①				
4 面	ヤマトシジミ②				
	ハイガイ②				
5 面	マガキ②	5 面	マガキ②		
6 面	ヤマトシジミ③	6 面	ヤマトシジミ③		
	ハマグリ②				
7 面	マガキ③				
	土層		土層		土層
8 面	ハマグリ③	8 面	ハマグリ③		
9 面	ヤマトシジミ④	9 面	ヤマトシジミ④	9 面	ヤマトシジミ④
		10 面	マガキ④		
11 面	ハマグリ④	11 面	ハマグリ④		
		12 面	マガキ⑤		
13 面	ヤマトシジミ⑤	13 面	ヤマトシジミ⑤		
14 面	ヤマトシジミ⑥	14 面	ヤマトシジミ⑥		

貝 BL 5 (つ 35 区・36 区・て 35 区・36 区・37 区)	
1 面	マガキ①
2 面	ヤマトシジミ①
3 面	ハマグリ①
4 面	マガキ②
5 面	ヤマトシジミ②
6 面	ハマグリ②
7 面	マガキ③
8 面	ハイガイ①
9 面	ヤマトシジミ③
10 面	ハマグリ③
11 面	マガキ④
12 面	ヤマトシジミ④
13 面	マガキ⑤
14 面	ヤマトシジミ⑤
	土層
15 面	ヤマトシジミ⑥

貝 BL 7 (ち 37 区・つ 36 区・つ 37 区)	
1 面	ハマグリ①
2 面	ヤマトシジミ①
3 面	ハマグリ②
4 面	マガキ①
5 面	ヤマトシジミ②
6 面	ハマグリ③
7 面	マガキ②
8 面	ヤマトシジミ③
9 面	ハマグリ④
10 面	マガキ③

貝 BL 8 (て 38 区 1・5)		貝 BL 8 (て 37 区 9・10・13・14)	
1 面	ハマグリ①	1 面	ハマグリ①
2 面	ヤマトシジミ①	2 面	ヤマトシジミ①
3 面	マガキ①	3 面	マガキ①
4 面	ハマグリ②	4 面	ハマグリ②
5 面	ヤマトシジミ②	5 面	ヤマトシジミ②
		6 面	ハマグリ③
		7 面	マガキ②
		8 面	ヤマトシジミ③
		9 面	ハマグリ④
		10 面	マガキ③

貝 BL10 (つ 38 区・つ 39 区・て 39 区)	
1 面	ヤマトシジミ①
2 面	ハマグリ①
3 面	マガキ①
4 面	ハマグリ②、ヤマトシジミ②
5 面	マガキ②
6 面	ヤマトシジミ③、ハマグリ③
7 面	マガキ③
8 面	ヤマトシジミ④
	ハマグリ④
9 面	マガキ④
10 面	土器 No. 97

第18表 7号住居跡貝ブロック層位模式表②

貝 BL13 (た 38・39 区 2)		貝 BL13 (た 38 区 16・ち 38 区 13)		貝 BL13 (ち 39 区 6～8)		貝 BL13 (ち 38 区 15・16)	
1 面	マガキ①、ヤマトシジミ①	1 面	マガキ①、ヤマトシジミ①	1 面	マガキ①、ヤマトシジミ①	1 面	マガキ①、ヤマトシジミ①
	土層		土層				
2 面	ヤマトシジミ②	2 面	ヤマトシジミ②	2 面	ヤマトシジミ②	2 面	ヤマトシジミ②
	土層						
3 面	マガキ①	3 面	マガキ①	3 面	マガキ①	3 面	マガキ①
		4 面	ヤマトシジミ③			4 面	ヤマトシジミ③
5 面	ハマグリ①	5 面	ハマグリ①				
6 面	マガキ②	6 面	マガキ②			6 面	マガキ②
						7 面	ヤマトシジミ④
						8 面	マガキ③
						9 面	カワニナ①
							ヤマトシジミ⑤
						10 面	マガキ④

貝 BL15 (ち 38 区)	
1 面	ヤマトシジミ①
2 面	マガキ①
3 面	ハマグリ①

貝 BL16 (ち 38 区)		貝 BL16 (た 37 区 14～16・ち 37 区 13. 14)	
1 面	ヤマトシジミ①	1 面	ヤマトシジミ①
2 面	ハマグリ①	2 面	ハマグリ①
3 面	ヤマトシジミ②		
4 面	マガキ①	4 面	マガキ①
5 面	ヤマトシジミ③		
6 面	マガキ②		

貝 BL17	
1 面	マガキ、ヤマトシジミ

貝 BL18 (そ 38 区)	
1 面	マガキ、ヤマトシジミ

貝 BL19	
1 面	マガキ、ヤマトシジミ

貝 BL20	
1 面	ヤマトシジミ
2 面	マガキ

貝 B L 21	
1 面	ヤマトシジミ
2 面	マガキ

貝 BL22	
1 面	マガキ①
2 面	ハマグリ①
3 面	マガキ①

貝 B L 23	
1 面	マガキ

貝 BL24 (つ 35 区 10. 14)	
1 面	ヤマトシジミ①
2 面	マガキ①
3 面	ハマグリ①

貝 B L 25	
1 面	マガキ、ヤマトシジミ

一の可能性が考えられる。

貝 B L の規模は、長軸 16 cm×短軸 10 cm、厚さ 4 cm である。1 面（層）のマガキ層を主体にヤマトシジミを含む。

(2) 8号住居跡貝層

6ヶ所の貝層（以下、貝ブロック { B L } I～VI）を検出した。本住居跡の貝ブロックは樹木の根等による影響を僅かに受けるが、火工廠等の人為的な影響は少なく、全体的に保存状態は良好である。

小規模な貝ブロックが、いずれも床面上から形成されている。他の住居跡と同様に出土した貝は細片が多い。貝の出土総量は 9901.05 g で貝種は 20 種が確認された。最も多いのがヤマトシジミで 6542.09 g、次いでマガキ 2276.25 g、ハマグリ 842.83 g で全体の 98% を占める。第4位アサリ 100.11 g、第5位シオフキ 42.97 g である。

それぞれの貝ブロックで第1位の出土量を誇る貝種は貝ブロック V を除きマガキである。貝ブロック V はヤマトシジミである。ただし、本住居跡では上述のように 8ヶ所の貝ブロックが検出されているが、出土総量の 68.6% 以上が貝ブロック V に属するため、総量ではヤマトシジミが第1位の出土量を誇る。

第4位のアサリは貝ブロック IV でマガキに次ぐ出土量であり、やや特定貝ブロックに偏って出土している。シオフキは貝ブロック III で出土総量の 87.8% 以上が纏まって出土している。極微量出土したタニシ・イシガイ・ミルクイ・ツメタガイも一ヶ所の貝ブロック中に認められる。

① 貝 B L I

8 住居跡炉の直上、小グリッド「お 14・15 区」に位置する。

貝 B L の規模は、長軸 30 cm×短軸 22 cm、厚さ 10 cm である。

上層から下層に 1 面（層）ヤマトシジミ①層、2 面（層）マガキ①層、3 面（層）ヤマトシジミ②層、4 面（層）マガキ②層が確認された。床面付近は炉の影響とみられる灰層と焼土層が検出された。

② 貝 B L II

住居跡の北西部で貝 B L I と III の間、小グリッド「つ 35 区」に位置する。攪乱の可能性がある。本来は貝 B L I の一部だった可能性が高い。貝 B L の規模は、長軸 25 cm×短軸 8 cm、厚さ 8 cm である。上層から下層に 1 面（層）ヤマトシジミ層、2 面（層）マガキ層が確認された。1 面のヤマトシジミ層は、貝 B L I のヤマトシジミ①層に、2 面のマガキ層は 4 面のマガキ

第19表 8号住居跡貝ブロック層位模式表

貝 BL I		貝 BL IV	
1面	ヤマトシジミ①	1面	ヤマトシジミ①
2面	マガキ①	2面	マガキ①
3面	ヤマトシジミ②	3面	ヤマトシジミ②
4面	マガキ②	貝 BL V	
5面	灰範囲	1面	ヤマトシジミ①
6面	焼土範囲	2面	ヤマトシジミ②
貝 BL II			マガキ①
1面	ヤマトシジミ		ハマグリ①
2面	マガキ	3面	ハマグリ②
貝 BL III			ハマグリ③
1面	マガキ①	4面	ヤマトシジミ③
2面	ヤマトシジミ①	貝 BL VI	
3面	マガキ②	1面	マガキ
			ヤマトシジミ

②層に対応する可能性有。

③ 貝 BL III

住居跡の北端、小グリッド「え 14・15 区」に位置する。貝 BL の規模は、長軸 55 cm×短軸 35 cm、厚さ 10 cm である。

上層から下層に 1 面（層）マガキ①層、2 面（層）ヤマトシジミ①層、3 面（層）マガキ②層が確認された。マガキ①層の下部にオオタニシ数点が出土、ヤマトシジミ①層にはハマグリやオキシジミを含む。

④ 貝 BL IV

住居跡の北部、小グリッド「え 14 区、お 14 区」に位置し、2ヶ所に分かれる。

貝 BL の規模は、長軸 45 cm×短軸 35 cm と長軸 10 cm×短軸 9 cm、厚さ 8 cm である。

上層から下層に 1 面（層）ヤマトシジミ①層、2 面（層）マガキ①層、3 面（層）ヤマトシジミ②層が確認された。マガキ①層は土層をほとんど含まずマガキの塊に近い。

⑤ 貝 BL V

住居跡の東部、小グリッド「え 12・13 区、お 12・13 区」に位置する。

貝 BL の規模は、長軸 98 cm×短軸 48 cm、厚さ 10 cm である。

上層から下層に 1 面（層）ヤマトシジミ①層、2 面（層）ヤマトシジミ②層・マガキ①層・ハマグリ①層、3 面（層）ハマグリ②③、4 面（層）ヤマトシジミ③層が確認された。ヤマトシジミを主体に、マガキ・ハマグリ・オオタニシ・ハイガイを出土する。

⑥ 貝 BL VI

住居跡の南部、小グリッド「か 13・14 区」に位置する。

貝 BL の規模は、長軸 25 cm×短軸 16 cm、厚さ 8 cm である。1 面（層）マガキ層を主体にヤマトシジミを

僅かに含む。

（3） 9号住居跡

4ヶ所の貝層（以下、貝ブロック { BL } I～IV）を検出した。本住居跡の貝ブロックは樹木の根等による影響を僅かに受けるが、火工廠等の人為的な影響は少なく、全体的に保存状態は良好である。

小規模な貝ブロックが 4ヶ所検出された。貝ブロック III・IV がやや大きく住居床面上から形成されている。貝ブロック I・II はより小規模で住居覆土中層中に検出された。他の住居跡と同様に出土した貝は細片が多い。貝の出土総量は 7593.07 g で、貝種は 17 種が確認された。最も多いものがマガキで 6295.13 g、次いでヤマトシジミ 1009.61 g、チリメンカワニナ 183.64 g で、全体の 98%以上を占める。

他の 2 軒の住居跡と違いハマグリよりチリメンカワニナが多く出土している。チリメンカワニナは貝ブロック III にのみ認められる。特にカワニナ①層として独立した層として取り上げたように、まとめて廃棄した状況が認められる。

貝層ブロックが 4ヶ所のみであるため、他の住居貝層と比べ、チリメンカワニナの比率が高くなったものと思われる。その一方で、ハマグリは全体の 1%未満であるため、もともと他の住居貝層に比べ、出土比率が低いものと思われる。

① 貝 BL I

9 住居跡の東端、小グリッド「に 0 区」に位置する。

貝 BL の規模は、長軸 22 cm×短軸 17 cm、厚さ 8 cm である。

上層から下層に 1 面（層）マガキ①層、土層を挟んで、2 面（層）マガキ②層が確認された。マガキ②層にハマグリを僅かに含む。住居跡の床面から 7 cm ほど土層が堆積した後に貝層が形成される。

② 貝 BL II

住居跡中央部で貝 BL III と IV の間、小グリッド「ね 1 区」に位置する。

貝 BL の規模は、長軸 22 cm×短軸 17 cm、厚さ 9 cm である。

上層から下層に 1 面（層）ヤマトシジミ①層、2 面（層）ハマグリ①層・ハイガイ①層、3 面（層）ヤマトシジミ②層、4 面（層）マガキ①層が確認された。ヤマトシジミ①層は面で広がるが、他の層は僅かに出土する。

③ 貝 BL III

住居跡中央部で貝 BL I と II の間、小グリッド「ぬ

1・2区、ね1・2区」に位置する。

貝BLの規模は、長軸68cm×短軸62cm、厚さ16cmである。

上層から下層に1面（層）マガキ①層・ヤマトシジミ①層、土層を挟んで2面（層）マガキ②層、3面（層）カワニナ①層と巻貝・ハイガイ層、4面（層）ヤマトシジミ②層、5面（層）マガキ③層、6面（層）ヤマトシジミ③層が確認された。2面と5面のマガキ②・③層の中に、4面のヤマトシジミ②が挟まれる様相である。また、注記No.880・881・873の土器は貝層形成後に廃棄されたものである。3面（層）カワニナ①層と巻貝・ハイガイ層とした貝類は、マガキ②層とヤマトシジミ③層の間と、マガキ③とヤマトシジミ④層の間からも出土する。

④ 貝BLIV

住居跡の南部に位置し、小グリッド「の2区、は2区」に広がり西側は攪乱を受ける。住居跡廃棄後に堆積した土層の傾斜に沿って、土器と動物遺存体が出土する。こうした貝塚の形成時期は、同住居跡内の貝BL1～3も同様と考えられる。ただし、土器の集中的な廃棄状況は、住居廃絶後に窪み状を呈し、そこに貝塚の廃棄と形成がされ、さらに土器の集中廃棄が行われたものとする。

貝BLの規模は、長軸86cm×短軸22cm、厚さ20cmである。

上層から下層に1面（層）マガキ①層、2面（層）遺物層（土器）、3面（層）ヤマトシジミ①～③層、4面（層）マガキ②層が確認された。縄文土器（注記No.889）を挟んで上下層よりマガキ①・②層が出土した。またヤマトシジミ②層は土器（注記No.889）の中より出土した。マガキ①層・②層は広い範囲に広がるが、ヤマトシジミは量的にも面的にも少ない。

第20表 9号住居跡貝ブロック層位模式表

貝BL I		貝BL II	
1面	マガキ①	1面	ヤマトシジミ①
	土層	2面	ハマグリ①
2面	マガキ②		ハイガイ①
		3面	ヤマトシジミ②
		4面	マガキ①

貝BL III		貝BL IV	
1面	マガキ①	1面	マガキ①
	ヤマトシジミ①	2面	遺物（土器）
	土層	3面	ヤマトシジミ①～③
2面	マガキ②	4面	マガキ②
3面	カワニナ①		
	ハイガイ		
4面	ヤマトシジミ②		
5面	マガキ③		
6面	ヤマトシジミ③		

Ⅲ 産出した動物遺体群

（1）はじめに

今回の調査では7軒の黒浜期の住居跡が検出されたが、そのうち7・8・9号住居跡で貝層が認められた。各住居ごとの貝層の所見についてはすでに述べているので、ここでは、3軒の貝層の異同について見ていきたい。

現地調査では、検出された貝ブロックごとに取り上げを行った。平面的な位置に関しては1m四方の大グリッドをさらに16分割（25×25cm）し取り上げ単位とした。さらに水平位置を考慮し各層ごとに取り上げた。取り上げに際しては、貝だけでなく、土壌を含め取り上げた。通しナンバーを振り台帳を作成した。取り上げ単位に軽重はあるが7号住居跡で666袋、8号住居跡で150袋、9号住居跡で58袋の合計874袋に及んだ。

整理作業における貝層の調査は、ふじみの市教育委員会2009『市内遺跡群4』第2章上福岡貝塚第1地点の本調査のp.p173の①-2 資料の抽出方法に準じて行った。

（2）住居跡検出の貝種について

7号住居跡が88080.72g、8号住居跡が9901.05g、9号住居跡が7593.07gの合計105574.84gが出土した。出土した貝種は28種で出土総量が多い種から記すとマガキ・ヤマトシジミ・ハマグリ・アサリ・ハイガイ・オオノガイ・チリメンカワニナ・シオフキ・サルボウ・オキシジミ・オオタニシ・カガミガイ・アカニシ・ミルクイ・マツカサガイ・ウミニナ・カワニナ・タニシ・カクタニシ・イボウミニナ・アラムシロ・イタボガキ・ツメタガイ・イシガイ・ヘナタリ・キサゴ・マテガイ・カワアイである。前述のように遺存状態は悪く、多くの貝が細片となっている。

貝の出土総量では7号住居跡が最も多く全体の83%以上を占め他の2軒の住居跡を圧倒している。しかし、各住居跡を通しての主体となる貝種は共通している。7・9号住居跡ではマガキ・ヤマトシジミ・ハマグリ順であるが、8号住居跡では、マガキとヤマトシジミが入れ替わっているが、主体を占める3種の貝は変わらない。さらに1・2を占めるマガキとヤマトシジミを合わせた比率は7号住居跡が88.8%、8号住居跡が89.0%、9号住居跡が96.2%である。これにハマグリを加えると、いずれも96%以上の比率になる。

第 21 表 上福岡貝塚第 2 地点貝種別出土集計表

貝種	7 号住居跡 (g)	8 号住居跡 (g)	9 号住居跡 (g)	出土総量 (g)	出土比率 (%)
マガキ	55849.97	2276.25	6295.13	64421.35	61.020%
ヤマトシジミ	22376.83	6542.09	1009.61	29928.53	28.348%
ハマグリ	8330.89	842.83	33.94	9207.66	8.721%
アサリ	448.73	100.11	2.07	550.91	0.522%
ハイガイ	433.63	13.29	24.14	471.06	0.446%
オオノガイ	210.08	4.29	0	214.37	0.203%
チリメンカワニナ	13.18	6.34	183.64	203.16	0.192%
シオフキ	109.31	42.97	9.61	161.89	0.153%
サルボウ	111.44	4.99	4.58	121.01	0.115%
オキシジミ	81.85	0	0	81.85	0.078%
オオタニシ	11.54	21.32	11.6	44.46	0.042%
カガミガイ	34	8.14	0	42.14	0.040%
アカニシ	20.35	0	0	20.35	0.019%
ミルクイ	0.55	16.32	0	16.87	0.016%
マツカサガイ	2.68	13.23	0	15.91	0.015%
ウミニナ	6.9	3.18	3.64	13.72	0.013%
カワニナ	9.9	0.06	1.02	10.98	0.010%
タニシ	7.78	0.69	1.81	10.28	0.010%
カクタニシ	0	0	9.92	9.92	0.009%
イボウミニナ	6.89	0	0	6.89	0.007%
アラムシロ	4.57	1.01	0.36	5.94	0.006%
イタボガキ	5.16	0	0	5.16	0.005%
ツメタガイ	0	1.5	0.85	2.35	0.002%
イシガイ	0	2.28	0	2.28	0.002%
ヘナタリ	1.68	0	0	1.68	0.002%
キサゴ	1.04	0	0.62	1.66	0.002%
マテガイ	1.26	0	0	1.26	0.001%
カワアイ	0.51	0.16	0.53	1.2	0.001%
合計	88080.72	9901.05	7593.07	105574.84	100.000%

これらのことから、マガキ・ヤマトシジミを集中的に採集していた様子が見て取れる。

(3) 混貝率について

複数の層序が確認できる貝ブロックでは、混貝率が 50%を超えるものが主体を占める。その点では、所謂混土貝層と呼べるものである。

7 号住居跡では 19 ヶ所の貝ブロックが検出されているが、貝層形成が未発達なものや、攪乱を受けて層序が認められない貝ブロック 9・17～19 で 50%を切るがその他の貝ブロックでは 50%を遥かに超えるものが多い。貝ブロック 7・15・16・20・21・22・24 で、いずれの細分層でも 50%を超えている。

細分層毎に見てみると、75%を超えるものが、貝ブロック 1 のヤマトシジミ②層、ヤマトシジミ②・ハイガイ②層、ハイガイ②層、貝ブロック 5 のマガキ④層、ハマグリ②層、貝ブロック 7 のマガキ①層、マガキ②層、マガキ①（オオタニシ含む）層、マガキ①（ハイガイ含む）層、マガキ③層、ヤマトシジミ①層、シジミ①（炭）層、ハマグリ②層、ハマグリ③層、ハマグリ③（オオタニシ含む）層、ハマグリ③（サルボウ含む）層、ハマグリ④層、貝ブロック 8 のマガキ③層、ヤマトシジミ②層、ハマグリ①層、貝ブロック 10 のハマ

グリ①層、貝ブロック 13 のオオノガイ層、マガキ①層、マガキ②層、マガキ③・④層、貝ブロック 15 のマガキ①層、貝ブロック 16 のヤマトシジミ②層、ハマグリ①層、貝ブロック 20 のヤマトシジミ①層を挙げることができる。特に貝ブロック 7 で攪乱をのぞく 16 細分された内、12 の貝層で混貝率が 75%を超えている。

8 号住居跡では 7 か所の貝ブロックが検出された。その内、貝ブロック I・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵで混貝率が 50%を超えている。細分層ごとに見ると、貝ブロックⅤのヤマトシジミ②層、ヤマトシジミ③層、ヤマトシジミ③（カワニナ含む）層、ハマグリ①・マガキ①層で 75%以上の混貝率が認められる。

9 号住居跡では 2 か所の貝ブロックが検出されたが、いずれも混貝率が 50%を超えている。細分層ごとに見ると、貝ブロックⅢのマガキ①層、マガキ②層、マガキ③層、ヤマトシジミ①層、ヤマトシジミ②層、貝ブロックⅣのマガキ①層、マガキ②層で混貝率が 75%を超えている。

各住居跡ごとの混貝率は 7 号住居跡が 69.5%、8 号住居跡が 70.2%、9 号住居跡が 81.4%である。7・8 号住居跡が混貝率が 70%前後であるのに対して、9 号住居跡は前 2 者より 10%程高くなっている。ま

た、いずれの住居跡でも、貝ブロックごとに見ると、細分層の過半数で50%以上の混貝率をもつ、安定した貝ブロックが認められる。例えば、7号住居跡の貝ブロック1・5・7・8・13・15・16、8号住居跡では貝ブロックⅢ・Ⅴ、9号住居跡では、貝ブロックⅢ・Ⅳがそれぞれ該当する。7号住居跡では、それ以外にも、過半数の細分層で50%を超える混貝率をもつが、細分層数が少ないので除外した。

これらの安定した貝層には、前述した出土総量の1・2であるマガキ・ヤマトシジミのほかにハマグリ層が概ね認められることに特徴を見出すことができるであろう。ハマグリ層と冠したものの混貝率は、第7号住居跡の貝ブロック1のハマグリ①・ハイガイ②層、貝ブロック13のハマグリ①層を除き混貝率は50%を超える。中には7号住居跡の貝ブロック5ハマグリ②層のように90%を超えるものも存在する。このことから、ハマグリは一時期に消費され、一括して廃棄されたものと思われる。

(4) 出土貝の左右及びサイズについて

すでに繰り返してきたように今回の調査で検出された貝層の貝はいずれも細片が多く計量に耐えられるものはあまり多くなかった。その中で7号住居跡から出土した貝で左右を計測した(第25表)。左右が判明した貝種はヤマトシジミ、マガキ、ハイガイ、ハマグリ、サルボウ・アサリ・シオフキであるが、ヤマトシジミを除き、数は少ないが、左右の数に偏りは認められない。

次にヤマトシジミの殻長について述べる。7号住居跡では876個体を対象とした。ヒストグラムを見ると正規分布に近く22～24mmにピークが認められる。8・9号住居跡でも同様な正規分布が認められる。ただし8号住居跡では殻長の平均値は26.99mmで、7号住居跡にくらべやや大きい。

範囲について見てみると、7号住居跡が42、8号住居跡が31.5、9号住居跡が23で住居跡により違いが認められる。母数の違いも反映されていると思われるが、7号住居跡が外れ値があり、9号住居跡の方がより個体間に殻長の大きさに差がないと言える。ただし、このことが特定の大きさを意図的に採取していたわけではないであろう。当時の海浜に生息するヤマトシジミの平均的な個体の大きさを反映したものと考えられる。

第 22 表 7号住居跡混貝率集計表

(単位 g. %)

貝 BL No.		マガキ①	マガキ②	マガキ③	マガキ④	マガキ⑤	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	ヤマトシジミ② ハイガイ②
1	洗浄後重量	1122.82	2971.04	2591.53	1379.35	42.65	6497.49	328.65	455.27
	貝重量	314.52	2060.09	1937.15	970.19	28.62	3295.4	257.35	396.36
	混貝率	28.01%	69.34%	74.75%	70.34%	67.10%	50.72%	78.31%	87.06%
		ヤマトシジミ③ ハイガイ②	ヤマトシジミ④	ヤマトシジミ⑤	ヤマトシジミ⑥	ハマグリ①	ハマグリ① ハイガイ①	ハマグリ① ハイガイ②	ハマグリ③
	洗浄後重量	147.29	771.03	1630.46	56.75	447.15	145.35	245.67	1809.75
	貝重量	128.68	561.21	927.02	18.31	292.47	84.52	14.33	1226.69
5	混貝率	87.37%	72.79%	56.86%	32.26%	65.41%	58.15%	5.83%	67.78%
		マガキ①	マガキ②	マガキ③	マガキ④	マガキ⑤	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	ヤマトシジミ③
	洗浄後重量	954.05	5941.55	7417.18	10316.38	6321.18	717	2487.42	193.69
	貝重量	514.42	4452.38	5195.36	7882.64	4705.02	475.3	1643.67	133.13
	混貝率	53.92%	74.94%	70.04%	76.41%	74.43%	66.29%	66.08%	68.73%
		ヤマトシジミ④	ヤマトシジミ⑤	ヤマトシジミ⑥	ハマグリ①	ハマグリ②	ハマグリ③	攪乱	
6	洗浄後重量	307.29	54.47	15.24	405.38	275.26	764.57	3736.88	
	貝重量	220.42	14.07	2.72	294.47	248.61	524.58	2340.1	
	混貝率	71.73%	25.83%	17.85%	72.64%	90.32%	68.61%	62.62%	
		不明							
	洗浄後重量	62.68							
	貝重量	26.55							
7	混貝率	42.36%							
		マガキ①	マガキ① (ハイガイ含)	マガキ②	マガキ① (オオタニシ含)	マガキ① (ハイガイ含)	マガキ③	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ① (炭)
	洗浄後重量	526.43	98.29	2102.64	553.06	701.87	683.84	4796.92	1517.64
	貝重量	440.73	67.13	1588.89	484.1	548.39	522.83	3697.49	1292.25
	混貝率	83.72%	68.30%	75.57%	87.53%	78.13%	76.46%	77.08%	85.15%
		ヤマトシジミ② (カワニナ含)	ヤマトシジミ② (炭3)	シジミ③	ハマグリ②	ハマグリ③	ハマグリ③ (オオタニシ含)	ハマグリ③ (サルボウ含)	ハマグリ④
8	洗浄後重量	80.11	160.72	445.32	73.03	143.91	310.24	115.06	357.29
	貝重量	57.13	109.69	323.75	60.52	115.16	245.16	87.67	294.68
	混貝率	71.31%	68.25%	72.70%	82.87%	80.02%	79.02%	76.20%	82.48%
		攪乱							
	洗浄後重量	177.26							
	貝重量	113.99							
9	混貝率	64.31%							
		マガキ①	マガキ②	マガキ③	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	ヤマトシジミ③	ハマグリ①	ハマグリ②
	洗浄後重量	2517.87	1298.7	3018.99	471.63	1083.73	111.29	600.19	1195.14
	貝重量	1836.64	968.43	2268.2	201.91	821.99	54.17	469.08	693.06
	混貝率	72.94%	74.57%	75.13%	42.81%	75.85%	48.67%	78.16%	57.99%
		ハマグリ④							
10	洗浄後重量	61.59							
	貝重量	35.03							
	混貝率	56.88%							
		攪乱							
	洗浄後重量	155.45							
	貝重量	34.46							
13	混貝率	22.17%							
		混貝土	マガキ①	マガキ②	マガキ③	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ② ハマグリ②	ヤマトシジミ③ ハマグリ③	ハマグリ①
	洗浄後重量	47.44	1779.64	756.29	998.64	338.58	1032.17	330.16	508.35
	貝重量	23.97	1177	525.27	738.62	93.1	770.57	208.58	394.97
	混貝率	50.53%	66.14%	69.45%	73.96%	27.50%	74.66%	63.18%	77.70%
		オオノガイ	マガキ①	マガキ②	マガキ③・④	マガキ④	カワニナ①	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ① (攪乱)
14	洗浄後重量	2.98	6230.71	983.55	289.6	15.96	18.26	3521.95	943.77
	貝重量	2.96	5117.4	741.62	224.36	2.28	7.48	1618.24	492.19
	混貝率	99.33%	82.13%	72.94%	77.47%	14.29%	40.96%	45.95%	52.15%
		ヤマトシジミ③	ヤマトシジミ④	ハマグリ①					
	洗浄後重量	141.41	18.47	42.31					
	貝重量	84.08	9.29	14.14					
14	混貝率	59.46%	50.30%	33.42%					
		マガキ①	ヤマトシジミ①	ハマグリ①					
	洗浄後重量	1438.28	426.14	29.39					
14	貝重量	1088.5	285.61	19.34					
	混貝率	75.68%	67.02%	65.80%					

(単位 g. %)

		マガキ①	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	ヤマトシジミ③	ハマグリ①			
16	洗浄後重量	5179.1	269.03	64.79	49.61	92.8			
	貝重量	3817	183.06	48.75	27.67	77.49			
	混貝率	73.70%	68.04%	75.24%	55.78%	83.50%			
17	マガキ①								
	洗浄後重量	410.1							
	貝重量	174.26							
18	混貝率	42.49%							
	攪乱								
	洗浄後重量	37.2							
19	貝重量	0.55							
	混貝率	1.48%							
20	マガキ①								
	洗浄後重量	199.51							
	貝重量	50.64							
21	混貝率	25.38%							
	マガキ①		ヤマトシジミ①	一括					
	洗浄後重量	257.86	409.86	429.82					
22	貝重量	177.15	324.64	315.87					
	混貝率	68.70%	79.21%	73.49%					
23	マガキ①		ヤマトシジミ①						
	洗浄後重量	150.31	135.16						
	貝重量	110.48	82.66						
24	混貝率	73.50%	61.16%						
	マガキ①		ハマグリ①						
	洗浄後重量	981.81	86.91						
25	貝重量	637.53	57.56						
	混貝率	64.93%	66.23%						
26	カキ①								
	洗浄後重量	462.11							
	貝重量	277.82							
27	混貝率	60.12%							
	ヤマトシジミ①		ハマグリ① マガキ①						
	洗浄後重量	38.19	559.18						
28	貝重量	21.06	393.45						
	混貝率	55.15%	70.36%						
29	マガキ①								
	洗浄後重量	331.17							
	貝重量	191.37							
30	混貝率	57.79%							
	住居一括		攪乱						
	洗浄後重量	45.5	15.89						
その他	貝重量	36.72	0.01						
	混貝率	80.70%	0.06%						

第 23 表 8号住居跡混貝率集計表

(単位 g. %)

貝 BL No.		マガキ①	マガキ① ヤマトシジミ①	マガキ②	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	土層		
1	洗浄後重量	488.21	58.19	358.53	142.57	70.96	24.48		
	貝重量	325.51	9.02	212.62	61.91	28.56	1.7		
	混貝率	66.67%	15.50%	59.30%	43.42%	40.25%	6.94%		
2		マガキ①	シジミ①	土層					
	洗浄後重量	173.49	66.63	17.4					
	貝重量	88.53	27.15	0					
	混貝率	51.03%	40.75%	0.00%					
3		マガキ①	マガキ① ヤマトシジミ① マガキ②	マガキ②	ヤマトシジミ①	土層			
	洗浄後重量	1501.14	37.42	392.82	224.8	111.55			
	貝重量	1056.58	0.01	241.61	124.39	25.19			
	混貝率	70.39%	0.03%	61.51%	55.33%	22.58%			
4		マガキ①	マガキ②	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②				
	洗浄後重量	808.63	13.65	231.41	202.96				
	貝重量	486.07	0.58	38.49	81.68				
	混貝率	60.11%	4.25%	16.63%	40.24%				
5		マガキ①	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	ヤマトシジミ③	ヤマトシジミ③ (カワニナ)	ヤマトシジミ④	ハマグリ① マガキ①	ハマグリ②
	洗浄後重量	8.04	416.99	4018.55	2316.77	0.59	968.6	93.53	334.94
	貝重量	6.01	95.55	3606.47	1890.37	0.59	536.85	73.59	228.74
	混貝率	74.75%	22.91%	89.75%	81.60%	100.00%	55.43%	78.68%	68.29%
		ハマグリ③	土層						
	洗浄後重量	34.9	5.93						
	貝重量	26.07	0						
6		マガキ①	土層						
	洗浄後重量	460.97	12.75						
	貝重量	292.27	0.81						
	混貝率	63.40%	6.35%						
8		ヤマトシジミ①							
	洗浄後重量	33.57							
	貝重量	1.93							
	混貝率	5.75%							
不明		不明							
	洗浄後重量	1.96							
	貝重量	0.35							
	混貝率	17.86%							

第 24 表 9号住居跡混貝率集計表

(単位 g. %)

貝 BL No.		2 層	マガキ①	マガキ②	マガキ③	カワニナ①	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	ヤマトシジミ② マガキ②
3	洗浄後重量	12.4	58.9	3694.16	1048.6	279.18	557.97	524.59	26.5
	貝重量	8.62	46.47	3174.51	836.42	201.05	432.21	441.5	14.74
	混貝率	69.52%	78.90%	85.93%	79.77%	72.01%	77.46%	84.16%	55.62%
		ヤマトシジミ③	断面						
	洗浄後重量	91.22	204.87						
	貝重量	62.52	73.32						
4		マガキ①	マガキ②	ヤマトシジミ①	ヤマトシジミ②	断面			
	洗浄後重量	1359.71	1354.98	47.61	5.11	83.16			
	貝重量	1145.55	1086.73	34.62	0	55.66			
	混貝率	84.25%	80.20%	72.72%	0.00%	66.93%			

第25表 7号住居跡二枚貝集計表

貝種	左	右	合計
ハイガイ	13	16	29
ヤマトシジミ	452	424	876
ハマグリ	9	9	18
サルボウ	1	0	1
アサリ	0	1	1
シオフキ	0	1	1
マガキ	32	27	59

※マガキは上を左、下を右にした

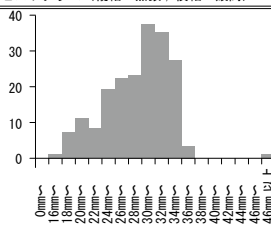
第26表 7号住居跡の殻長に関する記述統計量

7号住居跡ヤマトシジミ (全体)		7号住居跡 (ヤマトシジミ)										
全体数		貝ブロック1 貝ブロック5 貝ブロック7 貝ブロック8 貝ブロック9 貝ブロック10 貝ブロック13 貝ブロック16 貝ブロック20 貝ブロック24										
個体数	876	388	143	268	24	1	21	21	2	4	4	
最小値	9	10.5	14	11	9	21.5	15	14	18.5	20	22	
最大値	61	39	36	51	27	21.5	28	27	33	23	27	
中間値	23	24	25	20	20	21.5	21	23	25.75	21.75	24	
平均値	23.10	24.33	25.17	20.68	20.25	21.50	21.24	22.24	25.75	21.63	24.25	
尖度	1.93978	1.31218325	-0.007406595	10.17229874	5.658531674	-	2.092650129	2.77212385	-	0.928	-5.290172739	
歪度	0.642237	0.262604368	-0.11387991	2.174725808	-1.022471891	-	-0.112394035	-1.39156086	-	-0.56	0.123690757	
標準偏差	4.730393	4.484638485	4.282810028	4.484184914	3.281894778	0	2.653026339	2.860315699	7.25	1.082531755	2.277608395	
分散	22.37662	20.11198234	18.34246173	20.10791435	10.77083333	0	7.038548753	8.181405896	52.5625	1.171875	5.1875	
範囲	42	28.5	22	40	18	0	13	13	14.5	3	5	
標準誤差												
変動係数	0.204761	0.184328195	0.170170001	0.216807064	0.162068878	0	0.124918281	0.128622333	0.281553398	0.050059272	0.093921996	

7号住居跡 (ハイガイ)			
	全体数	貝ブロック1	貝ブロック5
個体数	29	22	7
最小値	27	27	32
最大値	45	43	45
中間値	37	37.5	35
平均値	35.90	35.91	35.86
尖度	-0.03	-0.17	3.07
歪度	-0.38	-0.87	1.73
標準偏差	4.36	4.42	4.16
分散	18.99	19.04	17.27
範囲	18	16	13
変動係数	0.12139526	0.123091097	0.115880793

7号住居跡 (ハマグリ)				
	全体	貝ブロック1	貝ブロック8	貝ブロック10
個体数	18	14	1	3
最小値	24	24	43	39
最大値	68	68	43	49
中間値	38.5	35	43	42
平均値	41.50	41.00	43.00	43.33
尖度	-0.45	-0.87	-	-
歪度	0.74	0.80	-	1.09
標準偏差	12.67	14.20	0.00	4.19
分散	160.58	201.57	0.00	17.56
範囲	44	44	0	10
変動係数	0.305352962	0.346282568	0	0.096690808

第27表 8号住居跡の殻長に関する記述統計量

8号住居跡ヤマトシジミ (全体)		ヒストグラム (縦軸: 点数, 横軸: 殻高)	
全体数			
個体数	195		
最小値	14.5		
最大値	46		
中間値	28		
平均値	26.99		
尖度	0.58938		
歪度	-0.23065		
標準偏差	4.785511		
分散	22.90111		
範囲	31.5		
標準誤差			
変動係数	0.177325		

8号住居跡 (ヤマトシジミ)				
	貝ブロック1	貝ブロック3	貝ブロック4	貝ブロック5
個体数	7	23	1	164
最小値	20	21	29	14.5
最大値	32	32	29	46
中間値	23	23	29	28
平均値	24.14	24.26	29.00	27.48
尖度	1.66	1.05	-	1.08
歪度	1.36	1.42	-	-0.46
標準偏差	3.80	3.44	0.00	4.83
分散	14.41	11.84	0.00	23.30
範囲	12	11	0	31.5
変動係数	0.157222843	0.14186034	0	0.175663297

第28表 9号住居跡の殻長に関する記述統計量

9号住居跡 (ヤマトシジミ)			
	全体	貝ブロック3	貝ブロック4
個体数	50	49	1
最小値	13	13	28.5
最大値	36	36	28.5
中間値	25	25	28.5
平均値	25.52	25.46	28.50
尖度	-0.48	-0.50	-
歪度	-0.01	0.02	-
標準偏差	5.20	5.24	0.00
分散	27.05	27.42	0.00
範囲	23	23	0
変動係数	0.203797923	0.205666296	0

8号住居跡 (ハマグリ)	
	全体
個体数	5
最小値	31
最大値	86
中間値	42
平均値	55.30
尖度	-3.22
歪度	0.51
標準偏差	25.37
分散	643.76
範囲	55
変動係数	0.458814213

IV その他の遺構と遺物

本発掘調査では縄文時代前期中葉黒浜期の7軒の住居跡の調査以外に、溝1条と土坑3基の遺構を検出した。また、遺物については、中近世から近代にかけての遺物が出土した。

(1) 土坑 (第53図、第55図)

【位置】住居跡の調査区西際と試掘調査を合わせて3基検出されている。

土坑1は西際南寄り、土坑2は9号住居跡北側に位置する。土坑3は試掘調査のトレンチ13で確認、検出した。

【形状・規模】土坑1は平面形態は不整な円形、断面形状は深めの鍋底状を呈する。南北90cm×東西80cm、深さ40cmを測る。

土坑2は平面形態は不整な円形、断面形状は浅い鍋底状を呈する。南北1.1m×東西1.2m、深さは15cmを測る。

土坑3の検出部は半円形を呈する。南北1.35m×東西(0.63m)、深さは18.7cmを測る。

土坑1～3いずれも覆土層の観察から縄文時代と考えられるが、出土遺物は無い。

(2) 溝 (第54図)

【位置】縄文時代の住居跡を検出した調査区から南へ50mのところのところに位置する。北西から南東にかけて延びている。

【形状・規模】ところどころに攪乱を受けていることと、今回の調査ではその一部しか対象となっておら

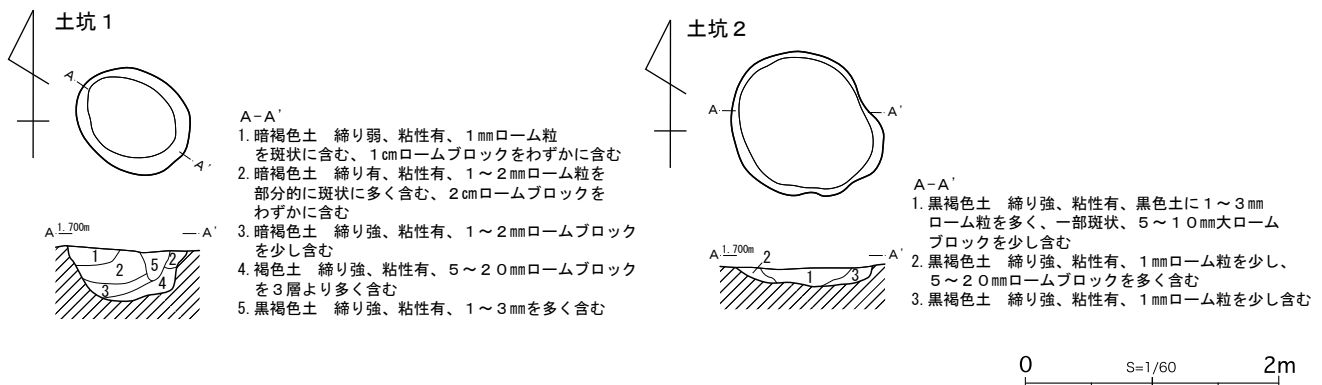
ず、全容を確認できてはいない。全長は不明だが、検出部分では85mに渡って延びる1条を確認した。上幅は1.8m～2m、下幅は約1m、深さは55cm～70cmを測る。断面形態は薬研状を呈する。覆土層の観察から古代以降と考えられる。

(3) 遺物

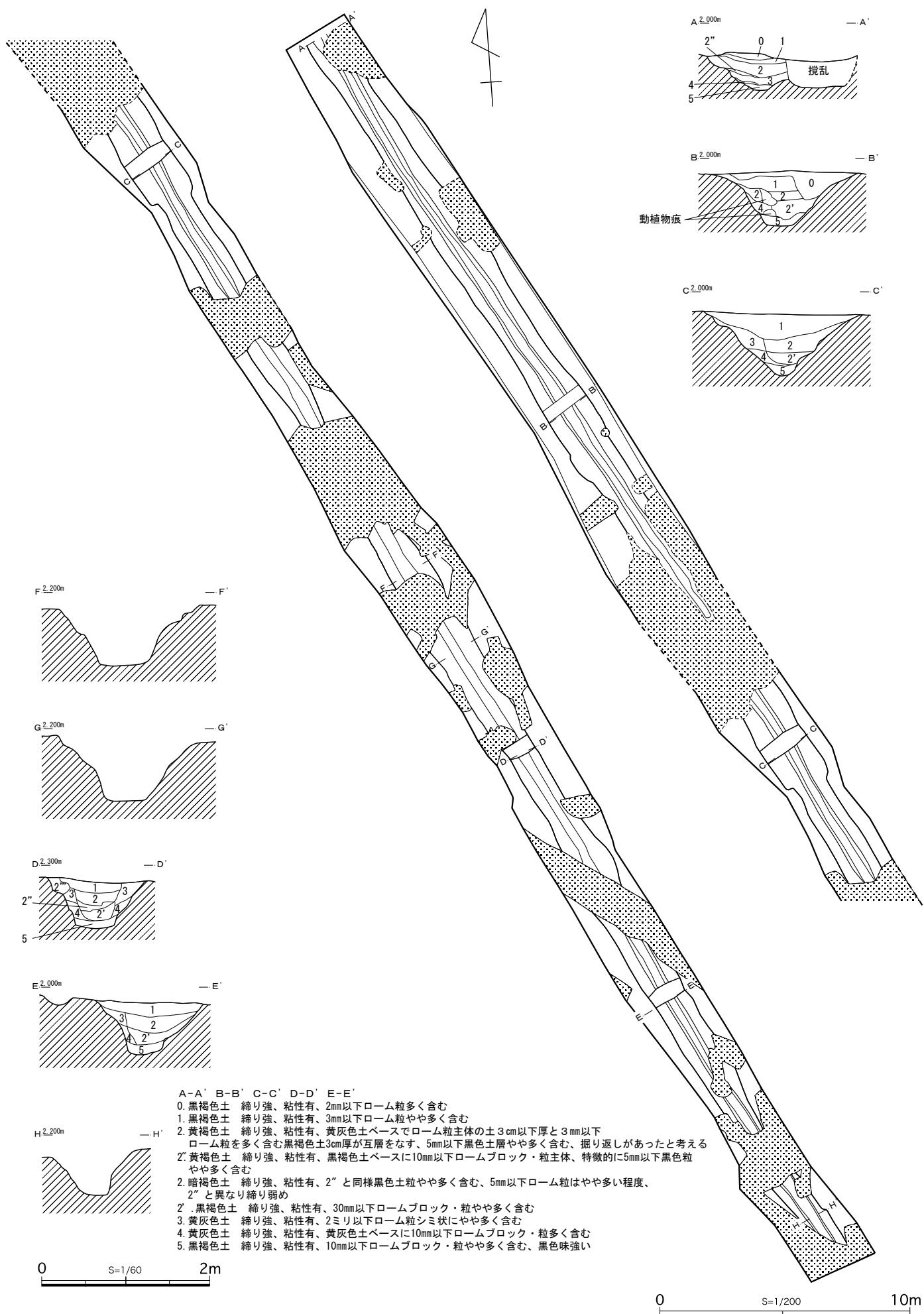
旧火工廠の遺構で46個のレンガを検出した。検出状況から排水施設の役割を担っていたと思われる。表面の刻印から数種類に分けられる。まず、「SHINAGAWA」は品川白煉瓦株式会社(現：品川リフラクトリーズ株式会社)製造の耐火レンガ。検出数は一番多く34個。内訳としては「SSJ」という刻印に大小があり、大は9個、小は24個、なしが1個。表裏とも布目が33個で、そうでないものは1個であった。「TOYO K G」は東洋株式会社か。「TOYO K G」は4個検出した。ラフな書体の刻印で、表裏とも布目ではない。「VZ GS 113」の刻印レンガは3個検出した。こちらも表裏とも布目ではない。刻印がないもしくは摩耗してなくなっているものも5個検出した。どのレンガも縦10.9cm×横22.6cm×幅6.4cmを測る。いずれも耐火レンガと思われる。

一方、旧火工廠で使用されていたと思われる埋設管も検出された。昭和13年の銘が刻まれている。柱状のものに文字があるものは旧火工廠「分配室」の木材として使用されていたものに記載されていた墨書を書き写したもの。(宅間)

一方、旧火工廠で使用されていたと思われる埋設管も検出された。昭和13年の銘が刻まれている。柱状のものに文字があるものは旧火工廠「分配室」の木材として使用されていたものに記載されていた墨書を書き写したもの。(宅間)



第53図 土坑1・2 (1/60)



第54図 溝1 (1/200・1/60)

第 29 表 トレンチ出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	種別	残存 (%)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	色調	備考
56 図	1	耐火レンガ	100	11.10	23.00	6.25	2430.8	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	2	耐火レンガ	100	11.10	23.00	6.20	2483.1	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	3	耐火レンガ	96	11.10	22.80	6.30	2476.2	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	4	耐火レンガ	96	11.10	23.00	6.30	2432.0	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	5	耐火レンガ	100	11.20	-	6.30	2489.9	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	6	耐火レンガ	96	11.15	23.00	6.20	2467.0	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	7	耐火レンガ	98	11.10	23.00	6.00	2349.4	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	8	耐火レンガ	96	11.00	22.50	6.00	2406.6	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	9	耐火レンガ	96	11.30	23.30	6.20	2446.3	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	10	耐火レンガ	95	11.30	22.80	6.00	2443.1	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	11	耐火レンガ	98	11.00	22.70	6.15	2260.9	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、側面灰色、火工廠遺構 1 出土
	12	耐火レンガ	100	10.80	22.80	6.15	2448.9	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	13	耐火レンガ	97	11.25	23.00	6.25	2491.3	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	14	耐火レンガ	97	11.05	22.50	6.10	2290.7	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	15	耐火レンガ	90	11.00	22.50	6.15	2261.6	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	16	耐火レンガ	98	11.15	23.00	6.20	2447.6	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	17	耐火レンガ	98	11.35	23.00	6.00	2483.0	7.5YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	18	耐火レンガ	100	11.10	22.65	6.40	2727.3	10YR8/2 灰白	TOYO K G、側面裏面黒色残、火工廠遺構 1 出土
	19	耐火レンガ	100	9.80	23.10	6.15	2136.8	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	20	耐火レンガ	97	11.10	23.10	6.10	2464.3	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
57 図	21	耐火レンガ	100	11.10	22.70	6.50	2719.1	10YR8/2 灰白	TOYO K G、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	22	耐火レンガ	100	10.95	22.65	6.20	2418.7	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	23	耐火レンガ	95	11.05	22.90	6.05	2347.5	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	24	耐火レンガ	100	11.00	22.80	6.20	2396.6	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、側面セメント付着、火工廠遺構 1 出土
	25	耐火レンガ	100	11.05	23.00	6.20	2562.2	7.5YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	26	耐火レンガ	100	11.00	22.80	6.05	2460.1	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、金属付着あり、火工廠遺構 1 出土
	27	耐火レンガ	97	11.15	23.00	6.00	2438.6	7.5YR8/4 浅黄橙	SHINAGAWA、側面裏面にタール付着、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	28	耐火レンガ	100	10.95	22.80	6.05	2455.2	10YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、裏面タール付着、火工廠遺構 1 出土
	29	耐火レンガ	100	11.15	22.80	6.35	2701.9	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	30	耐火レンガ	97	11.10	22.90	6.05	2371.1	7.5YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、側面灰色、金属付着痕あり、火工廠遺構 1 出土
	31	耐火レンガ	100	11.20	23.15	6.00	2487.3	7.5YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	32	耐火レンガ	35	11.10	< 8.6 >	6.20	877.6	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、金属付着 (重量 11.72) あり、火工廠遺構 1 出土
	33	-	98	9.80	20.60	6.10	2085.4	10R4/4 赤褐	表面糸切り、火工廠遺構 1 出土
	34	耐火レンガ	100	11.10	20.70	6.25	2127.0	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、側面に金属酸化痕?、火工廠遺構 1 出土
	35	耐火レンガ	50	11.10	< 12.3 >	6.00	1224.6	7.5YR8/3 浅黄橙	SHINAGAWA、表面黒色あり、火工廠遺構 1 出土
	36	耐火レンガ	50	11.00	< 12.2 >	6.05	1194.9	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
	37	耐火レンガ	100	11.20	22.80	6.10	2475.5	7.5YR8/2 灰白	SHINAGAWA、側面セメント付着、火工廠遺構 1 出土
	38	耐火レンガ	100	11.20	23.00	6.20	2799.9	10YR8/4 浅黄橙	SHINAGAWA、台形、側面黒色、火工廠遺構 1 出土
	39	-	100	9.95	21.00	6.10	2333.9	10R4/4 赤褐	表面糸切り、火工廠遺構 1 出土
	40	-	100	10.00	21.40	6.05	2122.5	10R4/4 赤褐	表面糸切り、火工廠遺構 1 出土
58 図	41	-	100	9.95	21.10	5.85	2097.6	10R4/6 赤	表面糸切り、火工廠遺構 1 出土
	42	-	98	9.90	21.00	6.05	2127.2	10R4/6 赤	表面糸切り、火工廠遺構 1 出土
	43	-	100	11.40	17.00	6.50	2326.7	10YR7/4 にぶい黄橙	VZ Φ GS113、火工廠遺構 1 出土
	44	-	100	11.45	17.00	6.50	2328.1	10YR7/4 にぶい黄橙	VZ Φ GS113、火工廠遺構 1 出土
	45	-	100	11.40	17.00	6.50	2343.5	10YR7/4 にぶい黄橙	VZ Φ GS113、火工廠遺構 1 出土
	46	耐火レンガ	50	11.00	< 14.1 >	6.30	1293.7	10YR8/2 灰白	SHINAGAWA、火工廠遺構 1 出土
59 図	47	磁器	100	口径 13.8	高さ 4.1	摘み径 6.0	241	灰白 7.5Y8/1	裾部外面:酸化クロム(緑)二重圏線、体部外面:円の中に「共」、 摘み内:赤紫顔料付着
	48	磁器	40	口径 (15.8)	高さ (6.5)	-	(118)	灰白 7.5Y8/1	口縁外面:酸化クロム(緑)二重圏線、体部外面:円の中に「共」
	49	磁器	-	-	高さ (6.9)	-	(41)	灰白 N8/	外面:人工コバルト「京工廠」
	50	金属	-	(13.3)	(12.4)	0.9	-	-	縦「川 筒」、横「榴弾」、火工廠遺構 1 出土
	51	金属	-	1.5	0.8	-	-	-	
	52	金属	-	1.1	0.5	0.05	-	-	中空、先端部直下に穿孔 2 箇所
	53	柱	-	214.0	8.0	-	-	-	「二八 長十尺 青?市佐藤材木店」、分配室 261・262 号家
	54	柱	-	249.0	8.0	-	-	-	「杉正角 二等 ○二八 長〇尺 ○」、分配室 261・262 号家
	55	柱	-	204.0	8.0	-	-	-	「二等並 33 二三 長十尺」、分配室 261・262 号家
	56	柱	-	373.0	8.0	8.0	-	-	「杉正角 二等並」「木?正 角 二等並 三三 長」、分配室 261・262 号家

第 30 表 表土出土遺物観察表

図版 番号	掲載 番号	分類	出土 状況	口径・胴径、 長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	繊維	時期	注記
60 図	57	4 類 2 種	表土			口縁	深鉢	貝殻腹縁文		普通	黒浜式	H7

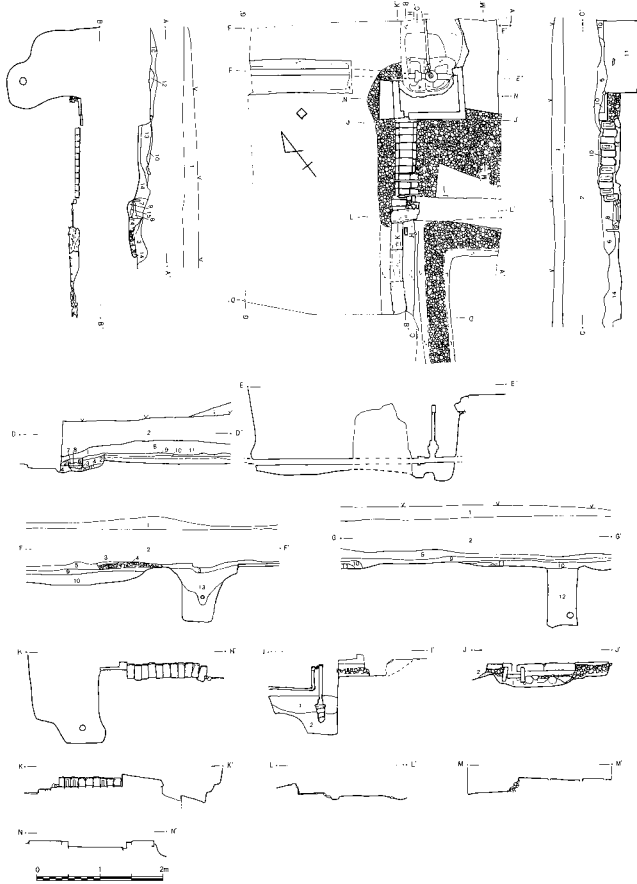
第31表 出土埋設管観察表

図版 番号	掲載 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	内径 (cm)	備考
61 図	1	(87.4) × 71.9	20.0	10.0	側面2箇所、接続部1箇所に「ホ100×100 ●昭和十三年●」陽刻
	2	(17.8)	19.8	10.0	接続部に「ホ100×100 ●昭和十三年●」陽刻
	3	(29.6)	30.6	24.0	接続部に「ホ100×100 ●昭和十二年●」陽刻
	4	(112.2)	(19.8)	10.0	側面に「ホ100×75 ●昭和十六年●●管50」、接続部に「●100● ●昭和十六年●」陽刻
	5				

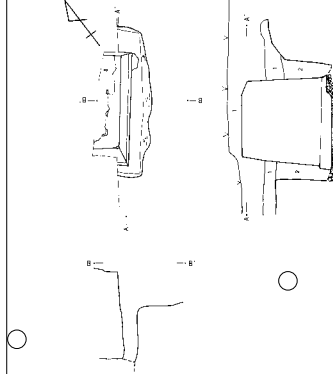
第32表 上福岡貝塚第2地点 火工廠跡遺構一覧表

図版 番号	遺構名	トレンチ No.	規模 (cm)		形態・技法・主な出土遺物・その他	調査率	所収 報告書
			コンクリート部	掘り方			
55 図	火工廠遺構 1	14 トレンチ	上面 : 114 × 83 高さ : 21、深さ : 10	南北 : (215) 東西 : (540)	水道の蛇口とコンクリート製流し台、煉瓦を再利用した排水溝である。蛇口部は欠損。流し台は長方形で升北部を大きく欠損。型枠成形。煉瓦排水溝に繋がる切れ目有り。地下を水道管が通り、柵北部から出る。周囲にコンクリート板を敷く。施設周辺の底には礫を敷く。耐火レンガ (第56～58図1～46)、金属製品 (第59図50) 出土。	—	市内17・18
	火工廠遺構 2	1 トレンチ	上面 : (120 × 33) 下面 : (146 × 46) 高さ : 141	上端 : 181 × (60) 下端 : 184 × (59) 深さ : 86	コンクリート製基礎。断面台形。一部確認。型枠成形。下部に型枠痕が残る。板状の鉄筋 (幅 : 6.2 ～ 8cm、厚さ : 0.8 ～ 1cm) が1辺に4本ずつ有り、90cmの方形となる。	30%	市内17・18
	火工廠遺構 3	4 トレンチ	上面 : 56 × 53 下面 : 86 × 82 高さ : 72、深さ : 50	上端 : 182 × 133 下端 : 169 × 125 深さ : 65	コンクリート製方形升。下部残存。型枠成形。外側は礫を多く含むコンクリートで、内面は滑らかなコンクリートで造る二重構造。内外面下部に型枠痕が残る。東部より鉄管 (径 : 3cm) が接続し、南部に排出用の鉄管 (径 : 3 ～ 5cm) が出る。	100%	市内17・18
	火工廠遺構 4	10 トレンチ	上面 : 41 × 40 下面 : 63 × 66 高さ : 93	上端 : (123) × 120 下端 : 103 × (98) 深さ : 71	コンクリート製基礎。断面台形。完形。型枠成形。上面中央部に鉄管 (径 : 10cm、深さ : 32cm) 有り。	90%	市内17・18
	火工廠遺構 5	4 トレンチ	上面 : 97 × 96 下面 : 163 × (133) 高さ : 105	上端 : 186 × (134) 下端 : 186 × (138) 深さ : 110	コンクリート製基礎。断面台形。完形。型枠成形。下部に型枠痕が残る。板状の鉄筋 (幅 : 6.5 ～ 10.5cm、厚さ : 約 1cm) が1辺に4本ずつ有り、80cmの方形となる。	90%	市内17・18
	火工廠遺構 6	18 トレンチ	ブロック部規模 : 50 × (34) × 25 下面 : (134 × 45)	南北 : (136) 東西 : (42)	コンクリート製基礎か?。中央部に長方形のブロック状コンクリートで両脇に板状状コンクリートが並ぶ。一部確認。型枠成形。	—	市内17・18
	火工廠遺構 7	19 トレンチ	上面 : 112 × (13) 下面 : 139 × (23) 高さ : 114	上端 : 180 × (57) 下端 : 133 × (27) 深さ : 119	コンクリート製基礎。断面台形。一部確認。型枠成形。	25%	市内17・18
	火工廠遺構 8	14 トレンチ	上面 : 63 × (34) 下面 : 82 × (43) 高さ : 20、深さ : 10	上端 : 217 × (119) 下端 : 203 × (119) 深さ : 27	コンクリート製方形升。一部確認。型枠成形。周囲にコンクリート板を敷く。	50%	市内17・18
	火工廠遺構 9	14 トレンチ	上面 : 40 × 39 39 × 42 下面 : 155 × 64 高さ : 100、105	上端 : 281 × (108) 下端 : 264 × (100) 深さ : 107	コンクリート製基礎。断面台形の基礎が2つ並ぶ。完形。型枠成形。下部に型枠痕が残る。それぞれの上面中央部に鉄管 (径 : 6 ～ 7cm、深さ : 74、75cm) 有り。	90%	市内17・18
	火工廠遺構 10	20 トレンチ	上面 : 40 × 38 下面 : 64 × 67 高さ : 20、深さ : 10	上端 : 101 × (93) 下端 : 95 × (88) 深さ : 81	コンクリート製基礎。断面台形。完形。型枠成形。下部に型枠痕が残る。上面中央部に鉄管 (径 : 6cm、深さ : 56cm) 有り。	90%	市内17・18
	火工廠遺構 11	23 トレンチ	上面 : 96 × 139 高さ : 18	南北 : (96) 東西 : (139)	コンクリート製基礎か。長方形の板状で四隅に突起 (凸) 有り。完形。型枠成形。四隅の突起 (一辺約 22cm、高さ : 5 ～ 6 cm) それぞれに鉄筋 (径 1.2cm) が付いていたと思われる。鉄筋にはネジ山が有り、方形のナット (一辺 2cm、厚さ 0.7cm) が付属する。	100%	市内17・18
	火工廠遺構 12	39 トレンチ	上面 : 137 × 121 下面 : 152 × — 高さ : 143	上端 : 186 × (32) 深さ : 81	コンクリート製基礎。断面台形。一部確認。型枠成形。板状の鉄筋 (幅 : 6 ～ 8cm、厚さ : 1.5cm) が1辺に4本ずつ有り、90cmの方形となる。	10%	市内17・18
	水溜 8	31・32 トレンチ間	外寸径×高さ : 283 × 216 内寸径×深さ : 249 × 187 厚さ : 17	上端 : 345 × 338 深さ : 182	円筒形。完形。上面部に凹状の窪み (幅 : 12 cm、深さ : 7 cm) 有り。型枠流し込み成形。外側に型枠痕が残る、内側は滑らかに成形。鉄筋使用。内面底部の面北側に2箇所方形の窪み (1辺約 5cm、北側深さ約 2cmで南側は浅くなる) 有り、梯子痕か。	100%	市内17・18
61 図	消火栓 2・ 配水管	31・32 トレンチ間	確認長 (東西) : 550	上端 (南北) : 55	鉄製の地上式双口型不凍消火栓 (第61図5)、鉄製の配水管 (第61図1～4)。完形。南西―北東に走る。北東方向に消火栓が接続し、その直下を土樋 (幅 : 28cm、深さ : 5cm) が通る。消火栓、配水管の詳細は第31表参照。	100%	市内17・18

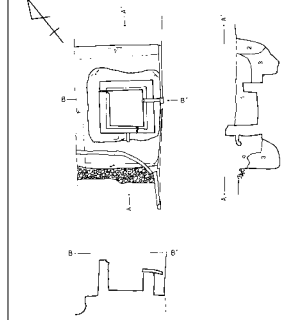
火工廠遺構1



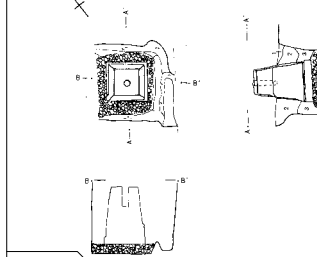
2



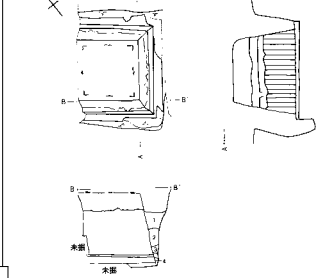
3



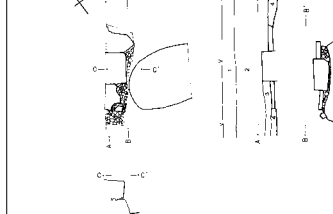
4



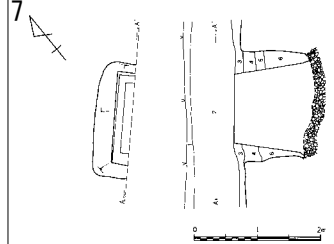
5



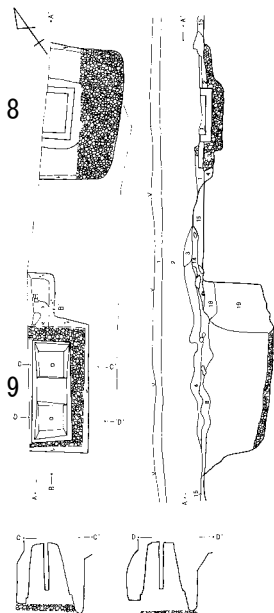
6



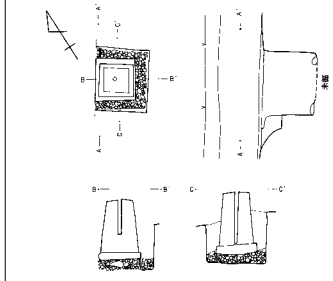
7



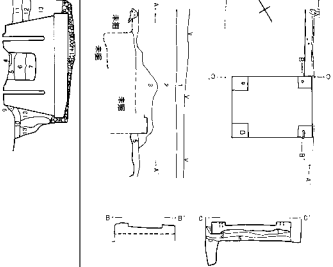
8・9



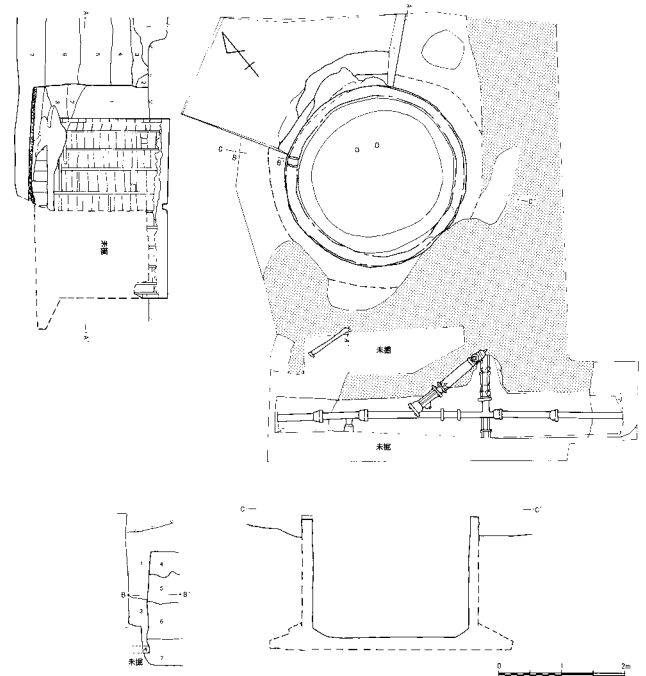
10



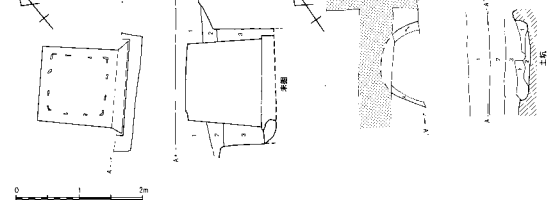
11



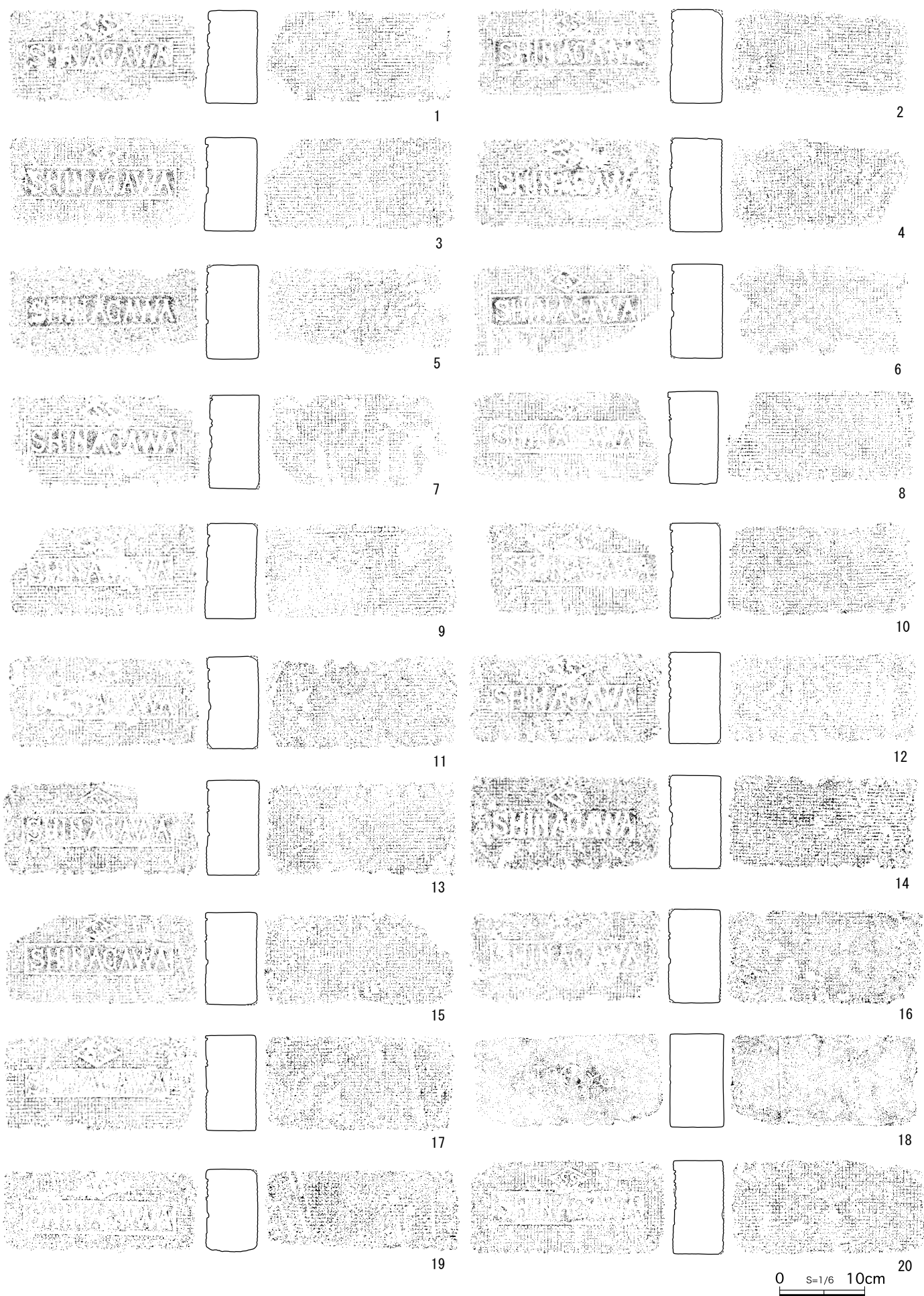
水溜8・消火栓2・配水管



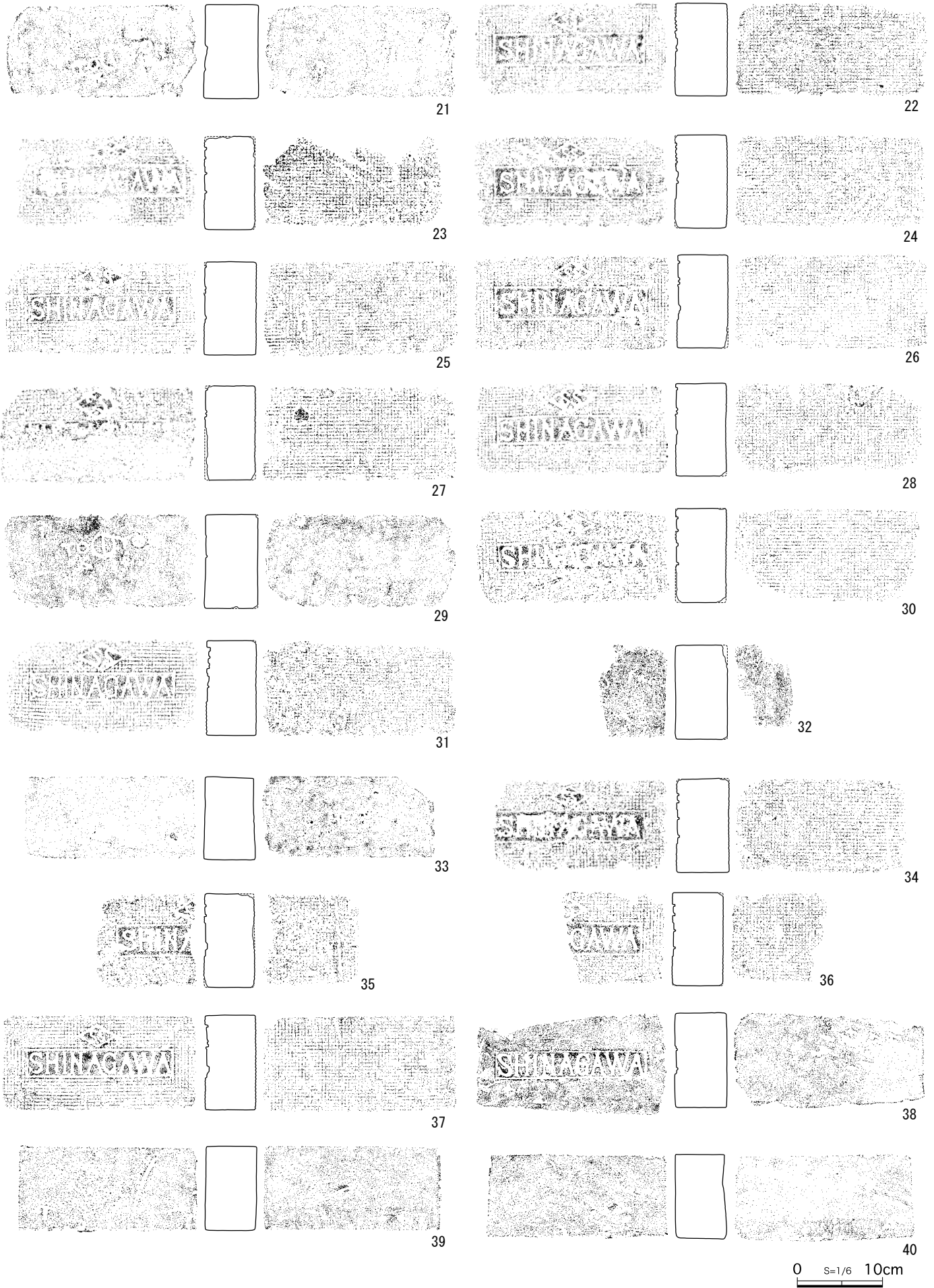
12



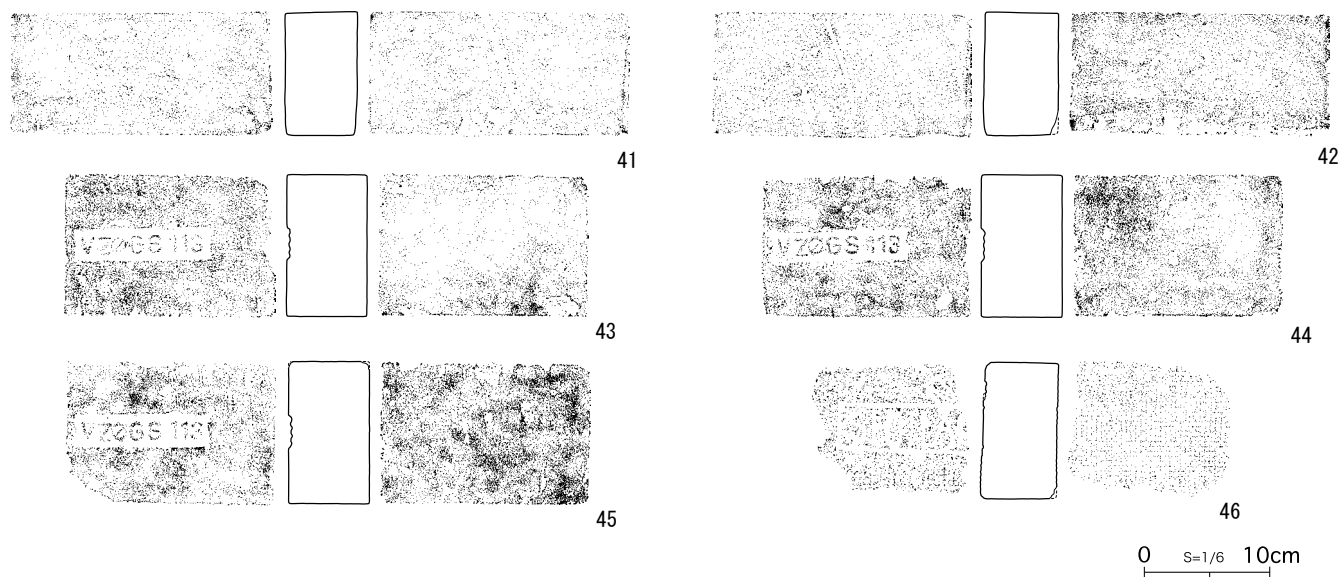
土坑3



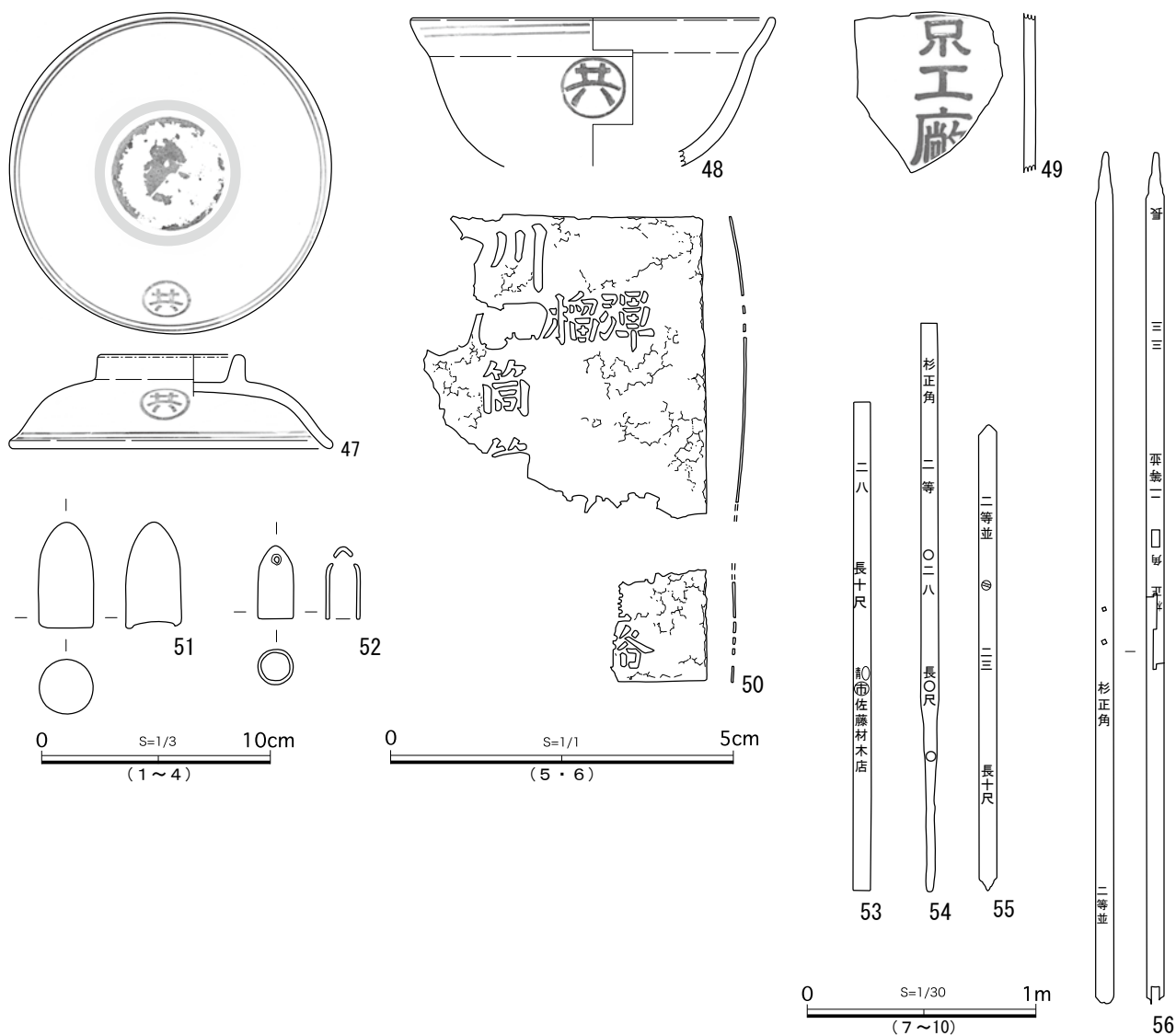
第56図 トレンチ出土遺物(1) (1/6)



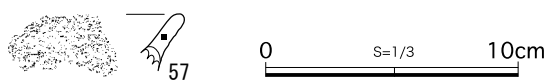
第 57 図 トレンチ出土遺物（2）（1/6）



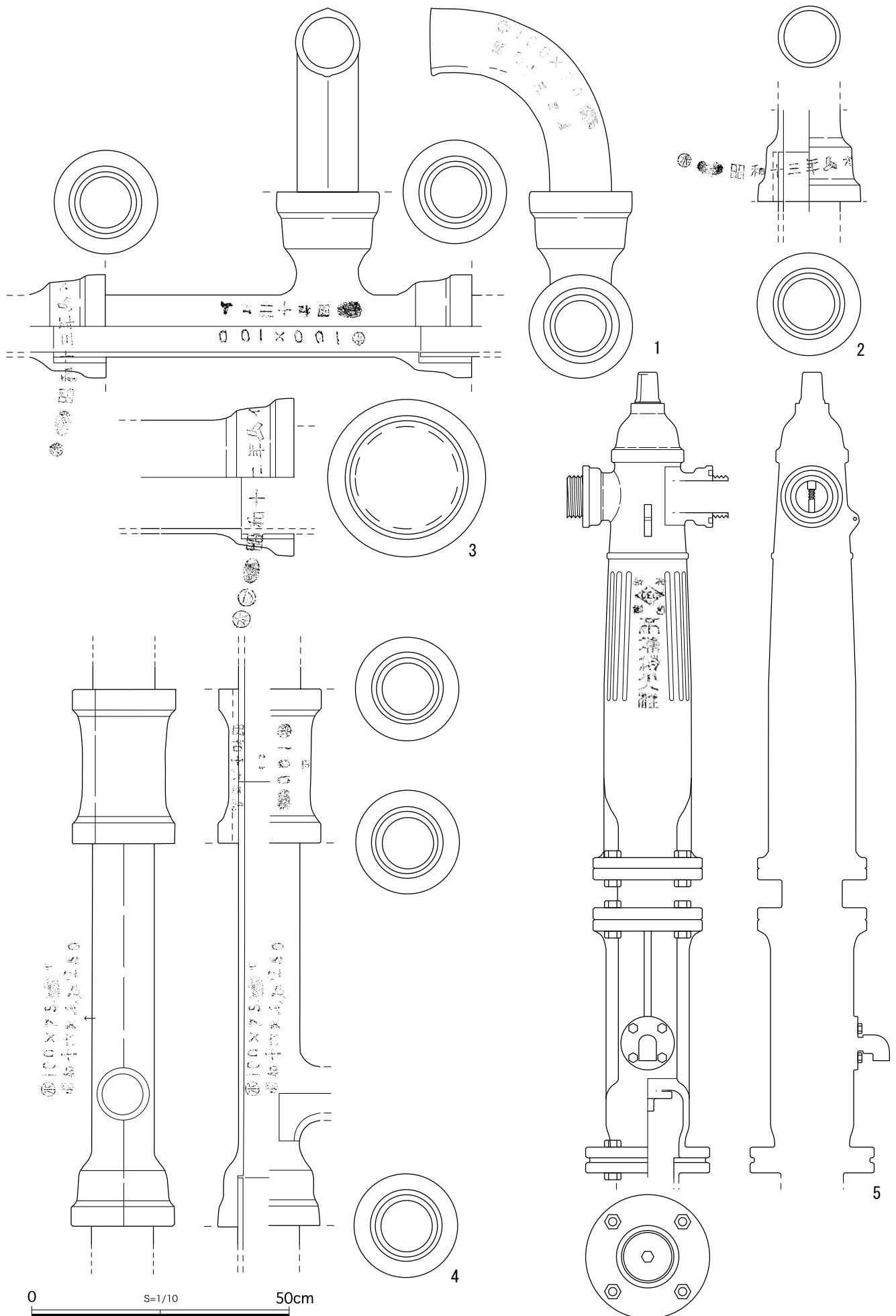
第58図 トレンチ出土遺物(3) (1/6)



第59図 トレンチ出土遺物(4)・分配室木材 (1/1・1/3・1/30)



第60図 表土出土遺物 (1/3)



第 61 図 出土埋設管・消火栓 2 (1/10)

第4章 まとめ

I 上福岡貝塚第2地点の調査成果について

はじめに

上福岡貝塚の発掘調査は、1937（昭和12）年に火工廠建設工事に伴い山内清男、関野克両博士が行い、その成果についてはお二人の各報告や論考が日本考古学界に大きな影響を与えたことは周知のとおりである。この時に出土した遺構と遺物は、文化庁と埼玉県埋蔵文化財調査事業団が中心となって整理作業を行い、奈良文化財研究所より刊行された、『上福岡貝塚資料 山内清男考古資料3』（1992.1）の報告書として、研究者ならずとも待望の刊行であった。また、上福岡市教育委員会による『郷土史料』の刊行や市史編纂事業に伴って刊行された報告書の意義も大きい。こうして山内、関野両博士が発掘調査した成果については、この二冊をもって一応の完結をみたといえる。

その後、1937年の調査から70年あまり、上福岡貝塚では新たな発見等がないまま時間が過ぎたが、2007（平成19）年、民間の変電所建設に伴い縄文時代前期黒浜期の住居跡2軒と貝塚の調査が行われ、遺跡が健在である事が判明した。それから、6年後の2013（平成25）年、今回の第2地点において、第1地点以上の規模の遺構と遺物が確認された。（鍋島）

（1）住居跡と出土土器

今回の調査では7軒の黒浜式期の住居跡を調査した。前述のように遺物の出土数は住居跡ごとに偏りが見られるため、細かな時期を決し得ない住居跡がある。しかしその一方で、当該地域の黒浜式の住居跡は6本主柱穴から4本主柱穴に時間とともに移行することが指摘されている（笹森1981）。

また、近接する富士見市水子貝塚の報告で、早坂廣人氏が、研究史の検討を踏まえ、発掘調査で得られた層位的な知見と土器の断面形・口縁部形・文様要素や描かれるモチーフを検討することにより、段階を設定している（早坂1995）。

ここでは、これらの成果に導かれながら、今回出土した住居跡・遺物の位置づけを行ってみたい。今回検出された住居跡は攪乱され不確かなものもあるが、いずれも4本主柱穴、このうち柱の付け替えが4・8号住居跡で、拡張を伴う住居跡の建て替えが、5・6・7号住居跡で行われたものと思われる。ただし9号住

居跡は他の住居跡に比べ長軸と短軸の比率が大きく、より長方形を呈している。また北壁際にP10・11が存在することから、4本主柱穴の住居跡であるが、形態としては6本主柱穴に近いものと考えておきたい。

次に資料的に最も充実している9号住居跡の遺物を概観してみよう。9号住居跡では波頂部が丸みをもつ4単位の波状口縁とやや尖った波頂部を持つものが認められる。後者も第47図14をもとに考えると4単位の波状口縁と考えらる。また後者は波頂部から縦長の短い隆帯を付すものが一定量認められる。この隆帯にはキザミを有するものも認められる。口縁部に文様帯を持つものは波状口縁・平口縁の両者に認められ、無文地に半截竹管状工具で菱形文をはじめとするモチーフを描くものや縄文地に同一工具でモチーフを描くものがある。また平口縁のものに限り、爪形文により菱形文や山形文を描く様である。これらの菱形文は小ぶりのもので横位に展開するようである。

器形は頸部が強く屈曲しているものが多く認められる。ただし、器形の屈曲と文様帯との境は明確には一致しないようである。また先にあげた第47図14では頸部の屈曲部に断面台形状の隆帯が巡る。隆帯上に押捺は認められない。これらの土器のほかに貝殻背圧痕を有するものや甲信系の釈迦堂Z3式土器が出土している。

この他の住居跡を見てみると、9号住居跡と同様に波頂部から短い隆帯が垂下される土器が7号住居跡で認められる。第35図の3・7・9がそれであるが、このうち7・9は同一個体と思われる。ともに口縁部に沿って二条の押引文が巡り直下に縄文が施される。3は9号住居跡と同様に地文縄文に竹管状工具でモチーフを描いている。また、9号住居跡では第47図16・21・22に見られるように波状口縁に沿って半截竹管状工具で二単位（4本）の沈線を巡らせているが、直下は無文になっている。7号住居跡と違いが見られる。そのほかの7号住居跡の口縁部文様帯を持つものはその文様帯の幅が9号住居跡に比べ狭くなっている。また、器形は、括れが緩やかなものが主体を占める。

この他の住居跡では大ぶりの波状口縁をなす土器は希であり、平口縁が主体となり、口縁部文様帯を持つものも幅狭になり、横位展開が主体となっている。

以上が今回の調査で出土した土器の特徴である。

今次の調査以前に上福岡貝塚では、戦前の山内清男による調査や上福岡貝塚第1地点の調査で黒浜式土器が出土している。9号住居跡の出土土器は前述の特徴から戦前の上福岡D地点及び第1地点の1号住居跡に近いものである。近隣の水子貝塚の第15号住居跡貝層下から貝層中の資料と並行するものと考えられる。

水子貝塚で提示された編年によれば、9号住居跡が古段階新から中段階、その他の住居跡は中段階に相当すると考えられる。

(2) 貝層

今回の調査では3軒の住居跡で貝層が認められた。ともにヤマトシジミ・マガキを主体としている点では一致している。上福岡貝塚第1地点の1・2号住居跡で貝層が見つかっている。1号住居跡では、貝ブロックの多くが単層で形成されている。2号住居跡はヤマトシジミとマガキが互層になってブロックを形成している。今回の調査は2号住居跡の貝層形成の在り方に近い。また、第1地点の混貝率は50%を切る細分層が主体を占める。今回の調査では75%を超える細分層も多数認められたが、第1地点では2号住居跡の貝層Iの4層の71.2%が最高である。

水子貝塚の第15号住居跡では、混貝率が高く90%を超える貝層も多数認められる。今回の調査の混貝率は第1地点より高く、水子貝塚より低い。これらの混貝率の差が何に由来するかは、廃棄行動も含め興味深い点である。即ち、貝の廃棄が一時期に大量に行われた場合と少量の貝を期間をおいて廃棄した場合が通常考えられるであろう。ただし、廃棄された貝の種類、形状によってもその後の住居覆土形成過程で混貝率が変わる可能性がある。例えば、マガキが完形に近い状態で廃棄された場合、間に隙間が生じることにより、結果として混土率が上がるものと思われる。反対にヤマトシジミなどが破碎されたのちに廃棄された場合は混土率は下がるものと考えられる。

第1地点の調査では1号住居跡のヤマトシジミで1,377個体で殻長数が測れているが、今回は最も貝が出土した7号住居跡で876個体である。出土総量では1号住居跡が69,140.9gで、7号住居跡が88,080.72gであり、7号住居跡がより破碎された状況にあるといえる。このことが全体的な混貝率の差に繋がった可能性も考慮する必要があると思われる。(宅間)

II 上福岡貝塚の問題点と課題

(1) 上福岡貝塚第2地点の集落配置について

第2地点で確認された住居跡の配置を第3図遺構配置図でみると、環状集落の南西部に位置する。第1・2地点の住居跡を、1937年の調査でグループ分けされた上福岡貝塚B群住居址(台地内陸部の集落)と重ねると、黒浜期の住居跡は29軒～32軒となる。今後、未確認の住居跡が確認されればさらに増えるであろう。国指定史跡の富士見市水子貝塚では、黒浜期の住居軒数は最小値40軒、最大値70軒とも推定されている。(1995早坂)。上福岡貝塚も、水子貝塚の住居跡軒数に迫る規模の集落であったと考えられる。

1937年の調査で環状集落であるB群住居址(E・F・K・M住居址を除く配置)をみると、南西部での遺構分布が希薄であった。当時の限定的な調査によるものとも考えられたが、今回の調査でその部分にも多数の黒浜期の住居跡が分布している事が判明した。改めて集落の分布がより南側の台地内陸部にまで及んでいた事が明らかとなった。また、貝層を伴う住居跡と伴わない住居跡の比率も注目される。今回の調査においても、黒浜期の住居跡のみが確認されたが、僅かに関山期、諸磯C期の遺物も出土しており、B群住居址集落の時間幅が広がる可能性も出てきた。

(2) 調査の重複する住居跡について

上福岡貝塚の集落配置について、かつて上福岡貝塚第1地点の調査報告(2009鍋島)で指摘した事があるが、今回確認した10軒のうち、5号住居跡がH地点堅穴住居址、10・11・12号住居跡がD・V地点堅穴住居址と地図上でみると近似する。これらの調査の重複の問題についてみる。

① 5号住居跡とH地点堅穴住居址

H地点堅穴住居址は、1937年の調査では未検出の住居跡で、写真、平面図等も存在しない。前述の奈良文化財研究所より刊行された報告書には、H地点堅穴住居址出土の遺物は掲載されているが、おそらく住居の覆土層などからの採取遺物と考えられる。出土土器は1類と2類の他に関山式とみられる底部が出土している。

5号住居跡は7号住居跡同様に、火工廠の道路下に位置する。詳細については本文に記したとおりである。5号住居跡出土土器も2類1・2種が多い点では共通する。

H地点竪穴住居址が道路下であったことや、貝層を伴っていない等、何らかの理由で発掘調査が見送られたと考えると、H地点竪穴住居址＝5号住居跡の可能性も否定できない。また近接の7号住居跡も貝層を伴う点で、当時既に確認可能な状況であったとすれば、H地点竪穴住居址と同一である可能性も考えられる。

② 10・11・12号住居跡とD・V地点竪穴住居址

1937年の調査で著名なのがD地点竪穴住居址である。関野克博士による『人類学雑誌』第53巻第8号「埼玉県福岡村縄紋前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」の論考である。住居跡の拡張や居住人数の算出に係る論考として、学史に残る研究である。その住居跡である可能性がある11～12号住居跡について、調査期間の制約と、遺跡の保護保存が可能であった事から本調査を行っていない。今回の調査で最も課題が残った点は、11～12号住居跡の確認調査が十分に出来なかった事である。この3軒の住居跡は保存措置とすることが出来たが、疑問点や問題の解決は将来の調査に委ねたい。

おわりに

今回の調査について、出土遺物と貝層については前項Ⅰ（１）（２）のとおりである。調査担当者として、1937年の調査と第1・2地点の調査について、遺構、遺物、貝塚等の比較、検討が十分に出来なかった。また、第1地点同様に、第2地点の調査においても、山内清男博士の指摘した「～別形式二属スルラシイ」土器群の問題についての検討も、今後の課題となってしまった。反省の多い調査であったが、関係者皆様のご指導とご協力で本書を刊行できた事を唯一の救いとし、次回の調査の糧としたい。

最後に調査の全般にわたり、日本無線株式会社の担当者の皆様をはじめ、株式会社新日本無線、大成建設株式会社、埼玉県教育委員会生涯学習文化財課、ふじみ野市文化財保護審議会、ふじみ野市上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館、関係各機関よりご支援とご協力を賜りました。記して感謝申し上げます。

（鍋島直久）

※主な上福岡貝塚関係の文献

・山内清男 1937「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野克「住居址略報告」ガリ版刷り（昭和40年埼玉県福岡町郷土史料に収録）

1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会（但し、関野克「住居址略報告」の分は除く）

1942「片口付縄紋土器に就て」『古美術』第12巻6号（137号）

1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会

・関野 克 1938「埼玉県福岡村縄紋前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号

・宮崎朝雄、黒坂禎二、細田勝、土肥 孝他 1992『上福岡貝塚資料－山内清男考古資料3－』奈良国立文化財研究所史料第33冊 奈良国立文化財研究所

・川名広文、笹森健一 他 1994『考古文献資料（1）上福岡貝塚』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会

・川名広文 1997「この人と語る・上福岡貝塚の発掘」『きんもくせい』市史研究第三号 上福岡市教育委員会

・『上福岡市史』資料編第1巻 自然史 考古 上福岡市史編集委員会

・早坂廣人 他 1995『水子貝塚』富士見市文化財報告第46集 富士見市教育委員会

・鍋島直久、笹森健一、阿部常樹、一木絵理 他 2009『市内遺跡群4』ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第5集 ふじみ野市教育委員会

※出土土器について、早坂廣人氏より助言・ご指導いただきました。記して感謝申し上げます。



調査区全景



調査区近景



調査区近景



調査区近景



調査区近景



3号住居跡



3号住居跡 炉



3号住居跡



3号住居跡 プラン確認状況



3号住居跡 土層



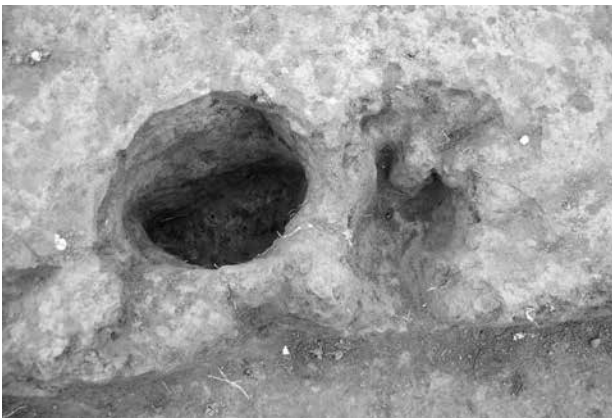
3号住居跡 土層



3号住居跡 炉



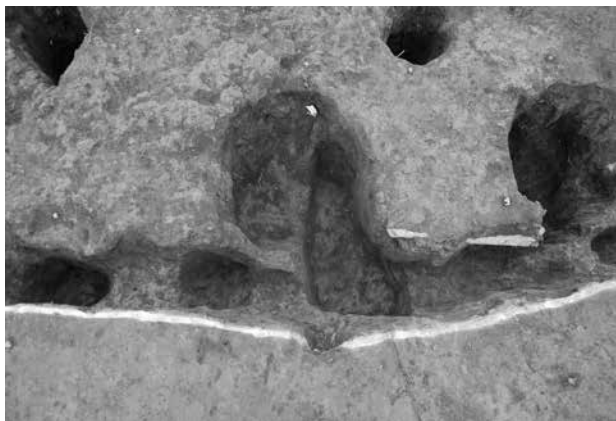
3号住居跡 炉 土層



3号住居跡 ピット8



3号住居跡 ピット1



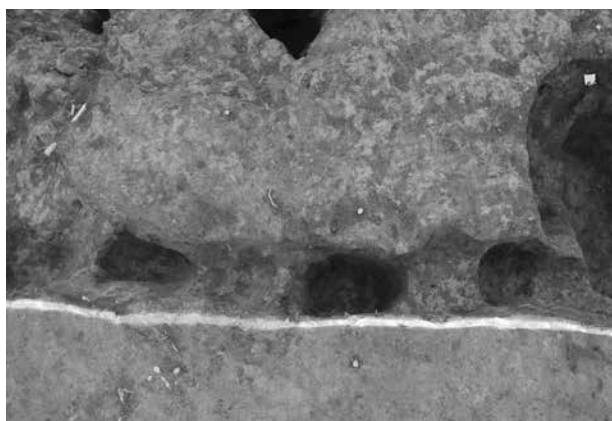
3号住居跡 ピット4



3号住居跡 ピット10・11



3号住居跡 ピット5・7



3号住居跡 ピット6



3号住居跡周溝 土層



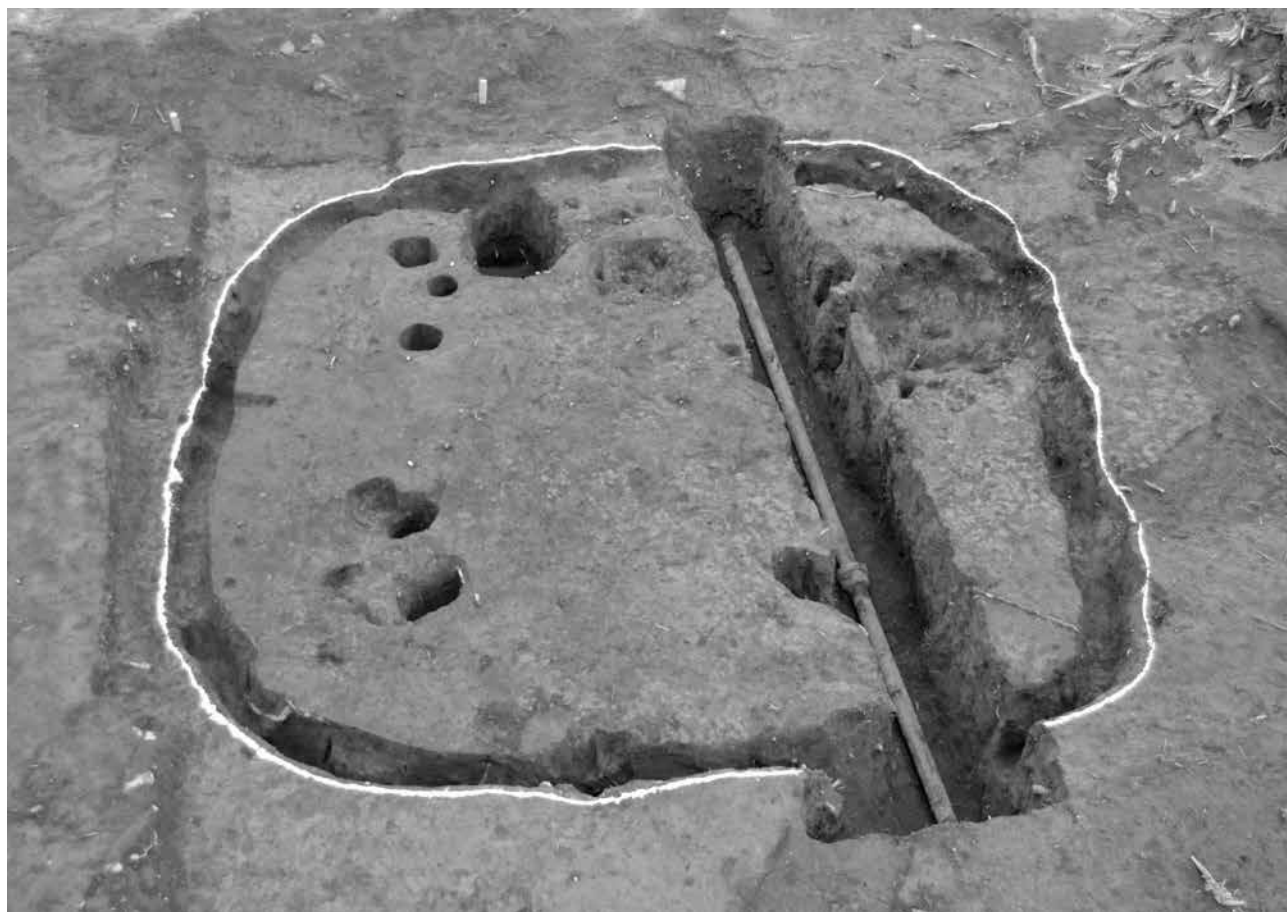
3号住居跡 ピット4 土層



3号住居跡 調査風景



3号住居跡 調査風景



4号住居跡



4号住居跡 炉



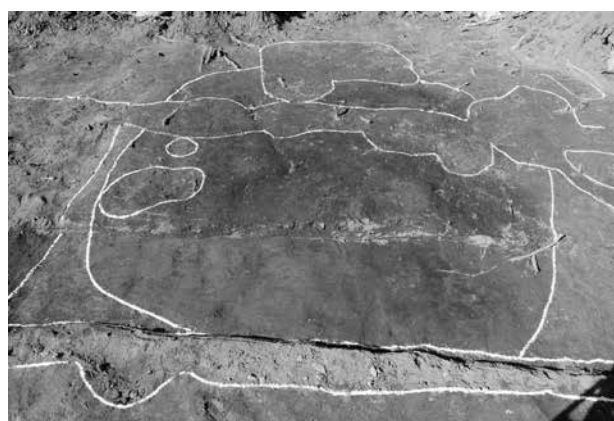
4号住居跡 炉



4号住居跡 炉 土層



4号住居跡 炉 土層



4号住居跡 プラン確認状況



4号住居跡 遺物出土状況



4号住居跡 遺物出土状況



4号住居跡 遺物出土状況



4号住居跡 遺物出土状況



4号住居跡 遺物出土状況



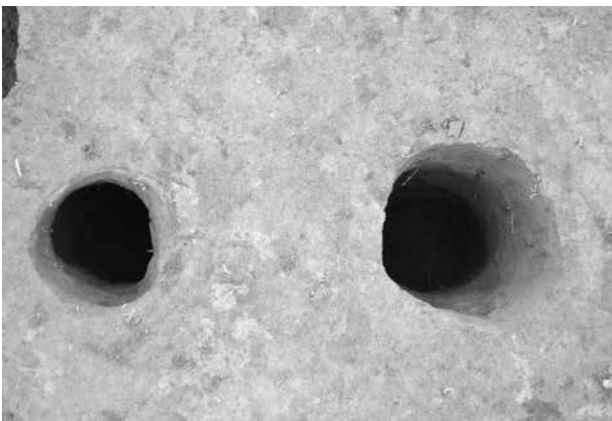
4号住居跡 遺物出土状況



4号住居跡 土層



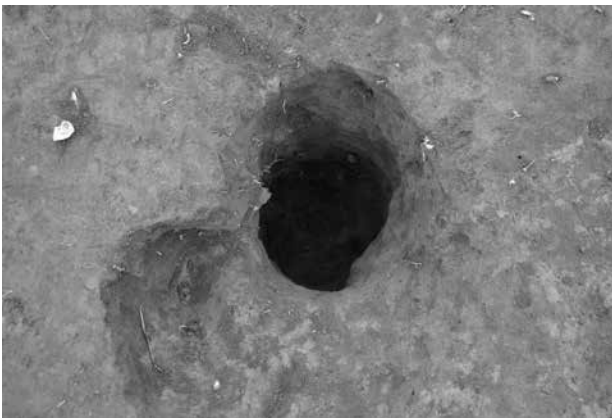
4号住居跡 土層



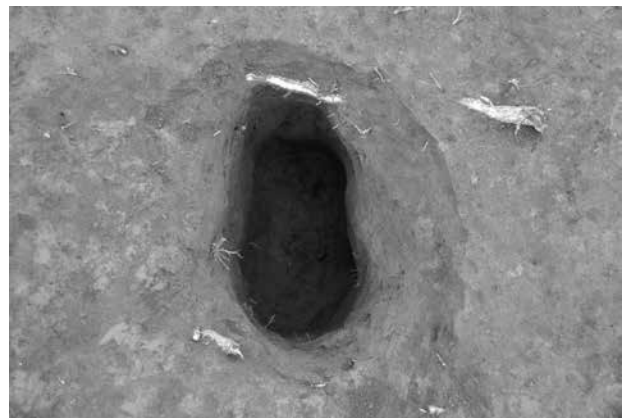
4号住居跡 ピット1・2



4号住居跡 ピット7



4号住居跡 ピット3



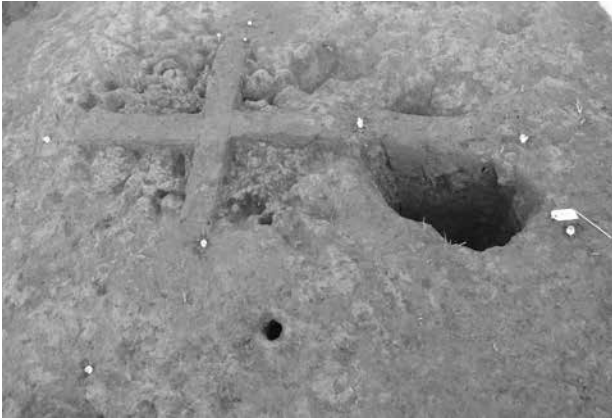
4号住居跡 ピット4



5号住居跡



5号住居跡 炉



5号住居跡 炉 土層



5号住居跡 炉 土層



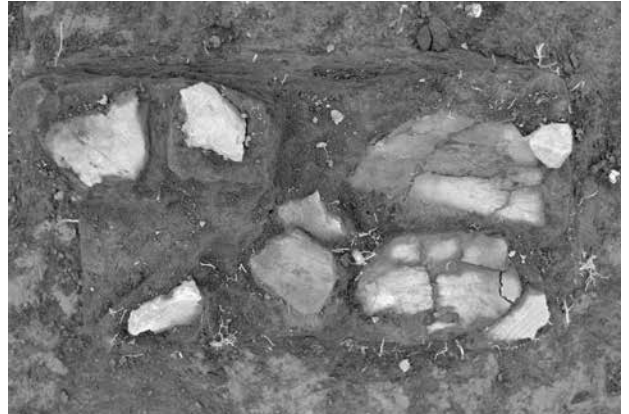
5号住居跡 プラン確認状況



5号住居跡 (外側周溝)



5号住居跡 遺物出土状況



5号住居跡 遺物出土状況



5号住居跡 遺物出土状況



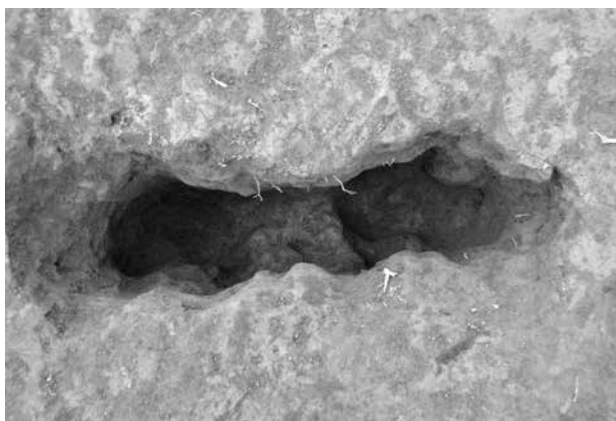
5号住居跡 遺物出土状況



5号住居跡 遺物出土状況



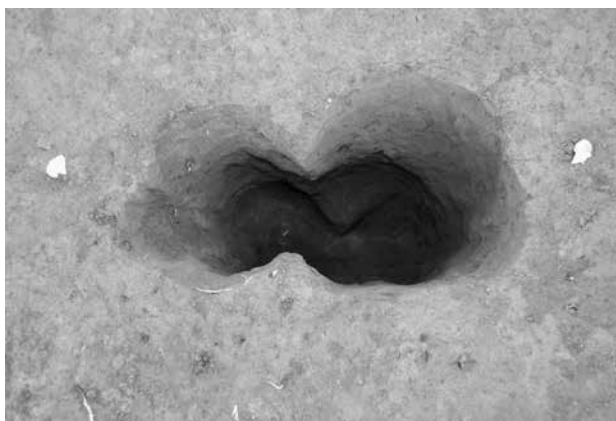
5号住居跡 土層



5号住居跡 ピット 8



5号住居跡 ピット 13・14



5号住居跡 ピット 15・16



5号住居跡 ピット 18～20



5号住居跡 ピット 19 土層



5号住居跡 周溝



6号住居跡



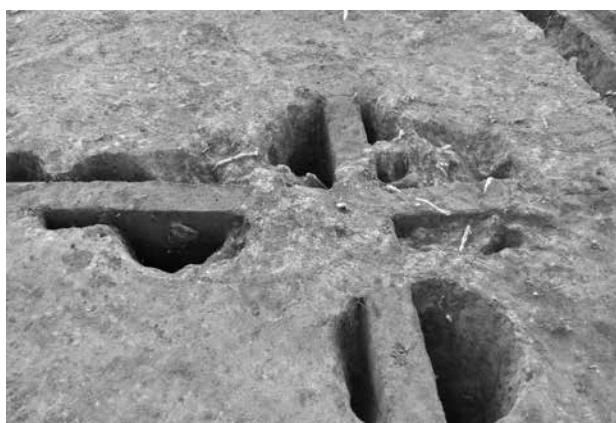
6号住居跡 炉



6号住居跡 炉 土層



6号住居跡 炉 土層



6号住居跡 炉 土層



6号住居跡 プラン確認状況



6号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 遺物出土状況



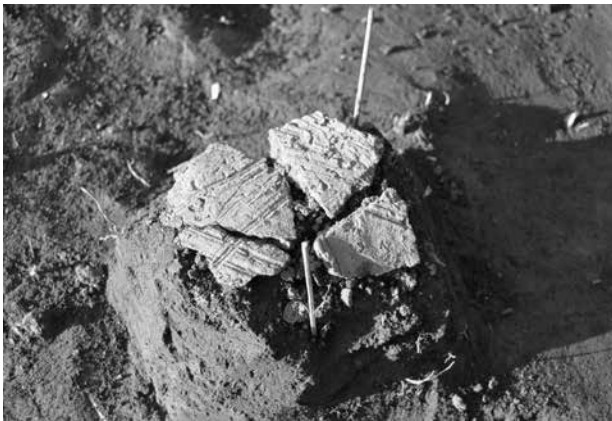
6号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 遺物出土状況



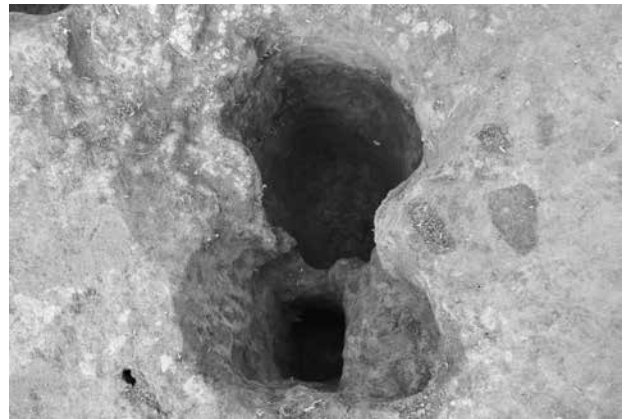
6号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 土層



6号住居跡 ピット5・6



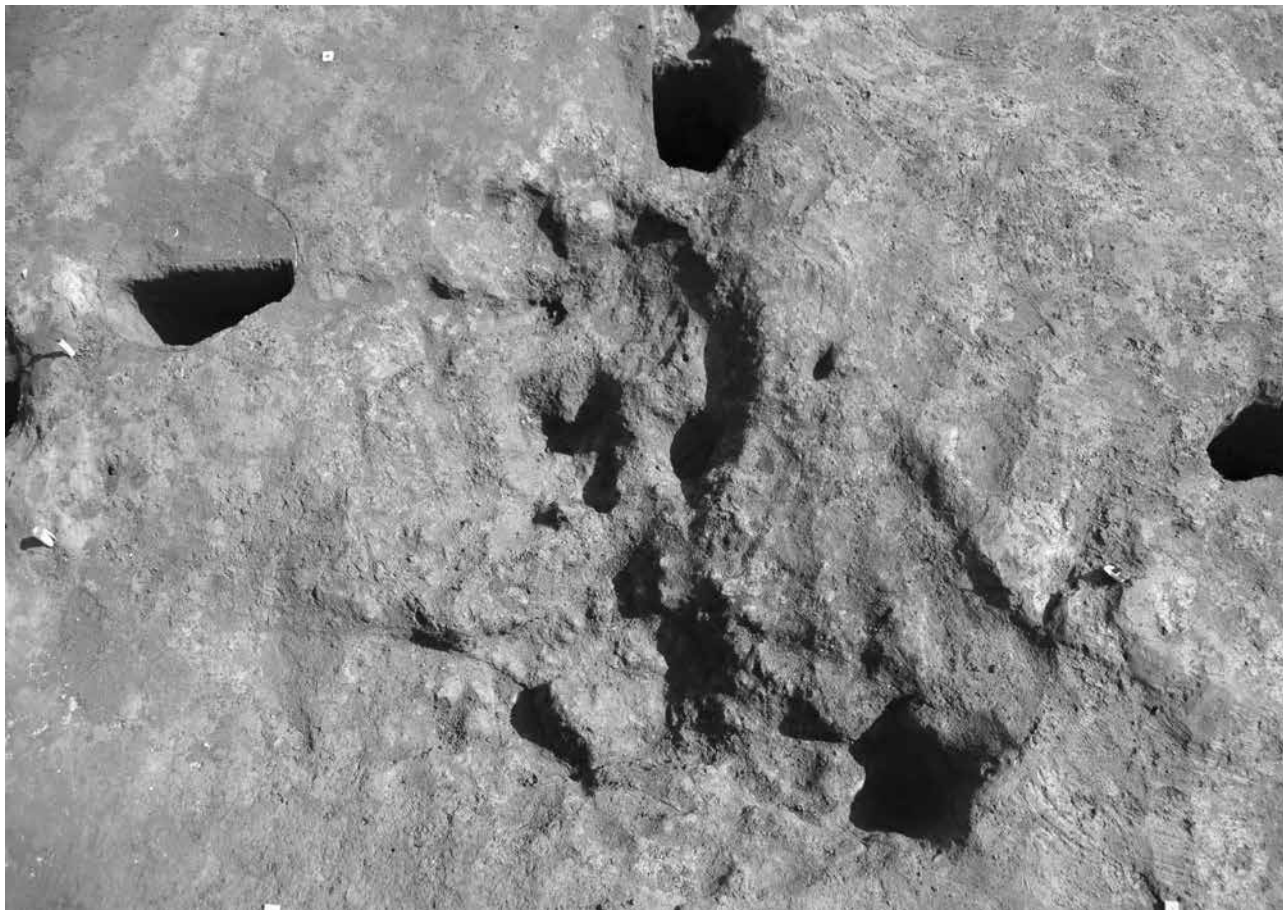
6号住居跡 ピット2・11



6号住居跡 周溝 土層



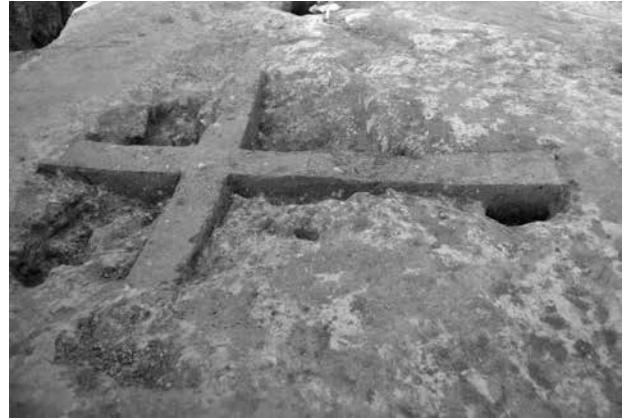
7号住居跡



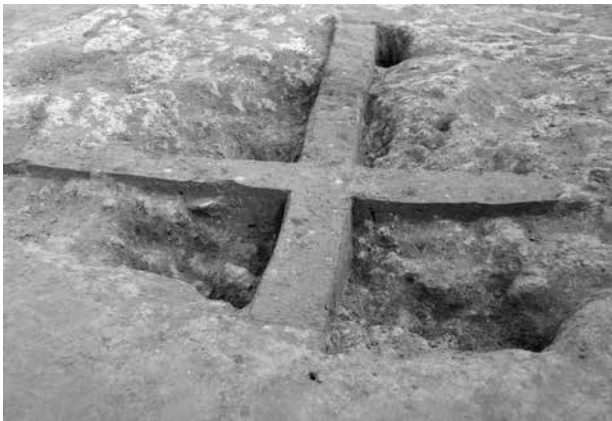
7号住居跡 炉1



7号住居跡 炉 2



7号住居跡 炉 1 土層



7号住居跡 炉 1 土層



7号住居跡 プラン確認状況



7号住居跡



7号住居跡



7号住居跡



7号住居跡



7号住居跡 No. 72 遺物出土状況



7号住居跡 No. 68 遺物出土状況



7号住居跡 No. 86 遺物出土状況



7号住居跡 No. 118 遺物出土状況



7号住居跡 遺物出土状況



7号住居跡 ピット・周溝



7号住居跡 ピット・周溝



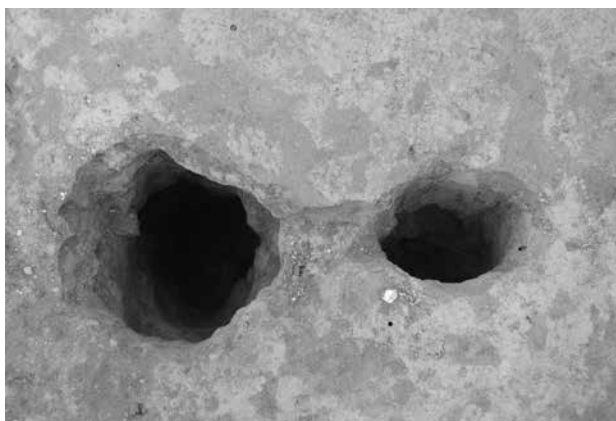
7号住居跡 ピット・周溝



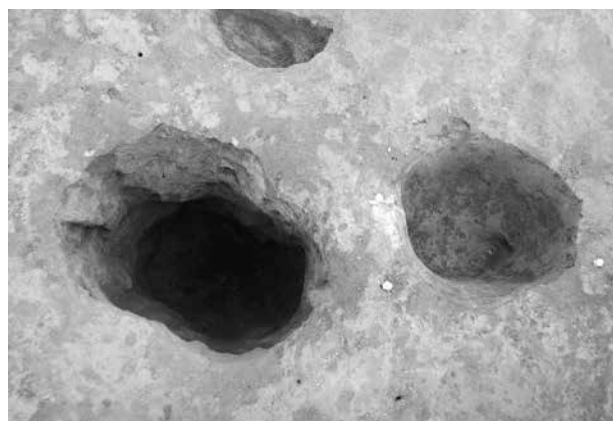
7号住居跡 ピット・周溝



7号住居跡 ピット1・2



7号住居跡 ピット3・4



7号住居跡 ピット5・6



7号住居跡 周溝 土層



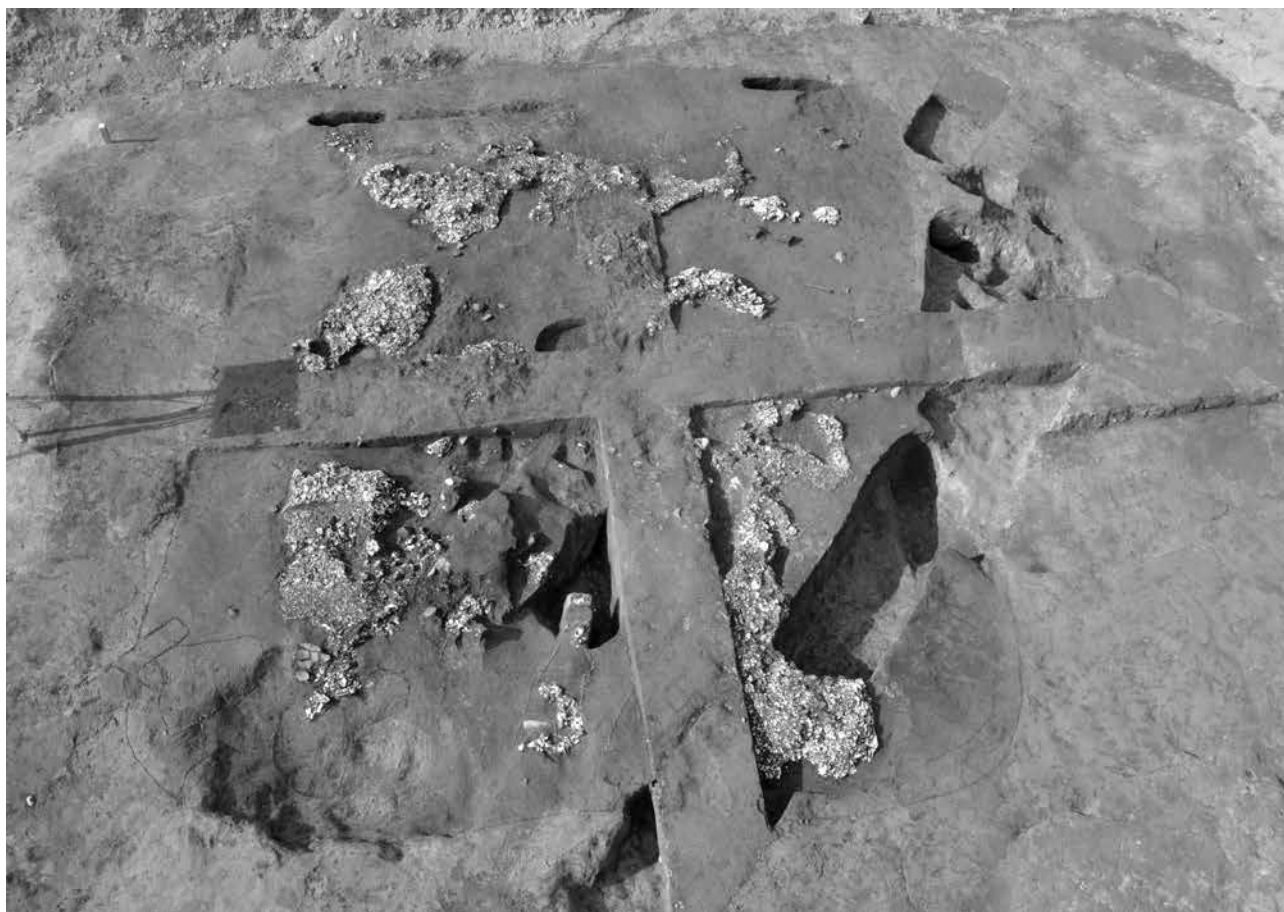
7号住居跡 周溝 土層



7号住居跡 周溝 土層



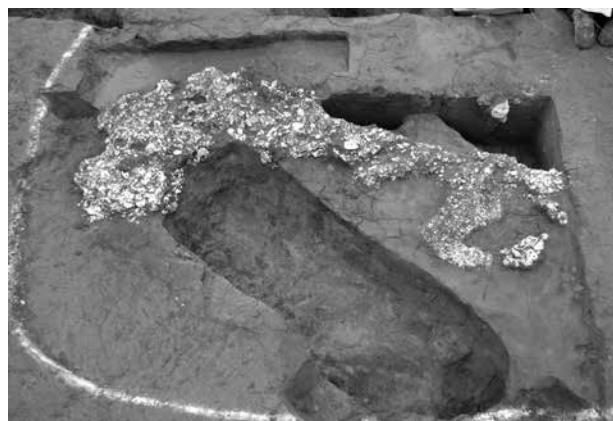
7号住居跡 周溝 土層



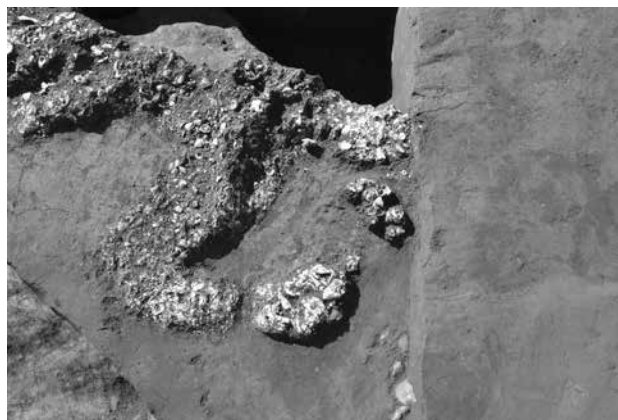
7号住居跡 貝ブロック出土状況（上面）



7号住居跡 貝ブロック 1・17 他



7号住居跡 貝ブロック 1・17 他



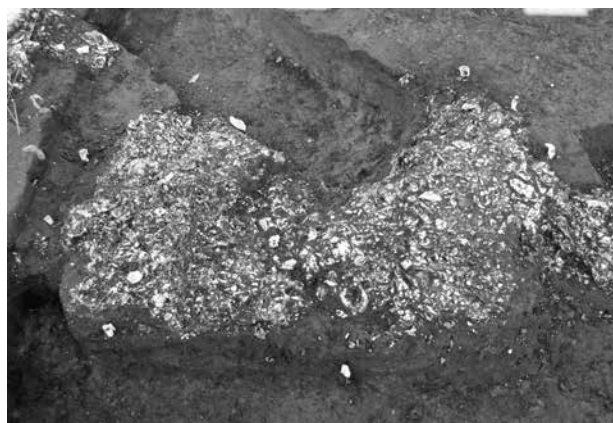
7号住居跡 貝ブロック 1・17 他



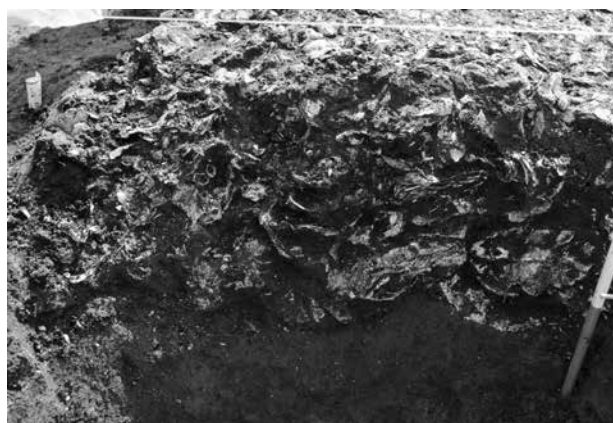
7号住居跡 貝ブロック 5



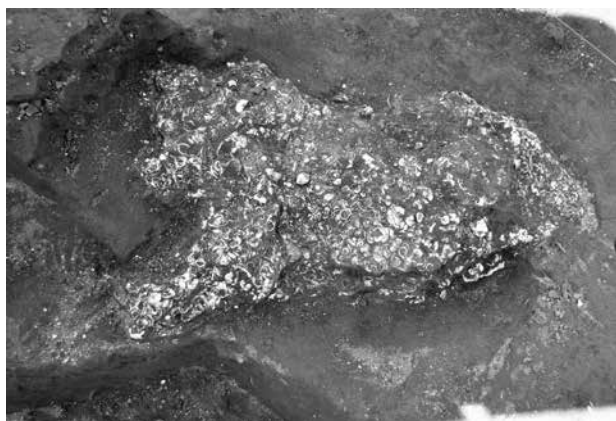
7号住居跡 貝ブロック4～12・22 他



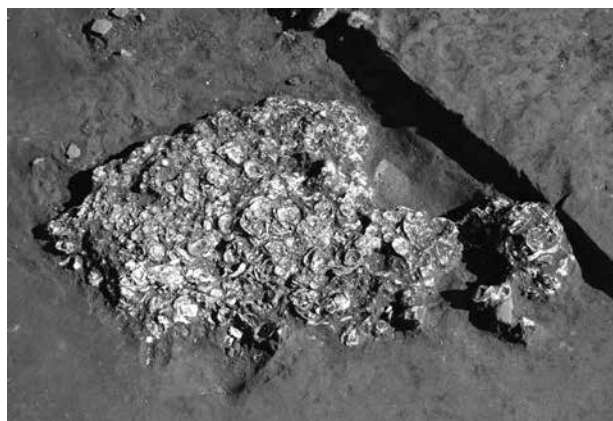
7号住居跡 貝ブロック5 (シジミ①層)



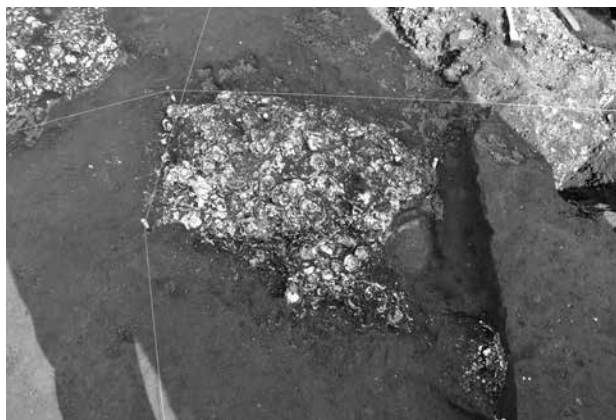
7号住居跡 貝ブロック5 土層



7号住居跡 貝ブロック7



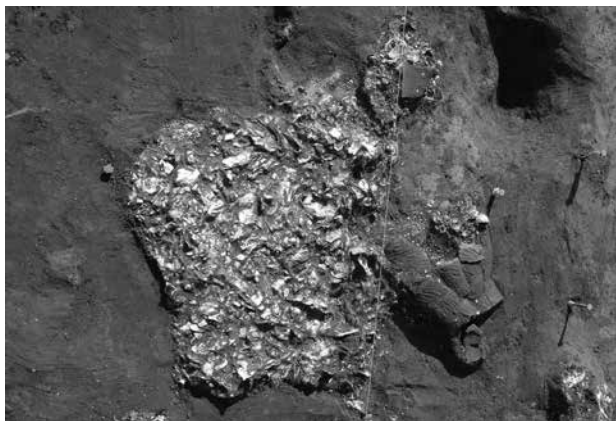
7号住居跡 貝ブロック8



7号住居跡 貝ブロック8 (ハマグリ②層)



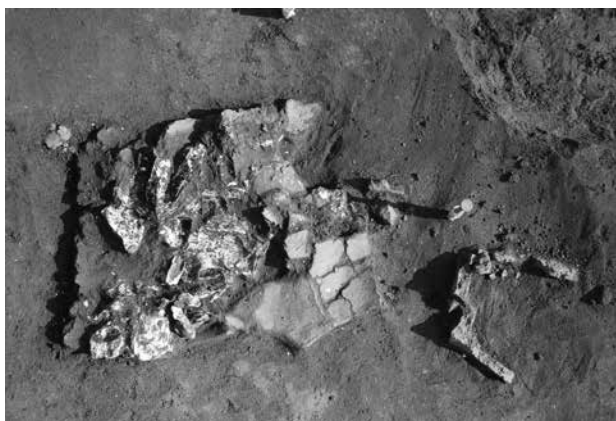
7号住居跡 貝ブロック9



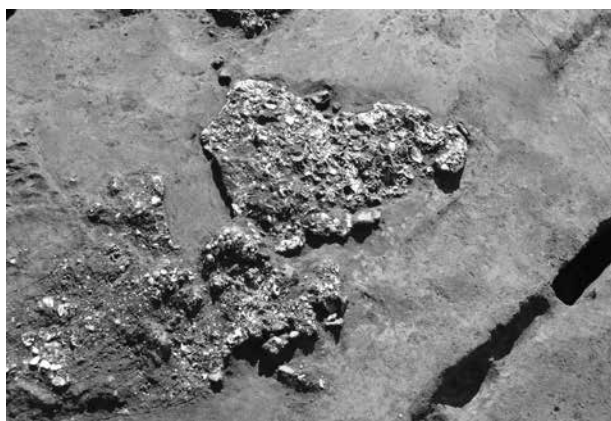
7号住居跡 貝ブロック 10



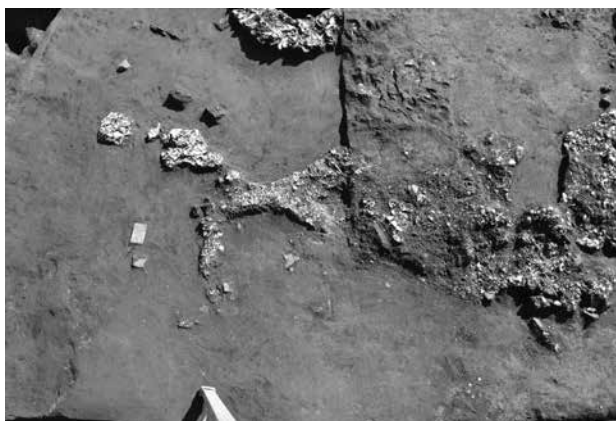
7号住居跡 貝ブロック 10



7号住居跡 貝ブロック 10 (マガキ④層)



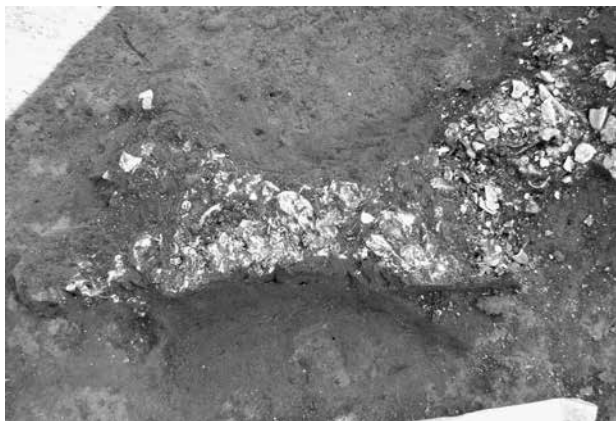
7号住居跡 貝ブロック 10・13



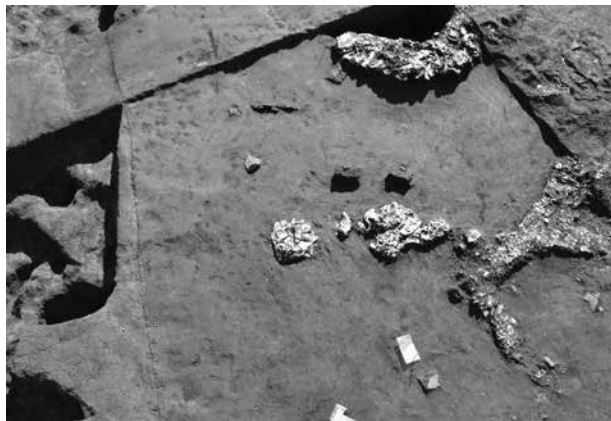
7号住居跡 貝ブロック 10・13・19・28



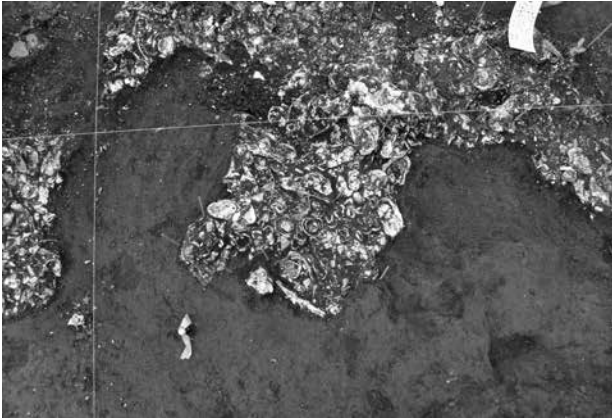
7号住居跡 貝ブロック 6・13・18・19・23 他



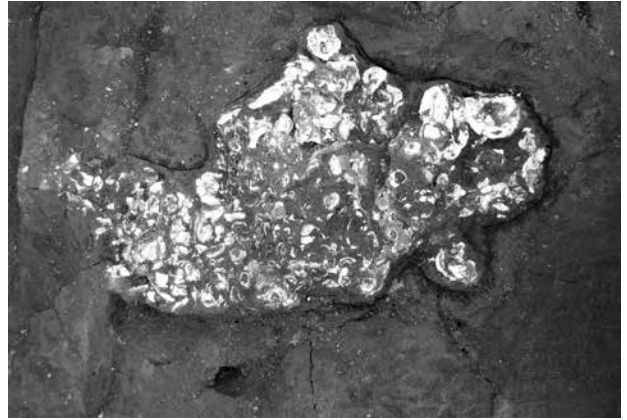
7号住居跡 貝ブロック 13 (シジミ①層)



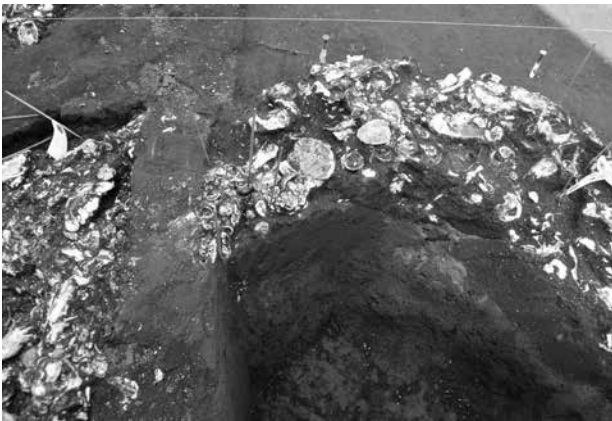
7号住居跡 貝ブロック 16・18・19・23 他



7号住居跡 貝ブロック 13 (ヤマトシジミ②層)



7号住居跡 貝ブロック 15



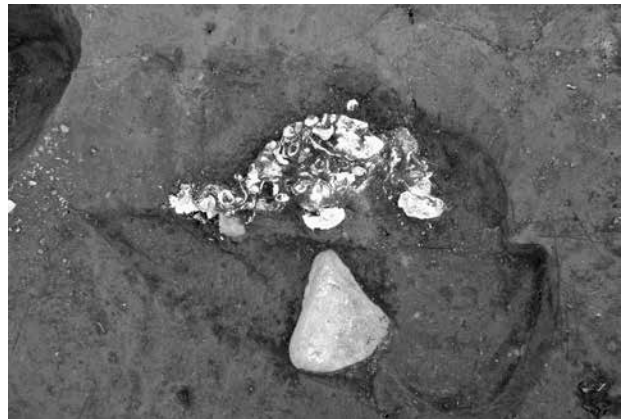
7号住居跡 貝ブロック 16 (ヤマトシジミ①層)



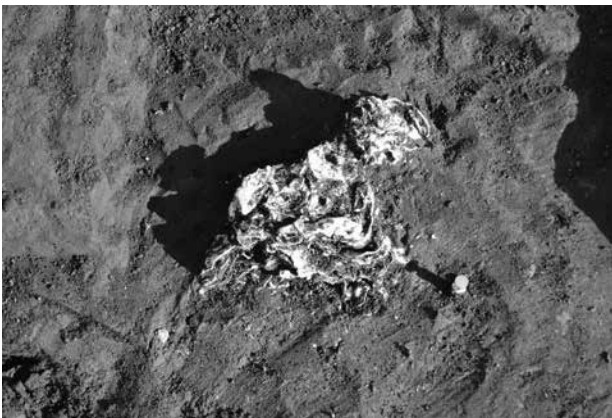
7号住居跡 貝ブロック 17



7号住居跡 貝ブロック 20



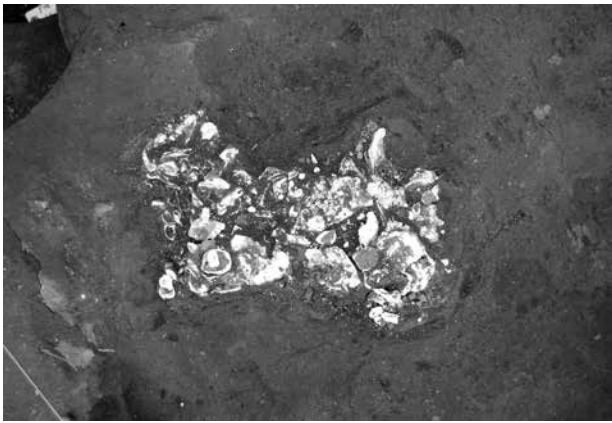
7号住居跡 貝ブロック 21 (ヤマトシジミ①層)



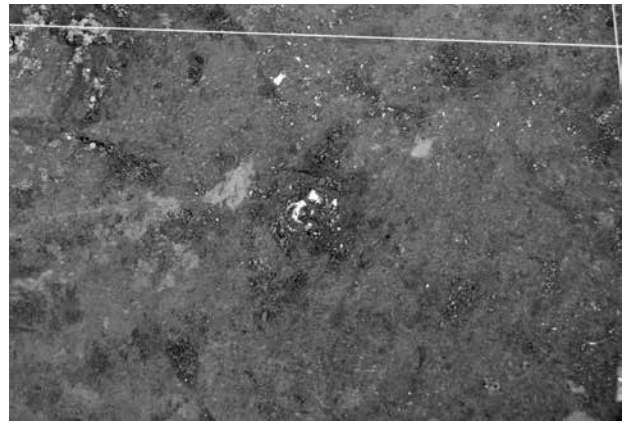
7号住居跡 貝ブロック 22 (マガキ①層)



7号住居跡 貝ブロック 23 土層



7号住居跡 貝ブロック 24



7号住居跡 貝ブロック 8 (旧貝ブロック 26)



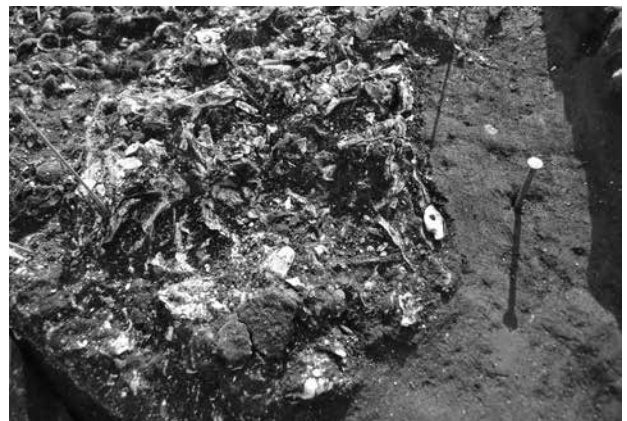
7号住居跡 貝ブロック 7 (旧貝ブロック 27)
(ヤマトシジミ①層)



7号住居跡 貝ブロック 13 (旧貝ブロック 28)



7号住居跡 貝ブロック 13 (旧貝ブロック 29・30)



7号住居跡 貝ブロック



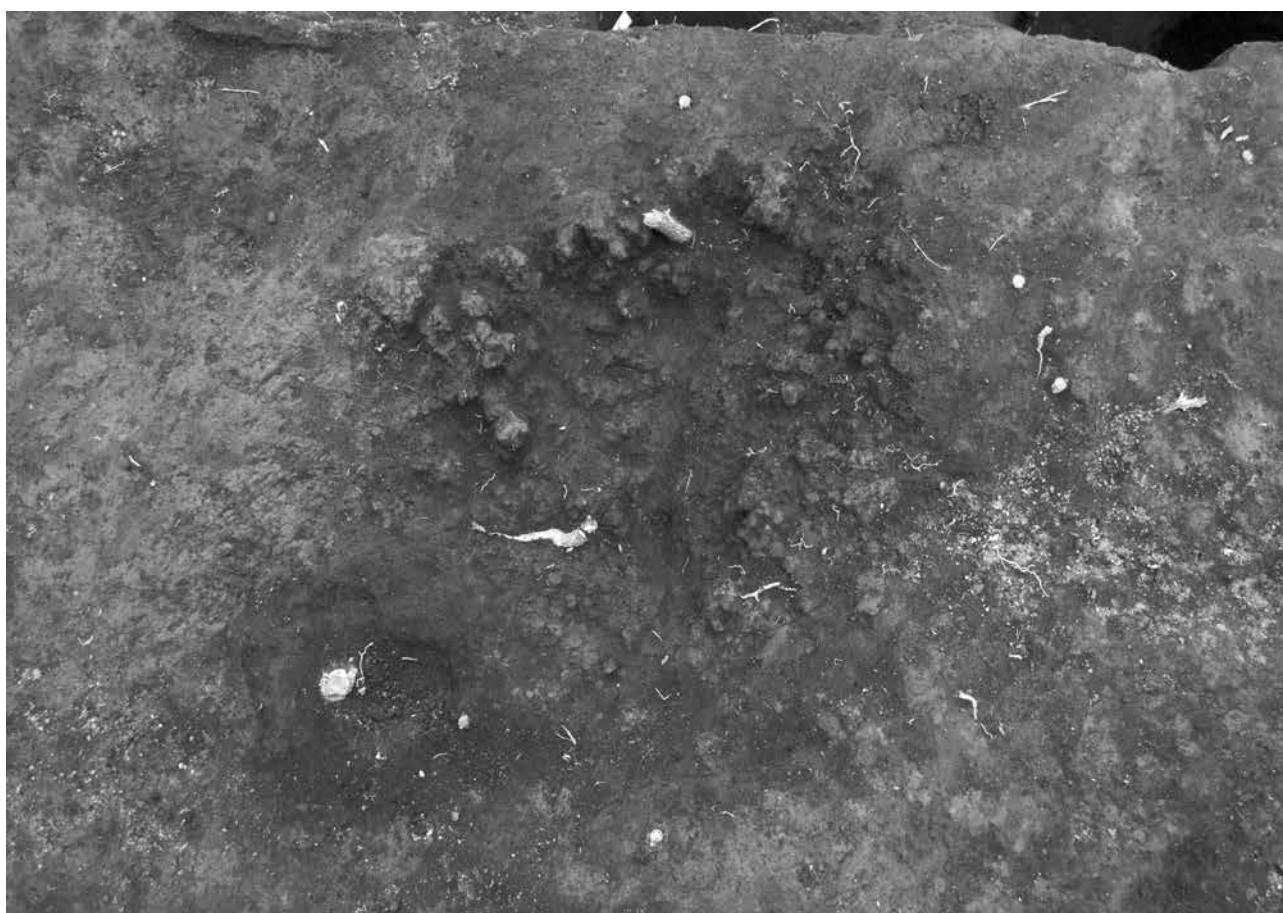
7号住居跡 貝ブロック 調査風景



7号住居跡 調査風景



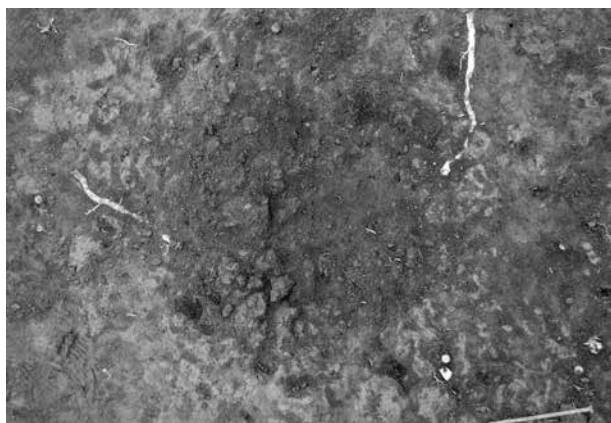
8号住居跡



8号住居跡 炉1



8号住居跡 炉1



8号住居跡 炉2



8号住居跡 プラン確認状況



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 土層



8号住居跡 貝ブロック出土状況（上面）



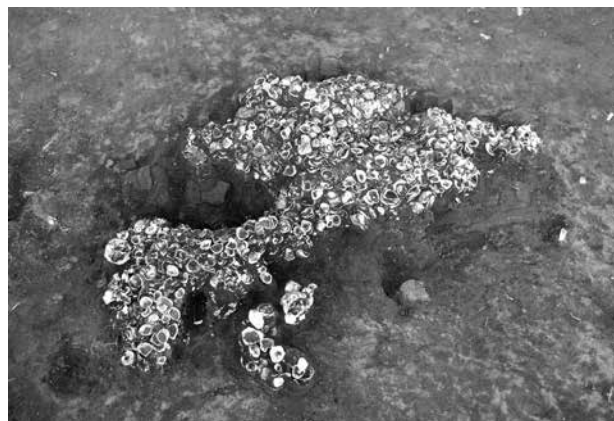
8号住居跡 貝ブロックⅠ～Ⅳ出土状況



8号住居跡 貝ブロックⅠ・Ⅱ出土状況（上面）



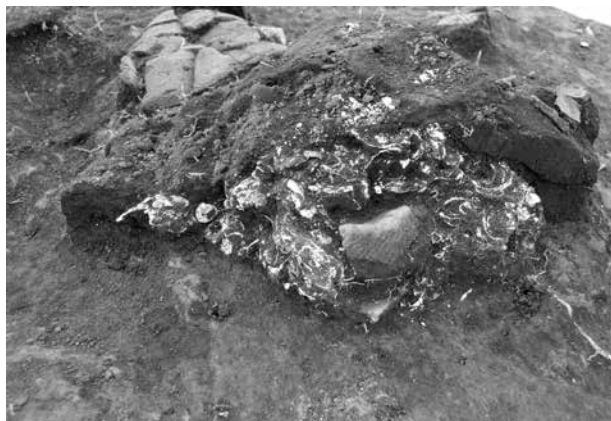
8号住居跡 貝ブロックⅢ出土状況（上面）



8号住居跡 貝ブロックⅤ出土状況（上面）



8号住居跡 貝ブロック I
(マガキ①層、ヤマトシジミ①層)



8号住居跡 貝ブロック III



8号住居跡 貝ブロック IV



8号住居跡 貝ブロック V (ヤマトシジミ②層)



8号住居跡 貝ブロック V (ハマグリ②層)



8号住居跡 貝ブロック V
(ヤマトシジミ②層、マガキ①層、ハマグリ①層)



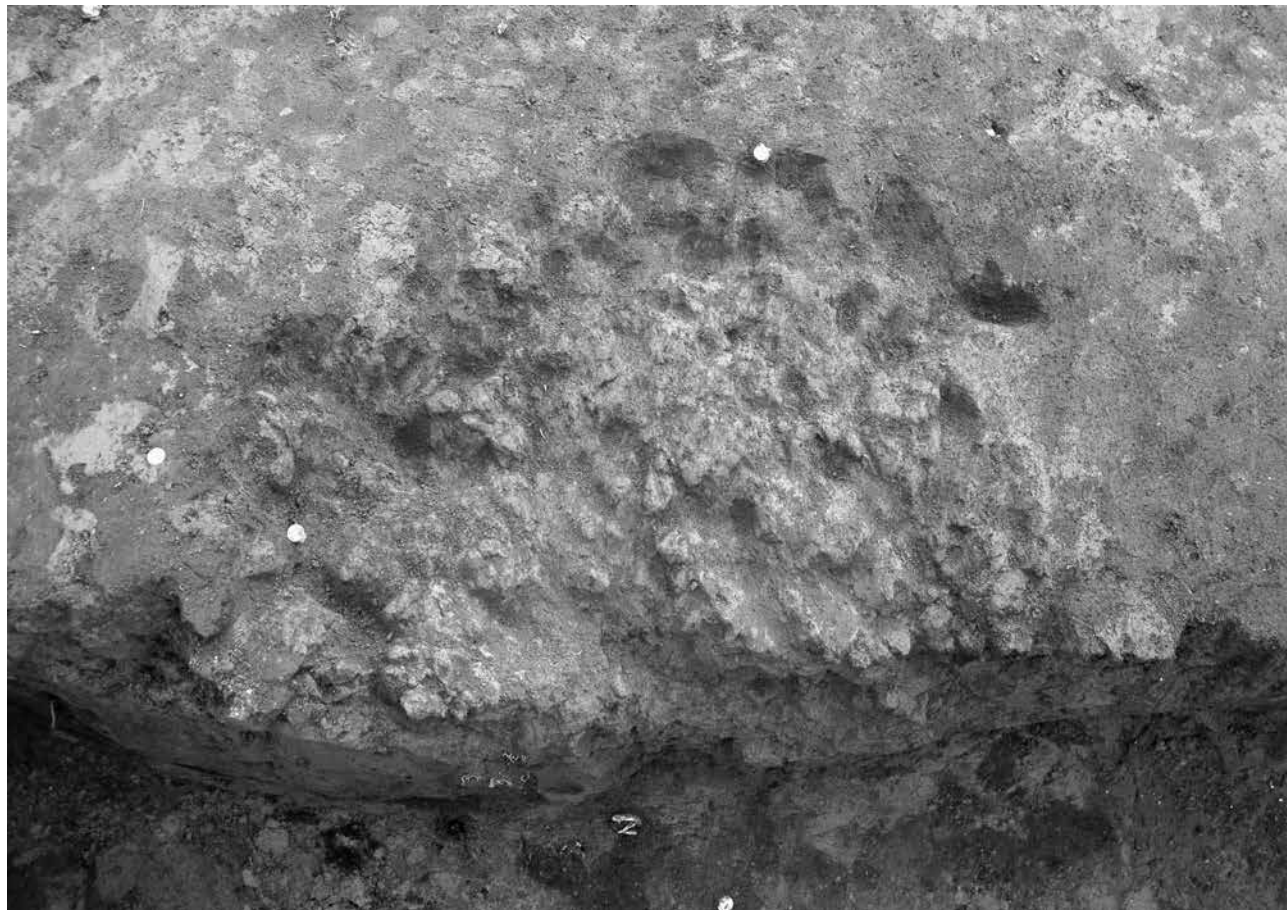
8号住居跡 貝ブロック VI



8号住居跡 貝ブロック VI



9号住居跡



9号住居跡 炉



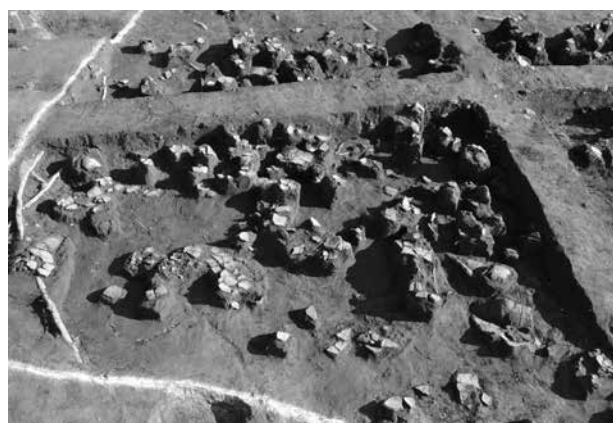
9号住居跡 炉1・2



8号住居跡 プラン確認状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



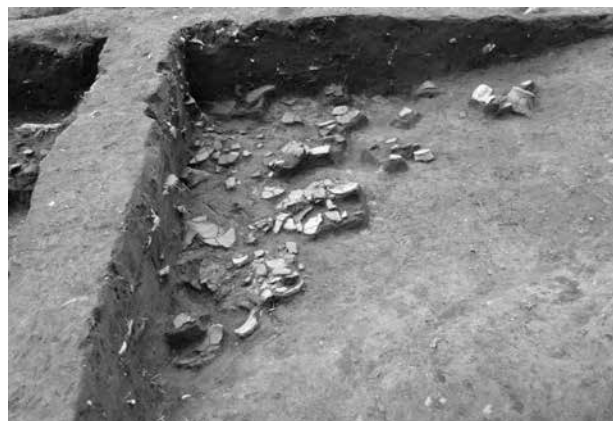
9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況



9号住居跡 遺物出土状況（床面）



9号住居跡 貝ブロック全景



9号住居跡 貝ブロック全景



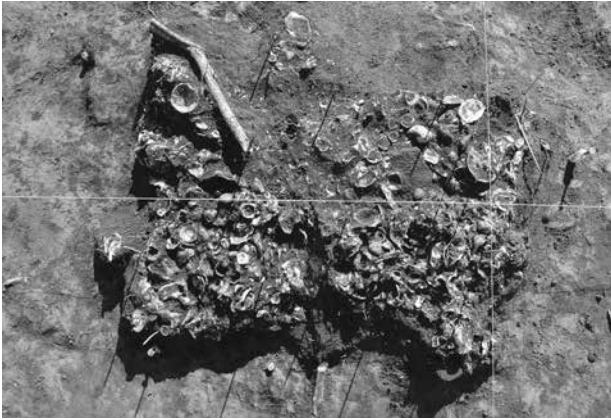
9号住居跡 貝ブロックⅠ（1層）



9号住居跡 貝ブロックⅡ（1層）



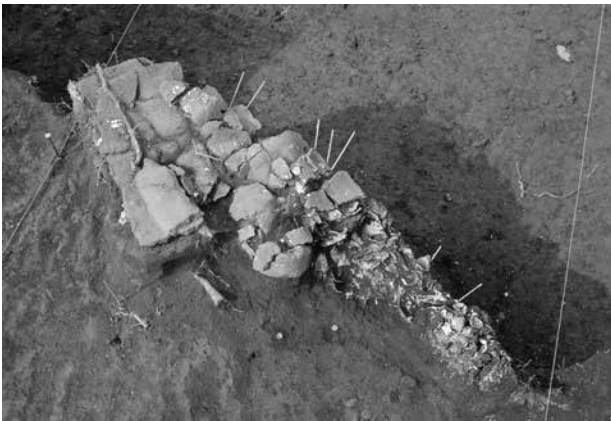
9号住居跡 貝ブロックⅢ（1層）



9号住居跡 貝ブロックⅢ (ヤマトシジミ②層)



9号住居跡 貝ブロックⅣ (マガキ①層)



9号住居跡 貝ブロックⅣ
(ヤマトシジミ①層・P389)



9号住居跡 貝ブロックⅣ (ヤマトシジミ③層)



9号住居跡 貝ブロック 調査風景



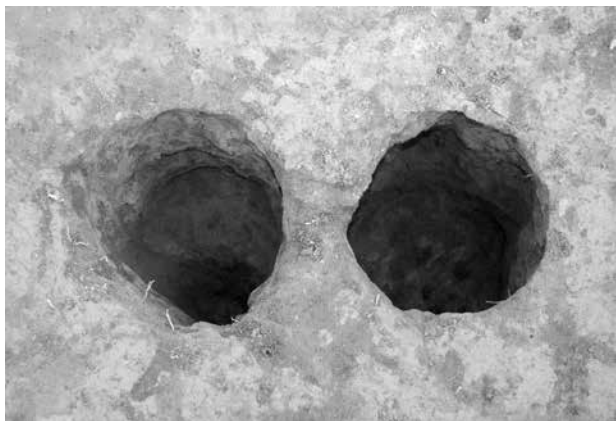
9号住居跡 調査風景



9号住居跡 土層



9号住居跡 土層



9号住居跡 ピット1・2



9号住居跡 ピット3・4



9号住居跡 ピット7・8



9号住居跡 ピット10・17



9号住居跡 ピット12・16



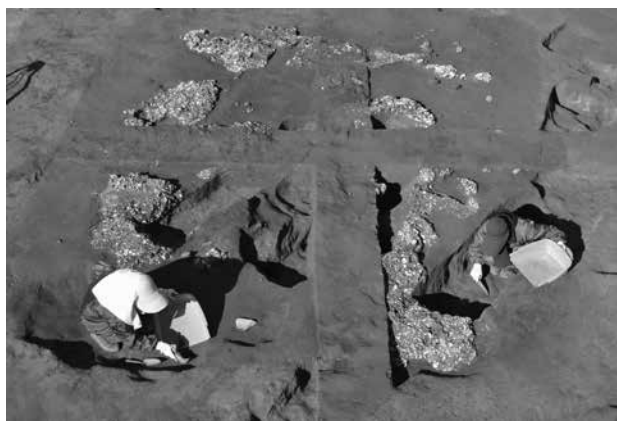
9号住居跡 ピット13・14



9号住居跡 調査風景



9号住居跡 調査風景



7号住居跡 調査風景



7号住居跡 調査風景



8号住居跡 調査風景



9号住居跡 調査風景



溝 調査風景



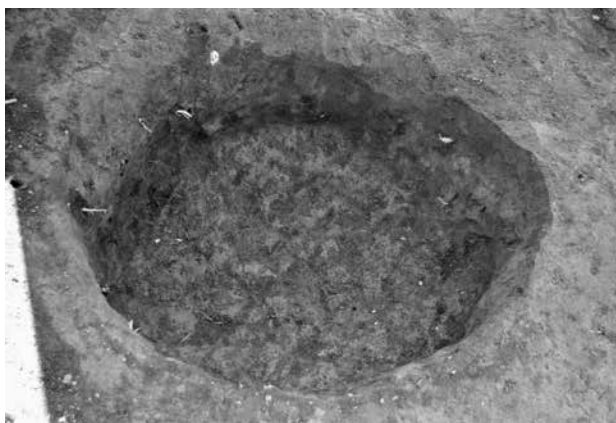
全景 積雪時風景



遺跡見学会



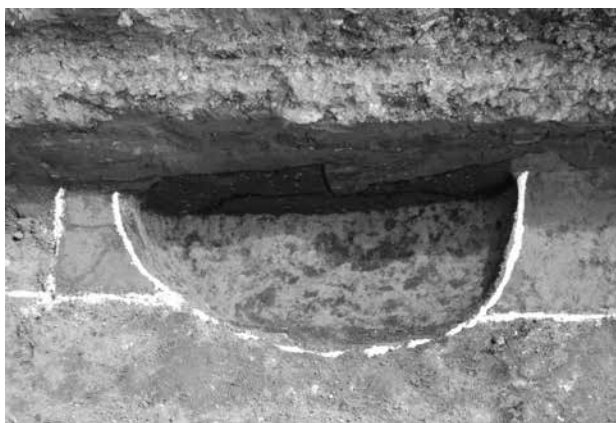
遺跡見学会



土坑 1



土坑 2



土坑 3



溝 1



溝 1



溝 1



溝 1 土層



溝 1 土層



火工廠 水溜 8



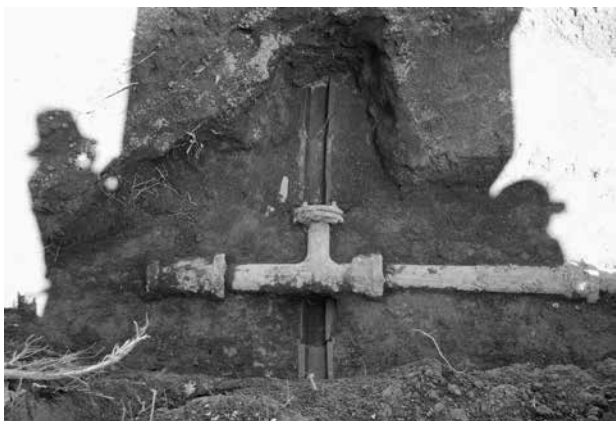
火工廠 水溜 8



火工廠 水溜 8・消火栓 2



火工廠 消火栓 2



火工廠 配水管



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 1



火工廠 遺構 2 (トレンチ 1)



火工廠 遺構 4 (トレンチ 20)



火工廠 遺構 7 (トレンチ 19)



火工廠 遺構 1 遺物出土状況 (トレンチ 14)



火工廠 遺構 8 (トレンチ 14)



火工廠 遺構 9 (トレンチ 14)



火工廠 遺構 (トレンチ 18)



火工廠 トレンチ 22 遺物出土状況



火工廠 遺構 11 (トレンチ 23)

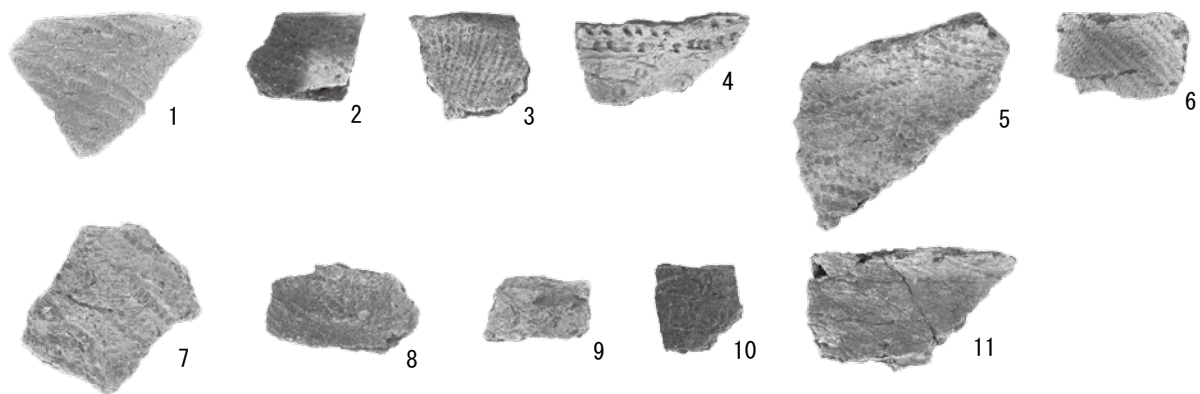


火工廠 遺構 12 (トレンチ 39)

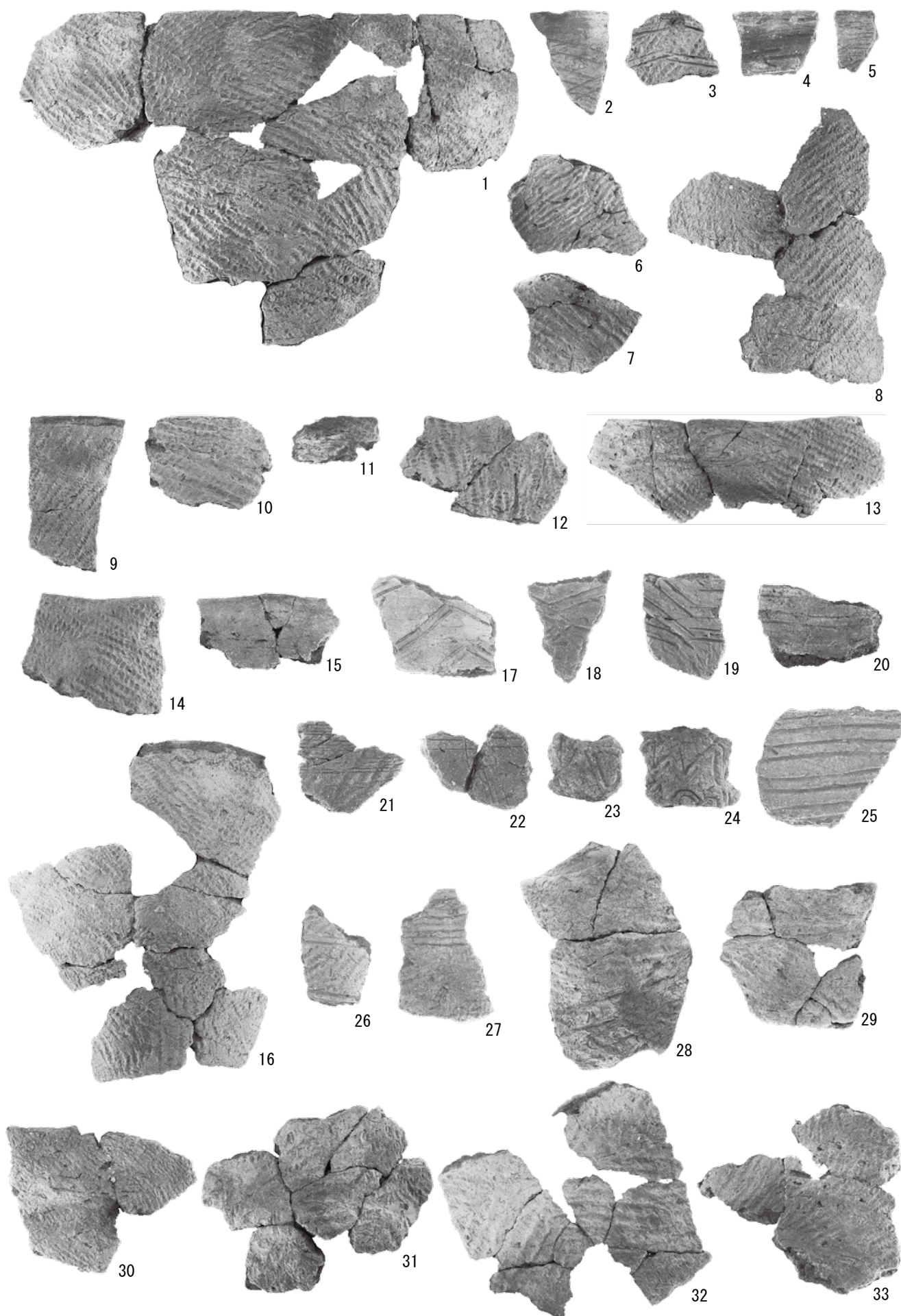


火工廠 トレンチ 53 遺物出土状況

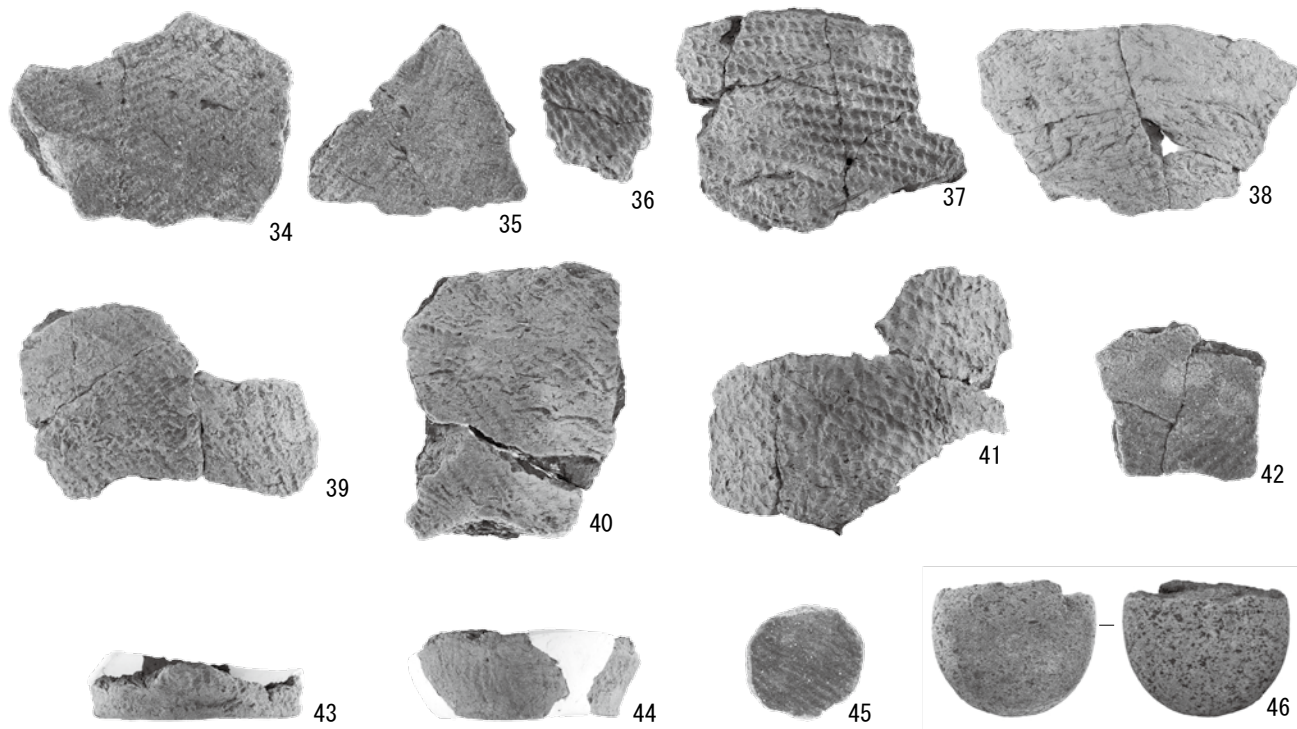
3号住居跡出土遺物



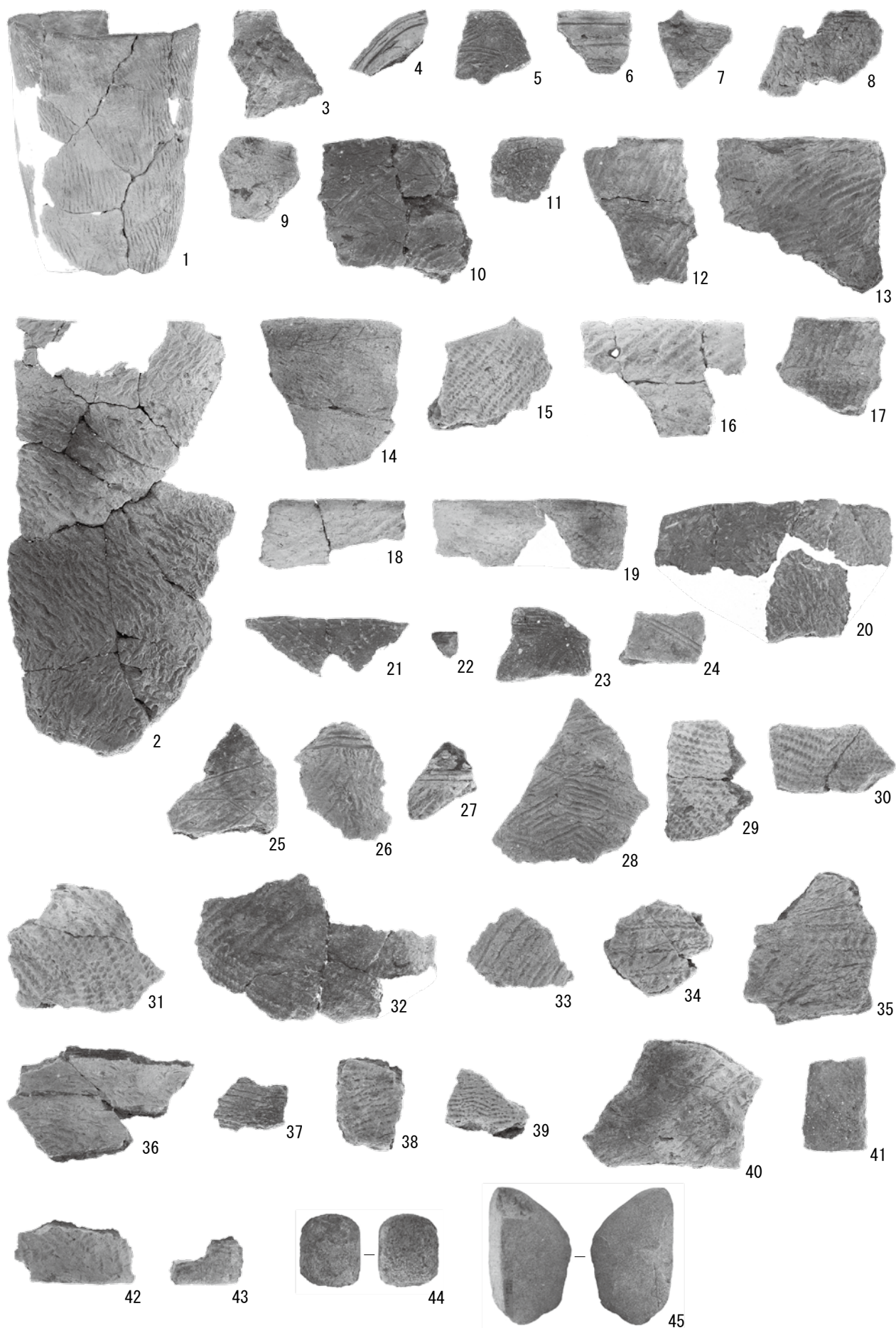
3号住居跡出土遺物



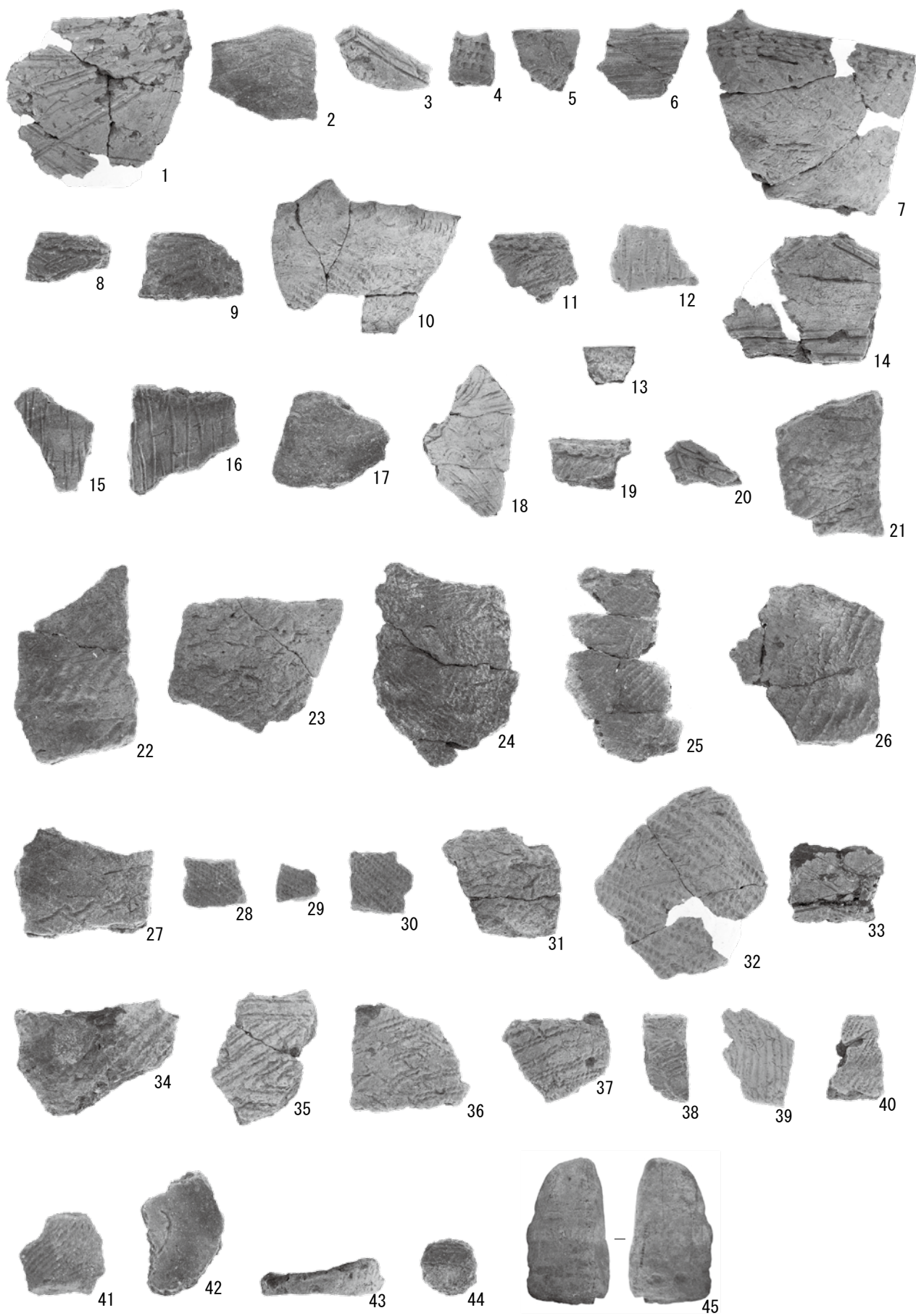
4号住居跡出土遺物②



4号住居跡出土遺物(2)

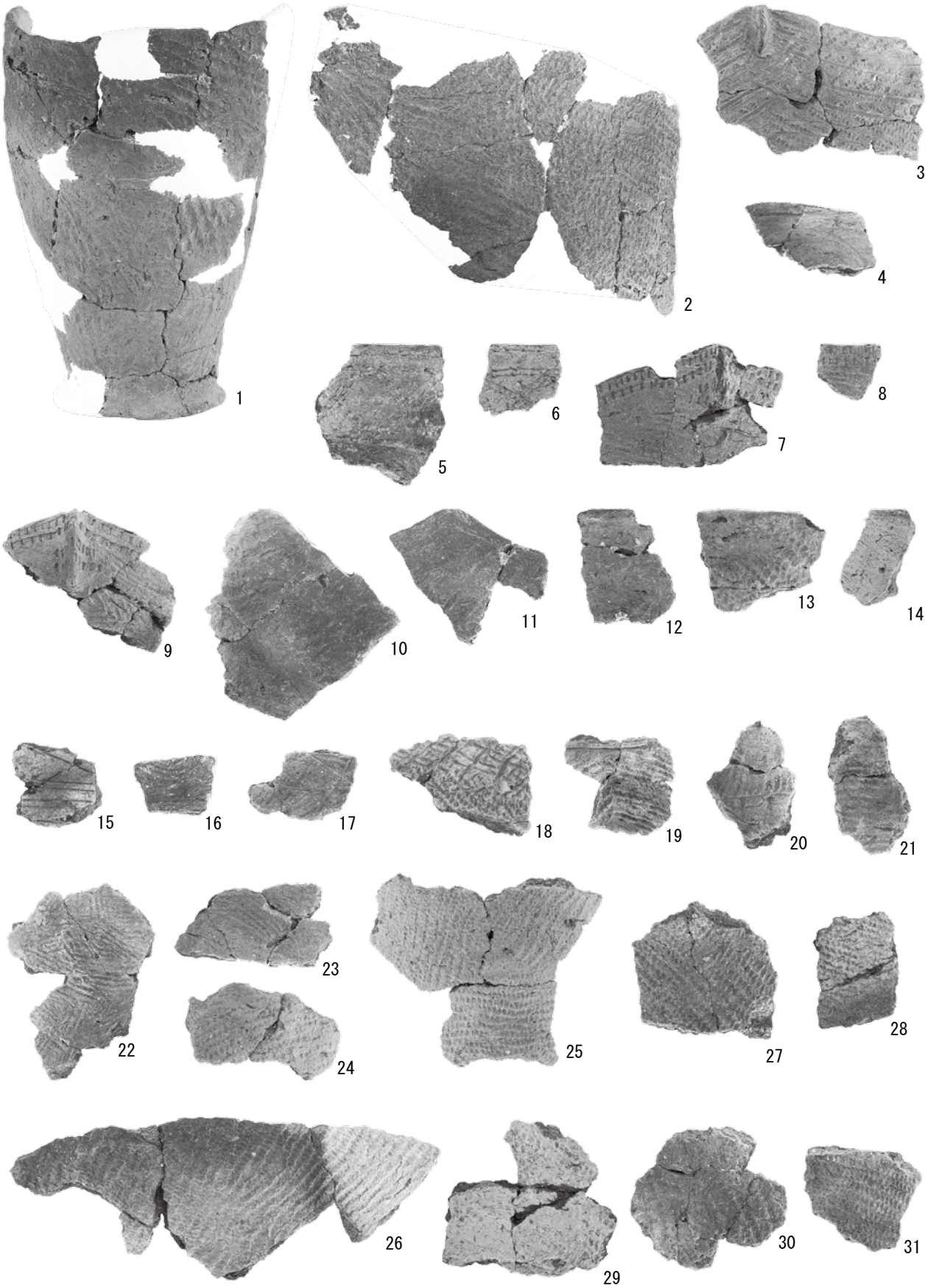


6号住居跡出土遺物



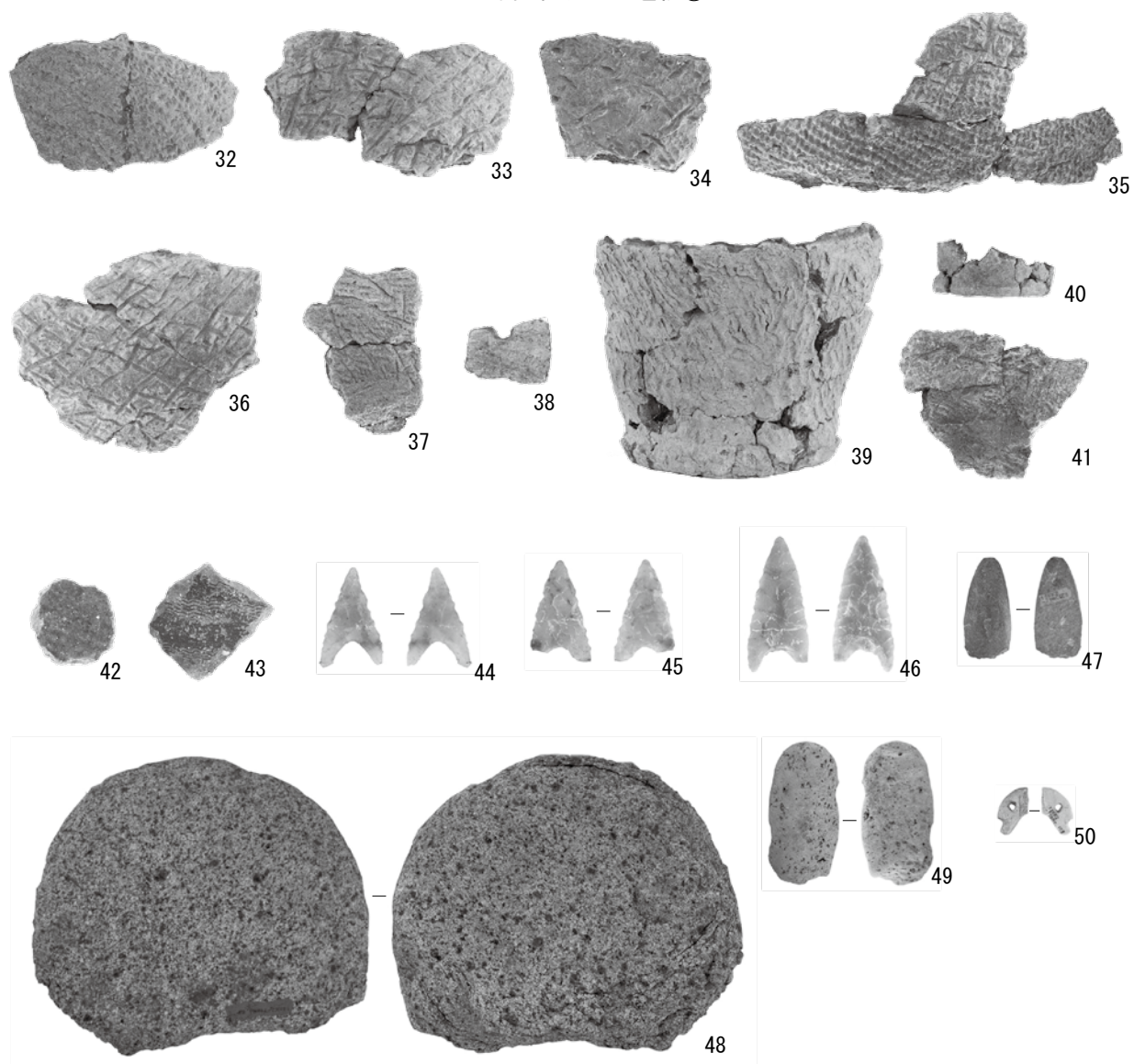
6号住居跡出土遺物

7号住居跡出土遺物①



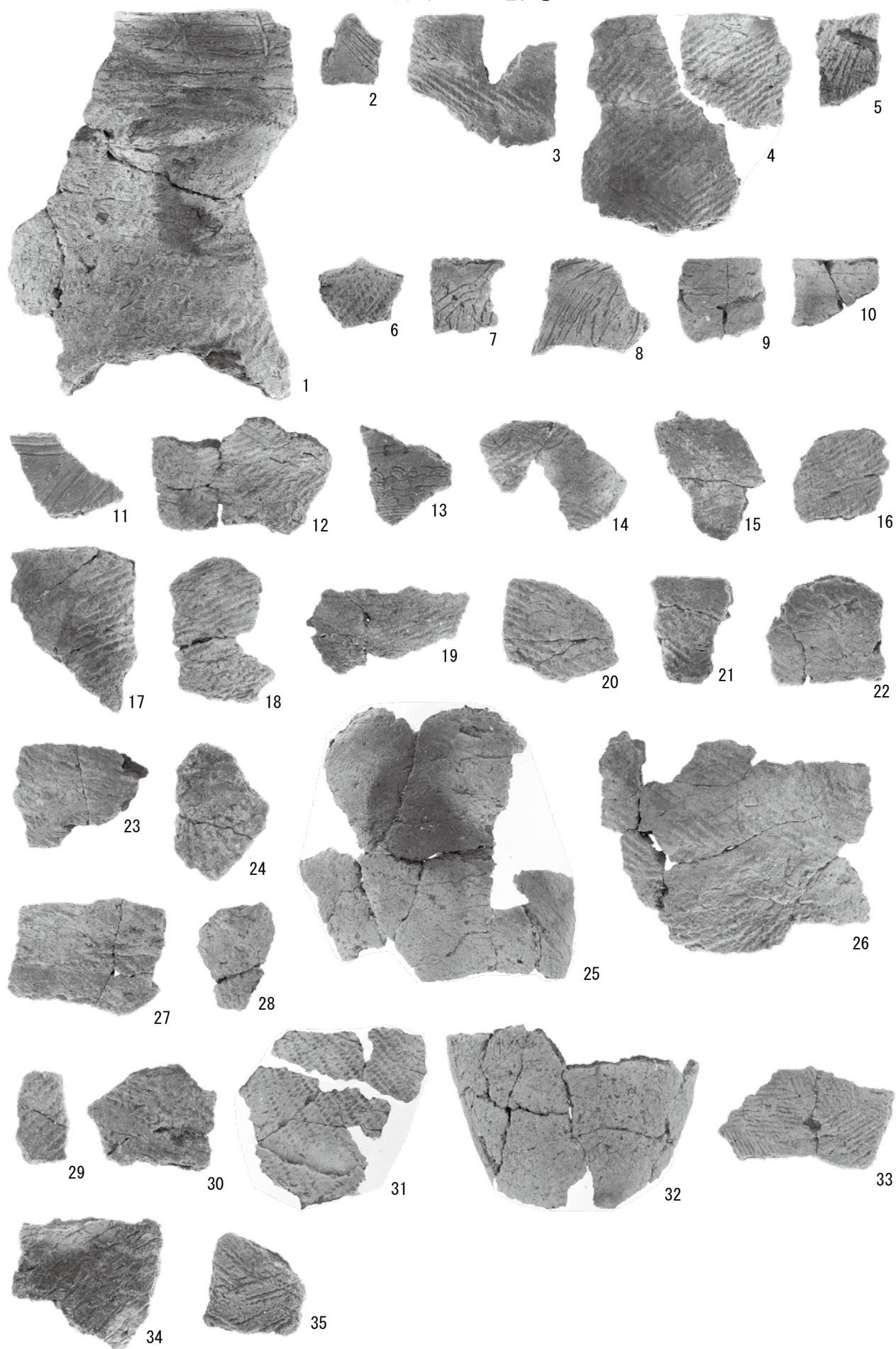
7号住居跡出土遺物（1）

7号住居跡出土遺物②



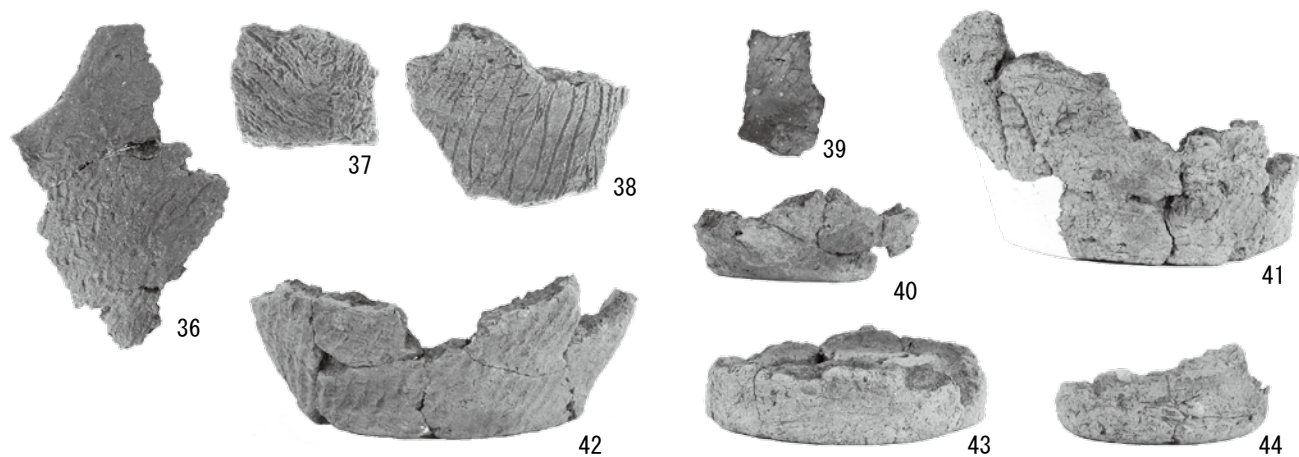
7号住居跡出土遺物(2)

8号住居跡出土遺物①

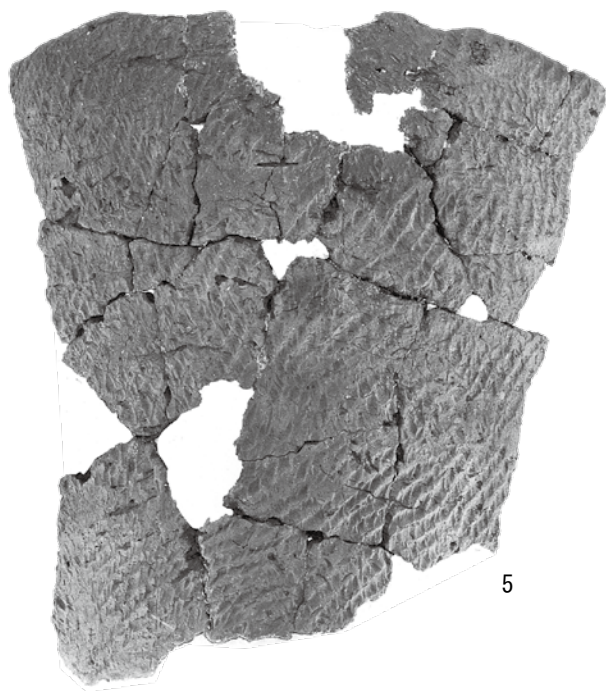
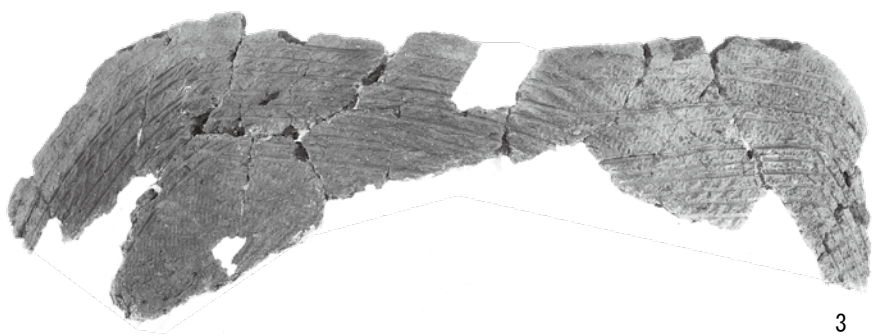


8号住居跡出土遺物 (1)

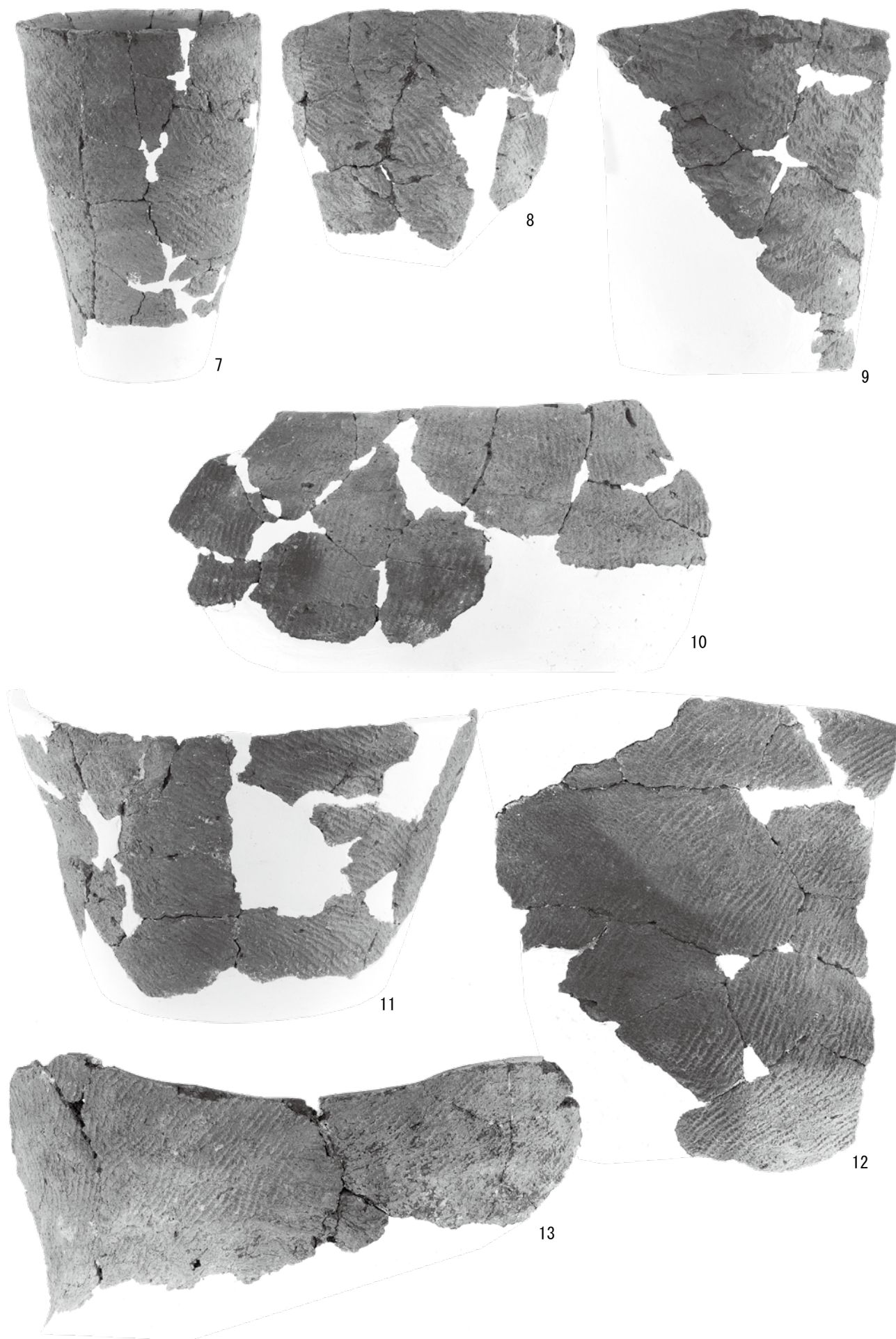
8号住居跡出土遺物②



8号住居跡出土遺物（2）

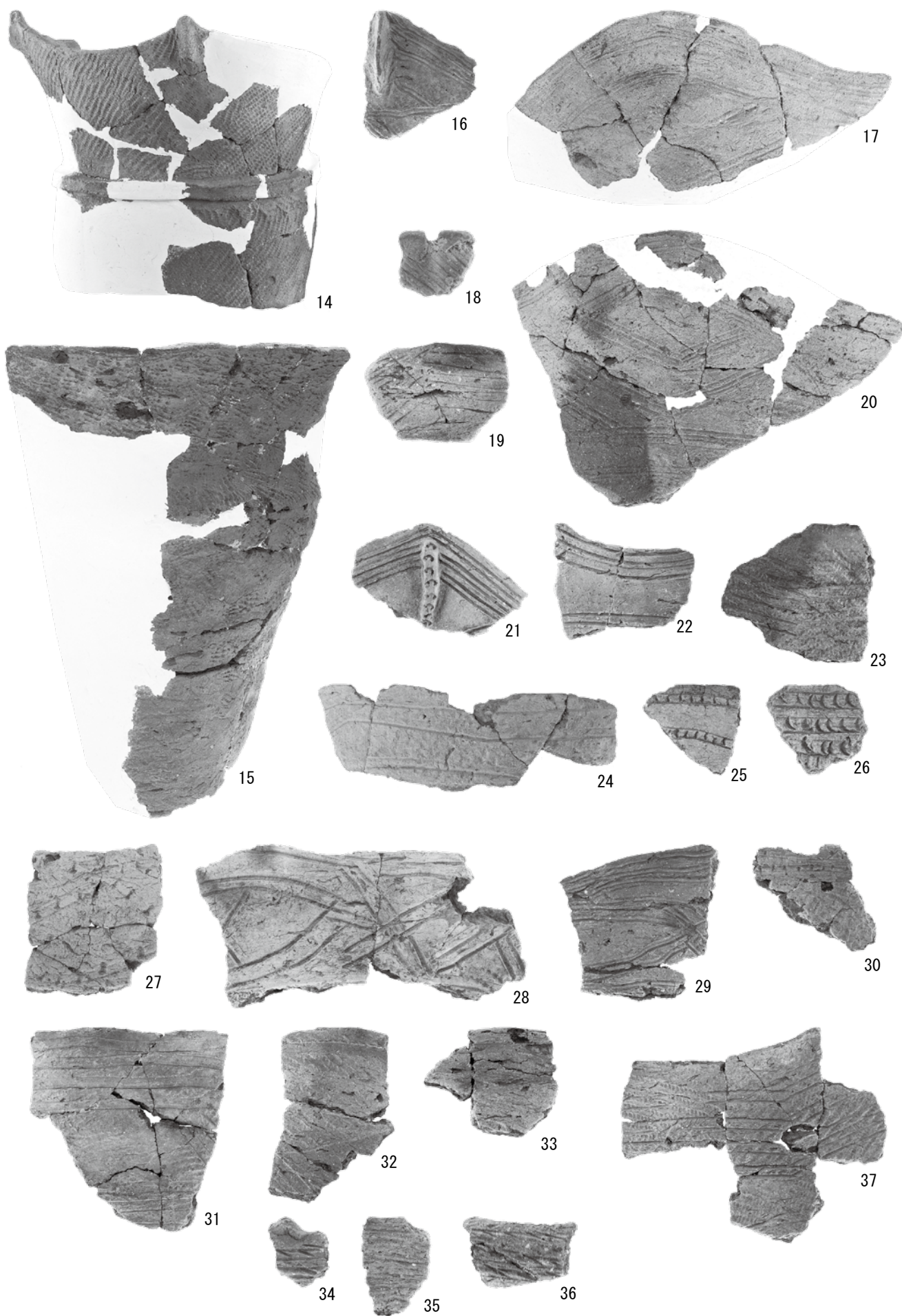


9号住居跡出土遺物②



9号住居跡出土遺物（2）

9号住居跡出土遺物③



9号住居跡出土遺物 (3)

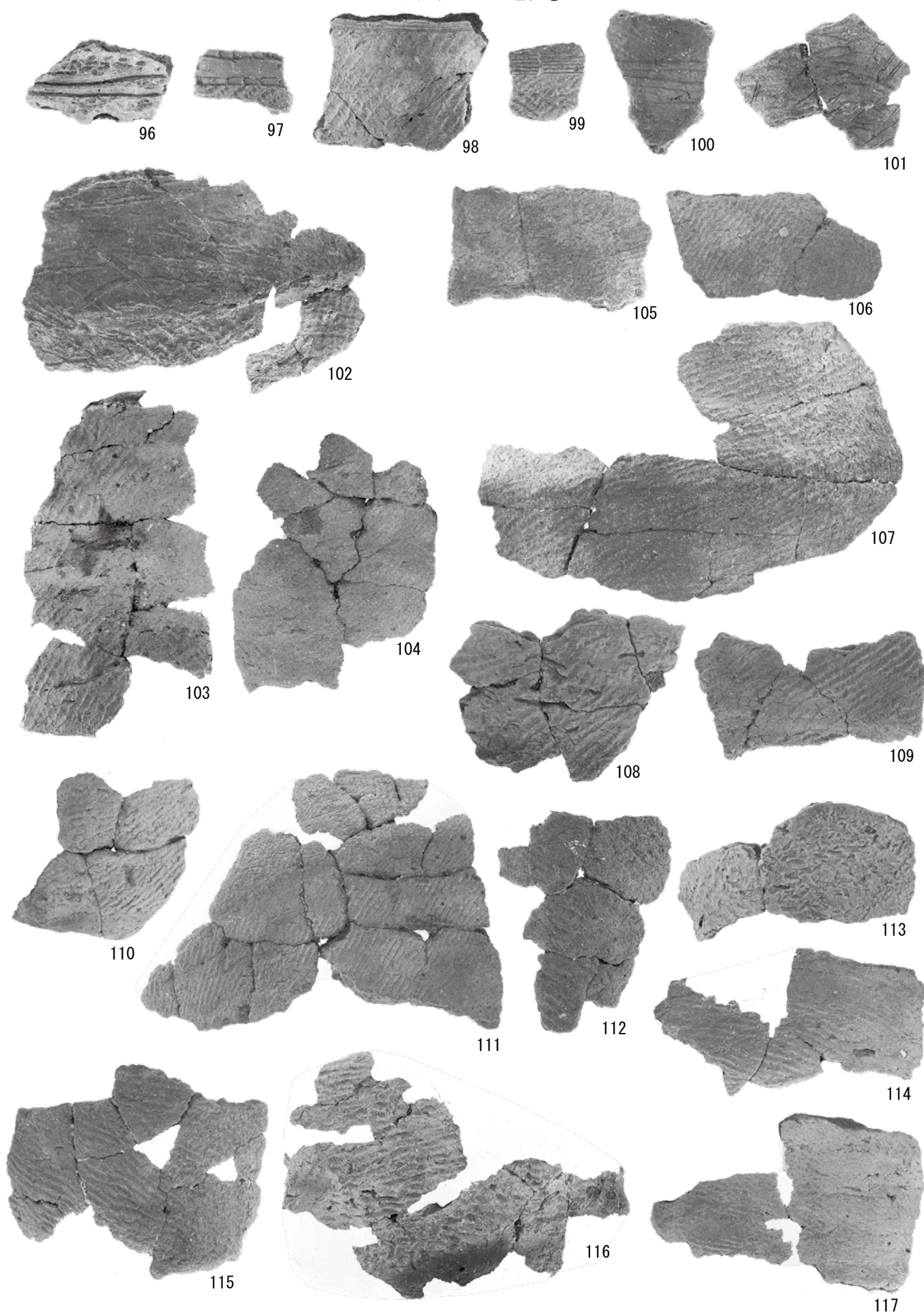
9号住居跡出土遺物④



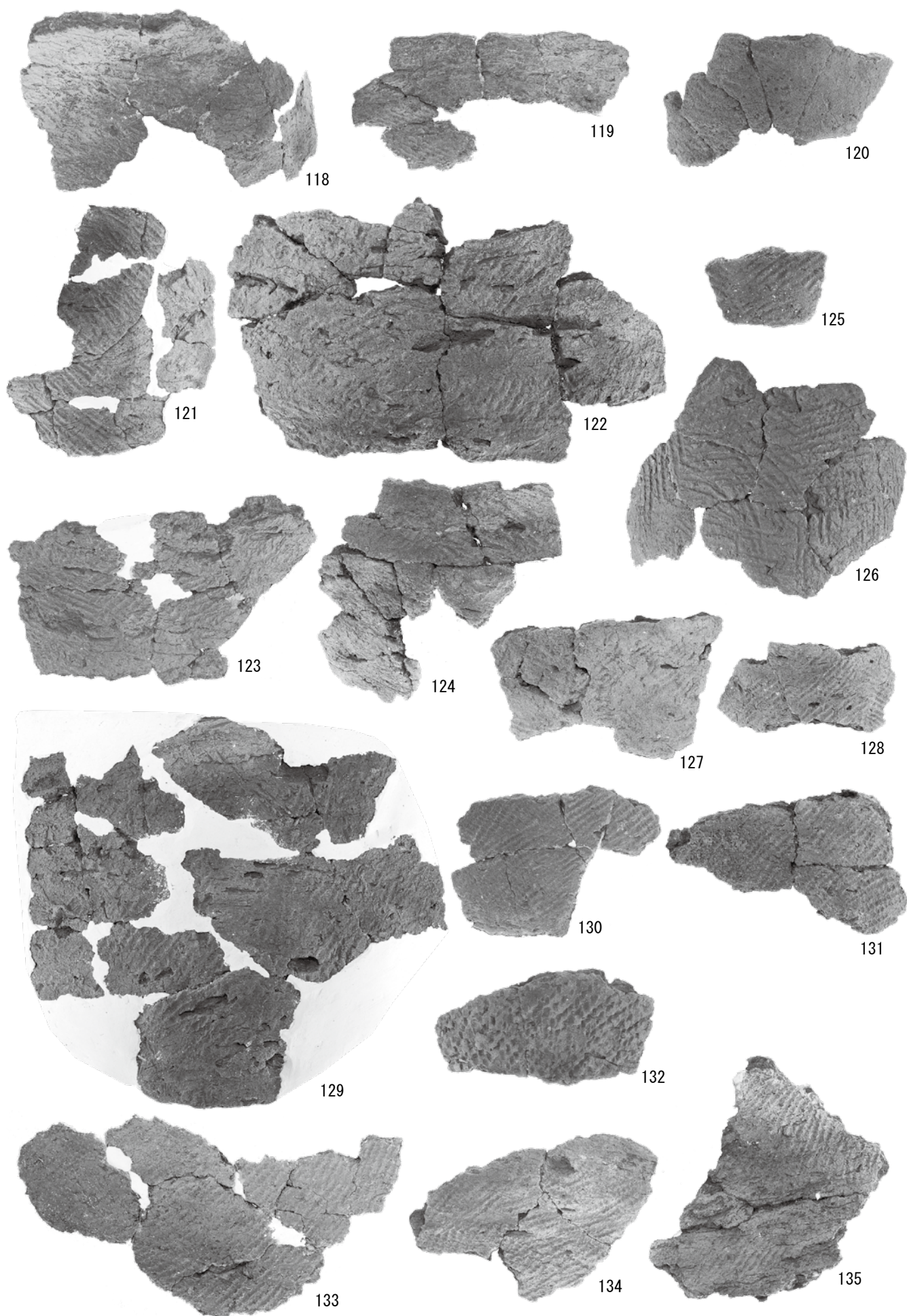
9号住居跡出土遺物（4）



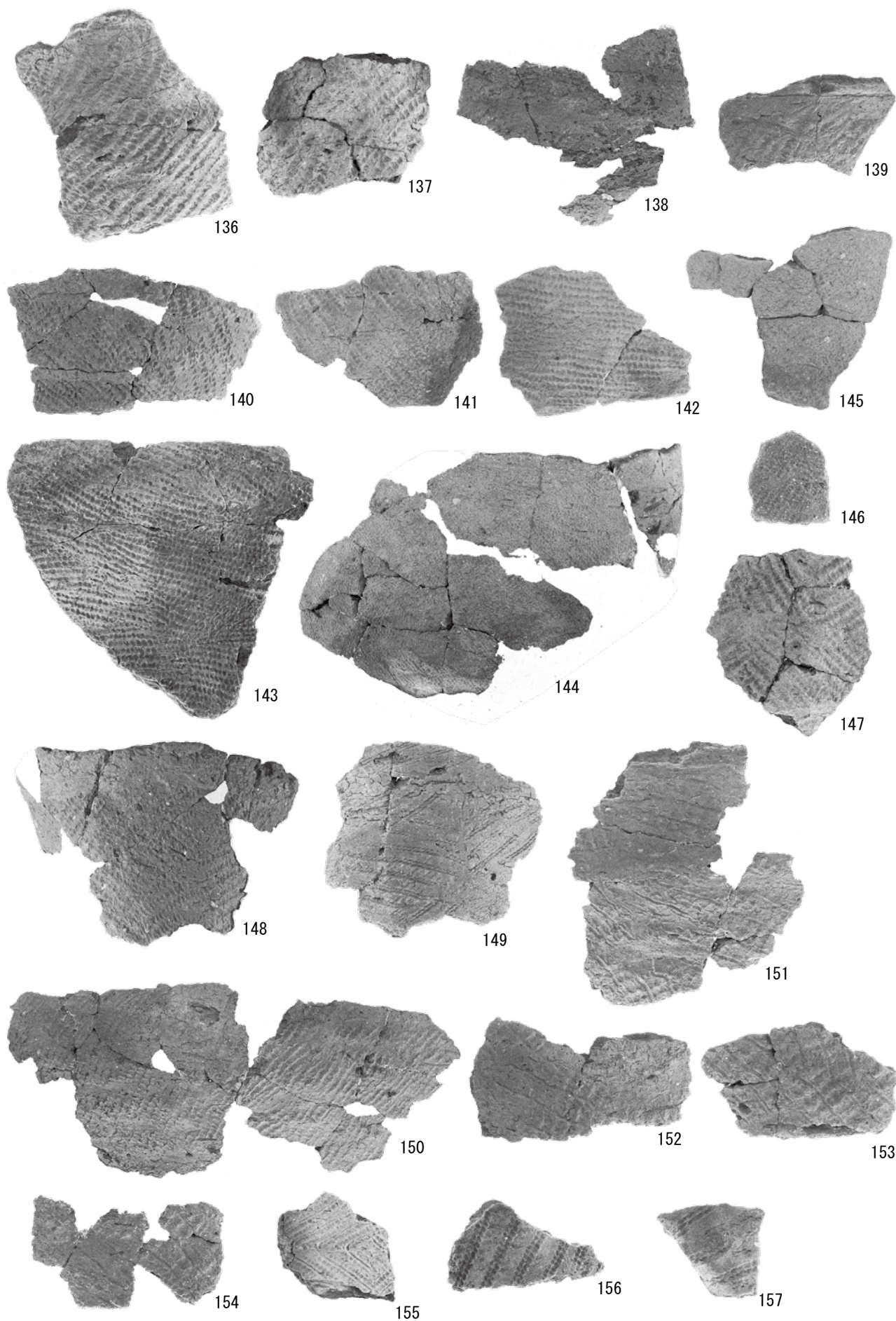
9号住居跡出土遺物⑥



9号住居跡出土遺物（6）

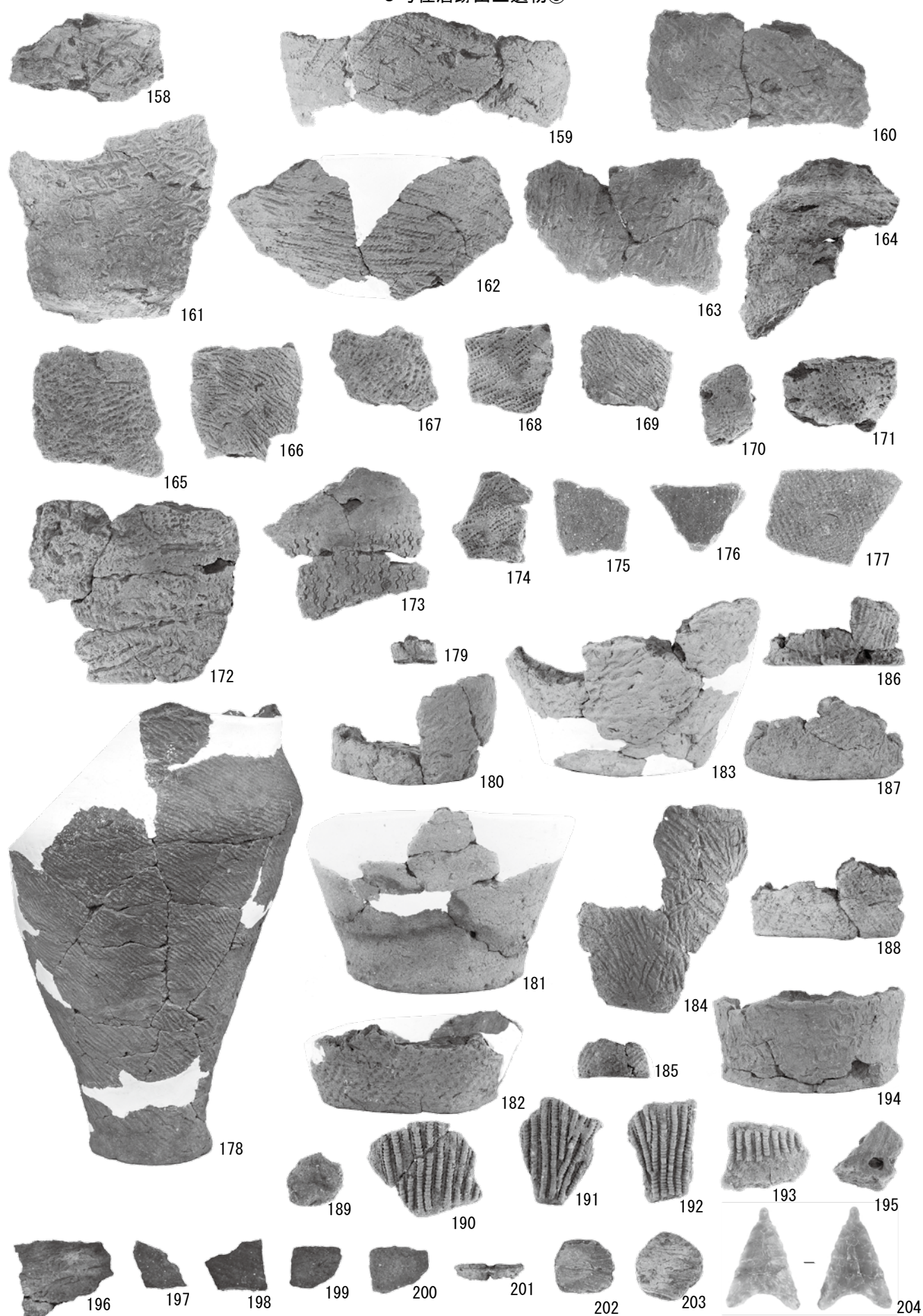


9号住居跡出土遺物⑧



9号住居跡出土遺物(8)

9号住居跡出土遺物⑨



9号住居跡出土遺物 (9)

トレンチ出土遺物①



1. SHINAGAWA (第56図5)



2. VZ φ SS113 (第58図43)



3. TOYO K G (第57図29)



4 (第58図42)

トレンチ出土遺物 (1)



47



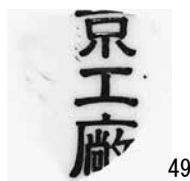
48



51



52



49



50



53(墨書)



54



55(焼印)



56(墨書)

トレンチ出土遺物 (2)



57

表土出土遺物

トレンチ出土遺物②



出土埋設管・消火栓 2

報告書抄録

ふりがな	しないいせきぐんじゅうなな かみふくおかかいづかだいにちてん
書名	市内遺跡群 17 上福岡貝塚第2地点
シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第18集
編著者名	鍋島直久・清水理史・宅間清公
編集機関	ふじみ野市教育委員会
所在地	〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡一丁目1番1号 TEL 049 (261) 2611
発行年月日	平成28 (2016) 年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間 (発掘調査)	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみふくおかかいづか 上福岡貝塚 だいにちてん 第2地点	埼玉県ふじみ野市福岡 2-1500-73、74、8 の 一部	112453	25-006	35° 52′ 47″	139° 31′ 26″	20141105 ～ 20150310	1.830 m ²	建物解体・ 抜根・造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
かみふくおかかいづか 上福岡貝塚 だいにちてん 第2地点	集落跡 貝塚	縄文時代前期 中・近世 近代	住居跡7軒 土坑3基 溝1条 火工廠跡遺構	縄文土器・石器、陶磁器、土管・ レンガ	学史的に著名な貝塚で、今 回7軒の住居跡が検出され た。そのうち縄文時代前期 中葉の貝層を伴う住居跡3 軒を確認することができた。

第5章 上福岡貝塚の調査

I 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、ふじみ野市域（旧上福岡市）の北部、武蔵野台地北東部端の標高16.0～18.0mに位置する。

遺跡眼下の武蔵野台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。現在、上福岡貝塚をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。

本遺跡を地形の区分でみると武蔵野2面に相当する。隣接する権現山古墳群において、新河岸川に面した崖の地質観察では、約50cmの表土層下に385cmの関東ローム層が認められ、ローム層中には厚さ約45cmの黒色帯や、ローム下層でオレンジ色の軽石粒（TPに対比と考えられる）が確認され、市内の武蔵野2面の層序とほぼ同様の様相を呈することから、上福岡貝塚でも相位ないものとみられる。台地南側の滝遺跡や長宮遺跡の位置する一段低い段丘面では、武蔵野3面から立川面が広がる。

かつて、上福岡貝塚や権現山遺跡群の南側には新河岸川に流れ込む小河川（清水）が東流していた。現在でも地区の地名に残る「滝」は、この小河川が台地上から流れ落ちていたためとされる。縄文時代の上福岡貝塚周辺には、この滝地区を流れていた清水と新河岸川の流れがあったものと考えられる。これまでの調査ではローム層中から旧石器時代の遺構や遺物は見つか

っていないが、近隣市町などでは湧水や埋没谷周辺部から同時期の遺跡が相次いで発見されており、本遺跡でも今後発見される可能性がある。

また、遺跡の北側には南北約220m、東西約150m、深さ約1mの楕円形の巨大な窪地が昭和12年の調査時から確認されているが、自然地形なのか人為的なものか不明である。現在は造成され工場等が建ち古い地形をみることは出来ない。

周辺の遺跡は、北側約400mに縄文時代前期集落の川崎遺跡と同50mに中期から後期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。ハケ遺跡では前期諸磯c期の住居跡1軒が確認されるが、権現山遺跡からは前期の住居跡は確認されていない。なお、ハケ遺跡では、2014年と2015年の調査で、6世紀代の古墳4基が新たに発見され、円筒埴輪や人物埴輪、土師器等が多数出土した。

川崎遺跡では縄文時代前期の住居跡が21軒（2001年現在）確認され、関山期から黒浜期の住居跡は11～12軒を数え、内3軒の住居跡（1975、1979、1990年調査）では貝層を伴っている。同時期の遺跡として、土器や動物遺体を含めた出土遺物の比較と、時期ごとに集落の立地と配置が異なる上福岡貝塚との集落構造や変遷等の関連が注目される。

第10表 上福岡貝塚調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A～X、 $\alpha \sim \varepsilon$	福岡 3-1187、1500、他	1937.5.23～7.19	—	火工廠建設	関山式住居 3、黒浜式住居 5	福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告*
① 1983-6 試掘	福岡 3	(1983.6)	—	工場増築	なし	なし
② 1983-12 立会	福岡 2	(1983.12)	—	工場建設	なし	なし
③ 1985- 試掘	福岡 2	(1985.2)	426	市道築造	5 c 古墳 3 基、遺物なし、調査区は一部権現山遺跡群を含む	埋蔵文化財の調査(Ⅷ)
④ 88- 試掘	福岡 3-1187-4	(1988.6.7～14)	3,200	工場増築	古墳跡 1、奈良平安住居 4	埋蔵文化財の調査(11)
⑤ 91- 試掘	福岡 2-1-4	(1991.5.7・8)	568	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(14)
⑥ 92- 試掘	福岡 2-1500-8	(1992.5.2)	737	工場棟増設	なし	埋蔵文化財の調査(15)
⑦ 93- 試掘	福岡 2-1500-8 の一部	(1993.7.20～27)	799.3	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)
第1地点	福岡 2-1500-23・63	(2007.4.26～5.17) 2007.5.21～6.12	124	変電所増築	縄文住居 2、集石土坑 1、堀跡 1、水溜、消火栓	市内遺跡群 4
第2地点	福岡 2-1500-73・74・8 の一部	(2013.6.20～9.30) 2013.11.5～2014.3.10	1,830 (3,485)	建物解体・造成・抜根	縄文前期黒浜式住居 10、土坑 3、溝跡 1、火工廠跡	市内遺跡群 17・18

Ⅱ 上福岡貝塚第2地点

(1) 調査の概要

上福岡貝塚第2地点の試掘調査及び本調査は、日本無線株式会社埼玉工場の建物解体及び樹木等の抜根に伴うもので、工場の一角が上福岡貝塚に含まれることから、日本無線株式会社より事前の問い合わせがあり、平成24(2012)年12月7日、ふじみ野市教育委員会と緊急の打ち合わせが行われた。敷地の一部は前述のとおり埋蔵文化財包蔵地(上福岡貝塚)であり、また敷地内各所に旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(以下火工廠)の建物跡や防爆壁などの遺構が複数存在するため、埋蔵文化財に関する試掘調査および本調査と、火工廠の建物及び遺構について協議した。

文化財保護法第93条1項「埋蔵文化財発掘の届出」と「埋蔵文化財事前協議書」は、平成24(2012)年12月26日付けで提出され、同法第99条「発掘調査の通知」は平成25(2013)年12月9日付けで埼玉県教育委員会に提出した。また、土壤汚染対策法第4条第1項「一定の規模以上の土地の形質の変更届出書」、埼玉県生活環境安全条例第80条第1項「特定有害物質取扱事業所設置状況等調査報告書」を、平成25(2013)年5月21日付けで埼玉県西部環境管理事務

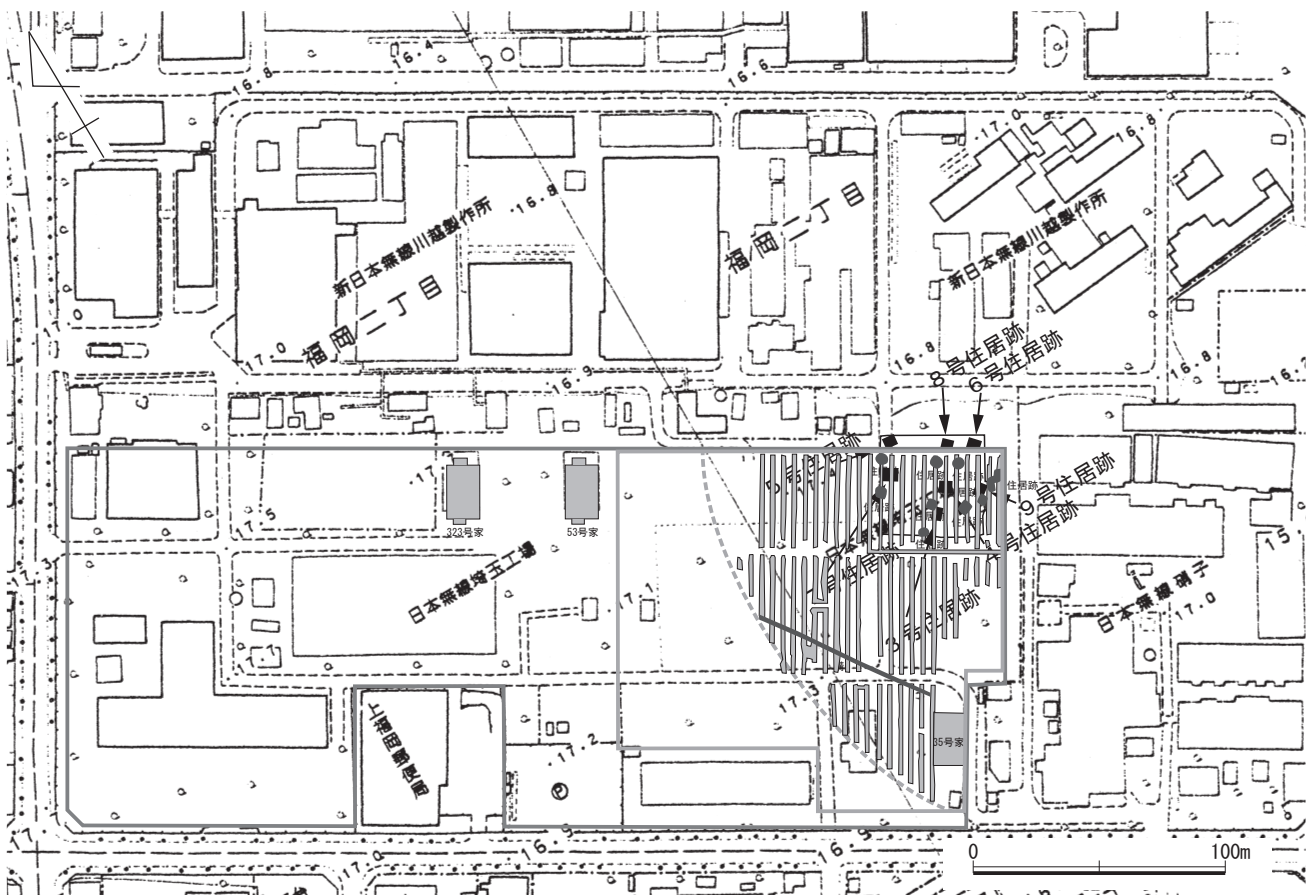
所長に提出した。

試掘調査は平成25(2013)年6月20日～10月8日まで、幅約1.5mのトレンチ61本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。火工廠関連の調査は平成25年1月以降、工事に支障のない範囲で行った。

試掘調査の結果、縄文時代の住居跡10軒(貝層を伴うもの5軒)、古代以降とみられる溝1本、火工廠の遺構多数等を確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約50～100cmで、火工廠の遺構や樹木の抜根により遺跡への影響が避けられない部分について発掘調査を行った。南側の道路築造部分は盛土等で遺跡への影響が及ばないことから保存措置とした。

原因者と協議を重ねた結果、平成25年11月1日、ふじみ野市教育委員会と日本無線株式会社の間で委託契約を締結した。履行期間は平成25年11月1日から平成28年3月31日、本調査に係る費用は日本無線株式会社が全額負担した。

試掘調査及び本調査の成果は、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第18集『市内遺跡群17』上福岡貝塚第2地点(2016.3)で報告済みであるため、試掘調査の配置図と写真を掲載する。



第10図 上福岡貝塚第2地点遺構配置図(1/3,000)



ハケ遺跡第 13 地点調査風景



ハケ遺跡第 13 地点トレンチ 1



ハケ遺跡第 14 地点調査風景



ハケ遺跡第 14 地点トレンチ 1



上福岡貝塚第 2 地点火工廠建物遠景



上福岡貝塚第 2 地点防爆壁（手前調査区）



上福岡貝塚第 2 地点 A・B 区道路



上福岡貝塚第 2 地点 D 区近景



上福岡貝塚第2地点D区近景



上福岡貝塚第2地点E区近景



上福岡貝塚第2地点D区土壌置換工事立会い



上福岡貝塚第2地点E区土壌置換工事立会い



上福岡貝塚第2地点A区全景



上福岡貝塚第2地点トレンチ7(9号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ2(10号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ3(11号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ1(10号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ1(10号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ2(10号住居跡)



上福岡貝塚第40地点トレンチ3(11・12号住居跡)



上福岡貝塚第2地点トレンチ8



上福岡貝塚第2地点トレンチ3



上福岡貝塚第2地点トレンチ4



上福岡貝塚第2地点トレンチ5



上福岡貝塚第2地点トレンチ2調査風景



上福岡貝塚第2地点調査風景



上福岡貝塚第2地点調査風景



上福岡貝塚第2地点トレンチ3水溜8



上福岡貝塚第2地点水溜8調査風景



上福岡貝塚第2地点分配室調査風景



上福岡貝塚第2地点分配室調査風景



上福岡貝塚第2地点分配室調査風景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



上福岡貝塚第2地点調査区近景



権現山遺跡第24地点調査風景



権現山遺跡第24地点調査風景



権現山遺跡第24地点トレンチ



権現山遺跡第24地点出土遺物